

上野国分僧寺・ 尼寺中間地域(5)

前橋市元総社町小見地区，群馬郡群馬町大字東国分村前・薬師道南・
中道南・上野道南(植野道南)・高井道東地区に所在する遺跡の埋蔵
文化財発掘調査報告書 8分冊中の第5分冊

— 関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第36集 —

図 表 編

1991

群 馬 県 教 育 委 員 会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

上野国分僧寺・ 尼寺中間地域(5)

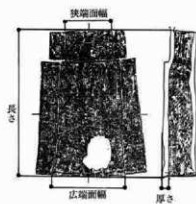
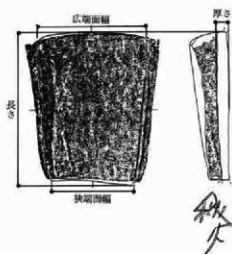
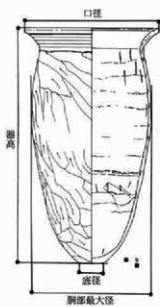
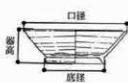
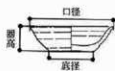
前橋市元総社町小見地区，群馬郡群馬町大字東国分村前・薬師道南・
中道南・上野道南(植野道南)・高井道東地区に所在する遺跡の埋蔵
文化財発掘調査報告書 8分冊中の第5分冊

一 関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第36集一

図 表 編

1991

群馬県教育委員会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



遺構観察表

住居跡一覽表 (A・B・C・D区)

区・住	平面形状	規 模	基準辺	摘 要	区・住	平面形状	規 模	基準辺	摘 要
D・1	隅丸方形	3.03 × 3.17	北		C・19	矩形状	3.70 + α × 3.57	不明	
D・2	長方形	3.28 × 4.06	西		C・20	縦長方形	2.90 × 2.20	西	
D・3	長方形	3.42 × 2.39	南		C・21	長方形	4.08 × 4.97	西	
D・4	隅丸方形	3.00 × 2.48	東		C・22	縦長方形	4.03 × 2.93	北	
D・5	不整形長方形	(3.06) × 4.37	西		C・23	—	—	—	
D・6	不整形長方形	3.30 × 4.03	南		C・24	縦長方形	3.25 × 2.27	北	
D・7	長方形	3.50 × 3.53	北		C・25	縦長方形	3.53 × 2.97	南か	
D・8	不整形長方形	3.07 × 3.36	西		C・26	横長方形	3.27 × 2.22	西	
D・9	不整形長方形	4.02 × 4.80	西		C・28	縦長方形	4.92 × 3.68	北・西	
D・10	隅丸方形	4.11 × 3.58	西		C・27	梯形	2.9? × 2.83	南	
D・11	不整形長方形	3.62 × 3.50	南		C・29	横長方形	3.15 × 4.38	東・北	
D・12	隅丸長方形	3.78 × 4.16	北		C・34	横長方形か	3.15 × (2.75 + α)	西	
D・13	隅丸長方形	(2.00) × 2.58	南		C・37	矩形	2.70 × 2.50	南	
D・14	不整形五角形	5.51 × 4.15	南		C・38	長方形か	1.80 + α × 3.00	不詳	
D・15	不整形長方形	3.88 × 3.83	西		C・39	—	—	—	
D・16	不整形長方形	4.58 × 3.88	南		C・40	—	—	—	
D・17	隅丸長方形	3.18 × 4.48	西		C・41	不整形か	2.95 + α × 4.36	南	
D・18	不整形長方形	3.35 × 3.79	北		C・42	横長方形	2.63 × 3.68	西	
D・19	不整形長方形	(2.73) × 2.90	—		C・43	矩形気味	3.20 × 3.45	南・北	
D・20	不整形長方形	3.03 × 2.28	東		C・44	梯形	3.85 × 3.30	西	
D・21	隅丸長方形	2.63 × 2.94	南		C・45	正方形	2.42 × 2.40	西	
D・22	不整形長方形	4.80 × 4.96	西		C・46	矩形	2.87 × 3.10	北・西	
D・23	不整形長方形	3.43 × 3.89	西		C・47	—	—	—	
D・24	正方形	3.35 × 3.18	南		C・48	不明	4.50 × 3.50 + α	不明	
D・25	不整形長方形	(3.58) × 3.60	南		C・49	不明	1.05 + α × 3.36	不明	
D・26	梯形状	4.13 × 3.39	北		C・50	矩形	3.80 × 4.50	北	
D・27	隅丸長方形	3.83 × 3.92	北		C・51	—	—	—	
D・28	不整形長方形	5.10 × 3.68	北		C・53	矩形	2.44 × 2.74	西・南	
D・29	不整形長方形	4.08 × 4.00	南か		C・54	—	—	—	
D・30	隅丸長方形	3.90 × 4.19	北		C・55	横長方形	3.72 × 4.27	南	
D・31	不整形長方形	4.73 × 4.27	西		C・56	正方形	3.23 × 3.50	北	
D・36	梯形状	3.92 × (4.77)	北か		C・57	横長方形	2.75 × 3.47	南	
D・37	不整形長方形	3.40 × 3.64	北		C・58	横長方形	3.47 × 4.30	西・北	
D・38	隅丸長方形	2.63 × 3.57	西		C・62	横長方形	2.50 × 3.37	西	
D・39	不整形長方形	2.79 × (3.10)	北		C・63	縦長方形	3.0? × 2.70	不明	
D・40	不整形長方形	3.68 × 4.63	南		C・65	横長方形	3.33 × 4.83	西・東か	
D・41	隅丸長方形	3.13 × 3.70	西		C・66	横長方形	2.50 × 3.60	南	
D・42	不整形長方形	3.47 × 3.68	—		C・67	正方形	3.30 × 2.73	西か	
D・43	隅丸長方形	2.95 × 3.51	西か		C・68	梯形	3.50 × 3.70	南・北	
D・44	不整形長方形	4.55 × 4.55	北か		C・70	梯形	2.75 × 2.97	不明	
D・46	不整形長方形	4.00 × 3.29	南		C・71	縦長方形	2.95 + α × 2.82	南か	
D・47	隅丸長方形	(3.58) × 4.72	西		C・72	正方形	3.86 × 3.95	西か	
C・1	矩形	4.39 × 4.59	南		C・140	縦長方形	4.93 × 3.30	北か	
C・2	不整形長方形	3.77 × 3.78	北か		C・83	—	—	—	
C・3	不整形長方形	4.38 × 4.58	北		C・73	横長方形	3.86 × 4.55	東・北	
C・4	隅丸方形	(2.06) × 3.37	—		C・74	横長方形	3.15(3.65) × 4.69	北	
C・5	隅丸方形	4.08 × 3.59	北		C・76	梯形	3.8 × 3.6 + 4.65	南	
C・6	不整形長方形	4.27 × 4.38	西		C・77	横長方形	3.32 × 4.55	南・西	
C・7	隅丸長方形	2.19 × 2.53	北		C・81	正方形か	4.86? × 4.20 + α	不明	
C・8	長方形	4.50 × 6.13	西		C・78	矩形	(3.08) × (4.00)	北か	
C・9	不詳	X × 5.25	北か		C・79	正方形	4.18 × 4.08	北・西	
C・10	不詳	X × 3.20	不詳		C・80	矩形	4.87 + α × 3.80	北か	
C・11	不整形長方形	3.87 × 2.95	北		C・82	梯形	3.80(2.83) × 2.87	南か	
C・12	矩形	3.06 × 2.80	南か		C・84	矩形	3.08 × 3.60	西か	
C・13	長方形	4.00 × 2.83	南か		C・85	—	—	—	
C・14	正方形基調	3.80 × 3.80	南		C・86	—	—	—	
C・15	正方形基調	3.08 × 3.20	西		C・87	—	—	—	
C・16	矩形	2.93 × 3.35	西		C・88	—	—	—	
C・17	長方形か	2.75 × 2.8 + α	西		C・107	横長方形	2.60 × 2.86 + α	北・東	
C・18	正方形基調	2.80 × 2.90	東		C・108	矩形か	3.38 × 3.00 + α	北	

道構觀察表

區・住	平面形狀	規模	基準辺	簡 要	区・住	平面形狀	規模	基準辺	簡 要
C・89	—				B・28	正方形	3.15 × 3.20	西	
C・100	—				B・29	横長方形	1.80 + a × 2.57	不明	
C・110	—				B・30	正方形	2.28 × 2.60	不明	
C・120	—				B・32	不明	— × —	不明	
C・96	縦長方形	3.90 × 3.10	北・南		B・34	不明	— × 3.67?	不明	
C・97	横長方形	3.10 × 4.15	不明		B・31	正方形か	2.26 + a × 3.86	不明	
C・99	矩形か	2.70 × 2.20 + a	不明		B・33	不明	2.30 + a × 2.80	不明	
C・149	横長方形	3.00 × 3.80	西か		B・35	横長方形	(2.35) × (3.1)	不明	
C・104	横長方形	2.65 + a × 3.42	不明		B・38	縦長方形	3.23 × 2.80	北か	
C・105	正方形	2.67 × 2.70	西		B・39	圓丸方形	3.65 × 4.12	不明	
C・106	—				B・40	不整形	(3.70) × 3.30	北	
C・121	—				B・41	縦長方形か	3.50 × 1.68 + a	不明	
C・127	—				B・42	不明	2.40 × 1.00 + a	西か	
C・128	—				B・44	横長方形	2.40 × 3.00	西	
C・129	—				B・45	横長方形	3.72 × 3.30 + a	不明	
C・133	—				B・49	矩形	3.30 × 3.18	西	
C・109	正方形か	3.30 × 3.15 + a	西か		B・50	縦長方形	3.60 × 2.83	北	
C・103	長横長方形	2.94 × 7.10 + a	東か		B・51	横長方形	6.00 × 4.35	東か	
C・147	—				B・53	横長方形	2.84 × 4.23	西か	
C・113	矩形	3.58 × 3.10	東か		B・54	扇形状	4.60 × 5.80	南か	
C・114	不詳	2.92 × 2.30 + a	西・北		B・55	不詳	2.40 + a × 2.23	南か	
C・115	矩形か	2.91 + a × 3.58	北か		B・56	扇形状	3.10 × 3.60	南か	
C・116	矩形	3.3 × 2.96 ~ 3.3	北・西		B・57	横長方形	4.14 × 4.80	西	
C・137	—				B・58	横長方形基調	3.83 × 4.60	南	
C・118	—				B・59	横長方形基調	3.52 × 4.80	東	
C・119	—				B・60	横長方形	3.60 × 4.30	不明	
C・123	—				B・61	不詳	1.20 + a × 3.20 (3.50)	不明	
C・124	矩形	3.00 × (2.80)	西		B・62	横長方形	2.34 × 3.97	西か	
C・134	矩形	2.16 × 1.89	西・南		B・64	矩形	4.80 × 4.32	北	
C・135	正方形	3.16 × 3.30	北か		B・68	正方形	3.10 × 3.16	北	
C・138	正方形	2.55 × 2.45 + a	不明		B・65	不明	5.12 × 3.12 + a	北	
C・142	正方形か	2.85 × 1.93 + a	不明		B・67	縦長方形	(4.28) × 3.30	不詳	
C・143	縦長方形	4.08 × 3.37	北		B・73	長方形基調	4.64 × 3.82	東	
C・145	—				B・74	横長方形	3.20 × 3.74	西か	
C・144	梯形	5.20 × 5.80	西		B・75	横長方形	2.89 × 3.72	西	
C・146	—				B・76	横長方形	2.65 × 3.44	西	
C・148	横長方形	3.08 × 4.20 + a	西か		B・77	正方形基調	3.33 × 3.50	南	
C・150	不明	3.92 × 1.86 + a	北か		B・78	縦長方形	4.46 × 3.48	不明	
C・151	—				B・79	横長方形	2.70 × 3.46	南・西	
C・152	縦長方形	2.90 × 2.38	不明		B・80	矩形	3.64 × 3.80	南・東	
C・153	縦長方形	3.20 × 2.7?	不明		B・81	正方形基調	3.35 × 3.50	北	
B・1	横長方形	3.60 × 3.60	西・南		B・82	横長方形	3.76 × 5.26	西・北	
B・2	横長方形	2.50 × 3.62	西		B・83	正方形基調	4.30 × 4.40	南	
B・3	縦長方形	3.70 × 2.72	南		B・85	横長方形	3.12 × 4.30	不明	
B・4	梯形	3.7 × 4.3 × 3.0			B・86	横長方形	3.42 × 4.32	東・南	
B・5	正方形	4.32 × 3.9(5.1)	北西		B・87	縦長方形	6.08 × 4.53	不明	
B・6	横長方形	2.60 × 3.20	西か		B・88	横長方形	2.85 × 3.50	不明	
B・7	縦長方形	4.48 × 3.60	南		B・108	横長方形状	2.45 × 3.60	北か	
B・8	縦長方形	3.25 × 2.35	北		B・89	縦長方形	2.92 × 4.43	不明	
B・9	—				B・90	縦長方形	3.74 × 2.67	北	
B・10	正方形基調	3.60 × 3.15	東		B・91	横長方形	2.60 × 3.30	西	
B・11	正方形	3.68 × 3.72	西		B・92	横長方形状	3.85 × 4.60	南か	
B・13	横長方形	2.84 × (3.84)	不明		B・93	横長方形	3.06 × 4.06	東	
B・14	横長方形	3.50 × 4.90	西		B・94	正方形状	3.60 × 3.10	西・北	
B・15	横長方形	2.78 × 3.65	西か		B・109	—			
B・16	横長方形	3.10 × 4.38	北		B・95	横長方形	3.60 × 4.32	西	
B・17	横長方形	2.7 × 3.5(3.0)	西		B・96	横長方形	2.20 × 3.18	北・西	
B・18	横長方形	2.53 × 3.80	北か		B・97	—			
B・19	不明	3.23 × X	不明		B・98	不整形状	3.86 × 2.82	南	
B・20	横長方形	2.68 × 3.35	北・西		B・99	正方形状	4.20 × 3.62 + a	北か	
B・21	不明	2.00 + a × 3.20	不明		B・100	—			
B・22	横長方形	3.00 × 4.16	不明		B・127	縦長方形	3.73 × 3.06	不詳	
B・23	不明	2.40 + a × 3.59	西・北		B・182	—			
B・24	横長方形	3.20 × 5.00	西		B・101	—			
B・25	不明	1.60 + a × 2.43			B・102	横長方形	3.84 × 4.84 + a	南	
B・27	—								

住居跡一覽表 (A・B・C・D区)

区・住	平面形状	縦	横	基準辺	備 考	区・住	平面形状	縦	横	基準辺	備 考
B・103	横長方形	2.67	× 3.10	北		B・172	—				
B・104	横長方形	2.60	× 3.58	南		B・173	—				
B・105	横長方形状	2.70	× 3.48	西		B・174	不分明	1.96+α	× 3.83	不分明	
B・106	矩形状	2.70	× 3.34	西		B・175	不分明	2.32+α	× 4.55	不分明	
B・107	横長方形状	2.50	× 3.45	不詳		B・181	—				
B・110	横長方形	2.14	× 3.12	西か		B・183	—				
B・111	横長方形状	2.40	× 3.22	南		B・184	特殊か	3.78+α	× 3.20	南か	
B・112	—					B・185	—				
B・113	横長方形か	3.76	× 2.60+α	南か		A・21	矩形	2.90	× 3.08	南か	
B・114	—					A・22	横長方形	3.63	× 5.52	西か	
B・115	横長方形	2.35	× 3.15	西・南		A・23	矩形	3.35	× 3.75	西	
B・116	横長方形	2.54	× (3.00)	西か		A・26	正方形	4.64	× 4.80	西・北	
B・117	矩形状	2.77	× 3.41	不詳		A・118	正方形	3.80	× 3.27	南・北	
B・118	横長方形	2.90	× 3.77	西		A・119	—				
B・119	矩形	3.20	× 3.65	西		A・155	矩形	2.77	× 3.26	北・西	
B・120	横長方形	3.65	× 5.93	不分明		A・156	正方形	4.08	× 4.23	西・北	
B・121	—					A・157	縦長方形	4.50	× 3.66	北	
B・122	横長方形基調	2.91	× 3.76	西		A・158	特殊形	4.60	× 4.87	東・北	
B・123	横長方形	2.36	× 3.50+α	不詳		B・159	正方形基調	3.10	× 3.47	北	
B・124	縦長方形	7.20	× 3.84	不分明		A・160	横長方形	2.80	× 3.95	西か	
B・125	横長方形	4.32	× 5.72	西		A・161	正方形基調	5.15	× 5.57	西か	
B・126	横長方形	2.98	× 4.02	不分明		A・162	正方形基調	3.90	× 3.40	西か	
B・149	横長方形か	2.83	× 3.60?	不分明		A・163	—				
B・128	矩形	3.20	× 3.45	東・南		A・164	横長方形か	3.15	× 2.67+α		
B・130	縦長方形	3.30	× 3.45	南か		A・165	縦長方形	4.00	× 2.80	南か	
B・131	横長方形	3.83	× 6.06	北か		A・166	縦長方形	4.20	× 3.34	不分明	
B・132	不分明	1.60+α	× 4.02	不分明		A・174	横長方形	2.84	× 3.50	西	
B・133	矩形	3.41	× 3.00	北か		A・175	正方形か	2.60	× 1.96+α	北か	
B・134	横長方形	3.70	× 4.80	東		A・176	正方形基調	3.20	× 3.54	北か	
B・135	矩形	3.28	× 2.95	西か		A・177	縦長方形	3.16	× 2.56	南・北	
B・136	縦長方形	2.10	× 2.56	南か		A・178	矩形	2.90	× 3.39	南	
B・137	横長方形	2.58	× 3.60+α	東か		A・179	正方形基調	5.00	× 4.40	西南	
B・138	矩形	3.50	× 4.00	西		A・180	矩形	3.20	× 3.80	不分明	
B・139	楕円	2.90	× 3.40	西		A・181	矩形	2.80	× 2.50	南	
B・140	—					A・182	横長方形	3.70	× 5.25	北	
B・153	横長方形	(2.55)	× (3.66)	不分明		A・186	不分明	2.46+α	× 2.45+α	南か	
B・141	縦長方形	3.83	× 2.86	不分明		A・187	縦長方形基調	4.30	× 3.56	南	
B・142	横長方形	3.03	× 4.30	全壁か		A・200	正方形	3.69	× 3.80	北か	
R・143	横長方形	(3.50)	× (5.10)	不分明		A・188	横長方形	2.34	× 3.55	西	
B・151	—					A・189	正方形基調か	3.10+α	× 3.94	不分明	
B・144	縦長方形	4.58	× 3.53	北か		A・190	正方形基調	2.75	× 2.90	北・西・南	
B・145	不分明	4.04+α	× 4.50	北か		A・191	正方形	2.95	× 2.93	南	
B・146	矩形か	3.62	× 3.75+α			A・192	横長方形	4.40	× 6.24	西	
B・147	不分明	2.53+α	× 5.00	南か		A・193	縦長方形	4.10	× 3.72	不分明	
B・148	正方形	(3.40)	× 3.40	不分明		A・194	縦長方形基調	2.70	× 2.20	不分明	
B・150	横長方形	3.42	× 4.67	北・西		A・195	正方形	5.70	× 5.40	西	
B・152	横長方形か	3.95+α	× 4.50	東・北		A・196	正方形か	4.80	× 3.00+α	西	(4.80)
B・158	—					A・197	横長方形	3.21	× 2.00	南	
B・180	矩形	(6.00)	× 7.03	四壁か		A・198	不分明	1.80+α	× 3.98	西か	
B・160	横長方形	3.20	× 4.05	西		A・199	正方形	5.50	× 5.40	不分明	(南か)
B・161	横長方形か	3.90	× 2.90+α	南か		A・201	縦長方形	2.65	× 1.95	西か	
B・161B	横長方形	3.22	× 3.90	西・北		A・202	横長方形	3.70	× 2.40	南か	
B・162	横長方形か	2.50	× 3.83+α	南か		A・204	横長方形	?	× ?	不分明	
B・162B	横長方形	3.50	× 4.50	西・東		A・207	縦長方形	7.18	× 6.15	南	
B・163	正方形状か	2.80	× 2.80+α	不分明		A・208	正方形	4.50	× 4.60	四壁	
B・164	矩形か	4.26	× 4.44+α	北・東							
B・165	横長方形	4.32	× 5.60+α	不分明							
B・166	正方形	4.20	× 4.30	北か							
B・167	横長方形	2.60	× 3.45+α	西	(4.00)						
B・168	正方形	3.50	× 3.70	南か							
B・169	矩形	3.30	× 3.50+α	西	(3.80)						
B・170	不分明	3.95	× 2.05+α								
B・171	正方形	4.00	× 4.20	西							

道構観察表

B区土坑一覧表

遺構名称	位置	平面形状	主軸方向	規模 (単位cm)			備考
				長さ	幅	深 度	
B区第31号土坑	41-B-42	円形	N-60°-S	39	32	29	
B区第32号土坑	43-B-42	不整円形	N-51°-S	72	63	26	
B区第34号土坑	37-B-38	#		(87)	68	52	
B区第35号土坑	36-B-38			(165)	(127)	51	
B区第36号土坑	37-B-38	不整円形		154	(150)	44	
B区第37号土坑	36-B-39			(112)	(77)	57	
B区第38号土坑	36-B-39			(102)	(74)	54	
B区第39号土坑	17-B-39	円形	N-132°-S	110	92	54	須臾器・埴・蓋
B区第45号土坑	31-B-37	階円形	N-19°-S	130	100	23	
B区第58号土坑	31-B-43	円形		28	24	12	
B区第59号土坑	31-B-44	#		34	33	17	
B区第63号土坑	44-B-34	#		57	50	12	
B区第80号土坑	43-B-44	#		92	84	11	土師器・埴
B区第96号土坑	41-B-20			(67)	——	14	第1分冊で縄文後いの土坑・土師器・埴・埴。須臾器・埴・石甕
B区第101号土坑	18-B-43	円形		136	135	36	第1分冊で縄文後いの土坑。須臾器・埴・蓋
B区第104号土坑	17-B-43	不整円形		72	60	27	
B区第109号土坑	41-B-14	不整方形	N-12°-S	126	108	12	第1分冊で縄文後いの土坑。須臾器・埴
B区第120号土坑	44-B-20	円形		(58)	(58)	21	須臾器・埴・埴
B区第144号土坑	1-B-38		N-57°-S	166	130	12	第1分冊で縄文後いの土坑。
B区第147号土坑	00-B-35			200	——	16	第1分冊で縄文後いの土坑。土師器・埴
B区第148号土坑	4-B-37		N-109°-S	(144)	129	32	第1分冊で縄文後いの土坑。土師器・埴
B区第150号土坑	5-B-34	階円形	N-0°-S	247	177	54	第1分冊で縄文後いの土坑。須臾器・埴・埴・羽釜
B区第163号土坑	19-B-51	円形	N-41°-S	64	50	12	第1分冊で縄文後いの土坑。土師器・埴。須臾器・蓋

A区土坑一覧表

遺構名称	位置	平面形状	主軸方向	規模 (単位cm)			備考
				長さ	幅	深 度	
A区第4号土坑	26-A-27	方形	N-89°-S	201	172	27	須臾器・埴
A区第8号土坑	18-A-26	円形		160	100	56	瓦
A区第9号土坑	18-A-27	不整円形	N-69°-S	58	42	55	
A区第11号土坑	32-A-25	円形		113	106	44	第1分冊で縄文後いの土坑。
A区第35号土坑	27-A-50	階円形	N-163°-S	113	70	42	
A区第67号土坑	37-A-34	隅丸方形	N-131°-S	164	128	26	第1分冊で縄文後いの土坑。
A区第142号土坑	35-A-38	階円形	N-18°-S	122	97	71	土師器・埴
A区第143号土坑	29-A-41			98	(75)	10	
A区第144号土坑	29-A-40	円形	N-6°-S	86	82	11	須臾器・埴
A区第145号土坑	28-A-40	#		111	106	4	
A区第178号土坑	48-A-37	#		111	102	27	第1分冊で縄文後いの土坑。土師器・埴
A区第183号土坑	49-A-36		N-142°-S	397	(288)	28	第1分冊で縄文後いの土坑。
A区第225号土坑	43-A-42			296	168	15	
A区第241号土坑	30-A-26	方形	N-3°-S	96	90	9	
A区第256号土坑	45-A-38	円形		47	44		須臾器・埴
A区第261号土坑	40-A-29	階円形	N-75°-S	103	82	37	
A区第265号土坑	40-A-32	不整円形	N-56°-S	80	66	61	
A区第266号土坑	41-A-31	#	N-116°-S	85	66	69	
A区第272号土坑	34-A-39	#	N-15°-S	94	72	30	
A区第286号土坑	39-A-32	#	N-141°-S	75	60	32	
A区第287号土坑	42-A-36	#		84	82	46	瓦
A区第295号土坑	38-A-33	円形		47	44	27	

B·A区土坑一览表

遗 构 名 称	位 置	平面形状	主 轴 方 向	规 模 (单位:cm)			备 考
				长	幅	深 度	
A区第327号土坑	48-A-49		N-87°-S	(88)	86	32	
A区第330号土坑	45-A-48	不 整 凹 形	N- 29°-S	104	82	17	
A区第332号土坑	44-A-49	整 凹 形	N- 2°-S	190	150	40	

遺構観察表

A・B区土坑一覽表

区	No	時期	摘要	区	No	時期	摘要	区	No	時期	摘要
B	31		今 次	B	91		縄文 第1分冊内付図	B	151		縄文 第1分冊内付図
	32		〃	〃	92		〃	〃	152		〃
欠	33		〃	〃	93		〃	〃	153		〃
	34		今 次	〃	94		〃	〃	154		〃
	35		〃	〃	95		〃	〃	155		〃
	36		〃	〃	96		今 次	〃	156		〃
	37		〃	〃	97		〃	〃	157		〃
	38		〃	〃	98		〃	〃	158		〃
	39		〃	〃	99		〃	〃	159		〃
	40		縄文 第1分冊内付図	〃	100		〃	〃	欠 160		
	41		〃	〃	101		今 次	〃	欠 161		
	42		〃	〃	102		縄文 第1分冊内付図	〃	欠 162		
	43		〃	〃	103		〃	〃	163		今 次
	44		縄文 第1分冊内付図	〃	104		今 次	〃	164		縄文 第1分冊内付図
	45		今 次	〃	105		縄文 第1分冊内付図	〃	165		〃
	46		縄文 第1分冊内付図	欠	106		〃	〃	166		〃
	47		〃	〃	107		縄文 第1分冊内付図	〃	167		〃
	48		〃	〃	108		〃	〃	168		〃
	49		〃	〃	109		今 次	〃	169		〃
	50		〃	〃	110		縄文 第1分冊内付図	〃	170		〃
	51		縄文 第1分冊内付図	〃	111		〃	〃	171		〃
	52		〃	〃	112		〃	〃	172		〃
	53		〃	〃	113		〃	〃	173		〃
	54		〃	〃	114		〃	〃	174		〃
	55		縄文 第1分冊内付図	〃	115		〃	〃	175		〃
	56		〃	〃	116		〃	〃	176		〃
	57		縄文 第1分冊内付図	〃	117		〃	〃	177		〃
	58		今 次	〃	118		〃	〃	178		〃
	59		〃	〃	119		〃	〃	179		〃
欠	60		〃	〃	120		今 次	〃	180		〃
	61		縄文 第1分冊内付図	欠	121		縄文 第1分冊内付図	〃	181		〃
	62		〃	〃	122		〃	〃	182		〃
	63		今 次	〃	123		〃	〃	183		〃
	64		縄文 第1分冊内付図	〃	124		〃	〃	184		〃
	65		〃	〃	125		〃	〃	185		縄文 第1分冊内付図
	66		〃	〃	126		〃	〃	186		〃
	67		〃	〃	127		〃	〃	187		〃
	68		〃	〃	128		〃	〃	188		〃
	69		〃	〃	129		〃	〃	189		〃
	70		〃	〃	130		〃	〃	190		〃
	71		〃	〃	131		〃	〃	191		〃
	72		〃	〃	132		〃	〃	192		〃
	73		〃	〃	133		〃	〃	193		〃
	74		〃	〃	134		〃	〃	194		〃
	75		〃	〃	135		〃	〃	195		〃
	76		〃	欠	136		〃	〃	196		〃
	77		〃	〃	137		縄文 第1分冊内付図	〃	197		〃
	78		〃	〃	138		〃	〃	198		〃
	79		〃	欠	139		〃	〃	199		縄文 第1分冊内付図
	80		今 次	〃	140		縄文 第1分冊内付図	〃	200		〃
	81		縄文 第1分冊内付図	〃	141		〃	〃	201		〃
	82		〃	〃	142		〃	〃	202		〃
欠	83		〃	欠	143		〃	〃	203		〃
	84		縄文 第1分冊内付図	〃	144		今 次	〃	204		〃
	85		〃	〃	145		縄文 第1分冊内付図	〃	205		〃
	86		〃	〃	146		〃	〃	206		〃
	87		〃	〃	147		今 次	〃	207		〃
欠	88		〃	〃	148		〃	〃	208		縄文 第1分冊内付図
欠	89		〃	〃	149		縄文 第1分冊内付図	〃	209		〃
	90		縄文 第1分冊内付図	〃	150		今 次	〃	210		〃

A·B区土坑一覽表

区	No	時期	摘要	区	No	時期	摘要	区	No	時期	摘要
B	211	縄文	第1分冊内付図	B	271			B	331	縄文	第1分冊内付図
#	212		#	#	272		#	#	332	#	#
#	213	縄文	第1分冊内付図	#	273		#	#	333	#	#
#	214	#	#	#	274		#	#	334	#	#
#	215	#	#	#	275		#	#	335	#	#
#	216	#	#	#	276		#	#	336	#	#
#	217	#	#	#	277		#	#	337	#	#
#	218	#	#	#	278		#	#	338	#	#
#	219	#	#	#	279		#	#	339		
#	220	#	#	#	280		#	#	340		
#	221	#	#	#	281		#	#	341		
#	222	#	#	#	282		#	#	342		
#	223	#	#	#	283		#	#	343		
#	224	#	#	#	284		#	#	344		
#	225	#	#	#	285		#	#	345		
#	226	#	#	#	286		#	#	346		
#	227	#	#	#	287	縄文	第1分冊内付図	#	347		
#	228	#	#	#	288		#	#	348		
#	229			#	289		#	#	349		
#	230			#	290		#	#	350		
#	231			#	291		#	#	351		
#	232			#	292		#	#	352	縄文	第1分冊内付図
#	233			#	293		#	#	353	#	#
#	234			#	294		#	#	354	#	#
#	235			#	295	縄文	第1分冊内付図	#	355	#	#
#	236			#	296	#	#	#	356	#	#
#	237			#	297	#	#	#	357	#	#
#	238			#	298	#	#	#	358	#	#
#	239			#	299	#	#	#	359		
#	240			#	300	#	#	#	360		
B	241	縄文	第1分冊内付図	#	301	#	#	#	361		
#	242	#	#	#	302	#	#	#	362		
#	243			#	303	#	#	#	363		
#	244			#	304	#	#	#	364		
#	245			#	305	#	#	#	365		
#	246	縄文	第1分冊内付図	#	306	#	#	#	366		
#	247	#	#	#	307	#	#	#	367		
#	248	#	#	#	308			#	368		
#	249	#	#	#	309	縄文	第1分冊内付図	#	369		
#	250	#	#	#	310	#	#	#	370		
#	251	#	#	#	311	#	#	#	371		
#	252	#	#	#	312	#	#	#	372		
#	253	#	#	#	313	#	#	#	373		
#	254	#	#	#	314	#	#	#	374		
#	255	#	#	#	315	#	#	#	375		
#	256	#	#	#	316	#	#	#	376		
#	257	#	#	#	317	#	#	#	377		
#	258	#	#	#	318	#	#	#	378		
#	259	#	#	#	319	#	#	#	379		
#	260	#	#	#	320	#	#	#	380		
#	261	#	#	#	321	#	#	#	381		
#	262	#	#	#	322	#	#	#	382		
#	263	#	#	#	323	#	#	#	383		
#	264	#	#	#	324			#	384		
#	265	#	#	#	325	縄文	第1分冊内付図	#	385		
#	266	#	#	#	326	#	#	#	386		
#	267	#	#	#	327	#	#	#	387		
#	268	#	#	#	328	#	#	#	388		
#	269	#	#	#	329	#	#	#	389		
#	270	#	#	#	330	#	#	#	390		

遺構観察表

区	No.	時期	構 要	区	No.	時期	構 要	区	No.	時期	構 要
B	391	縄文	第1分冊内付図	B	451	縄文	第1分冊内付図	B	511		
	392	〃	〃	〃	452	〃	〃	〃	512		
	393	〃	〃	〃	453	〃	〃	〃	513	縄文	第1分冊内付図
	394	〃	〃	〃	454	〃	〃	〃	514	〃	〃
	395	〃	〃	〃	455	〃	〃	〃	515	〃	〃
	396	〃	〃	〃	456	〃	〃	〃	516	〃	〃
	397	〃	〃	〃	457	〃	〃	〃	517	〃	〃
	398	〃	〃	〃	458	〃	〃	〃	518	〃	〃
	399	〃	〃	〃	459	〃	〃	〃	519	〃	〃
	400	〃	〃	〃	460	〃	〃	〃	520	〃	〃
	401	縄文	第1分冊内付図	〃	461	〃	〃	〃	521	〃	〃
	402	〃	〃	〃	462	〃	〃	〃	522	〃	〃
	403	〃	〃	〃	463	〃	〃	〃	523	〃	〃
	404	〃	〃	〃	464	〃	〃	〃	524	〃	〃
	405	〃	〃	〃	465	〃	〃	〃	525	〃	〃
	406	〃	〃	〃	466	〃	〃	〃	526	〃	〃
	407	〃	〃	〃	467	〃	〃	〃	527	〃	〃
	408	〃	〃	〃	468	〃	〃	〃	528	〃	〃
	409	〃	〃	〃	469	〃	〃	〃	529	〃	〃
	410	〃	〃	〃	470	〃	〃	〃	530		
	411	〃	〃	〃	471	〃	〃				
	412	〃	〃	〃	472	〃	〃				
	413	〃	〃	〃	473	〃	〃				
	414	〃	〃	〃	474	〃	〃				
	415	〃	〃	〃	475	〃	〃				
	416	〃	〃	〃	476	〃	〃				
	417	〃	〃	〃	477	〃	〃				
	418	〃	〃	〃	478	〃	〃				
	419	〃	〃	〃	479	〃	〃				
	420	〃	〃	〃	480	〃	〃				
	421	〃	〃	〃	481	〃	〃				
	422	〃	〃	〃	482	〃	〃				
	423	〃	〃	〃	483	〃	〃				
	424	〃	〃	〃	484	〃	〃				
	425	〃	〃	〃	485	〃	〃				
	426	〃	〃	〃	486	〃	〃				
	427	〃	〃	〃	487	〃	〃				
	428	〃	〃	〃	488	〃	〃				
	429	〃	〃	〃	489	〃	〃				
	430	〃	〃	〃	490	〃	〃				
	431	〃	〃	〃	491	〃	〃				
	432	〃	〃	〃	492	〃	〃				
	433	〃	〃	〃	493	〃	〃				
	434	〃	〃	〃	494	〃	〃				
	435	〃	〃	〃	495	〃	〃				
	436	〃	〃	〃	496	〃	〃				
	437	〃	〃	〃	497	〃	〃				
	438	〃	〃	〃	498	〃	〃				
	439	〃	〃	〃	499	〃	〃				
	440	〃	〃	〃	500	〃	〃				
	441	〃	〃	〃	501	〃	〃				
	442	〃	〃	〃	502	〃	〃				
	443	〃	〃	〃	503	〃	〃				
	444	〃	〃	〃	504	〃	〃				
	445	〃	〃	〃	505	〃	〃				
	446	〃	〃	〃	506	〃	〃				
	447	〃	〃	〃	507	〃	〃				
	448	〃	〃	〃	508	〃	〃				
	449	〃	〃	〃	509	〃	〃				
	450	〃	〃	〃	510	〃	〃				
											B 区

A·B区土坑一览表

区	No.	时期	摘要	区	No.	时期	摘要	区	No.	时期	摘要
A	欠 1			A	61	織文	第1分冊内付図	A	119		第6分冊掲載予定
	2				62				120		
	欠 3		今 次		63		第6分冊掲載予定		121		
	4		今 次	欠	63				122		
	5		第6分冊掲載予定		64	織文	第1分冊内付図		欠 123		
	6				65				124	織文	第1分冊内付図
	7	織文	第1分冊内付図		欠 66				125		
	8		今 次		67		今 次		126		
	9		今 次		68	織文	第1分冊内付図		127		第6分冊掲載予定
	10				69				128	織文	第1分冊内付図
	11	今次	第6分冊掲載予定		70				129		第6分冊掲載予定
	12		第6分冊掲載予定		71				130		
	欠 13				72				131	織文	第1分冊内付図
	14		第6分冊掲載予定		73				132		
	欠 15				74				133		第6分冊掲載予定
	16		第6分冊掲載予定		75				134	織文	第1分冊内付図
	17				76				135		第6分冊掲載予定
	欠 18				77				136	織文	第1分冊内付図
	19				78				欠 137		
	20		第6分冊掲載予定		79				138	織文	第1分冊内付図
	21	織文	第1分冊内付図		80				139		
	欠 22				81				140		
	23		第6分冊掲載予定		82		第6分冊掲載予定		141		
	24				83	織文	第1分冊内付図		142		今 次
	25	織文	第1分冊内付図		84				143		
	欠 26				85				144		
	27				86				145		
	欠 28				87				146	織文	第1分冊内付図
	29		第6分冊掲載予定		88				147		
	30	織文	第1分冊内付図		89				148		
	31				90				149		
	32				90				150		
	33				91				151		
	34				92				152		
	35				93				153		
	36				94				154		
	37		第6分冊掲載予定		95				155		
	38				96				156		
	39				97				157		
	欠 40	織文	第1分冊内付図		98				158		
	41		第6分冊掲載予定		99				欠 159		
	42				100				160		第6分冊掲載予定
	43	織文	第1分冊内付図		101				161	織文	第1分冊内付図
	44		第6分冊掲載予定		102				162		
	45	織文	第1分冊内付図		103				163		
	46		第6分冊掲載予定		104				164		
	47				105				165		
	48				106				166		
	49				107				欠 167		
	50				108				168	織文	第1分冊内付図
	51	織文	第1分冊内付図		109				169		
	52		第6分冊掲載予定		110				170		
	欠 53				111				欠 171		
	54		第6分冊掲載予定		112				欠 172		
	55		今 次		113				173	織文	第1分冊内付図
	56		第6分冊掲載予定		114				174		
	57				115				175		
	欠 58				116				176		
	59		第6分冊掲載予定		117				177		
	60				118				178		今 次

遺構觀察表

区	No.	時期	備 考	区	No.	時期	備 考	区	No.	時期	備 考
A	179	縄文	第1分冊内付図	A	239	縄文	第1分冊内付図	A	298	縄文	第1分冊内付図
欠	180				240				299		第6分冊掲載予定
	181	縄文	第1分冊内付図		241	今 次			300	縄文	第1分冊内付図
	182				242	縄文	第1分冊内付図		301		
	183	今 次			243				302		
	184	縄文	第1分冊内付図		244				303		
	185				245				304		
	186				246				305		
	187	縄文	第1分冊内付図		247				306		
	188				248				307		
	189				249				308		
	190				250				309		
	191	第6分冊掲載予定			251				310		
	192	縄文	第1分冊内付図		252				311		
	193				253				312		
	194				254				313		
	195				255				314		
欠	196				256	今 次			315		
	197	縄文	第1分冊内付図		257	縄文	第1分冊内付図		316		
	198			欠	258				317		
	199				259	縄文	第1分冊内付図		318		
	200				260			欠	319		
	201				261	今 次			320	縄文	第1分冊内付図
	201				262	縄文	第1分冊内付図		321		
	203				263				322		
	204				264				323		
	205				265	今 次			324		
	206				266				325		
	207				267	縄文	第1分冊内付図		326		
	208	縄文	第1分冊内付図		268				327	今 次	
	209				269				328	縄文	第1分冊内付図
	210				270				329		
欠	211				271				330	今 次	
	212	縄文	第1分冊内付図		272	今 次			331	縄文	第1分冊内付図
	213				273	縄文	第1分冊内付図		332	今 次	
	214				274				333	縄文	第1分冊内付図
	215				275				334		
	216				276				335		
	217				277				336	縄文	第1分冊内付図
	218				278				337		
欠	219				279				338		
	220	縄文	第1分冊内付図		280				339		
	221				281				340		
	222				282				341		
	223				283				342		
	224				284				343		
	225	今 次			285				344		
	226	縄文	第1分冊内付図		286	今 次			345		
	227				287				346		
	228				288	縄文	第1分冊内付図		347	縄文	第1分冊内付図
	229				289				348		
欠	230				290				349		
欠	231				291				350		
	232	縄文	第1分冊内付図		292				351		
欠	233				293				352		
	234	縄文	第1分冊内付図		294				353		
	235				295	今 次			354	縄文	第1分冊内付図
	236				296	縄文	第1分冊内付図		355		
欠	237				297				356		
	238	縄文	第1分冊内付図		298				357		

A·B区土坑一览表

区	No	时期	摘要	区	No	时期	摘要	区	No	时期	摘要
A	358			A	418	縄文	第1分册内付図	A	477	縄文	第1分册内付図
〃	359			〃	419	〃	〃	〃	478	〃	〃
〃	360	縄文	第1分册内付図	〃	420	〃	〃	〃	479	〃	〃
〃	361	〃	〃	〃	421	〃	〃	〃	480	〃	〃
〃	362	〃	〃	〃	422	〃	〃	〃	481	〃	〃
〃	363	〃	〃	〃	423	〃	〃	〃	482	〃	〃
〃	364	〃	〃	〃	424	〃	〃	〃	483	〃	〃
〃	365	〃	〃	〃	425	〃	〃	〃	484	〃	〃
〃	366	〃	〃	〃	426	〃	〃	〃	485	〃	〃
〃	367	〃	〃	〃	427	〃	〃	〃	486	〃	〃
〃	368	〃	〃	〃	428	〃	〃	〃	487	〃	〃
〃	369	〃	〃	〃	429	縄文	第1分册内付図	〃	488	〃	〃
〃	370	〃	〃	〃	430	〃	〃	〃	489	〃	〃
〃	371	〃	〃	〃	431	〃	〃	〃	490	〃	〃
〃	372	〃	〃	〃	432	〃	〃	〃	491	縄文	第1分册内付図
〃	373	〃	〃	〃	433	〃	〃	〃	492	〃	〃
〃	374	〃	〃	〃	434	〃	〃	〃	493	〃	〃
〃	375	〃	〃	〃	435	縄文	第1分册内付図	〃	494	〃	〃
〃	376	〃	〃	〃	436	〃	〃	〃	495	縄文	第1分册内付図
〃	377	〃	〃	〃	437	〃	〃	〃	496	〃	〃
〃	378	〃	〃	〃	437	〃	〃	〃	497	〃	〃
〃	379	〃	〃	〃	438	〃	〃	〃	498	〃	〃
〃	380	〃	〃	〃	439	〃	〃	〃	499	〃	〃
〃	381	縄文	第1分册内付図	〃	440	〃	〃	〃	500	〃	〃
〃	382	〃	〃	〃	441	〃	〃	〃	501	〃	〃
〃	383	〃	〃	〃	442	〃	〃	〃	502	〃	〃
〃	384	〃	〃	〃	443	〃	〃	〃	503	〃	〃
〃	385	〃	〃	〃	444	〃	〃	〃	504	縄文	第1分册内付図
〃	386	〃	〃	〃	445	〃	〃	〃	505	〃	〃
〃	387	〃	〃	〃	446	〃	〃	〃	506	〃	〃
〃	388	〃	〃	〃	447	〃	〃	〃	507	〃	〃
〃	389	〃	〃	〃	448	〃	〃	〃	508	〃	〃
〃	390	〃	〃	〃	449	〃	〃	〃	509	縄文	第1分册内付図
〃	391	〃	〃	〃	450	〃	〃	〃	510	〃	〃
〃	392	〃	〃	〃	451	〃	〃	〃	511	〃	〃
〃	393	〃	〃	〃	452	〃	〃	〃	512	〃	〃
〃	394	〃	〃	〃	453	〃	〃	〃	513	〃	〃
〃	395	縄文	第1分册内付図	〃	454	〃	〃	〃	514	〃	〃
〃	396	〃	〃	〃	455	〃	〃	〃	515	〃	〃
〃	397	〃	〃	〃	456	〃	〃	〃	516	〃	〃
〃	398	〃	〃	〃	457	〃	〃	〃	517	縄文	第1分册内付図
〃	399	〃	〃	〃	458	〃	〃	〃	518	〃	〃
〃	400	〃	〃	〃	459	〃	〃	〃	519	〃	〃
〃	401	〃	〃	〃	460	〃	〃	〃	520	〃	〃
〃	402	〃	〃	〃	461	〃	〃	〃	521	〃	〃
〃	403	〃	〃	〃	462	〃	〃	〃	522	〃	〃
〃	404	〃	〃	〃	463	〃	〃	〃	523	〃	〃
〃	405	縄文	第1分册内付図	〃	464	〃	〃	〃	524	〃	〃
〃	406	〃	〃	〃	465	〃	〃	〃	525	縄文	第1分册内付図
〃	407	〃	〃	〃	466	〃	〃	〃	526	〃	〃
〃	408	〃	〃	〃	467	〃	〃	〃	527	〃	〃
〃	409	〃	〃	〃	468	〃	〃	〃	528	〃	〃
〃	410	〃	〃	〃	469	〃	〃	〃	529	〃	〃
〃	411	〃	〃	〃	470	〃	〃	〃	530	〃	〃
〃	412	〃	〃	〃	471	〃	〃	〃	531	縄文	第1分册内付図
〃	413	〃	〃	〃	472	〃	〃	〃	532	〃	〃
〃	414	〃	〃	〃	473	〃	〃	〃	533	〃	〃
〃	415	〃	〃	〃	474	〃	〃	〃	534	〃	〃
〃	416	〃	〃	〃	475	〃	〃	〃	535	〃	〃
〃	417	〃	〃	〃	476	〃	〃	〃	536	〃	〃

遺構観察表

区	No.	時期	構要	区	No.	時期	構要	区	No.	時期	構要
A	537			A	597	縄文	第1分冊内付図	A	657	縄文	第1分冊内付図
	538	縄文	第1分冊内付図		598				658		
	539				599				659		
	540				600				660		
	541				601				661		
	542				602				662		
	543				603				663		
	544				604				664		
	545				605				665		
	546				606				666		
	547				607				667		
	548				608				668		
	549				609				669		
	550				610				670		
	551				611				671		
	552				612				672		
	553				613				673		
	554	縄文	第1分冊内付図		614				674		
	555				615				675		
	556				616	縄文	第1分冊内付図		676		
	557				617				677		
	558				618				678		
	559				619				679		
	560				620				680		
	561				621				681		
	562				622				682		
	563				623				683		
	564				624				684		
	565				625				685		
	566				626				686		
	567				627				687		
	568				628				688		
	569				629				689		
	570				630				690		
	571				631				691		
	572				632				692		
	573				633				693		
	574				634				694		
	575				635				695		
	576				636	縄文	第1分冊内付図		696		
	577				637				697		
	578				638				697		
	579				639				698		
	580				640				699		
	581				641				700	縄文	第1分冊内付図
	582				642				701		
	583				643				702		
	584				644				703		
	585				645				704		
	586				646				705		
	587				647				706		
	588				648				707		
	588				649				708		
	590				650	縄文	第1分冊内付図		709		
	591				651				710		
	592				652				711		
	593				653				712		
	594				654				713		
	595				655				714		
	596				656				715		

A·B区土坑一览表

区	No	時期	掘 姿	区	No	時期	掘 姿	区	No	時期	掘 姿
A	716	縄文	第1分冊内付図	A	776	縄文	第1分冊内付図	A	835		
	717				777				836		
	718				778				837		
	719				779				838	縄文	第1分冊内付図
	720				780				389		
	721				781				840		
	722				782				841	縄文	第1分冊内付図
	723				783				842		
	724	縄文	第1分冊内付図		784				843		
	725				785				844		
	726				786				845		
	727				787				846		
	728				788				847		
	729				789				848		
	730				790				849		
	731				791				850		
	732				792				851		
	733				793				852		
	734				794				853		
	735				795				854		
	736				795				855		
	737				796				856		
	738				797	縄文	第1分冊内付図		857		
	739				798				858		
	740				799				859		
	741				800				860		
	742				801				861		
	743				802				862		
	744				803				863		
	745				804				864		
	746				805				865		
	747				806				866		
	748				807				867		
	749				808				868		
	750				809				869		
	751				810				870		
	752				811				871		
	753				812				872		
	754				813				873		
	755				814				874		
	756				815				875	縄文	第1分冊内付図
	757				816				876		
	758				817				877	縄文	第1分冊内付図
	759				818				878		
	760				819				879		
	761				820				880	縄文	第1分冊内付図
	762				821				881		
	763				822				882		
	764				823				883		
	765				824				884		
	766				825				885		
	767				826				886		
	768				827				887		
	769				828				888		
	770				829				889		
	771				830				890		
	772				831				891		
	773				832				892		
	774				833				893		
	775				834				894		

遺構観察表

区	No	時期	遺 構	要	区	No	時期	遺 構	要	区	No	時期	遺 構	要
A	885	縄文	第1分冊内付図		A	955	縄文	第1分冊内付図		A	1015	縄文	第1分冊内付図	
〃	886	〃	〃	〃	〃	956	〃	〃	〃	〃	1016	〃	〃	〃
〃	887	〃	〃	〃	〃	957	〃	〃	〃	〃	1017	〃	〃	〃
〃	888	〃	〃	〃	〃	958	〃	〃	〃	〃	1018	〃	〃	〃
〃	889	〃	〃	〃	〃	959	〃	〃	〃	〃	1019	〃	〃	〃
〃	900	〃	〃	〃	〃	960	〃	〃	〃	〃	1020	〃	〃	〃
〃	901	〃	〃	〃	〃	961	〃	〃	〃	〃	1021	〃	〃	〃
〃	902	〃	〃	〃	〃	962	〃	〃	〃	〃	1022	〃	〃	〃
〃	903	〃	〃	〃	〃	963	〃	〃	〃	〃	1023	〃	〃	〃
〃	904	〃	〃	〃	〃	964	〃	〃	〃	〃	1024	〃	〃	〃
〃	905	〃	〃	〃	〃	965	〃	〃	〃	〃	1025	〃	〃	〃
〃	906	〃	〃	〃	〃	966	〃	〃	〃	〃	1026	〃	〃	〃
〃	907	〃	〃	〃	〃	967	〃	〃	〃	〃	1027	〃	〃	〃
〃	908	〃	〃	〃	〃	968	〃	〃	〃	〃	1028	〃	〃	〃
〃	909	〃	〃	〃	〃	969	〃	〃	〃	〃	1029	〃	〃	〃
〃	910	縄文	第1分冊内付図		〃	970	〃	〃	〃	〃	1030	〃	〃	〃
〃	911	〃	〃	〃	〃	971	〃	〃	〃	〃	1031	〃	〃	〃
〃	912	〃	〃	〃	〃	972	縄文	第1分冊内付図		〃	1032	〃	〃	〃
〃	913	〃	〃	〃	〃	973	〃	〃	〃	〃	1033	〃	〃	〃
〃	914	〃	〃	〃	〃	974	〃	〃	〃	〃	1034	〃	〃	〃
〃	915	〃	〃	〃	〃	975	〃	〃	〃	〃	1035	〃	〃	〃
〃	916	〃	〃	〃	〃	976	〃	〃	〃	〃	1036	〃	〃	〃
〃	917	〃	〃	〃	〃	977	〃	〃	〃	〃	1037	〃	〃	〃
〃	918	〃	〃	〃	〃	978	〃	〃	〃	〃	1038	〃	〃	〃
〃	919	〃	〃	〃	〃	979	〃	〃	〃	〃	1039	〃	〃	〃
〃	920	〃	〃	〃	〃	980	〃	〃	〃	〃	1040	〃	〃	〃
〃	921	〃	〃	〃	〃	981	〃	〃	〃	〃	1041	〃	〃	〃
〃	922	〃	〃	〃	〃	982	〃	〃	〃	〃	1042	〃	〃	〃
〃	923	〃	〃	〃	〃	983	〃	〃	〃	〃	1043	〃	〃	〃
〃	924	〃	〃	〃	〃	984	〃	〃	〃	〃	1044	〃	〃	〃
〃	925	〃	〃	〃	〃	985	〃	〃	〃	〃	1045	〃	〃	〃
〃	926	〃	〃	〃	〃	986	〃	〃	〃	〃	1046	〃	〃	〃
〃	927	〃	〃	〃	〃	987	〃	〃	〃	〃	1047	〃	〃	〃
〃	928	〃	〃	〃	〃	988	〃	〃	〃	〃	1048	〃	〃	〃
〃	929	〃	〃	〃	〃	989	〃	〃	〃	〃	1049	〃	〃	〃
〃	930	〃	〃	〃	〃	990	〃	〃	〃	〃	1050	〃	〃	〃
〃	931	〃	〃	〃	〃	991	〃	〃	〃	〃	1051	〃	〃	〃
〃	932	〃	〃	〃	〃	992	〃	〃	〃	〃	1052	〃	〃	〃
〃	933	〃	〃	〃	〃	993	〃	〃	〃	〃	1053	〃	〃	〃
〃	934	〃	〃	〃	〃	994	〃	〃	〃	〃	1054	〃	〃	〃
〃	935	〃	〃	〃	〃	995	〃	〃	〃	〃	1055	〃	〃	〃
〃	936	〃	〃	〃	〃	996	〃	〃	〃	〃	1056	〃	〃	〃
〃	937	〃	〃	〃	〃	997	縄文	第1分冊内付図		〃	1057	〃	〃	〃
〃	938	〃	〃	〃	〃	998	〃	〃	〃	〃	1058	〃	〃	〃
〃	939	〃	〃	〃	〃	999	〃	〃	〃	〃	1059	〃	〃	〃
〃	940	〃	〃	〃	〃	1000	〃	〃	〃	〃	1060	〃	〃	〃
〃	941	〃	〃	〃	〃	1001	〃	〃	〃	〃	1061	〃	〃	〃
〃	942	〃	〃	〃	〃	1002	〃	〃	〃	〃	1062	〃	〃	〃
〃	943	〃	〃	〃	〃	1003	〃	〃	〃	〃	1063	〃	〃	〃
〃	944	〃	〃	〃	〃	1004	〃	〃	〃	〃	1064	〃	〃	〃
〃	945	〃	〃	〃	〃	1005	〃	〃	〃	〃	1065	〃	〃	〃
〃	946	〃	〃	〃	〃	1006	〃	〃	〃	〃	1066	〃	〃	〃
〃	947	〃	〃	〃	〃	1007	〃	〃	〃	〃	1067	〃	〃	〃
〃	948	〃	〃	〃	〃	1008	〃	〃	〃	〃	1068	〃	〃	〃
〃	949	〃	〃	〃	〃	1009	〃	〃	〃	〃	1069	〃	〃	〃
〃	950	〃	〃	〃	〃	1010	〃	〃	〃	〃	1070	〃	〃	〃
〃	951	〃	〃	〃	〃	1011	〃	〃	〃	〃	1071	〃	〃	〃
〃	952	〃	〃	〃	〃	1012	〃	〃	〃	〃	1072	〃	〃	〃
〃	953	〃	〃	〃	〃	1013	〃	〃	〃	〃	1073	〃	〃	〃
〃	954	縄文	第1分冊内付図		〃	1014	〃	〃	〃	〃	1074	〃	〃	〃

A・B区土坑一覧表

区	No	時期	摘要	区	No	時期	摘要	区	No	時期	摘要
A	1075			A	1373	縄文	第1分冊内付図				
	1076	縄文	第1分冊内付図		1374						
	1077				1375						
	1078				1376						
	1079				1377						
	1080				1378						
	1081				1379						
	1082				1380						
	1083				1381						
	1084				1382						
	1085				1383						
	1086				1384						
	1087				1385						
	1088				1386						
	1089				1387						
	1090				1388						
	1091				1389						
	1092				1390						
	1093				1391						
	1094				1392						
	1095				1393						
	1096				1394						
	1097				1395						
	1098				1396						
	1099				1397						
	1100				1398						
					1399						
A	1340				1400						
	1341				1401						
	1342				1402						
	1343	縄文	第1分冊内付図		1403						
	1344				1404						
	1345				1405						
	1346				1406						
	1347				1407						
	1348				1408						
	1349				1409	縄文	第1分冊内付図				
	1350				1410						
	1351				1411						
	1352				1412						
	1353				1413						
	1354				1414						
	1355				1415						
	1356				1416						
	1357	縄文	第1分冊内付図		1417						
	1358				1418						
	1359				1420						
	1360							A 区			
	1361										
	1362										
	1363										
	1364										
	1365										
	1366										
	1367										
	1368										
	1369										
	1370										
	1371										
	1372										

遺物一覧表

遺物一覧表

B区第5号溝跡

押出番号 図録番号	種別 種類	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
8-1 66	土師器 坏	覆土内 破片	口 (10.8)	白色微粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部は横撫で体部は荒削り。 器内面に彫文を施す。	藤岡系
8-2 66	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0)	黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部は内湾気味。器厚は薄く、 体部に彫磨を致し底部は荒削り。	藤岡系
8-3 66	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0)	黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は内湾気味。口縁直下 に彫磨を残し、下半部は荒削り。底部は荒削り。	藤岡系
8-4 66	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0)	黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙褐	型作り成形。口縁部は内湾気味。口縁直下 に彫磨を残し、下半部は荒削り。底部は荒削り。	藤岡系
8-5 66	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0)	黒色鉱物粒子	酸化焰	純橙	型作り成形。口縁部は内湾気味。口縁部・口 縁直下に彫磨を残す。底部は荒削り。	藤岡系
8-6 66	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.4)	黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	浅黄橙	型作り成形。口縁部は内傾する。口縁直下 に彫磨を残し、下半部は荒削り。底部は荒削り。	藤岡系
8-7 66	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.8)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	型作り成形。口縁部置状工具の横撫により直 立気味。底部は荒削り。	藤岡系
8-8 66	土師器 坏	覆土内 破片	口 (18.0)	黒色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直 下に強い稜を有する。底部は荒削り。	藤岡系
8-9 66	須恵器 坏 蓋	覆土内 破片	横 (5.6) 口 (13.4) 高 (2.9)	黒色粒子	還元焰	白灰	返りを有する。轆轤成形(右回転)。上半部は 回転荒削り。胴部は貼り付け。	秋間系
8-10 66	須恵器 坏 蓋	覆土内 破片	口 (12.6)	黒色粒子	還元焰	黄灰	返りを有する。轆轤成形(右回転)。上半部は 回転荒削り。胴部は貼り付け。	秋間系
8-11 66	須恵器 坏 蓋	覆土内 破片	口 (17.6)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	返りを有する。轆轤成形(右回転)。上半部は 回転荒削り。	秋間系
8-12 66	須恵器 坏 蓋	覆土内 破片	口 (18.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	暗灰	返りを有する。轆轤成形(右回転)。上半部は 回転荒削り。	秋間系
8-13 66	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 (8.0) 高 (3.5)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
8-14 66	須恵器 坏	覆土内 片	口 (13.4) 底 9.0 高 3.0	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。上部は回転荒削り。	秋間系
8-15 66	須恵器 坏	覆土内 片	口 (13.8) 底 (8.0) 高 (3.7)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。自然輪付着	秋間系
8-16 66	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 (9.0) 高 (3.7)	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
8-17 66	須恵器 瓶	覆土内 破片	底 (4.0)	白色微粒子	還元焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。	秋間系
8-18 66	須恵器 高台付坏	覆土内 破片	底 (10.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	暗灰	轆轤成形(右回転)。高台は削り出し。	秋間系
8-19 66	須恵器 埴 埴	覆土内 破片	底 (7.6)	微粒雲母 ゼイサイト	中性焰	外・黒 内・黄灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤岡系
8-20 66	土師器 壺	覆土内 破片	口 (21.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は荒削 り、口縁部は横撫で、内面胴部は荒撫で。	藤岡系
8-21 66	須恵器 深煮蓋	覆土内 破片	横 (4.1) 口 (13.0) 高 (4.5)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。踵は貼り付け整形。	秋間系
8-22 66	須恵器 長頸壺	覆土内 破片	口 (10.0)	白色微粒子	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
8-23 66	須恵器 横埴か	覆土内 破片	厚 1.2	白色微粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形(外面素文・内面宛具は背 海波文)。	藤岡系か 秋間系
8-24 66	須恵器 壺	覆土内 破片	厚 0.8	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤成形(右回転)。	秋間系
8-25 66	須恵器 壺	覆土内 破片	厚 0.7	白色微粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は背海波文)後轆轤再整形。	秋間系

B区(5号清跡)

9-1 96	須恵器 壺	覆土内 破片	厚 0.7	黒色粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面道具は青海波文)。	秋間系
9-2 96	須恵器 横袋	覆土内 破片	厚 1.2	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面道具は青海波文)。	栗附系
9-3 96	須恵器 鉢	覆土内 破片	底 16.7	白色微粒子	還元焰	黄灰	紐作り後輪軸整形(右回転)。	秋間系
9-4 96	須恵器 横瓶	覆土内 破片	口(12.9) 高(29.2) 最径(11.0)	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後輪軸整形(右回転)。	秋間系
9-5 96	輪軸陶器 反輪瓶	覆土内 破片	底(10.0)	密	焼締 還元焰	オリブ 灰	紐作り後輪軸整形(右回転)。付高台。	—
9-6 96	輪軸陶器 背磁	覆土内 破片	厚 0.4	密・やや粗い	良好	胎・灰 軸・黄 緑	輪軸成形(左回転)。軸は全整。釉潤は黄緑色を呈し小貫が多く入る。	北方清原
9-7 96	鉄 釘	覆土内 完存	重 4.0	—	—	—	全体に錆化が著しい。小型の釘で、頭部は折り曲げ、断面は正方形状を呈する。	—
9-8 96	鉄 釘	覆土内 破片	幅 0.4 重 0.9	—	—	—	全体に錆化が著しい。調査後の錆化により両端側を欠損する。断面は正方形状を呈し「く」の字状に屈曲する。	—
9-9 96	鉄 釘	覆土内 破片	重 0.9	—	—	—	釘か。断正方形を呈する。	—
9-10 96	鉄 不詳	覆土内 破片	厚 0.25 重 6.0	—	—	—	全体に錆化が著しい。板状製品で丸形状を呈すると考えられる。	—
10-1 瓦 641	瓦 継	覆土内 破片	厚 2.4	白色微粒子 透明鉱物粒子	還元焰	灰白	単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+5。背面無整形。瓦当面が製作直後重められている。	笠懸系
10-2 瓦 664	瓦 字	覆土内 破片	高 5.1 厚 2.4	白色鉱物粒子	還元焰	灰黄	瓦当意匠は重郭文。両面縦位の貫眼で整形。側部面取り1回。	吉井系
10-3 瓦 665	瓦 字	覆土内 破片	高 4.0 厚 3.2	白色鉱物粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は重郭文。女瓦部は一枚作り。凹・凸面縦位の貫眼で整形。側部面取り1回。	吉井系
10-4 67	瓦 男	覆土内 瓦	玉幅 9.5 厚 1.5	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰白	凸面縄叩き(密)。側部面取り2回。玉縁接合はA型。	吉井系
10-5 67	瓦 男	覆土内 破片	厚 1.5	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	平敷作り。凸面縄叩き(密)後面縦位の横で整形。側部面取り2回・端部面取り2回。	吉井系
10-6 67	瓦 男	覆土内 破片	厚 1.2	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。凸面縄叩き。側部面取り2回。	栗附系
10-7 墨書-8	瓦 女	覆土内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子 白色粒子	中性焰	黄灰	桶巻き造り。凹面横骨状。凸面輪軸整形凸面墨書「開野郡小野郷」。側部面取り2回。	吉井系
11-1 67	瓦 女	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	外・灰 新・淡黄 墨	一枚作り。凹面布目織り消し。凸面無で整形後格子叩き整形。	笠懸系
11-2 67	瓦 女	覆土内 破片	厚 1.4	白色鉱物粒子 透明鉱物粒子	還元焰	灰黄	一枚作り。凹面布目織り消し。凸面無で整形後斜格子叩き整形。	吉井系
11-3 67	瓦 女	覆土内 破片	厚 1.6	白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面布目織り消し。凸面無で整形後格子叩き整形。	笠懸系
11-4 67	瓦 女	覆土内 破片	厚 2.1	白色微粒子 透明鉱物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面布目織り消し。凸面無で整形後斜格子叩き整形。	笠懸系
11-5 67	瓦 女	覆土内 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子 赤褐色粒子	還元焰	橙	桶巻き造り。凹面横骨状・粘土板割り取り。凸面縄叩き(密)。側部面取り2回。	吉井系
11-6 67	瓦 女	覆土内 破片	厚 2.3	白色微粒子	還元焰	灰黄	一枚作り。凹面粘土板割り取り。凸面縄叩き。	吉井系か 笠懸系
11-7 67	瓦 女	覆土内 破片	厚 3.1	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	桶巻き造り。凹面横骨状。凸面縄叩き後縦位の輪軸無で整形。側部面取り2回。	吉井系
11-8 68	瓦 女	覆土内 破片	厚 3.1	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	1回1回-7と同一個体	吉井系
11-9 68	瓦 女	覆土内 破片	厚 1.4	白色微粒子 白色粒子 透明鉱物粒子	中性焰	灰褐 橙	一枚作り。凹面布目織り消し。凸面粘土板割り取り。側部面取り2回・端部面取り1回。	笠懸系

遺物一覧表

A区第6号溝跡

発掘番号 区画番号	種類 別	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼色	色調	器形・技法等の特徴	備考
11-10 68	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (14.0)	微粒雲母	中性焰	黄灰	轆轤成形 (右回転)。	藤岡系
11-11 68	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (17.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。	秋間系
11-12 68	須恵器 坏	覆土内 破片	底 (7.0)	白色微粒子 赤褐色粒子	中性焰	黄灰	轆轤成形 (右回転)。	藤岡系
11-13 68	須恵器 坏	覆土内 片	底 7.0	小角礫 微粒雲母 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
11-14 68	須恵器 坏	覆土内 破片	底 (7.0)	黒色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
11-15 68	須恵器 皿	覆土内 破片	口 (15.6) 底 (10.2) 高 (2.5)	白色微粒子	還元焰	灰 新・白灰 外・黒灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
11-16 68	須恵器 甕	覆土内 破片	底 (8.0)	白色粒子 白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤成形(右回転)。付高台。胴部下 半は回転無効で。	吉井系
12-1 68	土師器 壺	覆土内 破片	口 (19.0)	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁 下に強い稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
12-2 68	瓦 男瓦	覆土内 片	狭 12.4 厚 2.6	白色鉱物粒子 内粒礫	中性焰	鈍橙	半截作り。凸面縦位の撫で整形。凹面粘土板 割ぎ取り肌。側面取り 3回・端部取り 1 回。	吉井系
12-3 68	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面平行叩き。側面取り 2回・ 端部取り 2回。	吉井系
12-4 68	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	一枚作りか。凸面平行叩き。	吉井系
12-5 68	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り肌。凸面叩 き(密)。	秋間系
12-6 68	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	新・橙 外・黒灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側面取り 3回・端部取り 3回。	吉井系
12-7 69	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面横骨直・粘土板割ぎ取り 肌凸面縦位の撫で整形。端部取り 2回・側 部取り 2回。	吉井系
12-8 68	須恵器 坏	覆土内 破片	底 (3.5)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転未切り。	吉井系
12-9 68	施釉陶器 灰釉埴 土	覆土内 破片	口 (14.6)	密	焼締	淡灰	轆轤成形 (右回転)。施釉は浸し掛け。	
12-10 68	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部直下は横位の彫削り。	藤岡系
12-11 68	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.8)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は篋削り。体部に厚層を残す。	藤岡系
12-12 68	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (13.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は篋削り。胴部は回 転彫削りを施す。	秋間系か
12-13 68	須恵器 坏	覆土内 片	口 (13.2) 底 (8.0) 高 (4.0)	白色鉱物粒子 白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転未切り。	栗附系
12-14 68	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (14.6)	黒色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。轆轤目は浅い。	吉井・藤岡系

13-1-68	須恵器 土師器 白付塗	覆土内 破片	底 (9.8)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
13-2-68	須恵器 土師器 白付塗	覆土内 破片	—	黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	外・轆轤 内・黄 塗	紐作りか製作り成形。底部は斜位の寛削り、 内面は横位の寛削り。	藤岡系
13-3-68	須恵器 壺	覆土内 瓦	底 14.0	白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤成形(右回転)。	吉井系
13-4-68	須恵器 壺	覆土内 破片	口 (21.0)	白色微粒子 白色鉱物粒子	中性焰	純黄橙	紐作り。叩き整形(外周平行叩き・内周丸 は青海波文)。口縁は轆轤成形(右回転)。	秋間系
13-5-68	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (13.0)	白色微粒子 シルト粗粒	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
13-6-68	土師器 坏	覆土内 破片	口 (18.8)	黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面割部は寛削り 、口縁部は横削り、内面割部は寛削り。	藤岡系
13-7-68	須恵器 壺	覆土内 瓦	底 2.8	微粒雲母	還元焰	新・灰 外・黒	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系

B区第49号住居跡

探検番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	覆目 (cm) 層目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
15-1-69	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.2) 底 (4.7) 高 (3.5)	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。	吉井・藤岡系
15-2-69	須恵器 坏	覆土内 瓦	口 (11.6) 底 5.1 高 3.7	透明微粒子 雲母	中性焰	純黄橙	轆轤成形(右回転)、底部は回転系切り。	吉井系
15-3-69	須恵器 坏	覆土内 破片	底 6.2	白色微粒子	酸化焰	純黄橙	轆轤成形(右回転)、底部は回転系切り。	藤岡系
15-4-69	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (13.0)	黒色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	吉井・藤岡系
15-5-69	須恵器 壺	覆土内 瓦	口 13.8 底 6.8 高 5.3	黒色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
15-6-69	須恵器 壺	カマド内 瓦	底 5.8	微粒雲母 黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	不詳
16-1-69	須恵器 壺	覆土内 瓦	底 (6.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
16-2-69	須恵器 羽	カマド内 破片	底 (7.0)	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。胴部下半・底部は寛削り。	笠懸系
16-3-69	須恵器 羽	カマド内 破片	口 (20.1)	白色微粒子	還元焰	白灰	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤成形(右回 転)。胴は貼り付け、胴部下半は寛削り。	吉井型羽 差 甲 種呂類
16-4-69	須恵器 羽	覆土内 破片	口 (17.2)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	純黄橙	口縁部は直立する。紐作り後轆轤成形(右回 転)。胴は貼り付け。	吉井型羽 差 甲 種呂類
16-5-69	須恵器 壺	覆土内 破片	口 (32.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	純黄橙	口縁部は外反する。紐作り後、轆轤成形(右 回転)。	藤岡系
16-6-69	鉄器 不詳	覆土内 破片	—	—	—	—	状態は薄鉄板状であるが、内側が中空になっ ている。	—
16-7-69	鉄器 釘	覆土内 破片	—	—	—	—	鉄釘か。断面正方形を呈する。	—
16-8-69	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白色微粒子	中性焰	灰黄	半截作り。凸面轆轤成形後版位の推で整形。 側面取り1回。	吉井・藤岡系
16-9-69	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.6	黒色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤成形。側面取り3回。	秋間系
16-10-69	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚 1.6	白色微粒子	酸化焰	黄橙	半截作り。凸面轆轤成形後版目叩き。側面 取り2回・端部取り1回。	吉井系
16-11-69	瓦 瓦-572	覆土内 破片	厚 2.1	白色微粒子	還元焰	灰	1枚作り。凸面版位の平行叩き。凸面置記号 か。端部取り2回。	藤岡系

遺物一覧表

16-12 70	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚	1.7	黒色鉱物粒子 白色粒子	中性焰	灰黄	1枚作り。凸面縦位の線印が(密)。端部面取り1回。	秋間系
16-13 70	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚	2.1	白色鉱物粒子	中性焰	灰黄	1枚作り。凸面縦位の線で整形。端部面取り2回。	吉井系
17-1 瓦-569 69	瓦 女瓦	カマド内 瓦	厚	2.0	赤褐色粒子 白色粒子	酸化焰	橙	1枚作り。凸面縦位の線で整形。側部面取り2回・端部面取り2+α回。鹿嶋系文字瓦〔不詳〕(凸面)。	藤岡系
17-2 69	瓦 女瓦	覆土内 瓦	厚	1.7	白色微粒子	中性焰	灰黄	1枚作り。凸面縦位の線で整形。側部面取り2回・端部面取り2回。	藤岡系
17-3 70	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚	1.4	白色微粒子	酸化焰	橙	1枚作り。凹面布目跡で消し。凸面側面取り後厚削で整形。側部面取り2回・端部面取り1回。	笠懸系

B区第50号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目(φ)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
18-1 70	須恵器 坏蓋	カマド内 完形	側口 13.7 底高 2.5	黒色粒子	還元焰	灰	縦輪成形(右回転)、天井部は回転整形。	秋間系	
18-2 70	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	口(18.2)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	1に同じ。	秋間	
18-3 70	須恵器 坏	床底 完形	口 12.4 底高 8.4 3.4	黒色粒子	還元焰	灰	縦輪成形(右回転)。底部は回転整形。	秋間系	
18-4 70	須恵器 甕	覆土内 破片	厚	0.6	白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後印き整形(外面平行印き、内面鬼具面は青黄液文)。	秋間系 乗付系
18-5 70	瓦 女瓦	カマド内 細片	厚	1.8	白色鉱物粒子	還元焰	灰	1枚作り。内外面に自然軸が付着し細片の為詳細不分明。	吉井系
18-6 70	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	2.1	白色鉱物粒子	還元焰	灰	1枚作り。凸面側印が(密)。凹面自然軸付着。	吉井系

B区第52号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目(φ)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
19-1 70	土師器 坏	床直 完形	口 11.7 底高 9.3 3.6	白色鉱物粒子 微粒炭母	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横削で、底部は平底で整形。体部に型腐を残す。	藤岡系
19-2 70	土師器 坏	覆土内 破片	口(12.0)	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙色	型作り成形。口縁部・器内面は横削で、底部は平底で整形。体部に型腐を残す。	藤岡系
19-3 70	土師器 坏	カマド内 破片	口(12.6)	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙色	型作り成形。口縁部・器内面は横削で、底部は整形。体部に型腐を残す。	藤岡系
19-4 70	土師器 坏	ピット内 破片	口(12.3) 底(9.3) 高(3.4)	白色微粒子	酸化焰	洗黄橙	型作り成形。口縁部は段を有する。器厚は薄く、体部に型腐を残し底部は整形。	藤岡系 吉井系
19-5 70	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	口(15.4)	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。縦輪成形(右回転)。上半部は回転整形。	秋間系
19-6 70	須恵器 美濃蓋	覆土内 破片	径(13.3)	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後縦輪整形(右回転)。踵は貼り付け。	秋間系
19-7 70	土師器 坏	カマド内 破片	口(11.1) 高(3.1)	黒色鉱物粒子 微粒炭母	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横削で、底部は平底で整形。体部に型腐を残す。	藤岡系
19-8 70	須恵器 坏	カマド内 瓦	口(11.6) 底(4.8) 高(3.5)	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰黄	縦輪成形(右回転)。	吉井系
19-9 70	須恵器 坏	貯蔵穴内 完形	口 12.2 底高 7.6 3.1	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	縦輪成形(右回転)、底部は回転未切り。	秋間系
19-10 71	須恵器 坏	覆土内 瓦	口 12.3 底高 6.4 4.2	黒色粒子	還元焰	灰	縦輪成形(右回転)、底部は回転未切り。	秋間系

19-1 71	須 志 器 坏	床直 完形	口 底 高	13.6 8.5 3.6	小円粒礫	還元焰	赤・黄灰 内・黄灰	輪軸成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系か 粟附系
20-1 71	須 志 器 坏	カマド内 一部欠損	口 底 高	13.6 8.1 3.8	白色鉱物粒子	中性焰	黄灰	輪軸成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
20-2 71	須 志 器 坏	カマド内 片	口 底 高	14.1 8.4 3.3	シルト質 ダイオサイト ローム粒子	中性焰	浅黄緑	輪軸成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系か
20-3 71	須 志 器 坏	覆土内 片	口 底 高	6.0	白色微粒子 微粒炭母	還元焰	灰	輪軸成形(右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
20-4 71	須 志 器 坏	貯蔵穴内 完形	口 底 高	15.1 8.7 5.0	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	灰	輪軸成形(右回転)。付高台。	秋間系
20-5 71	須 志 器 坏	貯蔵穴内 完形	口 底 高	14.5 9.2 2.9	白色微粒子	還元焰	灰	輪軸成形(右回転)。付高台。	粟附系か 秋間系
20-6 70	須 志 器 坏	カマド内 破片	口 底	(6.0)	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	灰	輪軸成形(右回転)。底部は手持り取用り。	秋間系
20-7 70	須 志 器 内 黒土 器 坏	カマド内 破片	口 底 高	(13.4) (7.2) (4.6)	微粒炭母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙・内 面黒	輪軸成形(右回転)、底部は回転糸切り。器内 面に硝文を施す。器内面を炭灰させている。	藤岡系か
20-8 71	須 志 器 内 黒土 器 坏	カマド内 片	口 底 高	(18.8) (7.5) (4.5)	微粒炭母 白色微粒子	酸化焰	浅黄緑	輪軸成形(右回転)。器内面に横位の研磨を施 こし焼す。	笠懸系
20-9 70	土 師 器 小 型 壺	カマド内 破片	口	(14.2)	微粒炭母	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は窪削 り、口縁部は横磨で、内面胴部は窪磨で。	藤岡系
20-10 71	土 師 器 台 付 壺	床直 破片	—	—	微粒炭母	酸化焰	橙	紐作り成形。胴部・底部は瓦彫成形。脚は粘 り付け。	藤岡系
20-11 70	須 志 器 壺	覆土内 破片	—	—	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後輪軸整形(右回転)。	粟附系
20-12 70	須 志 器 平 底 か	覆土内 破片	最径(17.0)	—	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後輪軸整形(右回転)。	秋間系
20-13 70	須 志 器 壺	覆土内 破片	口	(15.4)	白色微粒子	還元焰	灰白	紐作り後輪軸整形(右回転)。	秋間系
20-14 70	須 志 器 大 壺	カマド内 破片	最径(38.6)	—	黒色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面丸具 は青海波文)後輪軸再整形。	秋間系
22-1 70	礫 器 石	覆土内 完形	幅 厚	7.1 3.9	安賀安山岩	—	—	小口・胴部に敲打に伴う変質が顕著である。	重550g
22-2 70	礫 器 石	覆土内 完形	長 幅 厚	12.0 5.5 3.8	粗粒安山岩	—	—	小口部に敲打痕がある。	重430g
22-3 70	鉄 器 釘	覆土内 ほぼ完形	重ね 重	6.38 3.9	—	—	—	尖端欠損。1寸5分長の釘と思われる。錆化 は顕著。	—
22-4 70	鉄 器 釘	覆土内 破片	幅 重	0.85 16.7	—	—	—	調査後の欠損が著しい。胴部も調査後の欠損 がある。	—
22-5 70	鉄 器 不 詳	覆土内 破片	重	5.6	—	—	—	錆化が非常に著しく、全面が剥離状態になっ ている。	—
22-6 70	鉄 器 不 詳	カマド内 破片	残長 重	9.2 9.1	—	—	—	錆化が顕著。細い棒状である。	—
22-7 70	鉄 器 刃 子	覆土内 鎌欠損	残長 棟重 重	5.5 0.25 7.5	—	—	—	鎌は調査後の欠損。刀身は研ぎ減りにより瘦 身になっている。	—
22-8 瓦-642	瓦 盤 瓦	覆土内 破片	厚	3.0	白色鉱物粒子	還元焰	灰	単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+4。	吉井系
22-9 瓦-573	瓦 男 瓦	カマド内 破片	厚	1.4	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	半載作り。面割位の無で整形。側面取り2 回。寛縮き文字瓦「井」(凹面)。	吉井系
22-10 71	瓦 玉 縁 付 男 瓦	床直 破片	厚	2.0	黒色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	半載作り。凸面朝叩き整形(密)後輪軸再整 形。玉縁接合はA類。側面取り2回。	雷電山 系

遺物一覧表

22-11 71	瓦 男 瓦	床直 破片	厚 1.8	細粒砂	還元焰	灰白	半截作り。凸面縄印き整形(密)、縦位の撫で整形。凹面粘土板刺ぎ取り痕。側面取2回。	笠懸系 (雷電山か)
22-12 71	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 2.1	黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面輪轡整形。凹面粘土板刺ぎ取り痕、自然釉付着。	笠懸系 (雷電山か)
22-13 71	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.8	細粒砂	還元焰	灰	半截作り凸面縄印き(密)、布目痕有り。	杖間系
23-1 72	瓦 男 瓦	貯蔵穴内 ほぼ完形	長 35.3 幅 16.8 快 13.4	黒色粒子	還元焰 焼締	灰	半截作り。凸面縄印き整形(密)後輪轡可整形。凹面粘土板刺ぎ取り痕。側面取り2回・端部取2回。	笠懸系 雷電山か
23-2 72	瓦 男 瓦	カマド内 ほぼ完形	長 41.2 幅 18.6 厚 1.8	黒色粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り。凸面縦位の撫で整形。凹面粘土板刺ぎ取り痕側面取り3回・端部取2回。	吉井系
24-1 72	瓦 男 瓦	床直 瓦	長 42.5 幅 15.8 厚 1.4	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	半截作り。面縦位の撫で整形。側面取り3回・端部取り3回。	吉井系
24-2 瓦-574 71	瓦 男 瓦	覆土内 瓦	幅 18.8 広 19.0 厚 1.3	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側面取り2回・端部取り2回。寛裕き記号(凸面)。	吉井系
24-3 71	瓦 男 瓦	床直 破片	厚 1.9	白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面輪轡整形。端部取り3回。	笠懸系
25-1 瓦-575 73	瓦 女 瓦	床直 瓦	厚 2.1	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後正格子印き整形。粘土板刺ぎ取り痕(両面)。刻印文字瓦「不詳」(凸面)。側面取り2回・端部取り1回。	笠懸系
25-2 73	瓦 女 瓦	カマド内 部分欠損	長 37.0 幅 23.0 厚 1.7	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後格子印き整形。粘土板刺ぎ取り痕(両面)側面取り2回・端部取り1回。	吉井系か 笠懸系
25-3 72	瓦 女 瓦	床直 瓦	厚 1.4	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後正格子印き整形。粘土板刺ぎ取り痕(両面)。側面取り2回。	笠懸系
26-1 73	瓦 女 瓦	床直 瓦	厚 2.7	白色微粒子	酸化焰	暗橙	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後斜格子印き整形。側面取り2回・端部取り1回。	笠懸系
26-2 72	瓦 女 瓦	床直 破片	厚 2.5	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後格子印き整形。	笠懸系
26-3 72	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰褐	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後格子印き整形。側面取り2回。	笠懸系
26-4 73	瓦 女 瓦	床直 破片	厚 1.9	白色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	鈍橙	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面撫で整形後斜格子印き整形。	笠懸系
26-5 72	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 2.2	白色微粒子	中性焰	鈍橙	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後斜格子印き整形。粘土板刺ぎ取り痕(両面)側面取り2回・端部取り1回。	笠懸系
26-6 72	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後正格子印き整形。	笠懸系
27-1 74	瓦 女 瓦	床直 瓦	厚 1.6	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側面取り3回。端部取り1回。	吉井系
27-2 74	瓦 女 瓦	床直 瓦	厚 1.2	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	一枚作りか。凸面縄印き整形(密)後縦位の撫で再整形。側面取り2回。	吉井系
27-3 73	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作りか。凹面縄い模骨痕と考えられる圧痕が認められる。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面斜位・縦位の撫で整形。	笠懸系
27-4 73	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 2.7	白色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	鈍橙	一枚作りか。凹面布目擦り消し。凸面粘土板刺ぎ取り痕。端部取り1回。	笠懸系
27-5 73	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	酸化焰	褐	一枚作りか。凹面粘土板刺ぎ取り痕。側面取り2回。	笠懸系

B区 (53号住居跡)

27-6 73	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	1.7	白色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	鈍橙	柄巻作り。凹面骨板肌。凹面粘土板剥き取り 痕。側面取り2回。	笠懸系
27-7 73	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	1.7	白色微粒子	還元焰	灰	柄巻き造りか。凹面寄木皮?。凸面編叩き。	笠懸系

B区第53号住居跡

探出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
28-1 74	土師器 環	覆土内 破片	口 (18.4)	白色微粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部寛状工具の横無により直 立気味。体部底部は荒削り。器内面に暗文を 施す。	藤岡系
28-2 74	土師器 環	覆土内 破片	口 (12.2)	白色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横無で、底部 は平底荒削り。体部に彫溝を残す。	吉井・藤 岡系
28-3 74	須恵器 環(埴)	床直層 写	口 16.2 底 5.8 高 5.2	白色鉱物粒子 微粒雲母 デイサイト	還元焰	灰白	輪軸成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
28-4 74	須恵器 埴	覆土内 写	底 7.0	白色鉱物粒子 微粒雲母	還元焰	黄灰	輪軸成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
28-5 74	須恵器 埴	床直層 写	底 7.0	白色鉱物粒子 微粒雲母 デイサイト	還元焰	灰白	輪軸成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
28-6 74	須恵器 埴	覆土内 写	底 7.5	微粒雲母 デイサイト	還元焰	灰	輪軸成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
29-1 74	須恵器 埴	覆土内 写	底 8.5	微粒雲母	中性焰	黄橙	輪軸成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
29-2 74	須恵器 高台付 破片	覆土内 破片	底 (9.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	輪軸成形 (右回転)。高台は削り出し。	秋間系
29-3 74	須恵器 鉢	覆土内 破片	口 (16.0)	黒色粒子	還元焰	白灰	輪軸成形 (右回転)。	秋間系
29-4 247	土師器 壺	カマド内 破片	口 (18.7)	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は直立後外反する。紐作り。外面側部 は荒削り、口縁部は横無で、内面側部は荒削 り。	藤岡系
29-5 74	土師器 壺	床直 破片	口 (22.4)	微粒雲母	酸化焰	黄橙	口縁部は直立後外反する。紐作り。外面側部 は荒削り、口縁部は横無で、内面側部は荒削 り。	藤岡系
29-6 74	須恵器 大 壺	覆土内 破片	厚0.1-1.2	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具 は背向波文)。内面が磨減する。	秋間系
29-7 74	石造品 羽目石か	覆土内 破片	重 300.0	二ツ岳軽石	—	—	細片の為詳細不詳。残存面は磨き整形されて いる。	—
29-8 74	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 9.7	—	—	—	錆化による破損 (調査後) が著しく、形状等 の詳細は不分明。	—
29-9 74	鉄器 釘か	覆土内 破片	重 5.6	—	—	—	錆化が顕著。先端部半分程を欠損すると考え られる。	—
29-10 74	鉄器 釘	覆土内 破片	幅 0.45 長 4.4	—	—	—	錆化が著しい。断面側は調査後の欠損。	—
29-11 75	瓦 男瓦	覆土内 写	長 23.0 厚 2.2	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面編叩き整形 (密) 後縦軸再整形 で・輪軸再整形。側面取り2回・端部面取 り1回。	吉井系
29-12 74	瓦 男瓦	床直 写	狭 12.0 幅 15.1 厚 2.3	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面編軸整形。側面取り3回・ 端部面取り3回。	吉井系
29-13 74	玉縁付男 瓦	カマド内 破片	厚 3.2	黒色粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面編叩き整形 (密) 後縦軸再整形 か。再編叩き (密) 側面取り2回。	栗附系か
30-1 瓦-576 74	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.6	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰 か二次 焼成	橙	半載作り。凸面編軸整形。側面取り3回。 刻印文字瓦「佐」(凸面)。	笠懸系
30-2 瓦-577 74	瓦 女瓦	床直層 写	幅 23.4 厚 2.2	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面平行叩き。側面取り3回・ 端部面取り2回。覆蓋き文字瓦「井」(凸面)。	吉井系
30-3 75	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	黒色粒子 シルト粗粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面平行叩き。側面取り2回。	秋間系

遺物一覧表

30-4 75	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凸面平行叩き。側面面取り2回。	象附系
30-5 75	瓦 女瓦	床直 破片	厚 1.8	白色微粒子	還元焰	灰黄	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面側で整形後正縁叩き整形。凸面粘土板割ぎ取り痕。側面面取り2回・端部面取り2回。	笠懸系
30-6 75	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	細粒砂 白色粒子	還元焰	灰白	桶巻き造りか。凸面斜格子叩き。凹面横骨痕か。	吉井系
30-7 75	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.8	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作りか。凹面布目擦り消し・布合せ目痕。側面面取り3回・端部面取り1回。	笠懸系
30-8 75	瓦 女瓦	床直 破片	厚 2.0	黒色粒子	還元焰	灰	桶巻き作り。凹面横骨痕。粘土板割ぎ取り痕。凸面網叩き(密)。側面面取り1回・端部面取り1回。	杖間系
30-9 75	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.2	白色粒子 赤褐色粒子	酸化焰 か二次 焼成	浅黄橙	桶巻き造りか。凹面縦位の側で整形。凸面横位の側で整形・横縁整形。端部面取り2回。	笠懸系か 吉井系
31-1 75	瓦 女瓦	床直 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の側で整形。凹面布合せ目痕。側面面取り2回。	吉井系
31-2 75	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.2	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面縦位の側で整形。側面面取り2回。	象附系

B区第54号住居跡

探出番号 図取番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
33-1 76	土師器 環	覆土内 破片	□ (11.4)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は横撫。口縁直下に肌層を残す。底部は甍削り。	藤岡系
33-2 76	土師器 環	覆土内 破片	□ (12.1)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は甍削り。口縁直下に肌層を残す。体部に肌層を残す。	藤岡系
33-3 76	土師器 環	覆土内 破片	□ (12.6)	透明鉱物粒子 雲母	酸化焰	鈍橙	型作り成形。放射状器内面に暗文を施す。体部は甍削りを施す。	吉井・藤岡系
33-4 76	土師器 環	覆土内 破片	□ (13.1)	赤褐色粒子 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外圍口縁直下に強い横を有する。口縁直下に肌層を残す。底部は甍削り。	藤岡系
33-5 76	土師器 環	覆土内 破片	□ (16.0)	白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部筒状工具の横撫により直立気味。外面体部・底部は甍削り。	藤岡系
33-6 76	土師器 環	覆土内 破片	□ (13.2)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は内傾する。口縁直下に肌層を残し、下半部は甍削り。底部は甍削り。	吉井・藤岡系
33-7 76	土師器 環	カマド内 破片	□ (14.0)	白色粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は強く外反する。外圍口縁直下に強い横を有する。底部は甍削り。	吉井・藤岡系
33-8 76	土師器 環	覆土内 破片	□ (16.8)	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外圍口縁直下に強い横を有する。底部は甍削り。	藤岡系
33-9 76	土師器 環	覆土内 破片	□ (16.2)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は横撫で。体部下半は甍削り。	藤岡系
33-10 76	土師器 環	覆土内 破片	□ (16.1)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は横撫でを施す。体部は甍削り。	吉井・藤岡系
33-11 76	土師器 環	覆土内 破片	□ (17.6) 底 (10.0) 高 (4.8)	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。体部は甍削り。器内・外面に暗文を施す。	藤岡系
33-12 76	土師器 環	カマド内 破片	□ (18.5)	微粒雲母 白色鉱物粒子	酸化焰	橙濁	型作り成形。器内面放射状に暗文を施す。外圍口縁直下に肌層を残す。器外面体部は横撫の甍削り。	藤岡系
33-13 75	土師器 環	覆土内 破片	底 (9.0)	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。体部は甍削り。	藤岡系
33-14 76	土師器 環	覆土内 破片	—	白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は内傾する。口縁部・器内面は横撫で、底部は甍削り。体部に肌層を残す。器内面に有機質付着。	藤岡系
33-15 76	土師器 環	覆土内 破片	—	黒色鉱物粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下に肌層を残す。体部は甍削り。	藤岡系
33-16 76	土師器 環	覆土内 破片	—	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。体部・底部は甍削り。	藤岡系
33-17 76	須恵器 環	覆土内 破片	—	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	横縁成形(右回転)。上半部は回転甍削り。側部は貼り付け。	杖間系

33-18 76	須恵器 環 蓋	覆土内 破片	柄 4.0	白色粒子 黒色粒子	還元焰	暗灰	轆轤成形(右回転)。上半部は回転脱脂り。柄部は貼り付け。自然輪付着。	秋間系
33-19 76	須恵器 環 蓋	覆土内 破片	柄 (4.4)	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。上半部は回転脱脂り。柄み部は貼り付け。	秋間系
33-20 76	須恵器 環 蓋	カマド内 破片	—	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
33-21 76	須恵器 環 蓋	覆土内 破片	□ (11.1) 底 (7.0) 高 (3.7)	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は手持ち乃至回転脱脂り。	秋間系
33-22 75	須恵器 環 蓋	覆土内 片	□ (11.2) 底 (8.0) 高 (3.7)	白色粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転脱脂り。	秋間系
33-23 75	須恵器 高台付環 蓋	床直割 一部欠損	□ 12.7 底 9.2 高 3.4	白色粒子 黒色粒子含 (外)	還元焰	灰 (灰燼)	轆轤成形(右回転)。底部は回転脱脂り/磨り出し高台。自然輪、内外部にみよぶ。	秋間系
33-24 75	須恵器 環 蓋	覆土内 片	□ 14.6 底 10.0 高 3.3	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	吉井風にも思われるが、全体が軽く黒色粒子もとろけた状態。粗地は軽い。底部は回転脱脂り。	秋間系か
33-25 76	須恵器 高台付環 蓋	覆土内 破片	□ (14.8) 底 (10.5) 高 (3.8)	白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台は磨り出し。底部は回転脱脂り。	秋間系
33-26 76	須恵器 環 蓋	覆土内 破片	□ (13.0)	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	褐灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
33-27 76	須恵器 環 蓋	覆土内 破片	□ (14.4) 底 (11.9) 高 (4.1)	黒色粒子	還元焰	暗灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転脱脂り。外面自然輪付着。	秋間系
33-28 76	須恵器 環 蓋	覆土内 破片	底 (8.0)	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は手持ち脱脂り。器内面自然輪付着。	秋間系
34-1 76	土師器 壺 蓋	覆土内 破片	□ (25.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁は「く」字に外反する。器外面は横位の脱脂りを施す。	藤岡系
34-2 76	土師器 壺 蓋	覆土内 破片	□ (20.1)	白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面割部は脱脂り、口縁部は横断で、内面割部は置無で。	吉井系
34-3 76	土師器 壺 蓋	覆土内 破片	□ (20.0)	白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面割部は脱脂り、口縁部は横断で、内面割部は置無で。	吉井系
34-4 76	土師器 壺 蓋	覆土内 破片	□ (25.0)	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	明赤褐	口縁部は外反する。紐作り。外面割部は脱脂り、口縁部は横断で、内面割部は置無で。	藤岡系
34-5 76	土師器 壺 蓋	覆土内 破片	底 6.6	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。外面縦位の脱脂り整形。内面は横位・縦位等の脱脂りで整形。酸化シルト付着。	藤岡系
34-6 76	土師器 壺 蓋	覆土内 破片	底 (5.4)	黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。外面は縦位の脱脂り整形。内面は横位で整形。	吉井系 藤岡系
34-7 247	土師器 壺 蓋	カマド内 破片	最径(26.0)	黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	紐作り成形。割部は斜位の脱脂り。	藤岡系
34-8 76	土師器 壺 蓋	覆土内 破片	厚 0.7	白色微粒子	酸化焰	橙	要の欠損品を転用している。内外面有機質付着。	藤岡系
34-9 76	須恵器 壺 蓋	覆土内 破片	—	白色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
34-10 76	須恵器 壺 蓋	覆土内 片	底 8.4	黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。後回転脱脂り。底部は回転脱脂り。	秋間系
34-11 76	須恵器 脚付盤 蓋	覆土内 破片	—	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
34-12 76	須恵器 内面縦	覆土下層 一部欠損	径 11.0 高 1.35	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成・整形。底部は手持ち脱脂り。	秋間系
34-13 76	須恵器 壺 蓋	覆土内 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は背割波文)。	秋間系
35-1 76	須恵器 壺 蓋	覆土内 破片	□ (19.2)	白色粒子 白色微粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形(内面宛具は不詳・外面平行叩き)後轆轤整形(右回転)。	兼形系
35-2 249	須恵器 壺 蓋	カマド周 辺 片	径 16.0	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は背割波文)。口縁部は轆轤成形(右回転)。	吉井系
35-3 76	須恵器 大 蓋	覆土内 破片	厚 1.0	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は背割波文)。	秋間系

遺物一覧表

35-4 76	須 志 器 壺	覆土内 破片	厚 0.8	白色紅物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	紐作り。印き整形（外面平印き・内面丸具は背薄微文）。	兼附系
35-5 76	鉄 器 刀子	覆土内 茎欠損	身長 9.7 重ね 0.25 重 17.0	—	—	—	調査後の錆化による欠損が著しい。間は刀関のみ。	—
36-1 76	瓦 玉縁付男 瓦	覆土内 細片	厚 1.0	黒色粒子	還元焰 焼締	灰	平截作り。凸面輪縁整形。側面取り2回・端面取り1回。	秋間系か 兼附系
36-2 76	瓦 女 瓦	覆土内 細片	厚 2.7	白色紅物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面赤色顔料塗付が認められる。	吉井系
36-3 76	瓦 女 瓦	覆土内 細片	厚 1.1	白色微粒子	中性焰	黄灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面縦位の脱脂で整形。	兼懸系
36-4 76	瓦 女 瓦	覆土内 細片	厚 1.1	微粒砂 雲母粒	還元焰	灰	一枚作り。凸面錫印き整形（密）後縦位の擦りで再整形。凹面粘土板割ぎ取り痕。	吉井系

B 区第55号住居跡

探出番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	寸目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
37-1 77	土 師 器 環	覆土内 破片	口 (13.0)	黒色紅物粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	平底の環。型作り成形。体部に型溝を残す。	藤岡系
37-2 77	土 師 器 環蓋付帯 環	覆土内 破片	口 (12.0)	黒色紅物粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に線を有する。底部は篋削り。	藤岡系
37-3 77	土 師 器 環	覆土内 破片	底 (8.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。体部は篋削りを施す。器内面に暗文を施す。	藤岡系
37-4 77	土 師 器 環	覆土内 破片	口 (16.0)	白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口唇部に段を有する。器内面に放射状暗文を施す。	兼内産
37-5 77	須 志 器 環 蓋	覆土内 破片	口 (16.0)	白色紅物粒子 白色微粒子	還元焰	暗灰	口唇部は下方に折り曲げる。輪縁成形（右回転）。上半部は回転篋削り。	兼附系
37-6 77	須 志 器 環 蓋	覆土内 破片	口 4.4	白色微粒子	還元焰	灰白	輪縁成形（右回転）。溝みは貼り付け。	秋間系か 藤岡系
38-1 77	須 志 器 環	覆土内 片	口 (13.2) 底 (8.0) 高 (3.5)	白色微粒子 赤色粒子	還元焰	灰	輪縁成形（右回転）。底部は回転糸切り。	秋間系
38-2 77	須 志 器 環	覆土内 片	底 (9.0)	白色微粒子	還元焰	灰	輪縁成形（右回転）。高部は回転篋削り。	秋間系
38-3 77	須 志 器 内黒土器 塊	覆土内 片	底 9.2	白色粒子	酸化焰	淡褐	輪縁成形（右回転）。付高台。器内面に暗文を施す。	吉井系
38-4 77	須 志 器 長頸壺	覆土内 片	口 10.2 底 10.1 口径 13.9	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	紐作り後輪縁整形。肩部に刺突を施す。	秋間系
38-5 77	石 製 品 砥 石	覆土内 片	幅 6.4 底 10.6 重 1020	砥沢石	—	—	4面の使用面は顕著に研ぎ減っている。使用面の状態から置紙と考えられる。	—
38-6 77	瓦 男 瓦	覆土内 細片	厚 2.0	白色紅物粒子 アイサイト	酸化焰 か二次 焼成	橙	平截作りか。凸面縦位の無で整形。	吉井系
38-7 77	瓦 女 瓦	覆土内 細片	厚 2.7	白色微粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰白	作り不詳。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面横位の無で整形。	秋間系

B 区第56号住居跡

探出番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	寸目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
39-1 77	土 師 器 環 蓋	覆土内 破片	口 (14.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	口唇部は下方に折り曲げる。輪縁成形（右回転）。上半部は回転篋削り。	藤岡系
39-2 77	須 志 器 環	床直 片	口 (11.3) 底 (5.3) 高 (4.1)	微粒雲母	還元焰	灰	輪縁成形（右回転）。高部は回転糸切り。	藤岡系
39-3 77	須 志 器 環	覆土内 片	口 (12.5) 底 5.8 高 4.2	白色紅物粒子	中性焰	鈍黄橙	輪縁成形（右回転）。高部は回転糸切り。	吉井・藤岡系

39-4 77	須恵器 環	覆土内 瓦	□ (13.0) 底 (5.3) 高 (4.9)	雲母 デイスイト	酸化焰	橙	繻織成形(右回転)、底部は回転糸切り。	吉井・藤 岡系
39-5 77	須恵器 環	覆土内 瓦	□ (13.2) 底 (7.1) 高 (3.4)	白色微粒子	還元焰	灰	繻織成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
39-6 77	須恵器 塊	覆土内 瓦	□ (13.6) 底 (5.2)	微粒雲母	酸化焰	橙褐	繻織成形(右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
39-7 77	須恵器 黒色土器 塊	覆土内 瓦	□ 14.5 底 7.0 高 6.0	微粒雲母	酸化焰	黒褐	繻織成形(右回転)。付高台。	藤岡系
40-1 77	須恵器 塊	覆土内 破片	□ (16.1)	デイスイト 微粒雲母	還元焰	灰褐	繻織成形(右回転)。	藤岡系
40-2 77	須恵器 皿	覆土内 一部欠損	□ 13.4 底 7.0 高 3.4	雲母	還元焰	灰	繻織成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
40-3 77	須恵器 皿	覆土内 一部欠損	□ 13.5 底 6.9 高 3.2	微粒雲母	還元焰	灰白	繻織成形(右回転)。付高台。	藤岡系
41-1 77	須恵器 塊	覆土内 瓦	底 7.0	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	繻織成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
41-2 77	須恵器 塊	覆土内 瓦	底 7.1	微粒雲母	還元焰	灰黄褐	繻織成形(右回転)。付高台。	藤岡系
41-3 77	須恵器 塊	覆土内 瓦	底 7.1	白色微粒子	中性焰	灰黄	繻織成形(右回転)。付高台。	栗附系か 藤岡系
41-4 77	須恵器 塊	覆土内 瓦	底 7.8	黒色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	白灰	繻織成形(右回転)。付高台。	栗附系
41-5 77	須恵器 塊	床直層 瓦	底 8.1	白色粒子	還元焰	白灰	繻織成形(右回転)。付高台。	秋間系
41-6 77	須恵器 塊	覆土内 破片	底 (8.3)	白色粒子	還元焰	白灰	繻織成形(右回転)。付高台。	秋間系
41-7 77	土師器 壺	覆土内 破片	□ (19.8)	微粒雲母 黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面側部は莖削り、口縁部は横襷で。	藤岡系
41-8 77	土師器 壺	覆土内 破片	□ (21.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面側部は莖削り、口縁部は横襷で、内面側部は隆起で。	藤岡系
41-9 77	土師器 壺	カマド内 破片	□ (21.0)	白色微粒子 黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面側部は莖削り、口縁部は横襷で。	不詳
41-10 77	土師器 壺	覆土内 破片	底 3.6	微粒雲母 黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形後莖削整形。	藤岡系
41-11 77	須恵器 壺	カマド内 破片	□ (14.0)	黒色粒子	還元焰	灰	繻織成形(右回転)。	秋間系か
41-12 瓦-643 78	瓦 釳瓦 完存	床直 完存	厚 2.3	微粒雲母 白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁4葉蓮華文。中層の子葉は1+4。	藤岡系
41-13 瓦-644 78	瓦 釳瓦	カマド内 瓦	厚 2.3	白色微粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁4葉蓮華文。中層は珠点中層で弁間に珠点を配する。1本作り。	吉井系
41-14 瓦-666 78	字瓦	覆土内 瓦	厚 1.0	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は格子文であるが、重郭文の意匠に迫りつつある。折り曲げ技法による。	吉井系
41-15 瓦-810 78	瓦 釳瓦	覆土内 破片	厚 2.4	白色微粒子	酸化焰	暗褐	作り不詳。凸面隆起か(3条)。	笠原系
41-16 78	瓦 玉縁付男 瓦	覆土内 破片	厚 3.4	白色微粒子	中性焰	浅黄橙	半載作り。凸面輪軸整形。側面取り3回・端面取り2回。	藤岡系か 不詳
42-1 78	男瓦	カマド内 瓦	幅 19.4 底 (21.0) 厚 1.5	白色鉱物粒子	中性焰	灰黄	半載作り。両面粘土板取りぎ取り肌。凸面平行叩き後襷での再整形。	吉井系

遺物一覧表

42-2 78	瓦 男	瓦	床直 完形	長 広 狭	36.9 19.5 12.2	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側面取り2回。	重2.25kg 厚1.7cm 吉井系
43-1 79	瓦 女	瓦	覆土内 瓦	長 広 狭	38.3 27.7 24.3	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。凹面粘土板剥ぎ取り痕。端部面取り2回・側面取り2回。	重2.57kg 厚1.2cm 不詳
43-2 78	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚	2.2	赤褐色粒子	中性焰	黄灰	桶巻き造りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面全面に斜格子叩き。側部面取り3回。	不詳 布目密
43-3 78	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚	1.6	黒色粒子	還元焰	白灰	一枚作り。凸面叩き(密)・凹面磨砂。側部面取り2回。	秋間系
43-4 78	瓦 女	瓦	覆土内 瓦	厚	1.8	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面叩き(密)後縦位の撫で再整形。側面取り2回・端部面取り1回。	吉井系
44-1 78	瓦 女	瓦	覆土内 瓦	厚	1.4	白色鉱物粒子	還元焰 焼締	灰	一枚作り。凹面布目押し。凸面縦位の撫で整形。側面取り2回。	吉井系

B区第57号住居跡

探検番号 図面番号	種別	出土位置 遺存状態	産目 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
45-1 79	土師器 環	覆土内 破片	口(12.2)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は縦削り。体部は型筒を施す。	吉井・藤 岡系
45-2 79	土師器 環	カマド内 破片	口(12.7)	微粒雲母	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。口縁部は直立気味。口縁部は横撫で。体部に型筒を残す。底は旋削を施す。	藤岡系
45-3 79	土師器 環	床直層 破片	口(13.4)	雲母	酸化焰	橙	1に同じ	藤岡系
45-4 79	土師器 環	覆土内 破片	口(13.4)	黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	1に同じ	藤岡系
45-5 79	土師器 環	床直層 破片	底 9.0	白色微粒子 赤色粒子 シムト質	酸化焰	橙	型作り成形。底部は平底で旋削りを施す。体部下平は旋削り。	藤岡系
46-1 79	土師器 環	覆土内 瓦	口 14.7 底 7.8 高 3.8	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	45-5に同じ	藤岡系
46-2 79	須恵器 環	覆土内 破片	口(14.0)	赤褐色粒子 白色微粒子	還元焰	暗灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。	秋間系
46-3 79	須恵器 環	覆土内 破片	口(15.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。	秋間系
46-4 79	須恵器 環	覆土内 瓦	口(16.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。	秋間系
46-5 79	須恵器 環	覆土内 破片	口(15.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。	秋間系
46-6 79	須恵器 環	覆土内 破片	口(11.7) 底(4.4) 高(6.6)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
46-7 79	須恵器 環	覆土内 破片	口(12.2)	白色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。	奥附系
46-8 256	須恵器 環	覆土内 瓦	口 12.8 底 7.8 高 3.2	黒色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。轆轤目は浅い。	秋間系
46-9 79	須恵器 環	覆土内 瓦	口 12.8 底 7.2 高 3.5	黒色微粒子 白色微粒子	—	—	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
46-10 79	須恵器 環	覆土内 瓦	口 14.4 底 8.2 高 3.8	白色鉱物粒子 微粒雲母 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	奥附系か 太田系
46-11 79	須恵器 環	覆土内 破片	底(5.5)	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	暗灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
46-12 79	須恵器 環	覆土内 破片	底(7.0)	黒色微粒子	還元焰	暗灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
46-13 79	土師器 壺	カマド内 破片	口(23.1)	白色微粒子 細砂	酸化焰	橙褐	型作り成形。口縁は「く」字状に外反する。胴部は横位の旋削りを施す。	吉井・藤 岡系
47-1 79	須恵器 壺	覆土内 破片	厚 0.4	黒色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。口唇部は平坦。	秋間系

B区 (57・58号住居跡)

47-2 79	須 志 器 壺	覆土内 破片	厚 0.6	白色微粒子	還元焰	灰青	紐作り後輪轆整形(右回転)。口縁部凸帯は輪轆成形。	秋間系
47-3 79	須 志 器 壺	覆土内 破片	厚 0.7	白色微粒子	還元焰	灰白	紐作り後輪轆整形(右回転)。口縁部凸帯は貼り付け。	秋間系
47-4 79	須 志 器 壺	覆土内 破片	厚 1.0	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り成形。紐作り。叩き整形(外面叩き不評・内面丸具は未定)。	秋間系
47-5 79	須 志 器 壺	覆土内 破片	厚 0.7	黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後輪轆整形(右回転)。胴部に2条の横線を施し、横線間に刺突を施す。	秋間系
47-6 79	須 志 器 壺	覆土内 破片	厚 0.8	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後輪轆整形(右回転)。胴部に2条の横線を施す。	秋間系
47-7 79	須 志 器 壺	覆土内 破片	厚 1.1	黒色鉱物粒子	還元焰	浅黄緑	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面丸具は青濁波文)。	秋間系
47-8 79	瓦 男	覆土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面輪轆整形。側面面取り4回・端部面取り2回。	兼附系
47-9 79	瓦 男	覆土内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面輪轆整形。粘土板接合は「Z」。	吉井系
47-10 79	瓦 女	覆土内 破片	厚 1.6	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面面取整形後正格子叩き整形。	笠懸系
47-11 79	瓦 女	覆土内 破片	厚 0.8	白色粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凸面叩き(密)縦位の面取整形。	吉井系
47-12 80	瓦 女	覆土内 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子	酸化焰 か二次 焼成	浅黄緑	横巻作り。凹面横骨筋。粘土板割き取り痕。凸面叩き(密)整形後輪轆無での再整形。	吉井系
47-13 79	瓦 破片	覆土内 破片	厚 1.4	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凸面叩き(密)後縦位の面取整形。側面面取り2回。	吉井系
47-14 80	瓦 女	カマド内 瓦	厚 2.2	白色鉱物粒子	酸化焰	明黄緑	一枚作り。凹面苔木底。凸面叩き(密)後面取整形。	吉井系
47-15 80	瓦 女	覆土内 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子	還元焰	明灰	横巻造り。凹面縦位・横位の面取整形。凸面輪轆整形。	兼附系

B区第58号住居跡

探訪番号 図版番号	種別	出土位置 保存状態	厚目 (cm) 厚目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
49-1 80	須 志 器 環	覆土内 破片	口 (14.1)	白色微粒子	還元焰	灰白	輪轆成形(右回転) 頸部は折り返し。外面自然胎附著。	兼附系
49-2 80	須 志 器 環	覆土内 破片	口 (12.5)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	輪轆整形(右回転)。外面自然胎附著。	秋間系
49-3 80	須 志 器 環	覆土内 破片	口 (16.5)	白色微粒子	還元焰	灰白	輪轆整形(右回転)。	秋間系
49-4 80	須 志 器 環	覆土内 一部欠損	口 12.3 底 6.4 高 4.0	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	輪轆成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
49-5 80	須 志 器 環	覆土内 破片	底 (6.4)	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰白	輪轆整形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井系
49-6 80	須 志 器 埴	覆土内 片	底 12.2	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	灰	輪轆成形(右回転)。付高台。	吉井・兼 附系
50-1 80	須 志 器 埴	覆土内 破片	底 8.2	白色微粒子	還元焰	灰	輪轆整形(右回転)。付高台。底部は回転糸切り。	秋間系
50-2 80	転 用 須 志 器 皿	覆土内 破片	底 8.0	微粒霞母 白色微粒子	還元焰	灰白	見込みに黒炭が認められる。輪轆成形(右回転)。付高台。	秋間系
50-3 80	須 志 器 瓶	覆土内 破片	厚 0.9	白色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後輪轆整形(右回転)。内面に2本1単位の影響。	笠懸系
50-4 80	須 志 器 壺	覆土内 破片	厚 0.8	白色微粒子	還元焰	褐灰	紐作り後輪轆整形(右回転)。器外周底部周辺は回転器形。	吉井系
50-5 80	雜 器 石	覆土内 ほぼ完存	縦 6.8 厚 (2.5)	粗粒安山岩	—	—	小口・側部等に敲打に伴う割傷(落)が多く認められる。	重190g
50-6 80	雜 器 石	覆土内 完存	長 11.6 幅 14.3 厚 4.8	粗粒安山岩	—	—	上面は磨滅し、側部・小口に銀打痕が認められる。	重1090g

遺物一覧表

50-7 80	磚	器	覆土内 完存	長 幅	10.2 4.0 厚 3.2	粗粒安山岩	—	—	特別な使用痕は認められない。	重293g
50-8 80	瓦	瓦	覆土内 瓦	厚	1.5	白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縦位の襷で整形。側面面取り2回。端面面取り1回。	笠懸系
50-9 80	瓦	瓦	覆土内 破片	厚	1.4	白色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	橙	半截作り。凸面縦位の襷で整形。側面面取り2回。端面面取り2回。	笠懸系
50-10 80	瓦	瓦	床直 瓦	厚	1.8	白色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	橙	50図-9と同一個体。	笠懸系
51-1 81	瓦	瓦	カマド内 ほぼ完形	長 狭	35.9 18.5 厚 1.4	白色鉱物粒子	酸化焰 か二次 焼成	橙	半截作り。凸面脚甲き整形（部）後縦位の襷で再整形。側面面取り3回・端面面取り1回。凹面粘土板割ぎ取り痕。粘土板接合は「Z」。	吉井系
51-2 瓦-811 81	瓦	瓦	カマド内 一部欠損	長 広	38.4 18.3 厚 2.4	白色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	明赤褐	半截作り。凸面輪軸整形。凹面粘土板割ぎ取り痕。側面面取り3回・端面面取り2回。	笠懸系
52-1 81	瓦	瓦	カマド内 瓦	狭 幅	19.2 11.8 厚 1.8	白色微粒子	還元焰	灰	半截作り凸面輪軸整形痕。凹面粘土板割ぎ取り痕。側面面取り1回・端面面取り3回。	笠懸系
52-2 80	瓦	瓦	覆土内 瓦	狭 幅	18.0 17.6 厚 1.1	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	半截作り凸面輪軸整形。側面面取り2回・端面面取り3回。	笠懸系
52-3 81	瓦	瓦	床直割 瓦	厚	1.8	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面甲き整形（叩具は認め）後側面整形。側面面取り1回・端面面取り1回。	吉井系
52-4 瓦-578 81	瓦	瓦	覆土内 瓦	厚	2.0	黒色微粒子	還元焰	白灰	横書き造り粘土板接合は「Z」。凹面横骨骨・粘土板割ぎ取り痕。凸面脚甲き（単）端面面取り2回。	秋間系
52-5 81	瓦	瓦	覆土内 破片	厚	2.2	黒色微粒子	還元焰	灰	52図-4と同一個体。	秋間系

B区第59号住居跡

棟号 図号	種別 器種	出土位置 保存状態	寸法 (cm) 重量 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
54-1 81	土師器 環	覆土内 完形	口 11.5 高 3.3	白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部段状工具の横撫により直立気味。底部は置削り。	藤岡系
54-2 81	土師器 環	覆土内 完形	口 12.0 高 3.1	デイスait 微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。口縁部段状工具の横撫により直立気味。底部は置削り。	吉井・藤岡系
54-3 81	土師器 環	床直割 瓦	口 13.2 高 3.6	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部段状工具の横撫により直立気味。底部は置削り。	藤岡系
54-4 81	土師器 環	カマド内 破片	口 (15.6)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙褐	型作り成形。口縁部は外挿する。口縁直下に肌溝を残し、下半部は置削り。底部は置削り。	吉井・藤岡系
54-5 81	土師器 環	覆土内 破片	口 (14.0) 高 4.1	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は外挿する。口縁直下に肌溝を残し、下半部は置削り。底部は置削り。内面に二重暗文を施す。見込みに縦線状・口縁部は放射状。	藤岡系
54-6 81	土師器 環	覆土内 瓦	口 14.4 高 4.2	白色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	—	型作り成形。口縁部は外挿する。底部は置削り。内面放射状暗文を施す。	吉井・藤岡系
54-7 81	土師器 環	床直割 瓦	口 (20.8) 高 6.7	微粒雲母 デイスait	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部段状工具の横撫により直立気味。底部は置削り。内面に二重暗文を施す。見込みに縦線状・口縁部は放射状。	吉井・藤岡系
54-8 82	土師器 環	カマド内 破片	口 (19.6) 底 (11.0) 高 5.8	白色微粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。底部、体部は置削り、口縁内、外面は横撫で。内面体部・底部は襷で整形後内面・外面暗文を施す。	藤岡系
54-9 82	土師器 環	覆土内 破片	—	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	型作り整形。底部・体部は置削り、内面体部、底部は襷で整形。内面暗文を施す。	藤岡系
55-1 82	須恵器 蓋	覆土内 破片	横 (4.2)	白色微粒子	還元焰	灰	輪軸整形(右回転)。上半部は回転置削り。横部は貼り付け。	秋間系

B区 (59号住居跡)

55-2 82	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (16.0)	白色微粒子	還元焰 灰	受部は下方に折り返す。轆轤整形(右回転)。秋間系 外面自然粘附着。	
55-3 82	須恵器 蓋	カマド内 破片	口 (19.4)	白色微粒子 赤褐色微粒子	還元焰 か	受部は下方に折り返す。轆轤整形(右回転)。秋間系か	
55-4 81	須恵器 薬壺蓋	カマド内 一部欠損	口 13.2 横 4.0 高 4.4	黒色微粒子	還元焰 灰	轆轤成形(右回転)。内面自然粘附着。	秋間系
55-5 82	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.2) 底 (8.0) 高 (3.7)	白色微粒子	還元焰 灰白	轆轤整形(右回転)。外面底部は手持ち覆削り。	秋間系
55-6 82	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.8) 底 (8.0) 高 (2.9)	白色微粒子	中性焰 灰黄	轆轤整形(右回転)。外面底部は手持ち覆削り。	秋間系
55-7 82	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (14.2)	黒色微粒子 白色微粒子	還元焰 灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
55-8 81	須恵器 高台付坏	床直層 突形	口 15.5 底 11.8 高 3.7	白色微粒子	還元焰 —	轆轤成形(右回転)。底部は回転覆削り。内・ 外面軽い自然粘附着。高台は削り出し高台。	兼附系
55-9 81	須恵器 高台付坏	覆土内 片	口 (16.9) 底 11.5 高 3.5	黒色微粒子	還元焰 白灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転覆削り。高台 は削り出し高台。	秋間系
55-10 82	須恵器 高台付坏	カマド内 破片	底 (10.0)	白色微粒子	還元焰 灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転覆削り。高台 は削り出し。	秋間系
55-11 81	須恵器 坏	覆土内 破片	底 7.7	微粒雲母 白色微粒子	還元焰 灰	轆轤成形(右回転)。付高台。体部に入事的な 割れが認められる。	兼附系
55-12 83	土師器 壺	カマド内 一部欠損	口 23.0 口径 21.4	黒色微粒子 微粒雲母 白色微粒子	還元焰 橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は覆削り、 口縁部は横撫で、内面胴部は覆削り。	藤岡系
55-13 83	土師器 壺	カマド内 片	口 22.3 口径 20.8	黒色微粒子 白色微粒子 微粒雲母	還元焰 橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は覆削り、 口縁部は横撫で、内面胴部は覆削り。	藤岡系
55-14 83	土師器 壺	カマド内 片	口 22.6 口径 22.2	黒色微粒子 白色微粒子 微粒雲母	還元焰 橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は覆削り、 口縁部は横撫で、内面胴部は覆削り。	藤岡系
55-15 249	土師器 壺	カマド内 破片	口 (24.3)	微粒雲母 白色微粒子	還元焰 橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は覆削り、 口縁部は横撫で、内面胴部は覆削り。	吉井系
56-1 83	土師器 壺	カマド内 片	口 (24.7) 口径 (21.0)	黒色微粒子 白色微粒子 微粒雲母	還元焰 橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は覆削り、 口縁部は横撫で、内面胴部は覆削り。	藤岡系
56-2 83	土師器 壺	カマド内 片	口 (24.1) 口径 (22.8)	黒色微粒子 白色微粒子 微粒雲母	還元焰 橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は覆削り、 口縁部は横撫で、内面胴部は覆削り。	藤岡系
56-3 82	土師器 壺	覆土内 破片	口 (19.1)	微粒雲母 白色微粒子	還元焰 橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は覆削り、 口縁部は横撫で、内面胴部は覆削り。	吉井・藤岡系
56-4 82	土師器 壺	覆土内 破片	口 (21.4)	微粒雲母 白色微粒子	還元焰 橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は覆削り、 口縁部は横撫で、内面胴部は覆削り。	吉井・藤岡系
56-5 249	土師器 壺	カマド内 破片	口 (22.6)	白色微粒子 微粒雲母 黒色微粒子	還元焰 橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は覆削り、 口縁部は横撫で、内面胴部は覆削り。	吉井系
56-6 249	土師器 薬か瓶	カマド内 破片	口 (20.6)	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰 赤橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は覆削り、 口縁部は横撫で、内面胴部は覆削り。	藤岡系
56-7 82	土師器 壺	カマド内 破片	口 (23.3)	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰 橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は覆削り、 口縁部は横撫で、内面胴部は覆削り。	藤岡系
56-8 83	土師器 壺	カマド内 片	底 (6.0)	黒色微粒子 白色微粒子 微粒雲母	還元焰 鈍黄橙	紐作り。外面胴部は覆削り、内面胴部は覆削り。 で。	藤岡系
56-9 82	土師器 壺	カマド内 破片	口 (27.0)	白色微粒子 微粒雲母	還元焰 淡褐	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は覆削り、 口縁部は横撫で、内面胴部は覆削り。	吉井・藤岡系
57-1 82	須恵器 鉢	覆土内 破片	口 (20.0)	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰 灰白	轆轤整形(右回転)。	秋間系
57-2 82	須恵器 高台付坏	覆土内 破片	口 (22.0)	白色微粒子	還元焰 灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転覆削り。内面 自然粘附着。	秋間系

遺物一覧表

57-3 82	須恵器 査	覆土内 破片	口 (16.8) 最径(21.2)	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	口縁部は外反する。紐作り後叩整形(内面宛具は青海波文) 轆轤再整形。内・外面自然釉附着。	吉井系
57-4 82	須恵器 査	覆土内 破片	最径(20.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形。外面自然釉附着。胴部に2条の横線を施す。	秋間系
57-5 82	須恵器 査	カマド内 破片	最径(29.8)	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形。	秋間系
57-6 82	須恵器 査	床直層 破片	頸 (14.6)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
57-7 82	須恵器 査	覆土内 破片	口 (16.6)	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	笠懸系
57-8 82	須恵器 査	覆土内 破片	厚 1.2	白色粒子	還元焰	暗灰	紐作り後叩整形。(内面宛具は青海波文、外面平行叩き)。	乗附系か 吉井系
57-9 82	須恵器 査	覆土内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後叩整形(内面宛具は青海波文・外面平行叩き)。外面は叩き後轆轤整形。	吉井系
57-10 82	須恵器 査	覆土内 破片	厚 0.8	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形。外面平行叩き、内面宛具は木目り。	秋間系
58-1 249	須恵器 査	覆土内 破片	最径(23.2)	白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後叩整形(内面宛具は青海波文、外面平行叩き)。内外面ともに磨滅が著しい。	乗附系
58-2 82	須恵器 査	覆土内 破片	厚 1.1	黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後叩整形(内面宛具は青海波文、外面平行叩き)。外面自然釉附着。	秋間系
59-1 82	須恵器 査	覆土内 破片	厚 0.9	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(内面宛具は青海波文、外面平行叩き)。	乗附系
59-2 84	瓦 男	覆土内 破片	厚 2.2	黒色粒子	還元焰	黄灰	平織作り。凸面轆轤状。凹面貼土板剥ぎ取り状。側面取付3回。	秋間系
59-3 82	鉄器 釘	覆土内 破片	幅 0.4 重 1.9g	—	—	—	全体に遺存はよいが、調査後の欠損により頭部側を失っている。	—

B区第60号住居跡

検出番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 最目(#)	胎土	焼成色調	器形・技法等の特徴	備考	
60-1 84	土師器 杯	床直 完形	口 12.1 高 3.3	微粒質母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は脱脂り。体部に型痕を残す。	藤岡系
60-2 84	土師器 杯	カマド内 破片	口 (12.1)	白色鉱物粒子 微粒質母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は短かく外傾する。口縁直下に型痕を残し、底部は脱脂り。	藤岡系
60-3 84	土師器 杯	床直 完形	口 13.0 高 4.2	微粒質母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は脱脂り。体部に型痕を残す。	藤岡系
60-4 84	土師器 杯	カマド内 片	口 15.3 高 4.1	黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部横撫でを施し直立気味。底部は脱脂り。	藤岡系
61-1 84	土師器 杯	カマド内 破片	口 (18.1)	白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に割れ線を有する。底部は脱脂り。	藤岡系
61-2 84	土師器 杯	カマド内 片	口 15.7 高 4.3	微粒質母	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に割れ線を有する。底部は脱脂り。	藤岡系
61-3 84	土師器 杯	床面直上 完形	口 17.1 高 3.8	デイサイト 小円摩	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に強い線を有する。底部は脱脂り。口縁直下に型痕を残す。	藤岡系
61-4 84	須恵器 杯	掘り方内 片	幅 3.3 口 13.9 高 1.8	黒色粒子	還元焰	灰白	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転脱脂り。胴部は貼り付け。	秋間系
61-5 84	須恵器 杯	カマド内 片	口 12.6 底 7.5 高 3.6	白色微粒子	還元焰	新・白灰 外・黒灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転脱脂り。	秋間系
61-6 84	須恵器 査	掘り方内 破片	頸 (10.9)	白色微粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	笠懸系
61-7 84	須恵器 横	カマド内 破片	厚 0.8	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	58図-1と同一個体	笠懸系
61-8 84	雑器	覆土内 完存	長 9.1 幅 4.3 厚 3.6	アブライト	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重255g

B区第61号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目(個)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考
62-1 84	土師器 坏	覆土内 破片	口 (16.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰 橙	型作り成形。口縁部は外反する。口縁直下に 型痕を残し、下半部は覆削り。底部は覆削り。 器内面に「井」の字状の刻線がある。	藤岡系 白色
62-2 84	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (14.3)	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰 暗灰	轆轤成形(右回転)。上半部は回転削り。	秋田系
62-3 84	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (15.0)	赤褐色微粒子	還元焰 灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。 上半部は回転削り。	秋田系
62-4 84	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (14.4)	黒色微粒子	還元焰 灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。 上半部は回転削り。	秋田系
62-5 84	須恵器 坏	覆土内 ほぼ完形	口 19.0 横 4.6 高 4.0	黒色微粒子	還元焰 灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。 上半部は回転削り。胴部は貼り付け。	秋田系
62-6 84	須恵器 坏	覆土内 一部欠損	口 12.5 横 7.2 高 4.3	黒色微粒子 白色微粒子	還元焰 灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転余切り。	秋田系
62-7 84	須恵器 坏	覆土内 片	口 (12.8) 底 (7.6) 高 (3.6)	黒色微粒子	還元焰 灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転余切り。	秋田系
62-8 84	須恵器 坏	覆土内 片	口 12.5	白色微粒子	還元焰 灰	轆轤成形(右回転)。	栗駒系か 藤岡系
63-1 84	須恵器 坏	覆土内 片	口 (13.5) 底 (8.0) 高 (4.0)	微粒雲母 白色微粒子	還元焰 灰黄	轆轤成形(右回転)、底部は回転余切り。	吉井・藤 岡系
63-2 84	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (15.3)	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰 灰	轆轤成形(右回転)。	栗駒系か 藤岡系
63-3 84	土師器 小皿	覆土内 破片	口径(12.1)	微粒雲母 黒色微粒子	酸化焰 橙	口縁部は外反する。紐作り。外面割部は覆削り 。口縁部は横撫で、内面割部は覆削り。	藤岡系
63-4 84	土師器 壺	覆土内 片	口 (13.8) 口径(16.8)	微粒雲母 黒色微粒子	酸化焰 橙	「コ」の字状口縁。紐作り。外面割部は覆削り 。口縁部は横撫で、内面割部は覆削り。	吉井・藤 岡系
63-5 84	須恵器 大甕	覆土内 破片	厚 1.7	白色鉱物微粒子	還元焰 暗灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井系
63-6 84	礫石 穴穿	カマド内 穴穿	長 10.3 幅 9.7 厚 3.6	粗粒安山岩	—	上面に使用に伴う磨痕が認められ、中央部 に凹が1ヶ所認められる。	重600g
63-7 85	瓦 男瓦	カマド内 一部欠損	長 41.8 幅 20.1 厚 2.0	白色鉱物微粒子	二次焼 成	半截作り。凸面隅叩き後轆轤回転の撫で整形。 粘土板接合はZ。側面面取り2回・端面面取り 2回。	吉井系
63-8 84	瓦 男瓦	カマド 破片	厚 1.6	白色微粒子	還元焰 灰	半截作り。凸面轆轤整形。凹面布合せ目板。 側面面取り3回・端面面取り1回。	笠懸系
63-9 85	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.4	白色微粒子	酸化焰 暗灰濁	一枚作りか。凹面布目摺り消し。凸面隅で整 形後斜・水格子叩き整形。	笠懸系
64-1 85	瓦 男瓦	カマド内 部分欠損	長 41.9 幅 18.9 厚 1.4	白色微粒子	酸化焰 か	半截作り。凹面布合せ目板。側面面取り1回。 端面面取り1回。	笠懸系
64-2 84	瓦 男瓦	カマド内 瓦	狭 12.2 幅 15.0 厚 1.8	白色鉱物微粒子	中性焰 鈍黄橙	半截作り。凸面隅叩き整形(密)後縦位の撫 で再整形。凹面布合せ目板。側面面取り1回・ 端面面取り1回。	吉井系
65-1 85	瓦 字瓦	覆土内 破片	厚 3.2	白色鉱物微粒子	還元焰 灰	桶巻き造りか。凹面寄木板・粘土板割ぎ取り 痕。凸面隅叩き(密)。	吉井系
65-2 85	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.7	白色微粒子 白色鉱物微粒子	酸化焰 鈍橙	桶巻き造りか。凹面布目摺り消し。凸面縦位 の撫で整形。側面面取り1回。	笠懸系
65-3 85	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.2	白色微粒子 白色鉱物微粒子	還元焰 鈍橙	桶巻き造りか。凸面縦位の撫で整形。凹面布 目摺り消し・寄木板。側面面取り3回・端面 面取り2回。	笠懸系
65-4 85	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.7	白色微粒子 白色鉱物微粒子	酸化焰 鈍橙	一枚作りか。凹面布目摺り消し・布合せ目板。 凸面縦位の撫で整形。側面面取り3回。	笠懸系
65-5 85	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.7	白色鉱物微粒子	還元焰 灰濁	桶巻き造り。凹面粘土板割ぎ取り痕。側面面 取り3回・端面面取り1回。	吉井系

遺物一覧表

65-6 85	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 2.0	白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰 か	磁灰層	褐色きざり。凹面横骨直・粘土板割き取り痕。 凸面硝叩き(逆)後継継線で再整形。凹面布 合せ目痕。側部部取り2回・端部面取り2回。	笠懸系 被二次焼 成
------------	----------	------------	-------	----------------	----------	-----	--	------------------

B区第65号住居跡

検出番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
68-1 86	土 師 器 環	覆土内 破片	口 (10.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は内湾する。口縁直下に 型膚を残し、底部は寛削り。	藤岡系
68-2 86	土 師 器 環	覆土内 破片	口 (12.3)	微粒雲母 白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部置状工具の模痕により直 立気味。底部は寛削り。	藤岡系
68-3 86	土 師 器 環	覆土内 破片	口 (13.6)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部置状工具の模痕により内 湾する。体部に型膚を残す。底部は寛削り。	藤岡系
68-4 86	土 師 器 環	直直層 ほぼ完形	口 14.8 高 4.7	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部置状工具の模痕により直 立気味。底部は寛削り。	藤岡系
68-5 86	土 師 器 塊	覆土内 破片	口 (19.0)	白色微粒子黒色 鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。体部・口縁部は内湾する。口縁 部・器内面は模痕で、底部は寛削り。体部に 型膚を残す。	藤岡系
68-6 86	須 恵 器 環 蓋	覆土内 破片	口 (16.5)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	輪縁成形(右回転)。上半部は回転削り。外 面に自然釉が付着している。	秋岡系
68-7 86	須 恵 器 環	覆土内 片	口 (15.0)	無し	還元焰	灰白	輪縁成形(右回転)。	秋岡系
68-8 86	須 恵 器 鉢	覆土内 破片	口 (20.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	輪縁成形(右回転)。	秋岡系
68-9 86	土 師 器 壺	覆土内 片	口 (27.3)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外周部は削り り、口縁部は模痕で、内面部は寛削り。	藤岡系
68-10 86	須 恵 器 脚付盤	覆土内 破片		黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰黄	輪縁成形(右回転)。脚部はカキヤリ後貼付 後継継再整形。	秋岡系
68-11 86	須 恵 器 貝 須 蓋	覆土内 一部欠損	直径 18.9	白色微粒子	酸化焰	浅黄褐色 黄褐色	紐作り後継継整形(右回転)。肩部に欄目の刺 突を施す。	栗附系
69-1 86	須 恵 器 壺	覆土内 破片	頸 (10.6) 直径 (28.2)	白色微粒子	還元焰	磁灰	紐作り。叩き整形(外面平形叩き・内面宛丸 きは背衝波文)後継継整形(右回転)。脚部は回 転削り。	秋岡系
69-2 86	磯 石 標	覆土内 完存	長 8.6 幅 7.9 厚 3.6	安買安山岩			両面に使用に伴う磨痕が認められる。刺摩 部は被熱による可能性がある。	重335g
69-3 86	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.4	白色微粒子	酸化焰	鈍褐	一枚作り。凹面布目磨り消し、凸面縦位の 撫で整形。端部部取り1回。	笠懸系

B区第67号住居跡

検出番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
70-1 86	須 恵 器 環 蓋	覆土内 破片	口 (14.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	輪縁成形(右回転)。	秋岡系

B区第73号住居跡

検出番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
72-1 86	土 師 器 環	覆土内 片	口 12.1	微粒雲母 黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は模痕で、底部 は寛削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
72-2 86	土 師 器 環	覆土内 破片	口 (12.4)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は模痕で、底部 は寛削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
72-3 86	土 師 器 環	覆土内 破片	口 (13.0)	黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部・器内面は模痕で、底部 は寛削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
72-4 86	土 師 器 環	床直 瓦	口 12.9 高 4.9	微粒雲母 白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄褐色	型作り成形。口縁部・器内面は模痕で、底部 は寛削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
72-5 87	土 師 器 環	覆土内 一部欠損	口 14.1 高 3.2	微粒雲母 黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直 下に稜を有する。底部は寛削り。	藤岡系

72-6 87	土 師 器 坏	カマド内 一部欠損	口 15.8 底 3.3	微粒霞母 黒色鉱物粒子 白色顔料	酸化焰 橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に稜を有する。底部は寛削り。	藤岡系
72-7 86	土 師 器 坏	カマド内 完形	口 11.8 底 8.2 高 2.9	白色顔料 微粒霞母 黒色鉱物粒子	酸化焰 橙	型作り。口縁部は外傾し体部は斜位の寛削り、底部は寛削整形。器内面に二重暗文を施す。	藤岡系
72-8 86	須 志 器 坏	覆土内 破片	口 11.0 底 3.8	白色顔料 赤褐色粒子	還元焰 灰白	轆轤成形(右回転)。上半部は回転寛削り。胴部は貼り付け。	秋間系
72-9 87	須 志 器 坏	覆土内 片	口 15.5 底 4.8 高 1.9	白色粒子 黒色鉱物粒子 白色顔料	還元焰 灰黄	組作り後轆轤整形(右回転)。端部は返りを有する。轆轤成形(右回転)。上半部は回転寛削り。胴部は貼り付け。	秋間系
72-10 87	須 志 器 坏	カマド内 一部欠損	口 11.0 底 8.0 高 4.0	黒色粒子 白色顔料	還元焰 灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転脱起し。	秋間系
72-11 87	須 志 器 坏	カマド内 一部欠損	口 12.9 底 6.8 高 3.9	黒色粒子 白色顔料	還元焰 灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り後脱無で。	秋間系
72-12 87	須 志 器 坏	カマド内 片	口 11.6 底 7.5 高 3.5	白色顔料 黒色粒子	還元焰 灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転寛削り。	秋間系
72-13 86	須 志 器 坏	カマド内 破片	口 8.0	白色顔料 黒色粒子 微粒霞母	還元焰 灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系 藤岡系
72-14 86	須 志 器 鉢	覆土内 破片	口 (16.0)	白色顔料 黒色粒子	還元焰 灰	組作り後轆轤整形(右回転)。	栗沢系
72-15 88	土 師 器 壺	カマド内 完形	口 14.1 底 3.4 高 18.1	黒色鉱物粒子 微粒霞母 白色顔料	酸化焰 橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は脱無で。	藤岡系
72-16 86	土 師 器 壺	カマド内 破片	口 (23.5)	黒色鉱物粒子 微粒霞母 白色顔料	酸化焰 黄橙	組作り成形。口縁部は外反する。	藤岡系
72-17 86	土 師 器 壺	カマド内 破片	口 (21.9)	微粒霞母 黒色鉱物粒子 白色顔料	酸化焰 橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は脱無で。	藤岡系
73-1 87	石 造 品 袖 石	カマド内 完存	長 40.2 幅 18.0 厚 14.6	—	—	四分寺の堂宇の基礎化粧の東石と考えられる。	重 10,300g
74-1 87	石 造 品 袖 石	カマド内 完存	長 45.0 幅 17.6 厚 12.2	—	—	四分寺の堂宇の基礎化粧の東石と考えられる。	重 9,800g
75-1 88	土 師 器 壺	カマド内 片	口 23.0	黒色鉱物粒子 白色顔料	酸化焰 橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は寛削り。体部に凹溝を残す。	藤岡系
75-2 88	土 師 器 壺	カマド内 ほぼ完形	口 24.0 底 6.0 高 30.8	黒色鉱物粒子 白色顔料	酸化焰 橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は脱無で。	藤岡系
75-3 86	石 製 品 磁 石	カマド内 破片	長 7.0 幅 4.4 厚 4.0	磁沢石	—	欠損であるが使用面が5面認められる。小口部分は手持磁として使用している。	重 178.0g
75-4 86	礫 器 磨 石	床直 完存	長 9.2 幅 4.0 厚 2.5	粗粒安山岩	—	平面面が使用に伴う磨減が顕著である。	重 179.6g
75-5 86	礫 器 磨 石	覆土内 完存	長 11.8 幅 5.0 厚 3.8	実質安山岩	—	面の凹凸があるが、凸面部分は使用に伴う磨減が認められる。	重 430.5g
75-6 86	鉄 不 詳	覆土内 破片	幅 1.1 重 3.8	—	—	調査後の欠損認められない。全体に遺存は良好で、図上左下端部状態からは折り曲げによる破損品であることが考えられる。	—
75-7 88	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色顔料 黒色粒子	還元焰 灰	半截作り凸面轆轤整形。凹面粘土板割ぎ取り痕。	笠懸系

遺物一覧表

B区第74号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (8)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
74-1 88	土器 鉢	カマド内 破片	口 (12.3)	黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は型削り整形。器内面は無で整形。	藤岡系
74-2 88	土器 鉢	カマド内 破片	口 (12.9)	微粒雲母	酸化焰	赤橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は型削り。体部に型膚を残す。	—
74-3 88	土器 鉢	カマド内 破片	—	白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫でより直立気味。底部は型削り。	藤岡系
74-4 88	土器 鉢	覆土内 瓦	口 15.0 高 4.3	微粒雲母 黒色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は型削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
74-5 88	土器 鉢	覆土内 破片	口 (14.0)	白色微粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で。体部は型削り。	藤岡系
74-6 88	土器 壺	覆土内 破片	口 (27.2)	微粒雲母 白色微粒子 ローム	酸化焰	赤橙	口縁部は外反する。型作り成形乃至紐作り。外面胴部は型削り、口縁部は横撫で、内面胴部は型削り。	藤岡系 吉井系
77-1 88	須恵器 環	覆土内 破片	口 (17.2)	白色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	受部は下方に折り返す。轆轤成形 (右回転)。	栗附系
77-2 88	須恵器 環	覆土内 破片	口 (13.0)	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤成形 (右回転)。外面自然釉付着。	吉井系
77-3 88	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	黄褐	横巻き造りか、凹面寄木底か、凸面縄印き (密) 後撫で整形。端部面取り3回。	笠懸系

B区第75号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (8)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
75-1 88	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (12.7)	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。	秋間系
75-2 88	須恵器 環	覆土内 一部欠損	口 13.1 底 7.6 高 3.2	黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
75-3 88	須恵器 環	覆土内 一部欠損	口 13.8 底 7.5 高 3.6	白色微粒子	還元焰	赤・黒灰 内・白灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
75-4 88	須恵器 壺	カマド内 瓦	口 16.1 底 6.3 高 9.2	黒色粒子	還元焰	赤・黒灰 内・白灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
75-5 88	鉄器 釘	カマド内 破片	重 4.2	—	—	—	全体に錆化が顕著である。先端欠損。	—
79-1 89	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.5	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	一枚作りか、凸面縄印き (密) 後縦位の撫で整形。端部面取り1回。	吉井系
79-2 89	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.4	赤褐色粒子	還元焰	白灰	半截作り。凸面轆轤成形。側部面取り1回。凹面粘土板割ぎ取り痕。	秋間系
79-3 89	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.5	赤褐色粒子	還元焰	白灰	半截作り。凸面轆轤成形。凹面粘土板割ぎ取り痕。	秋間系

B区第76号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (8)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
80-1 89	土器 鉢	覆土内 破片	口 (12.1)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に線を有する。底部は型削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
80-2 89	須恵器 環	覆土内 瓦	底 (7.0)	黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
80-3 89	須恵器 環	覆土内 瓦	口 13.2	黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。	秋間系
80-4 89	須恵器 環	カマド内 破片	口 (14.8)	白色微粒子	還元焰	灰白	受部は折り返す。轆轤成形 (右回転)。上半部は回転型削り。外面自然釉付着。	秋間系
80-5 89	須恵器 環	覆土内 破片	口 (15.0)	白色微粒子	還元焰	灰	受部は轆轤回転の焼き出し。轆轤成形 (右回転)。上半部は回転型削り。	栗附系

80-6 89	須恵器 内黒土器 坏	覆土内 破片	—	—	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰 黄緑	—	縦縞成形(右回転)。器内面に暗文を施す。器内面を炭灰させている。	藤岡系か
80-7 89	土師器 坏	覆土内 破片	—	—	白色微粒子	酸化焰 橙	—	摺り作り成形。口縁部・器内面は横縞で、底部は笈削り。体部に雲文を残す。内外面に有機質が付着する。	藤岡系
80-8 89	須恵器 埴	覆土内 破片	底 (7.2)	—	黒色粒子 白色微粒子	還元焰 灰黒	—	縦縞成形(右回転)。付高台。	秋間系
80-9 89	須恵器 埴	床直瓦	底 8.1	—	黒色微粒子 白色微粒子	還元焰 白灰	—	縦縞成形(右回転)。付高台。	秋間系
80-10 89	須恵器 埴	覆土内 瓦	底 8.7	—	白色微粒子	還元焰 灰	—	縦縞成形(右回転)。付高台。	秋間系
80-11 89	須恵器 埴	覆土内 瓦	底 8.4	—	微粒子	還元焰 白灰	—	縦縞成形(右回転)。付高台。	秋間系
81-1 89	須恵器 埴	覆土内 瓦	底 9.3	—	黒色粒子	還元焰 灰白	—	縦縞成形(右回転)。付高台。	秋間系
81-2 89	土師器 台付 脚部	覆土内 破片	—	—	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰 橙	—	紐作り成形後無整形。	藤岡系
81-3 89	須恵器 坏	カマド内 破片	口 (16.2)	—	黒色粒子 白色微粒子	還元焰 暗灰	—	縦縞成形(右回転)。	秋間系
81-4 89	土師器 埴	覆土内 破片	口 (18.8)	—	白色粒子	酸化焰 鈍赤褐	—	「コ」の字状口縁。紐作り。外周削り。口縁部は横縞で、内面割部は縦縞で。	藤岡系
81-5 89	土師器 埴	カマド内 瓦	口 (19.2) 最径(21.5)	—	白色粒子 黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰 橙	—	「コ」の字状口縁。摺り作り成形。外周削り。口縁部は横縞で、内面割部は縦縞で。	藤岡系
81-6 89	羽 口	カマド内 瓦	径 8.6 口径 2.1 高 8.1	—	透明鉱物粒子	酸化焰 —	—	外面は縦方向の撫でにより窪みがある。使用に伴う色調変化が顕著で、先端部個にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	—
81-7 89	羽 口	覆土内 破片	—	—	—	酸化焰 —	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部個にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	—
81-8 89	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 4.7	—	—	—	—	錆化が著しく、調査後の欠損も多い。何らかの自在の部分と思われる。	—
81-9 90	瓦 女瓦	カマド内 瓦	長 37.3 厚 2.1	—	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰 白灰	—	横巻作り。凹面模骨状。粘土板刺ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)整形後縦縞での再整形。側面取付2回・端部取付2回。	吉井系か 月夜野系
82-1 89	瓦 女瓦	カマド内 瓦	長 39.5 厚 1.6	—	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰 暗灰	—	作り不詳。凸面縄叩き(密)整形後の縦縞無整形。側面取付3回・端部取付3回。	吉井系
82-2 89	瓦 男瓦	覆土内 瓦	厚 2.1	—	白色鉱物粒子	還元焰 白灰	—	半横作り。凸面縦縞無整形。側面取付3回。	笠懸系か 吉井系
82-3 90	瓦 女瓦	貯蔵穴内 瓦	厚 1.2	—	白色鉱物粒子 黒色粒子 白色粒子	還元焰 灰	—	横巻き造りか、一枚作り。凹面一部目撃り消し・寄木痕。凹面縦縞の撫で整形。側面取付3回・端部取付2回。	吉井系
82-4 90	瓦 男瓦	覆土内 瓦	厚 1.8	—	白色鉱物粒子	酸化焰 鈍橙	—	一枚作り。凸面粘土板刺ぎ取り痕・縦縞の撫で整形。側面取付3回・端部取付2回。	吉井系
83-1 墨書№9	瓦 女瓦	カマド内 瓦	長 44.5 幅 39.5 厚 1.7	—	白色微粒子	還元焰 暗灰 灰	—	一枚作り。刻印文字瓦「佐」(凸面)。凹面目撃り消し。凸面撫で整形後正格子叩き整形。凸面墨書「佐」。	—
83-2 90	瓦 女瓦	床直瓦	厚 2.3	—	黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰 暗灰	—	一枚作りか、凸面平行叩き。側面取付2回・端部取付1回。	泉沢系か
84-1 91	瓦 女瓦	貯蔵穴内 瓦	長 39.0 広 26.5 厚 1.4	—	白色微粒子	還元焰 灰黄	—	一枚作り。凹面目撃り消し。凸面撫で整形後不正格子叩き整形。側面取付2回・端部取付1回。	笠懸系
84-2 91	瓦 女瓦	カマド内 瓦	長 41.3 幅 25.7 厚 2.7	—	白色鉱物粒子	還元焰 白灰	—	横巻作り。凹面模骨状。粘土板刺ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)整形後縦縞での再整形。側面取付2回・端部取付2回。	不詳 17092を 接合
85-1 91	瓦 女瓦	貯蔵穴内 瓦	長 38.2 厚 2.7	—	白色鉱物粒子	還元焰 灰白	—	横巻作り。凹面模骨状。粘土板刺ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)整形後縦縞での再整形。側面取付3回・端部取付2回。	吉井系
85-2 92	瓦 女瓦	覆土内 瓦	長 41.0 厚 1.2	—	白色鉱物粒子	還元焰 灰白	—	横巻き造り。凹面模骨状。凸面縦縞の撫で整形。側面取付3回・端部取付1回。	吉井系か 月夜野系

遺物一覧表

B区第77号住居跡

押出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状況	直径 (cm) 重量 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考	
86-1 93	須恵器 坏 産	覆土内 破片	口 (5.2)	白色微粒子	還元焰	鈍褐	轆轤成形(右回転)。胴部は貼り付け。	笠懸系
86-2 93	須恵器 坏 産	覆土内 口縁部欠	胴 5.8	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。胴部は貼り付け。	秋間系
86-3 92	土師器 坏	カマド内 一部欠損	口 13.5 底 6.9 高 4.0	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は削削り。体部に歪曲を残す。	藤岡系
86-4 93	須恵器 塊	覆土内 片	—	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	吉井系 白色鉱物 粒子を含 む
86-5 93	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (13.0)	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。	秋間系か 垂附系
86-6 92	須恵器 塊	カマド内 片	口 14.5	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。	吉井系
86-7 92	須恵器 塊	カマド内 片	口 15.0 灰 7.5 高 4.8	微粒雲母 デイトライト	酸化焰	鈍橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
86-8 92	須恵器 塊	フク土内 片	底 7.8	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
86-9 92	須恵器 塊	覆土内 片	底 (8.3)	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
87-1 92	須恵器 塊	覆土内 一部欠損	底 6.7	微粒雲母 シルト粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
87-2 92	土師器 壺	覆土内 片	口 19.8	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は削削り、口縁部は横撫で、内面胴部は横撫で。	藤岡系
87-3 92	土師器 壺	カマド内 片	口 (20.1) 底 (2.0) 高 (24.1)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	紐作り。「コ」の字状口縁。外面胴部は削削り、口縁部は横撫で、内面胴部は横撫で。	藤岡系
87-4 93	須恵器 壺	覆土内 破片	口 (23.0)	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
87-5 92	須恵器 壺	覆土内 破片	口 24.7	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	垂附系
87-6 93	鉄器 不詳	覆土内 片	幅 1.1 重 24.8	—	—	—	調査後の欠損が著しい。全体に棒状を呈する。	—
87-7 93	羽 口	覆土内 破片	厚 2.4	透明鉱物粒子	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	月夜野系
87-8 93	羽 口	覆土内 破片	—	赤褐色粒子 赤・微粒砂	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	—
87-9 瓦-667 93	瓦 字 瓦	カマド内 破片	厚 1.8	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠は半截竹管による横紋文を表出している。女瓦部は一枚作り。凸面輪印き(密)(T字状)。側面面取り4回。	秋間系
87-10 93	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.3	黒色粒子	酸化焰か二次 焼成	黄褐色	半截作り。凸面輪印き整形(密)後轆轤整形。側面面取り1回・端面面取り1回。	秋間系
87-11 93	瓦 男 瓦	カマド内 破片	厚 1.6	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面輪印き整形。凹面合わせ目致。側面面取り2回・端面面取り2回。	秋間系
88-1 93	瓦 男 瓦	カマド内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子	中性焰	黄灰	半截作り。凸面輪印き整形。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側面面取り3回。	吉井系
88-2 93	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.7	黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面輪印き整形。凹面合わせ目致。側面面取り3回・端面面取り2回。	秋間系
88-3 瓦-580 93	瓦 女 瓦	カマド内 片 ほぼ完全形	長 37.5 狭 2.4	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	一枚作り。寛幅き文字瓦「大」(即脚)。凸面輪印き・輪印き(密)(T字状)。側面噴出し段有り。側面面取り1回・端面面取り1回。	秋間系 重2.9kg
88-4 95	瓦 女 瓦	カマド内 片	厚 1.1	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面寄木尻。凸面輪印き(密)(T字状)。側面面取り3回・端面面取り1回。側面噴出し段有り。	秋間系

89-1 94	瓦 女瓦	覆土内 瓦	厚 2.9	白色鉱物粒子 白色粒子 赤褐色粒子	酸化焙	鈍黄橙	桶巻作り。凸面横骨状。粘土板剥ぎ取り痕。 凸面隅叩き(密) 整形後轆轤敷での再整形。 側部面取り2回・底部面取り2回。	吉井系
89-2 94	瓦 女瓦	覆土内 瓦	厚 1.5	微粒雲母	酸化焙	鈍黄橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り 1回・底部面取り2回。	藤岡系
89-3 95	瓦 女瓦	カマド内 瓦	厚 2.0	微粒雲母 デイスайт	酸化焙	黄橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り 3回・底部面取り3回。	吉井・藤 岡系
90-1 94	瓦 女瓦	カマド内 瓦	厚 1.4	白色鉱物粒子	酸化焙	黄橙	一枚作りみ、凸面木目叩き後縦位の撫で整形。 側部面取り2回・底部面取り1回。	吉井系

B区第78号住居跡

押出番号 図録番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm)	土質	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
91-1 95	須恵器 環	1坑 瓦	□ 11.3 底 6.1 高 3.9	白色微粒子 微粒雲母	還元焙	灰 黒灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
91-2 95	須恵器 環	1坑 瓦	□ 12.2 底 5.7 高 4.3	白色微粒子	還元焙	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
91-3 95	須恵器 環	カマド内 宛形	□ 13.5 底 7.8 高 3.2	微粒砂	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
91-4 96	須恵器 環	1坑 破片	□ (12.2)	白色微粒子	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)。内面有機質附着。	秋間系か 垂附系
91-5 96	須恵器 環	覆土内 瓦	□ (12.3)	白色微粒子	還元焙	灰白	轆轤成形(右回転)。	秋間系
91-6 95	須恵器 環	覆土内 瓦	底 5.5	白色微粒子	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系 垂附系
91-7 95	須恵器 環	1坑 瓦	□ (13.9) 底 6.0 高 (3.9)	白色微粒子 黒色粒子	還元焙	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
91-8 95	須恵器 環	覆土内 瓦	底 7.2	白色微粒子 微粒雲母	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
91-9 96	須恵器 環	覆土内 破片	底 (6.6)	微粒雲母 白色微粒子	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。底 部に墨書「景」が認められる。	藤岡系
91-10 95	須恵器 埴	1坑 埴	底 (8.3)	黒色粒子 白色微粒子	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
91-11 95	須恵器 埴	貯蔵穴内 埴	□ 15.1 底 9.3 高 5.1	白色微粒子 黒色粒子	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
91-12 95	須恵器 埴	覆土内 破片	底 (8.3)	白色微粒子 微粒雲母	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
91-13 95	須恵器 埴	貯蔵穴内 埴	□ (15.9) 底 8.4 高 (5.3)	白色微粒子	還元焙	鈍黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	乗野系
91-14 95	須恵器 埴	1坑 埴	□ (13.5) 底 7.8 高 (3.0)	白色微粒子	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
91-15 95	須恵器 埴	カマド内 埴	□ 15.8 底 7.9 高 3.7	白色鉱物粒子 白色微粒子 デイスайт	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	乗野系
92-1 96	土師器 瓦	貯蔵穴内 瓦	□ (22.5)	黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焙	鈍黄橙	口縁部は外反する。紐作り。外面割部は荒削り、口縁部は横撫で。内面割部は監製で。	藤岡系
92-2 96	土師器 埴	カマド内 埴	最径(22.8)	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焙	橙	「コ」の字状口縁。紐作り。外面割部は荒削り、口縁部は横撫で。内面割部は監製で。	藤岡系
92-3 96	須恵器 高台付埴	1坑 破片	底 (13.0)	白色微粒子	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
92-4 96	須恵器 長圓埴	1坑 破片	胴 (6.0)	密	還元焙	内面灰 熱締	紐作り後轆轤整形(右回転)。器厚が薄く外面 に自然釉が付着する(灰釉状)。	垂入品 (東海系)
92-5 95	須恵器 埴	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焙	外・唯次 内・灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。付高台。	秋間系

遺物一覧表

92-6 96	須臾器 壺(?)	覆土内 破片	厚 1.0	白色微粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り成形後引き整形。	秋田系
92-7 97	鉄器 鏝	カマド内 蓋穴縁	幅 1.9 重 8.5	—	—	—	基部を欠損、対面の研ぎ減りの状態から左利の鏝である。	—
92-8 97	鉄器 不詳	カマド内 破片	幅 0.9 重 0.5 重 5.6	—	—	—	錆化は顕著であるが比較的遺存は良好である。裏面側は旧状が残存する。	—
92-9 97	鉄器 釘	カマド内 破片	重 3.2	—	—	—	錆化が顕著で先端を欠損する(調査後)。	—
92-10 97	鉄器 不詳	カマド内 破片	重 2.4	—	—	—	錆化が著しい。調査後の欠損もあるが断面は方形であったと思われる。	—
92-11 97	鉄器 不詳	カマド内 破片	厚 0.9 重 1.4	—	—	—	錆化が著しいものの旧状は比較的よく留めている。板状の製品であるが器種の特定は不能。	—
92-12 96	土製品 羽口	覆土内 半分欠損	厚 3.0 幅 (8.3) 径 2.2	透明鉱物粗粒	酸化焰	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが附着し、ケイ酸分が付着する。	月夜野系 か
92-13 96	土製品 羽口	1坑 破片	厚 2.4 径 (6.9) 孔径 2.0	シルト質	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが附着し、ケイ酸分が付着する。	—
92-14 96	土製品 羽口	覆土内 片	厚 3.3 径 7.7 孔径 2.0	白色微粒子	酸化焰	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが附着し、ケイ酸分が付着する。	—
92-15 96	土製品 羽口	覆土内 破片	厚 3.2 径 (5.6)	微粒砂	—	—	使用に伴う色調の変化が顕著である。縦方向には顕著な還元面があり使用時に亀裂が入っている。	—
93-1 96	土製品 羽口	覆土内 破片	厚 (3.7) 径 (7.7) 孔径(4.4)	微粒砂	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが附着し、ケイ酸分が付着する。	—
93-2 96	土製品 羽口	1坑 破片	厚 2.0 径 (5.3) 孔径(2.2)	白色微粒子	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが附着し、ケイ酸分が付着する。	—
93-3 96	土製品 羽口	覆土内 破片	厚 2.9 径 (7.0) 孔径 2.0	微粒砂	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが附着し、ケイ酸分が付着する。	—
93-4 96	土製品 羽口	1坑 破片	厚 2.4 径 (5.9) 孔径(3.0)	白色微粒子	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが附着している。	—
93-5 96	土製品 羽口	覆土内 破片	厚 (2.9) 径 (6.2) 孔径(3.0)	白色鉱物粒子	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが附着し、ケイ酸分が付着する。	—
93-6 96	雑器 完存	覆土内 完存	長 15.1 幅 6.9 厚 4.3	安賀玄武岩	—	—	部分的な剝離(跡)が認められる。全体にすべすべした感触がある。	重700g
93-7 96	雑器 磨石	覆土内 完存	長 13.8 幅 6.1 厚 4.0	安賀安山岩	—	—	背面側は剝落した面を磨いている。	重540g
93-8 瓦-645	瓦 鏝瓦	1坑 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰 焼締	暗灰	単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+5。一本作り。	笠懸系
94-1 95	石製品 砥石	1土坑 破片	長 27.1 幅 12.7 厚 12.8	粗粒安山岩	—	—	大型鉄製品の砥石で、全面に鉄錆が付着する。砥面6面が認められる。	重4620g
95-1 120	塊状鉄滓 ほぼ完存	覆土内 ほぼ完存	長 13.6 幅 15.8 厚 3.5	—	—	—	基本的に95-1と同様である。本品の場合は、融解物大きく塊状に認められる。	重1330g
95-2 120	塊状鉄滓 完形	覆土内 完形	長 10.9 幅 15.0 厚 4.0	—	—	—	上位には楕円形、下位には不整形(基部は楕円形か)の2塊が附着する。上位側は鉄分の含有が多いか。動物繊維は少量認められる。	重1070g
95-3 102	塊状鉄滓 ほぼ完存	覆土内 ほぼ完存	長 11.7 幅 14.1 厚 2.2	—	—	—	上位側は下位より凹凸が少ない。耐火材の付着は認められないが、多数の植物繊維体の付着が認められる。	重530g

B区(78号住居跡)

95-4 101	塊状鉄滓	覆土内 ほぼ完存	長 幅 厚	10.1 18.2 5.1	—	—	—	不整形であるが、楕円形を呈する塊の融着に 原因する。植物の繊維は認められない。	重1090g
95-5 101	塊状鉄滓	覆土内 部分欠損	長 幅 厚	11.1 12.9 2.7	—	—	—	楕円状乃至楕円形状を呈する。上面側は、中 央が窪む状態とその直下に鉄分を多く含む部 分がある。植物繊維は認められない。	重670g
95-6 102	塊状鉄滓	覆土内 完存	長 幅 厚	9.4 14.5 3.9	—	—	—	不整形形を呈する(基部は楕円形状)。上面側 に多量の植物繊維を残す。(ワラ状主体)3 乃至4塊の融着状態と考えられる。	重770g
96-1 101	塊状鉄滓	覆土内 ほぼ完存	長 幅 厚	10.5 13.1 2.4	—	—	—	基本的には95図-3に近い。だが形状は、 二面認められる鉄滓の新しい方であるが、こ の形状は自然なもので人による加工とは考え られない。	重460g
96-2 101	塊状鉄滓	覆土内 ほぼ完存	長 幅 厚	9.5 10.7 2.4	—	—	—	95図-3に同じ。	重590g
96-3 101	塊状鉄滓	覆土内 完存	長 幅 厚	10.4 10.3 2.3	—	—	—	楕円形状を呈する。2塊の融着とも思われる が単純に1塊状であると考えられる。植物繊 維は少量認められる。	重400g
96-4 101	塊状鉄滓	覆土内 部分欠損	長 幅 厚	8.4 12.6 4.3	—	—	—	形状は楕円状を呈するが、2塊の融着状態 である。下面側は還元色を呈する。植物の繊維 は認められない。	重610g
96-5 102	塊状鉄滓	覆土内 ほぼ完存	長 幅 厚	11.1 13.7 3.1	—	—	—	破片の層合資料である。全体に楕円状を呈す る。中央が窪み上・下面で2つの鬼状となる 。基本的には95図-3と同様。	重870g
96-6 101	塊状鉄滓	覆土内 完存	長 幅 厚	8.8 10.1 3.1	—	—	—	楕円形の2塊が隣着である。植物繊維の炭は 認められない。	重450g
96-7 101	3形鉄滓	覆土内 完存	長 幅 厚	8.5 9.2 3.5	—	—	—	楕円形状を呈する。1塊のもので、植物繊維 は殆ど認められない。	重335g
96-8 101	塊状鉄滓	覆土内 完存	長 幅 厚	7.5 7.7 2.3	—	—	—	円形状を呈するが、縁辺に加工を加えたこと による。全体にクイ酸分が強い。植物繊維は 少量認められる。	重185g
97-1 97	瓦 男 瓦	1坑 一部欠損	長 幅 厚	39.1 17.7 1.8	白色磁粒子	還元焰	灰	平截作り。凸面縦線整形。後凸面縦位の撫で 整形。側面取り2回・端部面取り2回。	笠懸系
97-2 97	瓦 玉縁付男 瓦	1土坑 破片	厚	2.5	白色磁物粒子 白色磁粒子	還元焰	灰	平截作り。凸面縦線整形後横叩き(密)。凹面 粘土板割ぎ取り痕。側面取り3回。玉縁接 合はA類。	束附系
97-3 97	瓦 男 瓦	カマド内 瓦	狭 厚	15.7 1.9	白色磁粒子 細粒砂	還元焰	鈍黄橙	平截作り。凸面横叩き整形(密)後縦線再整 形後縦位の撫で整形。側面取り3回・端部 面取り1回。	吉井系
98-1 98	瓦 男 瓦	カマド内 瓦	広 厚	19.0 1.8	白色磁物粒子 デイサイト 黒色磁子	還元焰	灰	平截作り。凸面横叩き整形(密)後縦線再整 形。凹面粘土板割ぎ取り痕。	吉井系
98-2 97	瓦 男 瓦	貯蔵穴内 瓦	広 厚	17.5 2.3	白色磁物粒子 黒色磁子	還元焰	灰	平截作り。凸面横叩き整形(密)後縦線再整 形後縦位の撫で整形。側面取り2回・端部 面取り1回。	吉井系か 笠懸系
98-3 97	瓦 男 瓦	1坑 破片	厚	2.0	白色磁物粒子 デイサイト	酸化焰 か二次 焼成	橙	平截作り。凸面平行叩き。側面取り2回。	吉井系
99-1 97	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚	1.6	白色磁物粒子	還元焰	暗灰	一枚作りか。凸面横叩き(密)後縦位の撫で 整形。凹面布合せ目痕・粘土板割ぎ取り痕。 側面取り2回・端部面取り2回。	吉井系
99-2 97	瓦 男 瓦	覆土内 破片	狭 厚	14.0 2.3	黒色磁子	還元焰	白灰	平截作り。凸面縦線整形後縦位の撫で整形。	杖間系
99-3 98	瓦 男 瓦	貯蔵穴内 破片	狭 厚	12.2 2.0	白色磁子 黒色磁子	還元焰	灰	平截作り。凸面縦位の撫で整形。側面取り 3回・端部面取り2回。	束附系
99-4 98	瓦 男 瓦	貯蔵穴内 破片	狭 厚	14.0 1.7	白色磁粒子	還元焰	灰	平截作り。凸面縦線整形。凹面粘土板割ぎ取 り痕。粘土板接合は「S」。側面取り3回。	束附系か 杖間系

遺物一覧表

100-1 98	瓦 男 瓦	貯蔵穴内 破片	厚 2.2	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縦輪整形。側面取り3回・ 端部面取り3回。	杖筒系
100-2 99	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面縦位の無で整形。側面取り 2回・端部面取り1回。	吉井系
100-3 瓦-581 98	瓦 男 瓦	1坑 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縦位の無で整形。凹面粘土 板割ぎ取り痕。側面面取り4回。粘土板接合は 「Z」。笠蓋き文字瓦「不詳」(凹面)。	吉井系
100-4 98	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色微粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凸面縦輪整形。端部面取り1回。	笠懸系
101-1 98	瓦 女 瓦	カマド内 瓦	長 39.5 幅 25.4 厚 2.0	白色鉱物粒子 デイスイト 微粒容母	中性焰	黒灰	一枚作りか。凸面縦位の無で整形。側面取 り3回・端部面取り3回。	藤岡系
101-2 瓦-582 98	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作りか。刻印文字瓦「當」(凸面)。凹面 粘土板割ぎ取り痕。凸面縦位の無で整形。側 部面取り2回。	吉井系
101-3 99	瓦 女 瓦	覆土内 細片	厚 1.5	白色鉱物粒子 透明鉱物粒子	中性焰	鈍橙	作り不詳。凹面フヤ状圧痕。凸面縦位の無で 整形。側部面取り2回。	不詳
101-4 99	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子 デイスイト	酸化焰 か二次 焼成	鈍橙	桶巻き造りか。凸面平行叩き。側面取り3 回。101図-5と同一個体。	吉井系
101-5 99	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 デイスイト	酸化焰 か二次 焼成	鈍橙	桶巻き造りか。凸面平行叩き。平行叩きの状 態か桶巻き造りの可能性が高い。側面取 り2回・端部面取り2回。101図-4と同一個 体。	吉井系
101-6 99	瓦 女 瓦	貯蔵穴内 破片	厚 2.4	白色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	鈍橙	一枚作り。両面粘土板割ぎ取り痕。凸面鈍叩 き。側部面取り2回・端部面取り1回。101図 -8と同一個体。	笠懸系
101-7 100	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.9	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目跡り消し。凸面鈍叩き。	笠懸系
101-8 99	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 2.3	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	褐	一枚作り。両面粘土板割ぎ取り痕。凸面鈍叩 き。側部面取り2回・端部面取り1回。101図 -6と同一個体。	笠懸系
102-1 99	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 2.0	白色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	赤橙	一枚作り。凹面等木歯。両面粘土板割ぎ取り 痕凸面正格子叩き。側部面取り3回・端部面 取り3回。	笠懸系
102-2 99	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 1.8	白色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	褐	一枚作り。両面粘土板割ぎ取り痕。凸面正格 子叩き。	笠懸系
102-3 99	瓦 女 瓦	1坑 瓦	厚 2.0	白色鉱物粒子 デイスイト	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面鈍叩 き(密)後縦位の無で再整形。側部面取り2 回・端部面取り1回。	吉井系
102-4 100	瓦 女 瓦	貯蔵穴内 瓦	長 39.0 厚 1.8	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面鈍叩 き(密)後縦位の無で再整形。側部面取り2 回・端部面取り1回。	吉井系
103-1 瓦-583 100	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 2.4	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面横骨痕・粘土板割ぎ取り痕。 凸面縦輪整形。側部面取り3回。笠蓋き文字 瓦不詳(凸面)。	吉井系か
103-2 99	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面縦位の無で整形。凸面縦輪 整形。側部面取り2回。	兼附系
103-3 99	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 デイスイト	酸化焰	鈍黄橙	桶巻き造り。凹面横骨痕・粘土板割ぎ取り痕。 凸面縦輪整形。側部面取り3回・端部面取り 2回。	吉井系
103-4 100	瓦 女 瓦	1土坑 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	黄橙	桶巻き造り。凹面横骨痕。凸面縦輪整形。側 部面取り2回。	吉井系

B区第79号住居跡

棟別番号 図面番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
104-1 100	土師器 坏	覆土内 瓦	口 (10.7)	白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は篋削り。体部に型痕を残す。	藤岡系
104-2 100	土師器 坏	床直前 瓦	口 (11.1)	白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は篋削り。体部に型痕を残す。	藤岡系

B区 (79・80号住居跡)

105-1 100	土器器 環	覆土内 瓦	□ (11.4)	白色微粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は蓋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
105-2 100	土器器 環	覆土内 瓦	□ 11.4 高 3.5	白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は蓋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
105-3 103	土器器 環	覆土内 破片	□ (12.0)	白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は蓋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
105-4 103	土器器 環	覆土内 破片	□ (11.9)	白色微粒子 黒色微粒子	酸化焰	明橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は蓋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
105-5 103	土器器 環	カマド内 破片	□ (12.1)	黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は蓋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
105-6 100	土器器 環	床直層 瓦	□ (12.4)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は蓋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
105-7 100	土器器 環	カマド内 瓦	□ (13.3) 高 (3.5)	黒色鉱物粒子 白色粒子 デイスایت	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は蓋削り。体部に型膚を残す。	吉井・藤岡系
105-8 103	土器器 環	カマド内 破片	□ (20.3)	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面削部は蓋削り、口縁部は横撫で、内面削部は蓋撫で。	
105-9 103	土器器 環	覆土内 破片	□ (22.2)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	紐作り後蓋削り整形。	藤岡系
105-10 103	土器器 環	床直層 破片	□ (23.2)	白色微粒子 白色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面削部は蓋削り、口縁部は横撫で、内面削部は蓋撫で。	吉井系
105-11 100	土器器 環	カマド内 瓦	底 3.9	細粒砂 白色微粒子	酸化焰	橙	紐作り成形。胴部・底部は蓋削り。外胴部全体にカマドの粘土(シルト質)が付着する。	藤岡系
105-12 100	須恵器 長直層 壺	覆土内 一部欠損	底 11.2	黒色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後輪軸整形(右回転)。外面胴部下半は回転蓋撫で。	栗附系
105-13 103	須恵器 環	覆土内 破片	□ (16.2)	白色微粒子 微粒雲母	還元焰	暗灰	輪軸成形(右回転)。	藤岡系
105-14 103	須恵器 壺	覆土内 破片	□ (26.2)	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後輪軸整形(右回転)。	吉井系
106-1 100	須恵器 瓶	覆土内 瓦	長 15.3 幅 10.5	黒色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰褐色 附橙紫	梨形状を呈する。底面側は手持ちの蓋削りを施す。縦面は粘土内盤を埋合する。	栗附系
106-2 103	礫 擦石	覆土内 充存	長 7.9 幅 3.5 厚 3.3	粗粒安山岩	—	—	小型の磨石である。上面側が磨滅する。	重130g
106-3 103	礫 擦石	覆土内 充存	長 13.7 幅 5.1 厚 3.0	粗粒安山岩	—	—	上面が磨滅する。	重400g
106-4 103	礫 擦石	床直層 充存	長 14.2 幅 6.8 厚 4.5	石英閃緑岩	—	—	砥熟が全体に及んでいる。小口・側部は敲打に伴う割離が顕著。上面は磨滅する。	重600g
106-5 103	礫 擦石	床直層 充存	長 14.2 幅 6.1 厚 4.9	粗粒安山岩	—	—	上面の磨滅が著しい。側面側には敲打痕が認められる。	重750g
106-6 103	礫 擦石	床直層 充存	長 14.3 幅 6.7 厚 3.6	滑結凝灰岩	—	—	特別な使用例と考えられるものは認められない。	重500g

B区第80号住居跡

埋蔵番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	寸目 量目 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考	
107-1 103	土器器 環	覆土内 破片	□ (13.1)	白色微粒子 黒色微粒子	酸化焰	橙	型作り。口縁部外傾気味。体部・底部は蓋削り整形。器内面は無蓋整形。	藤岡系
107-2 103	土器器 環	覆土内 瓦	□ (13.3)	白色微粒子 黒色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は蓋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
107-3 103	須恵器 環	覆土内 破片	□ (14.0)	白色微粒子	還元焰	白灰	輪軸成形(右回転)。	伏岡系
107-4 103	須恵器 環	覆土内 破片	□ (12.7) 底 (7.9)	白色微粒子	還元焰	灰	輪軸成形(右回転)。底部は蓋削り。	栗附系
107-5 103	須恵器 環	覆土内 破片	□ (18.0) 底 (12.8)	黒色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰	輪軸成形(右回転)。底部は回転蓋削り。	栗附系

遺物一覧表

107-6 103	須恵器 環	覆土内 破片	底 (7.0)	Rローム 細砂含	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転削りか。	太田系か
107-7 103	須恵器 環	覆土内 破片	底 (8.6)		還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転削り。	栗附系
107-8 103	土 壺	カマド内 破片	口 (28.4)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	紐作り成形後旋盤で整形。口縁は短かく外反する。	吉井系
107-9 103	瓦 男 瓦	カマド内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縄印も整形 (密) 後轆轤再整形。側面削り3回。	吉井系
107-10 瓦-584	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 2.4	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。刻印文字瓦「子」(凸面)。	笠懸系
108-1 103	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 1.6	黒色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面縄印 (密) 側面削り2回。	秋間系
108-2 103	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	還元焰	淡黄緑	柄巻作り。凹面横骨痕。粘土板削り取り痕。凸面縄印も (密)。側面削り3回。	吉井系
108-3 103	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子	還元焰	灰	柄巻き造りか。凹面横骨痕凸面縦位の整で整形。	吉井系

B区第81号住居跡

押印番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 色	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
109-1 104	須恵器 環	覆土内 片	底 5.8	微粒雲母	還元焰	黒灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転削り。	藤岡系
109-2 104	須恵器 埴	床面直上 完形	口 14.1 底 7.0 高 4.9	雲母 黒色鉱物粒子 シルト粗粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	栗附系か 吉井・藤岡系
109-3 104	須恵器 埴	カマド内 片	口 (14.8)	黒色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	栗附系か 秋間系
109-4 104	須恵器 埴	覆土内 破片	口 (14.1)	微粒雲母 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	淡黄灰	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	藤岡系
109-5 104	須恵器 埴	カマド内 ほぼ完形	口 14.6 底 7.2 高 5.3	白色鉱物粒子 微粒雲母	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
109-6 104	須恵器 埴	覆土内 片	底 6.4	微粒雲母	酸化焰	鈍黄緑	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
109-7 104	須恵器 埴	覆土内 片	底 6.9	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系か 栗附系
109-8 104	須恵器 埴	覆土内 片	底 5.6	微粒雲母 黒色鉱物粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。高台欠損後、坏に転用。	藤岡系
109-9 104	土 師 器 壺	カマド内 片	口 18.1 最径 21.3	微粒雲母	酸化焰	鈍橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面割部は荒削り。口縁部は横撫で。内面割部は旋盤で。	藤岡系
109-10 104	土 師 器 壺	カマド内 片	口 17.2 最径 22.6	赤褐色粒子	酸化焰	橙	109-9に同じ。	吉井系
110-1 104	須恵器 羽 壺	覆土内 破片	胴 (23.4)	白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は直立する。紐作り後旋盤で整形。胴は貼り付け、胴部下半・底部は荒削り。	吉井羽壺 壺 乙壺 種別不明
110-2 104	須恵器 壺	床面直上 破片	底 (11.5)	白色鉱物粒子	酸化焰	淡黄灰	轆轤成形 (右回転)。高台は付高台。	吉井系 藤岡系
110-3 104	土 師 器 土 壺	カマド内 破片	厚 0.6	白色鉱物粒子 デイスライト チャート	酸化焰	橙	紐作り成形後旋盤整形。	吉井系
110-4 104	施釉陶器 灰 胎 皿	カマド内 破片	底 (8.2)	密		白灰	轆轤成形 (左右転)。高台は付高台。	

B区第82号住居跡

押印番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 色	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
111-1 104	土 師 器 環	覆土内 片	口 12.4 高 3.4	黒色粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で。底部は荒削り。体部に肥土を残す。	藤岡系

111-2 105	土 器 環	覆土内 破片	口 (13.0)	微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焙	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型傷を残す。	藤岡系
111-3 105	土 器 環	カマド内 破片	口 (13.0)	黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焙	鈍橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型傷を残す。	藤岡系
111-4 105	土 器 環	覆土内 破片	(口 13.2)	微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焙	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型傷を残す。	藤岡系
112-1 104	土 器 環	床直磨 ほぼ完形	口 13.3 高 3.0	微粒雲母 黒色粒子	酸化焙	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型傷を残す。	藤岡系
112-2 105	土 器 環	カマド内 破片	口 (13.4)	微粒雲母	酸化焙	鈍橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型傷を残す。	藤岡系
112-3 105	土 器 環	覆土内 破片	口 (14.0)	白色粒子 黒色鉱物粒子 微粒雲母	還元焙	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型傷を残す。	藤岡系
112-4 104	土 器 環	覆土内 瓦	口 (14.0)	白色粒子 黒色鉱物粒子	還元焙	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型傷を残す。	藤岡系
112-5 104	土 器 環	覆土内 破片	口 (18.2)	白色酸化物 微粒雲母 黒色鉱物粒子	還元焙	鈍橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型傷を残す。内面有機質が濃厚着。	藤岡系
112-6 105	須 志 壺蓋	覆土内 破片	口 (14.0)	黒色粒子 白色酸化物	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)。鈎は貼り付け。	秋間系
112-7 104	須 志 環蓋	覆土内 瓦	口 14.6 高 2.4	黒色粒子	還元焙	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。胴部は貼り付け。	秋間系
112-8 104	須 志 環蓋	覆土内 瓦	口 14.4	白色酸化物 白色粒子	還元焙	灰白	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。胴部は貼り付け。	秋間系
112-9 104	須 志 環蓋	覆土内 完形	口 5.7 口 19.8 高 4.2	白色酸化物	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)。端部は折り返し。	栗附系
112-10 104	須 志 環蓋	床面直上 ほぼ完形	口 11.1 底 7.2 高 2.7	白色酸化物	還元焙	鈍灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転篋削り。	秋間系
112-11 104	須 志 環蓋	覆土内 完形	口 15.0 底 8.5 高 3.6	白色酸化物	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転篋削り。	秋間系 栗附系
112-12 105	須 志 環蓋	カマド内 破片	底 4.0	白色粒子 デイサイト	酸化焙	明赤褐	轆轤成形(右回転)。	吉井・藤岡系
112-13 104	須 志 壺	覆土内 瓦	口 (16.3) 底 (11.6) 高 (7.4)	白色酸化物	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
112-14 105	須 志 壺	覆土内 破片	口 (25.7)	細砂粒	還元焙	白灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
113-1 104	須 志 壺	覆土内 瓦	口 (23.5) 底 (20.0) 高 (4.4)	白色酸化物 黒斑	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
113-2 105	土 器 大 甕	覆土内 一部欠損	頸 18.0 最径 21.2	黒色鉱物粒子 白色酸化物	酸化焙	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋削り。	藤岡系
113-3 105	土 器 壺	覆土内 瓦	口 (17.0)	白色酸化物 微粒雲母砂	酸化焙	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋削り。	藤岡系
113-4 105	土 器 壺	覆土内 破片	最径(23.0)	白色酸化物 微粒雲母	酸化焙	橙	型作り成形。胴部は斜位の篋削り。	藤岡系
113-5 104	須 志 環蓋	覆土内 破片	底 10.0	白色酸化物 黒色粒子	還元焙	灰白	轆轤成形(右回転)。内面に有機質の付着が認められる。	秋間系
113-6 105	鉄 器 刀	覆土内 刀身部	重ね 0.35 重 15.3	—	—	—	錆化が顕著で腐食の跡がある。遺子状態は比較的良好である。	—
113-7 105	鉄 器 釘	カマド内 先端側破片	重 2.0	—	—	—	錆化が顕著であるが、比較的遺存は良好である。断面正方形状を呈する。	—
113-8 105	鐵 器 磁 石	覆土内 瓦	長 20.2	安摩緑岩	—	—	全体に新腐(落)が及んでいる。旧状は磨石と考えられ、磨滅面が残存する。	重900g
113-9 105	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色酸化物粒子 デイサイト 微粒雲母	還元焙	灰黄	半籠作り。凸面轆轤成形。側面面取り2回。面縦位の長撫で整形。	吉井・藤岡系

遺物一覧表

113-10 105	瓦 男瓦	カマド内 細片	厚 2.0	白色鉱物粒子	還元焰	灰	平截作り。凸面縁縁整形。側面取切り3回・ 端面取切り2回。	吉井系
113-11 105	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面隅印き(密)。	秋間系
113-12 105	瓦 女瓦	カマド内 細片	厚 1.1	白色微粒子 微粒雲母	中性焰	灰黄	一枚作りか。凸面縁位の損で整形。	吉井・藤 岡系
113-13 105	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.2	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面寄木痕側面突出し没有り。凸 面縁無。	秋間系

B区第83号住居跡

押印番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
114-1 250	金属製品 鉄	床面直上	径 1.9 重 1.0	—	—	—	鍔蓋神貫。初鋳は貞観元年(859)。	—
114-2 105	土器器 埴	カマド内 一部欠損	口 14.2 底 7.9 高 6.2	微粒雲母 黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で。外部 は貫削り。高台は付高台。口縁直下に塗敷を 残す。	東毛系か
115-1 105	土器器 埴	覆土内 一部欠損	口 8.5 底 4.6 高 1.6	黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	縁縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
115-2 106	須恵器 埴	覆土内 破片	口 (12.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	縁縁成形(右回転)。底部は回転貫削り。	秋間系
115-3 105	須恵器 埴	覆土内 片	口 12.4 底 5.6 高 3.4	微粒雲母 白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	黒灰	縁縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井・藤 岡系
115-4 105	須恵器 埴	ビッド内 片	口 12.8 底 6.8 高 4.0	微粒雲母	還元焰	灰	縁縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。	栗附系か 藤岡系
115-5 106	須恵器 埴	覆土内 破片	口 (14.0)	赤褐色粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	縁縁成形(右回転)。	藤岡系
115-6 105	須恵器 埴	覆土内 片	底 (6.2)	白色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	縁縁成形(右回転)。付高台。	吉井系
115-7 105	須恵器 埴	カマド内 破片	底 (8.6)	黒色微粒子	還元焰	灰	縁縁成形(右回転)。付高台。	秋間系
115-8 105	須恵器 皿	カマド内 欠損	口 12.9 底 7.2 高 3.1	白色微粒子	還元焰	橙	縁縁成形(右回転)。付高台。口唇部に有機質 附着。	藤岡系
115-9 105	須恵器 皿	覆土内 片	口 13.7	黒色粒子	還元焰	白灰	縁縁成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	秋間系か
115-10 106	土器器 甕	カマド内 破片	口 (19.3)	黒色鉱物粒子 細砂粒	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面割部は 貫削り、口縁部は横撫で、内面割部は貫削り。	吉井・藤 岡系
115-11 106	須恵器 甕	覆土内 破片	最径(18.0)	白色微粒子	還元焰	暗灰	紐作り後縁縁整形(右回転)。	栗附系
115-12 105	須恵器 高埴	カマド内 片	底 7.6	黒色粒子	還元焰	灰	縁縁成形(右回転)。側面にシボりのしわが多 く認められる。	秋間系
115-13 106	羽蓋 埴	覆土内 破片	径 (24.0)	白色鉱物粒子 微粒雲母	還元焰	灰	口縁部は直立する。紐作り後縁縁整形(右回 転)。脚は貼り付け。	吉井型羽 蓋 甲武 種呂型
115-14 106	羽蓋 埴	カマド内 破片	口 (20.4) 径 (23.2)	白色鉱物粒子 微粒雲母	—	黄灰	口縁部は内傾する。紐作り後縁縁整形(右回 転)。脚は貼り付け。胴部下半・底部は貫削り。	吉井型羽 蓋 甲武 種呂型
115-15 106	須恵器 羽蓋	貯蔵穴内 片	口 (23.8)	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は直立する。紐作り後縁縁整形(右回 転)。脚は貼り付け。胴部下半・底部は貫削り。	吉井型羽 蓋 甲武 種呂型
115-16	鉄器 釘	カマド内 両端側欠 損	重 5.3	—	—	—	錆化が著しい。上端側の部分はほぼ頭部と思 われる。断面正方形状を呈する。	—
115-17	鉄器 釘	カマド内 破片	重 1.3	—	—	—	錆化が著しい。釘の先端側と思われる。断面 正方形状を呈する。	—
115-18 105	施軸陶器 灰釉埴	覆土内 破片	底 6.8	密	燒締	白灰	縁縁成形(右回転)。付高台。施軸は刷毛塗 りか。	東濃系か

B区(83・85号住居跡)

115-19 106	瓦 女瓦	カマド左 袖破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作りか、凸面縦位の撫で整形。凹面粘土 板剥ぎ取り痕。	吉井系
116-1 106	瓦 女瓦	傍壁内 破片	厚 2.1	黒色粒子 白色無粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面寄木或。凸面縦叩き(密)。側 面部取り2回・端面部取り1回。側面噴出し 没有り。	秋間系か 栗野系
116-2 106	瓦 女瓦	カマド内 瓦	厚 2.1	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰白	一枚作りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦 叩き整形(密)後縦位の撫で再整形。側面部 取り3回・端面部取り2回。	吉井系
116-3 106	瓦 女瓦	カマド内 瓦	狭 厚 21.7 厚 1.5	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	外・黒 断・黄 橙	一枚作りか。凸面縦位の撫で整形。側面部取 り4回・端面部取り1回。	藤岡系

B区第85号住居跡

神田番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	寸目 (cm) 重量 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
117-1 107	土師器 坏	カマド内 破片	口 (12.0)	微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は外反する。口縁部・器 内面は微撫で、底部は平底で底削り。体部に 形痕を残す。	藤岡系
117-2 107	土師器 坏	竈坑上面 破片	口 (12.8)	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。外縁を有する。器厚は薄く、体 部に形痕を残し底部は底削り。	藤岡系
117-3 106	須恵器 坏	覆土内 瓦	口 (11.7) 底 (7.0) 高 (3.6)	白色微粒子	還元焰	白灰	輪轆成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系か
117-4 106	須恵器 坏	カマド内 一部欠損	口 12.6 底 5.8 高 3.6	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	外・黄 内・黒 濁	輪轆成形(右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
117-5 106	須恵器 坏	カマド内 瓦	口 13.0 底 8.0 高 3.5	細砂粒	還元焰	白灰	輪轆成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
117-6 106	須恵器 坏	床直層 一部欠損	口 13.2 底 7.7 高 3.3	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	輪轆成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
117-7 106	須恵器 埴	カマド内 瓦	口 14.3 底 7.5 高 4.3	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	輪轆成形(右回転)。付高台。	吉井系
118-1 106	須恵器 埴	床直層 瓦	口 14.3 底 6.9 高 5.2	白色微粒子 黒色粒子 微粒雲母	還元焰	灰	輪轆成形(右回転)。付高台。	栗野系か 藤岡系
118-2 106	須恵器 埴	床直層 瓦	口 (14.8) 底 (7.3) 高 (5.3)	黒色粒子	還元焰	白灰	輪轆成形(右回転)。付高台。	秋間系
118-3 106	土師器 小壺	覆土内 瓦	底 4.6	微粒雲母	酸化焰	橙	輪轆成形(右回転)。	笠懸系か
118-4 107	須恵器 内黒土器 坏	覆土内 破片	口 (14.0)	白色鉱物粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙	輪轆成形(右回転)。器内面に暗文を施し、吸 灰させている。	笠懸系か
118-5 107	須恵器 内黒土器 坏	カマド内 破片	口 (15.1)	白色微粒子 黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	外・黄 内・黒 濁	輪轆成形(右回転)、底部は回転糸切り。器内 面に暗文を施し、器内面を吸灰させている。	藤岡系
118-6 107	土師器 壺	カマド内 破片	口 (19.2)	黒色鉱物粒子 白色粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面割部は 斲削り、口縁部は横撫で、内面割部は斲撫で。	藤岡系
118-7 107	土師器 壺	カマド内 破片	口 (21.0)	黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面割部は 斲削り、口縁部は横撫で、内面割部は斲撫で。	藤岡系
118-8 107	石製品 磨石	覆土内 完存	長 8.2 幅 7.7 厚 4.8	二ツ岩輝石	—	—	全体が丸く整形されている。使用面は、3面 の緩やかな斜面が認められる。	重172g
118-9 107	硯 不 評	床直層 完存	厚 5.5	輝石	—	—	極端的に平坦に磨かれている。	重280g
118-10 107	硯 磨石	床直層 完存	長 11.0 幅 8.5 厚 4	ひん岩	—	—	上面が磨滅し磨痕が多い。	重609g

遺物一覧表

118-11 107	鉄器 鏃	覆土内 破損	身幅 3.4 重ね 0.3 重 10.5	—	—	—	錆化が著しい。調査後の錆化により著しく破損している。平根三角形伏縁式鏃	—
118-12 瓦-668	瓦 宇瓦	覆土内 破片	厚 3.3	白色鉱物粒子	還元焰	灰	重郭文か。頸は曲線型。	吉井系
118-13 瓦-585	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半截作り。覆縁き文字瓦「下」か(凸面)。凸面斜位の無で整形。	吉井系
118-14 107	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	半截作り。凸面鑢叩き整形(密)後轡織再整形。側部面取り2回。	吉井系
118-15 107	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚 2.0	白色酸粒子	還元焰	灰	紐作り。凸面鑢叩き。側部面取り2回。	中之条か
118-16 107	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚 1.3	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轡織整形。凹面粘土板割ぎ取り痕。	乗附系
119-1 646	瓦 鏃瓦	床直層 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	一本作り。瓦当欠損。男瓦部は半截作りか。凸面縦位の無で整形。側部面取り3回。	吉井系
119-2 107	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子 白色酸粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凸面平形叩き。凹面粘土板割ぎ取り痕。側部面取り1回・端部面取り1回。	吉井・藤岡系
119-3	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子 白色酸粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凸面平形叩き。側部面取り1回・端部面取り2回。	吉井・藤岡系
119-4 107	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	中性焰	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縦位の無で整形。	吉井系
119-5 107	瓦 女瓦	№27 破片	厚 2.0	白色酸粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面鑢叩き(密)。側部面取り2回・端部面取り1回。	秋岡系
119-6 107	瓦 女瓦	カマド内 細片	厚 2.1	白色酸粒子 透明紅物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面無で整形後桶巻き叩き整形。	笠懸系
119-7 107	瓦 女瓦	覆土内 片	厚 2.0	黒色粒子 白色酸粒子	還元焰 焼結	灰	一枚作り。凸面縦位の無で整形。両面自然軸付着。側部面取り1回・端部面取り1回。	乗附系

B区第86号住居跡

押出番号 回収番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目(φ)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
120-1 108	土器 器環	カマド内 破片	□ (14.9)	微粒雲母 黒色鉱物粒子 白色酸粒子	酸化焰	淡黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横無で、底部は笠削り。体部に型着を残す。	藤岡系
120-2 108	土器 器環	カマド内 破片	□ (14.4)	微粒雲母 黒色鉱物粒子 白色酸粒子	酸化焰	橙	型作り。口縁部は外傾し体部外面は斜位の笠削り、内面は横無でを施す。底部は笠削り整形。	吉井・藤岡系
120-3 108	土器 器環	覆土内 片	□ (15.1)	微粒雲母	酸化焰	橙	120-2と同じ。	藤岡系
120-4 108	土器 器環	覆土内 片	□ (14.8)	微粒雲母	酸化焰	橙	120-2と同じ。	吉井・藤岡系
120-5 108	土器 器環	カマド内 破片	□ (21.4)	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面側部は笠削り、口縁部は横無で、内面脚部は笠削り。	藤岡系
121-1 108	須恵器 皿	カマド内 片	□ (14.2) 底(8.0) 高(3.0)	白色酸粒子	還元焰	灰	轡織成形(右回転)。付高台。	秋岡系
121-2 108	土器 鉢	カマド内 片	□ (28.8) 底(13.2) 高(12.1)	微粒雲母 デイスイト 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	成形は型作りか。口縁部は強く屈曲する。器外面は笠削りを施す。	藤岡系
121-3 108	雑器 磨石	床直層 充存	長 13.0 幅 5.0 厚 4.1	粗粒安山岩	—	—	平組面が使用に伴ない磨滅する。	重470g
121-4 108	鉄器 釘か	覆土内 充存	厚 0.5 重 6.0	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。全体形状は屈曲している。調査後の欠損により部分的に欠損している。	—
121-5 108	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色酸粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凹面横骨板・粘土板割ぎ取り痕。凸面轡織整形。側部面取り2回・端部面取り1回。	乗附系

B区第87号住居跡

探検番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考
122-1 108	土師器 環	覆土内 破片	口 (12.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰 橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は削り。体部に塗層を残す。	藤岡系
122-2 108	土師器 環	覆土内 破片	口 (13.6)	微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰 橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は削り。体部に塗層を残す。	藤岡系
123-1 109	土師器 環	覆土内 破片	口 (13.0)	微粒雲母	酸化焰 橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は削り。体部に塗層を残す。	藤岡系
123-2 109	土師器 環	覆土内 破片	口 (13.2)	赤褐色粒子 白色微粒子	酸化焰 黄橙	型作り成形。口縁部は外傾する。体部・底部は削り。	藤岡系
123-3 109	土師器 環	覆土内 破片	口 (13.0)	白色微粒子 微粒雲母 赤褐色粒子	酸化焰 浅黄橙	型作り成形。口縁部は外反し、体部・底部は削り、器内面に暗文を施す。	藤岡系
123-4 108	土師器 環	覆土内 片	口 15.0 高 4.3	白色微粒子	酸化焰 浅黄橙	型作り。口縁部は外傾し体部は斜作の削り、底部は削削整形。口縁部器内面放射状暗文を施す。	藤岡系
123-5 108	須恵器 環蓋	覆土内 破片	径 3.7	白色微粒子 黒色粒子	還元焰 灰	轆轤成形(右回転)。天上半部は回転削り。	秋間系
123-6 108	須恵器 環蓋	覆土内 片	口 (14.0)	黒色粒子	還元焰 灰白	端部は微少に下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転削り。胴部は貼り付け。	秋間系
123-7 108	須恵器 環蓋	覆土内 片	口 (17.0) 径 4.7 高 (2.6)	デイスイト 白色鉱物粒子	酸化焰 橙	端部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転削り。胴部は貼り付け。	吉井・藤岡系
123-8 108	須恵器 環蓋	床直 一部欠損	口 17.4 径 3.3 高 4.0	微粒雲母	還元焰 暗灰	端部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転削り。胴部は貼り付け。	吉井・藤岡系
123-9 108	須恵器 蓋	覆土内 片	口 (17.1)	白色微粒子	還元焰 灰白	端部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転削り。胴部は貼り付け。	秋間系
123-10 108	須恵器 環蓋	覆土内 片	口 (12.2) 径 (7.4) 高 (3.5)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰 灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転削り。	秋間系
123-11 108	須恵器 環蓋	覆土内 片	口 (12.2) 径 (7.1) 高 (3.3)	黒色粒子	還元焰 白灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転削り。	秋間系
123-12 108	須恵器 環蓋	床直 % 一部欠損	口 (12.2) 径 7.2 高 3.4	黒色粒子	還元焰 灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転削り。	秋間系
123-13 108	須恵器 環蓋	床直層 ほぼ完整	口 12.9 径 7.8 高 3.5	黒色粒子	還元焰 灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転削り。	秋間系
123-14 108	須恵器 環蓋	覆土内 片	口 12.6 径 8.0 高 3.5	黒色粒子 白色微粒子	還元焰 白灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転削り。	秋間系
123-15 110	須恵器 環蓋	覆土内 片	口 13.0 径 8.0 高 3.5	黒色粒子	還元焰 灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転削り。	秋間系
123-16 110	須恵器 環蓋	床直層 一部欠損	口 13.0 径 7.4 高 3.5	黒色粒子	還元焰 白灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転削り。	秋間系
123-17 110	須恵器 環蓋	覆土内 片	口 13.2 径 10.0 高 3.9	白色微粒子	酸化焰 外・黒内・暗灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転削り。	兼形系か
123-18 110	須恵器 環蓋	床直層 片	口 (13.6) 径 8.0 高 3.5	夾雑	還元焰 白灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転削り。	秋間系
123-19 110	須恵器 環蓋	覆土内 片	口 (13.7) 径 8.0 高 3.5	微粒砂	還元焰 灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転削り。	秋間系
123-20 110	須恵器 環蓋	覆土内 片	口 (13.8) 径 6.8 高 4.0	微粒砂	還元焰 白灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転削り。器外面が焼成に黒灰色に焼されている。	兼形系

遺物一覧表

123-21 110	須恵器 坏	床直層 完形	口 11.7 底 7.8 高 4.6	黒色鉱物粒子	還元焰	白灰	罐轆成形(右回転)。付高台。	乗附系
123-22 109	須恵器 塊	覆土内 破片	口 (13.9)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	罐轆成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	秋間系
123-23 110	須恵器 塊	覆土内 ほぼ完形	口 15.4 底 8.8 高 6.9	黒色鉱物粒子	還元焰	白灰	罐轆成形(右回転)。付高台。	秋間系
123-24 110	須恵器 塊	覆土内 瓦	口 (19.3)	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰白	罐轆成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	乗附系
123-25 110	須恵器 塊	覆土内破 片	底 9.0	微粒雲母	還元焰	灰褐	罐轆成形(右回転)。付高台。	藤岡系
123-26 109	須恵器 塊	覆土内 破片	底 (10.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	罐轆成形(右回転)。付高台。	秋間系

B区第87・88・108号住居跡

検出番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
124-1 109	須恵器 坏 蓋 内黒土器	覆土内 破片	口 (13.5)	白色微粒子	酸化焰	黄橙	罐轆成形(右回転)。器内面に暗文を施す。	笠懸系か 太田系
124-2 109	須恵器 坏 内黒土器	覆土内 破片	口 (12.0)	白色微粒子	酸化焰	橙	罐轆成形(右回転)。器内面に暗文を施す。	笠懸系
124-3 109	須恵器 坏 内黒土器	覆土内 破片	口 (12.0)	白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	罐轆成形(右回転)。器内面に暗文を施す。	笠懸系
124-4 109	須恵器 坏 内黒土器	覆土内 破片	底 (8.0)	白色微粒子	酸化焰	黄橙	罐轆成形(右回転)。器内面に暗文を施す。	笠懸系か 太田系
124-5 109	須恵器 坏 内黒土器	覆土内 破片	底 (8.0)	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	罐轆成形(右回転)。器内面に暗文を施す。	笠懸系か 太田系
124-6 109	須恵器 坏 内黒土器	覆土内 破片	底 5.5	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	罐轆成形(右回転)。器内面に暗文を施す。	笠懸系か 太田系
124-7 109	須恵器 皿 内黒土器	覆土内 破片	口 (14.0) 底 (6.8) 高 (3.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	罐轆成形(右回転)。付高台。器内面に暗文を施す。	笠懸系か 藤岡系
124-8 110	土師器 壺	カマド内 一部欠損	口 19.7 底 4.7 高 27.7	微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。壺作り成形。外面胴部は厚削り、口縁部は横撫で、内面胴部は厚撫で。	藤岡系
124-9 109	土師器 壺	覆土内 破片	口 (28.0)	微粒雲母 白色粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。壺作り成形。外面胴部は厚削り、口縁部は横撫で、内面胴部は厚撫で。	藤岡系
124-10 109	土師器 壺	覆土内 瓦	口 (17.2) 口径(17.3)	微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は「コ」の字状に外反する。壺作り成形。組作り。外面胴部は厚削り、口縁部は横撫で、内面胴部は厚撫で。	藤岡系
124-11 110	土師器 有付壺	覆土内 破片	底 (10.1)	黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	組作り成形後横撫で成形。	藤岡系
124-12 109	鉄器 刀子	覆土内 両端欠損	重ね 0.2 重 4.2	—	—	—	全体に錆化が著しい。調査後の欠損により茎尻側・鏃側を破損している。	—
125-1 109	須恵器 短頸壺	覆土内 破片	口 (10.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	紐作り後罐轆成形(右回転)。	秋間系
125-2 109	須恵器 壺	覆土内 破片	厚 0.8	黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り後罐轆成形(右回転)。肩部に柳目の刺突文を施す。	秋間系
125-3 109	須恵器 壺	フク土内 破片	口 (13.3)	砂粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	紐作り後罐轆成形(右回転)。	藤岡系か
125-4 109	須恵器 壺	覆土内 破片	厚 0.8	黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り後罐轆成形(右回転)。外面自然釉付着。	秋間系
125-5 109	須恵器 大壺	覆土内 破片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛目は青濁波文)。	乗附系

B区 (87・88・108・89号住居跡)

125-6 109	須恵器 大壺	覆土内 破片	厚 0.9	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面陶具は背面蓋文)。外面自然粘付着。	乗附系
125-7 109	須恵器 大壺	覆土内 破片	厚 0.6	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面陶具は背面蓋文)。	秋間系
125-8 109	須恵器 大壺	覆土内 破片	厚 1.1	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面陶具は背面蓋文)。	乗附系
125-9 109	摩羅石	覆土内 片	長 12.7 幅 4.7 厚 5.0	粗粒安山岩	—	—	平断面が使用に伴ない磨滅する。	重435g
125-10 109	摩羅石	覆土内 完存	長 12.7 幅 4.4 厚 3.2	粗粒安山岩	—	—	平断面が使用に伴ない磨滅する。	重385g
125-11 109	摩羅石	覆土内 完存	長 11.2 幅 5.2 厚 3.5	砂岩	—	—	平断面が使用に伴ない磨滅が認められる。	重370g
125-12 109	摩羅石 破石か	覆土内 完存	長 13.5 幅 6.1 厚 4.3	粗粒安山岩	—	—	顯著な使用痕は認められない。	重50.5g
125-13 109	摩羅石 破石か	覆土内 完形	長 14.0 幅 4.5 厚 2.2	粗粒安山岩	—	—	平断面は、端部の強い敲打により剥落している。	重365g
126-1 109	摩羅石	覆土内 完存	長 13.5 幅 5.7 厚 4.5	粗粒安山岩	—	—	平断面が使用に伴ない磨滅する。	重470g
126-2 109	摩羅石	覆土内 完存	長 15.0 幅 6.9 厚 3.9	ひん岩	—	—	平断面が使用に伴ない磨滅する。	重620g
126-3 109	摩羅石 一部欠損	覆土内 一部欠損	長 15.3 幅 6.3 厚 3.0	黒色頁岩	—	—	敲打に伴なうか、一部隅を欠損する。	重460g
126-4 110	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半敲作り。凸面叩き整形(密)後縁縁再整形。側面面取り2回。	吉井系
126-5 110	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.1	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半敲作り。側面面取り2回。	吉井系
126-6 110	瓦 瓦-58B	カマド内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子	酸化焰	黄褐色	紐作り。篋筒式文字瓦「不詳」(凸面)。	吉井系
126-7 110	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.1	白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面布目磨り消し。凸面無で整形後正格叩き整形。	笠懸系
126-8 110	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	赤褐色粒子	中性焰	灰白	一枚作り。凸面叩き(密)。	秋間系
126-9 110	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作りか。両面縦位の無で整形。側面面取り1回。端部面取り1回。	吉井系
126-10 110	瓦 髪斗か	覆土内 破片	厚 2.2	白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作りか。凹面布目磨り消し。凸面縦位の無で整形。側面面取り2回。	笠懸系
126-11 110	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.4	白色微粒子	酸化焰 か二次焼成	浅黄	一枚作り。粘土板割ぎ取り製。側面面取り2回・端部面取り2回。	笠懸系

B区第88号住居跡

発掘番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
127-1 110	須恵器 壺	カマド内 破片	厚 0.9	白色鉱物粒子 白色微粒子	中性焰	外・灰内・浅黄	紐作り後縁縁整形(右回転)。器内面に有機質が付着する。	吉井系

B区第89号住居跡

発掘番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
128-1 110	土師器 坏	覆土内 片	口 (9.9)	微粒霞母	酸化焰	橙	紐作り成形。口縁部は短かく外反し横溝でを蓋す。器外面は横位の磨り取りで、器内面は横位の磨り取りでを施す。	藤岡系

遺物一覧表

128-2 110	土師器 台付壺	覆土内 一部欠損	口 (13.2)	黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	褐	口縁部はゆるやかに外傾する。紐作り。外面 割部は寛削り、口縁部は横撫で、内面割部は 磨撫で。	藤岡系
128-3 110	土師器 壺	覆土内 片	口 19.3	黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面割部は寛削り、口縁部は横撫で、内面割部は磨撫で。	藤岡系
128-4 111	土師器 壺	覆土内 破片	口 (23.2)	微粒雲母	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面割部は寛削り、口縁部は横撫で。	藤岡系
128-5 墨書-11 110	須恵器 埴	覆土内 ほぼ完形	口 13.4 底 6.7 高 5.1	黒色鉱物粒子 微粒雲母	還元焰	灰褐	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
129-1 111	須恵器 埴	覆土内 片	口 13.4 底 6.8 高 3.9	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。器内 面有機質付着。	秋岡系
129-2 111	須恵器 埴	覆土内 ほぼ完形	口 13.4 底 6.5 高 4.3	微粒雲母	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。全体 の空みの為因中敷縷目は逆位になって見え る。	藤岡系
129-3 111	須恵器 埴	覆土内 一部欠損	口 14.1 底 7.8 高 3.2	微粒雲母	中性焰	外・橙 内・黒 灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
129-4 111	須恵器 埴	カマド内 一部欠損	口 14.7 底 7.7 高 4.9	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰褐	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
129-5 111	須恵器 埴	覆土内 片	口 14.1 底 7.2 高 5.0	白色微粒子 微粒雲母 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
129-6 111	須恵器 埴	床直層 片	口 15.1 底 7.2 高 5.1	黒色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
129-7 111	須恵器 皿	床直層 片	口 13.0 底 9.5 高 6.2	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋岡系
129-8 111	須恵器 内黒土器 埴	覆土内 片	口 16.2 底 7.0 高 5.4	白色微粒子 微粒雲母	中性焰	外・橙	轆轤成形(右回転)。器内面に増文を施す。外 面底部周辺に寛削りを施す。	藤岡系
129-9 111	須恵器 長頸壺	覆土内 破片	厚 1.0	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋岡系
129-10 111	須恵器 壺	床直層 破片	厚 0.5	白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	東海系か
129-11 111	須恵器 大壺	カマド内 破片	厚 0.8	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り成形後叩き整形(外面平行叩き内面凹 具は背側凹文)。	乗附系
129-12 111	須恵器 壺	覆土内 破片	最値(S2.0)	白色鉱物粒子	還元焰	外・灰白 内・灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。胴下半部は縦位 の磨削り。	吉井系
129-13 111	陶輪陶器 灰輪耳皿	ほぼ完形	—	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)後内側を内側につまんで いる。底部は回転糸切り。	吉井系
130-1 111	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.7	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凸面平行叩き、端部面取り2回・ 側部面取り2回。	吉井系
130-2 111	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子	還元焰	白灰	半截作り。凸面叩き(密)。	吉井系
130-3 瓦-587 111	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子	還元焰 焼締	暗灰	一枚作りか。重箱き文字瓦(平葺守)(凸面)。 凹面粘土板剥ぎ取り痕、凸面斜位の撫で整形。 側部面取り3回。	吉井系
130-4 111	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	中性焰	灰	一枚作りか。凸面叩き(密)後撫で整形。 吉井系	吉井系
130-5 111	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.3	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作りか。凸面叩き(密)。縦位の撫で整 形。側部面取り5回。	吉井系
130-6 111	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.5	白色微粒子	中性焰 気味	黄灰	一枚作り。凹面布目磨り消し、粘土板剥ぎ取 り痕。凸面叩き。	笠懸系

B区第90号住居跡

押印番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
131-1 112	須恵器 羽釜	カマド内 破片	底 12.0	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙	紐作り成形。外面は縦位の段撫で整形、内面は横撫でを施す。	吉井系 吉井型羽釜
131-2 112	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 4.9	—	—	—	全体に調査後の錆化により破損している為詳細は不分明。	—
131-3 112	礫石 磨石	覆土内 完存	長 10.1 幅 4.9 厚 3.8	ひん岩	—	—	上面が磨減する。	重285g
131-4 112	礫石 磨石	覆土内 完存	長 14.6 幅 5.9 厚 3.7	滑結凝灰岩	—	—	縦行に伴なう割痕(溝)が認められる。	重505g
131-5 瓦-699	瓦 宇瓦	覆土内 破片	厚 3.1	白色微粒子	中性焰	灰白	瓦当意匠は曲弧文か。凸面調印き(密)。	吉井系
131-6 112	瓦 男瓦	カマド (天井)瓦	厚 1.8	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	手載作り。凸面縦縞整形。側面面取り2回・端部面取り2回。	秋間系
131-7 111	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色微粒子	酸化焰	黄緑	桶巻き造り。凹面横骨凸面縦縞整形。整形。	吉井系
132-1 瓦-588 111	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚 2.1	白色微粒子 雲母	還元焰	灰白	手載作り。段揃き文字瓦「不詳」(凸面)。凸面縦縞整形後縦位の撫で整形。端部面取り1回。	吉井系

B区第91号住居跡

押印番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
134-1 112	土師器 坏	覆土内 破片	口 12.3	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は段削り。体部に弦溝を残す。	藤岡系
134-2 112	土師器 坏	覆土内 片	口 13.6 高 4.0	微粒雲母 藤岡系	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下に弦溝を残し、下半部は段削り。底部は段削り。内面に暗文を施す。	藤岡系
134-3 112	須恵器 内黒土器 埴	覆土内 瓦	口 12.6	白色微粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	浅黄緑	縦縞成形(右回転)。高台欠損(付高台)。内面暗文を施す。	藤岡系か 内面暗文を施す
134-4 112	須恵器 鉢	カマド内 破片	口 18.8	白色微粒子	還元焰	灰	縦縞成形(右回転)。	秋間系
134-5 112	土師器 壺	覆土内 完形	口 22.4 底 5.4 高 28.8	黒色微粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面割部は段削り、口縁部は横撫で、内面割部は段撫で。	藤岡系 直径21.9
134-6 瓦-670 112	瓦 宇瓦	覆土内 破片	—	白色微粒子 黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰白	右肩行書草文。外区に捺文を配す。	笠懸系
134-7 113	瓦 玉縁付男瓦	カマド内 瓦	長 29.4 幅 15.2 狭 12.2	白色微粒子 白色粒子	還元焰	灰	手載作り。凸面調印き整形(密)後縦縞再整形。凹面布合せ目痕、粘土板割ぎ取り痕。側面面取り1回。	吉井系
135-1 113	瓦 玉縁付男瓦	カマド内 完形	長 38.4 狭 12.0 広 19.5	白色微粒子 白色粒子	還元焰	灰	手載作り。凸面縦縞整形後凸面縦位の撫で整形。側面面取り3回・端部面取り2回。玉縁接合はA型。	重2.5kg 吉井系
135-2 113	瓦 玉縁付男瓦	カマド内 瓦	長 41.9 厚 1.9	白色微粒子 黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰白	手載作り。凸面調印き整形(密)後縦縞再整形。側面面取り3回・端部面取り3回。玉縁接合はF型。	吉井系
136-1 112	瓦 男瓦	カマド内 瓦	狭 16.8 幅 17.5 厚 1.2	白色微粒子	還元焰	黒灰	手載作り。凸面縦縞整形。側面面取り2回・端部面取り2回。	吉井系
136-2 112	瓦 玉縁付男瓦	覆土内 破片	厚 1.3	白色微粒子 赤褐色粒子	還元焰	暗灰	手載作り。凸面調印き整形(密)後縦縞再整形。側面面取り2回。	藤岡系か 藤岡系
136-3 113	瓦 玉縁付男瓦	カマド内 破片	厚 1.9	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	手載作り。凸面縦縞整形。側面面取り3回。玉縁接合はA型。	雷岡山か 吉井系

遺物一覧表

136-4 113	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色紅物粒子 白色粒子	還元焰	黒灰	半截作り。凸面鑄叩き整形（後輪軸再整形。	吉井系
136-5 113	瓦 男 瓦	カマド内 破片	厚 1.9	白色粒子 白色紅物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面鑄叩き（密）側面面取り2回。	吉井系
136-6 113	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.4	白色紅物粒子 黒色粒子	酸化焰	淺黄橙	柄巻き造り。凹面楔骨痕凸面輪軸整形。後鑄叩き（密）。側面面取り3回・端部面取り3回。	吉井・藤岡系
136-7 114	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色粒子	還元焰	灰	柄巻き造り。凹面楔骨痕。凸面鑄叩き（密）。端部面取り3回。	不詳 中之系系 か月夜野系
137-1 113	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色紅物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	柄巻き作り。凹面楔骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。凸面鑄叩き（密）整形後輪軸造りでの再整形。側面面取り2回・端部面取り2回。	藤岡系
137-2 113	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 2.4	黒色粒子 白色粒子 白色紅物粒子	還元焰	灰	柄巻き作り。凹面楔骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。凸面鑄叩き（密）整形後輪軸造りでの再整形。端部面取り2回。	吉井系
137-3 113	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.6	黒色粒子 白色粒子	還元焰	黒灰	柄巻き造りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕凸面鑄叩き（密）。側面面取り4回。	栗附系

B区第92号住居跡

押印番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	径目 (cm) (径)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
138-1 114	土師器 坏	覆土内 破片	□ (13.0)	微粒雲母 黒色紅物粒子 白色微粒子	還元焰	鈍橙	型作り成形。口縁部・器内面は横溝で、底部は窪削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
138-2 114	土師器 坏	覆土内 破片	□ (13.2)	白色微粒子 微粒雲母	還元焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横溝で、底部は窪削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
138-3 114	須恵器 埴	覆土内 破片	□ (12.0)	微粒雲母 黒色粒子 白色紅物粒子	還元焰	灰	輪軸成形（右回転）。	栗附系
139-1 114	須恵器 坏蓋	覆土内 瓦	楕 4.4	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	輪軸成形（右回転）。上半部は回転窪削り。内面自然物附着。	秋間系
139-2 114	須恵器 坏蓋	覆土内 瓦	楕 4.7	白色微粒子 白色紅物粒子	還元焰	暗灰	輪軸成形（右回転）。縁部は貼り付け。	栗附系
139-3 114	須恵器 坏蓋	覆土内 瓦	楕 5.8	黒色紅物粒子 白色微粒子 透明紅物粒子	還元焰	灰	輪軸成形（右回転）。天上部は窪削り。胴部は貼り付け。	藤岡系
139-4 114	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	□ (14.6)	白色微粒子	還元焰	灰	輪軸成形（右回転）。内面自然物附着。	栗附系
139-5 114	覆土内 坏蓋	覆土内 破片	□ (16.2)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	輪軸成形（右回転）。	秋間系
139-6 114	須恵器 坏蓋	覆土内 瓦	□ (20.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	輪軸成形（右回転）。	秋間系
139-7 114	須恵器 蓋	覆土内 破片	底 (12.2)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	輪軸成形（右回転）。脚は貼り付け。	秋間系
139-8 114	須恵器 坏	覆土内 瓦	□ (12.5) 底 6.8 高 3.8	白色紅物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	輪軸成形（右回転）。底部は回転窪削り。	栗附系
139-9 114	須恵器 坏	覆土内 破片	□ (12.5) 底 (9.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	輪軸成形（右回転）。底部は手持り窪削り。	秋間系
139-10 114	須恵器 埴	覆土内 瓦	底 10.0	白色微粒子	還元焰	灰白	輪軸成形（右回転）。付高台。	
139-11 114	須恵器 内黒土器 坏	覆土内 破片	□ (13.5)	白色微粒子 黒色紅物粒子	還元焰	橙	輪軸成形（右回転）。内面焼し処理・暗文を施す。	笠懸系か 太田系
139-12 114	須恵器 内黒土器 坏	覆土内 破片	底 (9.0)	白色微粒子 黒色紅物粒子	還元焰	橙	輪軸成形（右回転）。器内面を後戻りさせ器内面に暗文を施す。	太田系か 笠懸系
139-13 115	須恵器 内黒土器 鉢	覆土内 破片	□ (23.0)	白色微粒子	還元焰	橙	紐作り後輪軸整形（右回転）。（7点の接合）	太田系か 笠懸系

139-14 114	須恵器 壺	覆土内 瓦	口 底 高	20.0 5.4 13.4	黒色粒子 白色微粒子	還元焰 灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
139-15 114	土師器 台付壺	覆土内 破片	—	—	黒色粒子 白色微粒子	酸化焰 橙褐	紐作り成形後旋削り整形。	藤岡系
140-1 114	須恵器 壺	覆土内 破片	口	(20.0)	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰 白灰	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井系
140-2 114	須恵器 平瓶か	覆土内 破片	最径	(18.2)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰 灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	栗附系
140-3 114	須恵器 小面壺	覆土内 破片	最径	(19.0)	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰 灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
140-4 114	須恵器 壺	覆土内 破片	厚	1.7	白色粒子 黒色粒子	還元焰 白灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面丸具は青銅製文)。	秋間系
140-5 瓦-671 114	瓦 台瓦	カマド内 瓦	厚	2.2	白色粒子 黒色粒子	中性焰 橙褐	瓦当部欠損瓦瓦部は凹面布目磨り消し(縦位の無で整形)。凸面斜格子叩き。側面面取り4回。	笠懸系
140-6 114	瓦 男瓦	カマド内 瓦	狭 幅 厚	11.5 15.7 1.7	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰 灰	半載作り。凸面鑄叩き整形(密)後縦位の無で再整形。凹面布目磨り消し。側面面取り2回・端部面取り1回。	吉井系
140-7 114	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚	1.3	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰 暗灰	半載作り。凸面轆轤整形後縦位の無で整形。側面面取り2回・端部面取り2回。	秋間系
140-8 115	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚	2.4	白色微粒子 白色微粒子	還元焰 灰	縁巻作り。凹面横骨尻。粘土板割ぎ取り痕。側面面取り3回。	栗附系
140-9 115	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚	1.4	白色粒子 白色微粒子 鉱物粒子	還元焰 暗灰	作り不評。凹面縦位の無で整形。	栗附系
141-1 115	瓦 女瓦	覆土内 ほぼ完形	長 広 狭	41.3 29.4 25.3	白色微粒子 黒色粒子	酸化焰 橙	一枚作り。凹面布目磨り消し・粘土板割ぎ取り痕。凸面鑄叩き。	重4.6kg 笠懸系
142-1 116	瓦 女瓦	カマド内 一部欠損	長 広 幅	40.7 30.0 28.2	赤褐色粒子 白色微粒子 白色微粒子	還元焰 白灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面鑄叩き(密)後縦位の無で再整形。側面面取り2回・端部面取り1回。	吉井系
143-1 115	瓦 女瓦	覆土内 瓦	厚	2.2	白色微粒子 白色微粒子	還元焰 灰白	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面鑄叩き(密)後縦位の無で再整形。側面面取り2回・端部面取り1回。	吉井系
143-2 115	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚	1.7	白色粒子	還元焰 灰	一枚作り。凹面布目磨り消し。凸面鑄叩き。端部面取り2回。	笠懸系

B区第93号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
144-1 116	土師器 環	覆土内 瓦	口	(12.6)	微粒雲母 黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰 橙	型作り成形。口縁部・凹面は横無で、底部は寛削り。体部に型痕を残す。	藤岡系
144-2 116	土師器 環	覆土内 破片	口 底	(12.2) (8.4)	白色微粒子 少 白色微粒子 少	酸化焰 橙	型作り。口縁部は外傾し体部は斜位の寛削り、底部は寛削り成形。口縁部凹面放射状暗文を施す。	吉井・藤岡系か
144-3 116	須恵器 環	覆土内 破片	口	(17.1)	黒色粒子軽	還元焰 灰	端部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転整形。端部は貼り付け。	秋間系
145-1 116	須恵器 環	覆土内 瓦	口 底 高	(11.7) (6.3) (4.8)	黒色粒子微量	還元焰 灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転余切り。	秋間系
145-2 116	須恵器 高台付環	覆土内 破片	底	(10.4)	黒色粒子	還元焰 灰	轆轤成形(右回転)。高台は削り出し。	秋間系
145-3 116	須恵器 埴 埴	床直瓦	底	10.2	白色微粒子微量	還元焰 白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
145-4 116	須恵器 不 (瓶類)	覆土内 破片	底	(5.6)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰 灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転余切り。	秋間系
145-5 116	土師器 壺	覆土内 破片	口	(20.8)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰 橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面側部は寛削り。口縁部は横無で、内面側部は寛削り。	藤岡系

遺物一覧表

145-6 117	土師器 甕	床直層 破片	口 (20.8)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面割部は 寛削り、口縁部は横撫で、内面割部は寛撫で。	藤岡系
145-7 116	土師器 甕	カマド内 破片	口 (21.6)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面割部は 寛削り、口縁部は横撫で、内面割部は寛撫で。	藤岡系
145-8 116	土師器 甕	覆土内 瓦	口 (29.5)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は強く外反する。型作り成形。外面割部 は寛削り、口縁部は横撫で、内面割部は寛 撫で。	藤岡系
145-9 116	土師器 甕	カマド内 破片	厚 0.6	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	褐	紐作り成形。外面は寛削り・内面は寛撫で整 形を施す。	藤岡系
145-10 116	須恵器 甕	覆土内 瓦	口 (20.6)	白色微粒子	還元焰	新・白沢 外・黒沢	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系か 藤岡系
145-11 116	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 0.5	黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面瓦具 は素文)。	秋間系
145-12 116	鉄器 鉄	覆土内 根欠損	横径幅0.6 重 5.6	—	—	—	全体に錆化が著しい。根を欠損する。蓋は商 業時から折れた状態になっている。被覆は長 い。	—
145-13 116	鉄器 釘	覆土内 破片	厚 0.25 重 2.8	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。二個体が錆化によ り接合している。	—
145-14 116	鉄器 不評	覆土内 先端欠損	幅 0.95 重 34.0	—	—	—	全体に錆化が著しい。調査後の欠損により全 体の残存が不良である。断面正方形を呈する。	—
145-15 116	鉄器 釘	覆土内 破片	幅 0.4 重 3.8	—	—	—	全体に錆化が著しい。二個体の別部種の鉄製 品が錆化により接合している。	—
146-1 117	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰褐	平截作り。凸面轆轤整形。凹面粘土板割り取 り痕。側面面取り1回。	笠懸系
146-2 117	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面鑊叩き(密)。凹面寄木密。側 面面取り1回。側面面取り2回・端面面取 り1回。	秋間系
146-3 117	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目横り押し。凸面鑊叩き。	笠懸系

B区第94号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 目量 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考	
147-1 117	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	口 (17.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
147-2 117	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	口 (17.2)	透明鉱物粒子 白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	端部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。 上半部は回転寛削り。胴部は貼り付け。	泉附系か 吉井系 藤岡系
147-3 117	須恵器 高台付坏	覆土内 破片	底 (9.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台は削り出し。	秋間系
147-4 117	須恵器 長頸壺	覆土内 破片	厚 1.0	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。内外面に自然熱 付着する。	秋間系
147-5 117	鹿角陶器 灰釉 小瓶	覆土内 破片	直径(8.6)	密	良好	灰	轆轤成形(右回転)。	—
148-1 117	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.1	白色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	還元焰	浅黄橙	一枚作りか。側面面取り1回・端面面取り1 回。	藤岡系
148-2 117	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	灰	一枚作りか。面割位の狭で整形。端面面取り 2回。	吉井系

B区第109号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 目量 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考	
149-1 117	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色微粒子	還元焰	褐灰	紐作り。凸面轆轤整形。凹面横位の狭で整形。 側面面取り3回。端面面取り2回。	吉井系

B区第95号住居跡

探出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
150-1 117	土師器 環	覆土内 破片	口 (12.7)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は削り。体部に彫痕を残す。	藤岡系
150-2 117	土師器 環	覆土内 破片	—	赤褐色粒子 白色微粒子	還元焰	黄褐色	型作り成形。体部・底部は削り。	藤岡系
151-1 117	瓦 男瓦	カマド内 瓦	幅 15.2 厚 1.8	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面輪軸整形。側面取り3回・端部面取り3回。	吉井系

B区第96号住居跡

探出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
152-1 117	土師器 環	覆土内 瓦	口 (12.2) 高 (2.9)	微粒雲母 白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は削り。体部に彫痕を残す。	藤岡系
152-2 117	須恵器 環	カマド内 一部欠損	口 11.8 底 6.5 高 3.5	白色微粒子 透明鉱物粒子	還元焰	白灰	輪軸成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系 乗附系
152-3 117	須恵器 環(横)	カマド内 瓦	口 14.9 底 (6.0) 高 (5.3)	微粒雲母 デイスait	還元焰	灰	輪軸成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤岡系
152-4 117	須恵器 皿	カマド内 瓦	口 (14.0) 底 8.0 高 2.8	微粒雲母 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	輪軸成形(右回転)。付高台。	藤岡系
152-5 117	須恵器 埴	覆土内 破片	底 (8.0)	微粒砂	還元焰	白灰	輪軸成形(右回転)。	不詳
152-6 118	土師器 壺	カマド内 破片	口 (20.9)	黒色鉱物粒子 微粒雲母 デイスait	酸化焰	茶褐	型作り乃至。組作り成形。器外面は横撫で。削り。器内面は撫で整形。	藤岡系
152-7 118	男瓦 瓦	カマド内 瓦	狭 15.4 幅 16.4 厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面平打きの擬似格子状。側面取り3回・端部面取り3回。	秋間系
152-8 118	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.2	黒色粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰白	半載作り。凸面輪軸整形。側面取り4回・端部面取り4回。	秋間系
153-1 瓦-589 118	瓦 女瓦	カマド内 瓦	厚 1.9	白色鉱物粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の無で整形。側面取り2回・端部面取り3回。旋輪き文字瓦「二」か(凸面)。	吉井系
153-2 瓦-590 118	瓦 女瓦	カマド内 瓦	厚 1.9	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦叩き(密) 磨砂肌。凹面磨砂肌。指摺による文字「人」か。	秋間系
153-3 118	瓦 女瓦	覆土内 瓦	厚 1.6	白色鉱物粒子	還元焰	黄橙	一枚作り。凸面縦位の無で整形。端部面取り2回。	吉井系

B区第98号住居跡

探出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
155-1 118	須恵器 素直蓋	覆土内 瓦	口 (12.1)	白色微粒子	還元焰	灰	輪軸成形(右回転)。	秋間系
155-2 118	須恵器 環	床直層 瓦	口 (11.2) 底 4.9 高 4.2	微粒雲母 黒色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	橙	輪軸成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井系 藤岡系
155-3 118	須恵器 環	覆土内 完形	口 13.5 底 7.5 高 4.4	黒色粒子	還元焰	灰白	輪軸成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
155-4 118	須恵器 埴	カマド内 瓦	口 14.1	微粒雲母 黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍黄褐	輪軸成形(右回転)。	吉井・藤岡系
155-5 118	須恵器 環(横)	覆土内 瓦	底 (6.6)	微粒雲母 白色粒子	酸化焰	黄橙	輪軸成形(右回転)。高台欠損(付高台)。高台欠損後で使用。	藤岡系

遺物一覧表

155-6 119	須恵器 足高台付焼	覆土内 破片	底 9.6	微粒雲母 白色粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
155-7 119	須恵器 埴	覆土内 破片	口 (10.5)	白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。	不詳
155-8 119	須恵器 足高台付焼	覆土内 片	底 (13.1)	白色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。シルト質、ボソボソ。	藤岡系
156-1 119	須恵器 足高台付焼	覆土内 片	底 13.2	白色粒子 白色微粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。	秋間系
156-2 119	須恵器 足高台付 付皿	カマド内 ほぼ完形	口 13.8 底 7.3 高 4.0	黒色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井系
156-3 118	須恵器 内黒土器 埴	覆土内 片	底 5.9	微粒雲母	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
156-4 119	須恵器 内黒土器 埴	カマド内 片	底 7.0	微粒雲母	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。器内面に暗文を施す。	栗附系 藤岡系
156-5 119	須恵器 埴	覆土内 破片	底 (9.0)	微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。	藤岡系か 栗附系
156-6 119	須恵器 羽 釜	床直層 破片	口 (20.2) 脚 (24.2)	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。脚は貼り付け、胴部下半・底部は寛形。	吉井型羽 釜 甲斐 種呂類
156-7 119	須恵器 羽 釜	覆土内 破片	口 (20.4) 脚 (24.6)	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。脚は貼り付け、胴部下半・底部は寛形。	吉井型羽 釜 甲斐 種呂類
156-8 120	須恵器 羽 釜	カマド内 破片	口 (21.0) 脚 (25.6)	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。脚は貼り付け。	吉井型羽 釜 甲斐 種呂類
156-9 119	須恵器 羽 釜	覆土内 破片	脚 (25.18)	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。脚は貼り付け。	吉井型羽 釜 甲斐 種呂類
156-10 119	須恵器 羽 釜	覆土内 破片	底 7.0	黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍黄褐	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井型羽 釜 乙種 か
157-1 119	須恵器 羽 釜	覆土内 破片	脚 (28.0)	微粒雲母 白色粒子	酸化焰	橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。脚は貼り付け。	吉井系 藤岡系 吉井型羽 釜 甲斐 種呂類
157-2 119	須恵器 坏	覆土内 破片	厚 1.0	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。上面横目・裏面寛無でを施す。	栗附系
157-3 119	須恵器 要	覆土内 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。横線間に5本一単位の放射文を施す。内面自然釉付着。	栗附系
157-4 119	須恵器 壺	覆土内 破片	厚 1.4	白色微粒子 微粒雲母	還元焰	灰	紐作り、叩き整形(外面平行叩き・内面丸具は背海紋文)。	栗附系
157-5 119	胎物陶器 灰 輪 埴	覆土内 破片	口 (13.6) 底 (7.0) 高 (4.3)	密	良好	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。胎輪は没掛。	—
157-6 119	胎物陶器 灰 輪 皿	覆土内 片	口 14.8 底 6.7 高 2.5	密	良好	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。胎輪は没掛。	—
157-7 119	灰 輪 壺	覆土内 破片	口 (14.1)	密	良好	灰	轆轤成形(右回転)。	—
157-8 119	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白色微粒子 微粒雲母	還元焰	黄灰	紐作り。凸面取位の無で整形。側面取り1回・端部取り1回。	藤岡系
157-9 119	瓦 男 瓦	カマド内 破片	厚 1.9	白色微粒子	還元焰	白灰	平截作り。凸面木目叩き。凹面布目磨り消し(一部)。側面取り3回。	秋間系
157-10 120	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面斜位の無で整形。側面取り1回。	吉井系

B区 (99号住居跡)

157-11 120	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 0.9	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。外面粘土板割き取り痕。凸面側で笠形整形。	笠形系
157-12 120	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色黏物粒子	還元焰	黄橙	一枚作り。凸面縦位の無で整形。側面面取り3回。	吉井系

B区第99号住居跡

埋蔵品番号 図面番号	種別	出土位置 遺存状態	寸法 (cm) 重量 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考	
158-1 120	土師器 器	覆土内 破片	□ (10.0)	微粒雲母 黒色黏物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に横を有する。底部は蓋削り。	藤岡系
158-2 120	土師器 器	覆土内 破片	□ (10.2)	微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は蓋削り整形。器内面は無で整形。	藤岡系
158-3 120	土師器 器	覆土内 破片	□ (10.3)	黒色黏物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横無で、底部は蓋削り。体部に型磨を残す。	藤岡系
158-4 120	土師器 器	覆土内 瓦	□ (10.3) 高 2.9	黒色黏物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は蓋削り整形。器内面は無で整形。	藤岡系
158-5 120	土師器 器	覆土内 破片	□ (10.6)	微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横無で、底部は蓋削り。体部に型磨を残す。	藤岡系
158-6 120	土師器 器	覆土内 破片	□ (11.0)	微粒雲母 白色粒子 黒色黏物粒子	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は蓋削り整形。器内面は無で整形。口縁直下に型磨を残す。	藤岡系
158-7 120	土師器 器	覆土内 破片	□ (11.7)	微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横無で、底部は蓋削り。体部に型磨を残す。	藤岡系
159-1 120	土師器 器	覆土内 破片	□ (12.2)	微粒雲母 黒色黏物粒子	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は蓋削り整形。器内面は無で整形。口縁直下に型磨を残す。	藤岡系
159-2 120	土師器 器	覆土内 破片	□ (12.2)	微粒雲母 白色微粒子 黒色黏物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に強い横を有する。底部は蓋削り。	藤岡系
159-3 120	土師器 器	覆土内 破片	□ (14.2)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横無で、底部は蓋削り。体部に型磨を残す。	藤岡系
159-4 120	土師器 器	覆土内 瓦	□ 15.7 高 5.2	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は蓋削り整形。器内面は無で整形。口縁直下に型磨を残す。	藤岡系
159-5 120	土師器 器	覆土内 破片	厚 0.8	微粒雲母	酸化焰	浅黄橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面側部は蓋削り、口縁部は横無で、内面側部は蓋削り。	藤岡系
159-6 120	土師器 器	カマド内 瓦	□ 22.3	黒色黏物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面側部は蓋削り、口縁部は横無で、内面側部は蓋削り。	藤岡系
159-7 120	須恵器 器	カマド内 破片	□ (15.1)	白色微粒子	還元焰	灰	縞織成形 (右回転)。	秋岡系
159-8 120	須恵器 器	覆土内 破片	□ (11.2)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後縞織成形 (右回転)。	秋岡系
159-9 120	須恵器 器	カマド内 破片	■ 18.2	白色粒子	還元焰	浅黄	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面凹具は青海波文)、口縁部は縞織成形。	吉井系
159-10 120	須恵器 器	覆土内 破片	厚 0.6	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面正格子叩き・内面凹具は青海波文)。	不詳 東海系か
159-11 120	須恵器 器	覆土内 破片	厚 0.8	密	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面凹具は青海波文)。	東海系
160-1 122	瓦 男瓦	覆土内 細片	厚 1.6	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	半枚作り。凸面縦斜格子叩き。側面面取り1回。	吉井系
160-2 120	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色黏物粒子	還元焰	黄灰	一枚作り。凸面縦位の無で整形・粘土板割き取り痕。側面面取り3回・端部面取り1回。	吉井系
160-3 120	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	一枚作り。凸面縦位の無で整形。側面面取り3回。	藤岡系
160-4 121	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 2.5	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	灰白	桶巻き造り。凸面縦叩き (密)。凹面横骨痕。側面側部面取り2回。	東海系

遺物一覧表

B区第100号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	産目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
161-1 121	土師器 土師壺	覆土内 % % % %	口 13.0	黒粒凝母 黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	瓶作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に彫痕を残す。	藤岡系
161-2 121	土師器 土師壺	カマド内 完形	口 11.2 底 5.0 高 4.1	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	瓶作り成形。体部は篋削り、底部は離れ砂。	吉井系
161-3 121	須恵器 須恵壺	覆土内 破片	底 (8.0)	黒色粒子	酸化焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
161-4 121	須恵器 須恵壺	覆土内 破片	底 (7.6)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
161-5 121	須恵器 須恵壺	ビット内 % % %	口 12.9 底 7.3 高 2.0	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
161-6 121	須恵器 須恵壺	覆土内 破片	口 13.8 底 8.5 高 2.5	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
161-7 121	須恵器 須恵壺	覆土内 破片	底 (12.6)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。付高台。	秋間系
161-8 121	須恵器 須恵壺	覆土内 破片	口 (24.4)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。口唇部が平坦である。	秋間系
161-9 121	須恵器 須恵壺	覆土内 破片	口 (23.5)	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
162-1 121	須恵器 須恵壺	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)か。	吉井・藤岡系
162-2 121	磁器 磁石	覆土内 完存	長 11.7 幅 6.2 厚 3.6	瑯母石英片岩	—	—	小口側に敲打に伴う剥落がある。	重370g
162-3 121	磁器 磁石	床面直上 完存	長 19.1 幅 6.1 厚 4.9	石英閃緑岩	—	—	小口側敲打に伴う剥落がある。	重980g
162-4 121	磁器 磁石	ビット内 完存	長 10.3 幅 6.4 厚 3.7	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨減している。	重490g
162-5 121	磁器 磁石	覆土内 完存	長 12.9 幅 7.7 厚 4.5	安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨減している。	重610g
162-6 121	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.6	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縦位篋削り。凹面粘土板割ぎ取り痕。側面取り1回。	吉井系
162-7 121	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰 焼締	暗灰	半截作り。凸面轆轤整形後縦位の篋削り。側面取り1回・端部面取り3回。	吉井系
162-8 122	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.9	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。側面取り2回・端部面取り2回。	吉井系
163-1 121	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凸面轆轤整形。側面取り3回・端部面取り2回。	吉井系
163-2 122	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.4	赤褐色粒子 白色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	黄橙	一枚作り。凸面全面斜格子叩き側面取り2回・端部面取り2回。	秋間系 布目密
163-3 122	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.6	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目掃り消し。凸面撫で整形後不正格子叩き整形。側面取り4回・端部面取り3回。	笠懸系
164-1 122	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.8	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰黄	極巻作り。凹面横骨痕。粘土板割ぎ取り痕。凸面網叩き(密)。側面取り3回・端部面取り2回。	吉井・藤岡系
164-2 122	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.4	白色微粒子 白色鉱物粒子 微粒凝母	酸化焰 か二次 焼成	黄橙	極巻き造りか。凸面網叩き(密)側面取り3回。	藤岡系
164-3 122	瓦 女瓦	貯蔵穴内 破片	厚 1.7	白色微粒子	酸化焰	鈍褐	半截作り。凸面轆轤整形。側面取り3回・端部面取り2回。	笠懸系

B区第127号住居跡

押出番号 図面番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
165-1 122	土師器 坏	ビット内 完形	口 10.8 底 4.8 高 4.1	粗粒砂 黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	浅黄緑	歪作り。口縁部外傾する。体部・底部は腹削り整形。器内面は磨で整形。	藤岡系
165-2 123	土師器 台付蓋	覆土内 破片	底 (9.6)	微粒雲母 白色鉱物粒子	酸化焰	黄緑	紐作り成形。	藤岡系
165-3 122	須恵器 坏	床面直上 瓦	口 (10.4) 底 4.1 高 3.5	黒色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	黒褐 鈍黄褐	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井系
165-4 122	須恵器 坏	床直 完形	口 11.1 底 5.6 高 3.9	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	黒褐 鈍黄褐	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。内・外面に縷りが認められる。	吉井系
165-5 122	須恵器 埴	覆土内 ほぼ完形	口 11.8 底 6.4 高 4.3	白色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。轆轤目は非常に浅い。	藤岡系
165-6 122	須恵器 埴	床直 完形	口 12.2 底 6.3 高 4.3	白色鉱物粒子 白色粒子 ダイヤモンド	酸化焰	黄緑	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井系
165-7 122	須恵器 埴	床直 完形	口 14.5 底 8.0 高 6.1	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄緑	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
165-8 122	須恵器 埴	覆土内 瓦	口 (15.5)	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	笠懸系か
165-9 122	須恵器 埴	覆土内 瓦	口 (12.4)	白色微粒子 微粒雲母	還元焰 酸化焰	橙褐	轆轤成形(右回転)。	藤岡系か
166-1 122	須恵器 埴	覆土内 瓦	底 6.4	微粒雲母	還元焰	暗灰褐	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
166-2 123	須恵器 埴	覆土内 瓦	底 9.2	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	笠懸系
166-3 123	須恵器 内黒土器 皿	覆土内 瓦	口 (14.0) 底 (7.8) 高 (2.8)	白色微粒子 赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	黄緑	轆轤成形(右回転)。付高台。器内面に暗文を施す。166図-4と同産地	東毛系か
166-4 123	須恵器 内黒土器 埴	カマド内 瓦	口 (15.0) 底 7.7 高 6.0	白色微粒子	酸化焰	暗灰褐	轆轤成形(右回転)。付高台。器内面に暗文を施す。	不詳
166-5 123	須恵器 蓋	覆土内 破片	直径(18.8)	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰 焼締	暗灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	栗附系
166-6 123	須恵器 羽蓋	ビット内 破片	口 (20.0)	白色鉱物粒子 ダイヤモンド	中性焰	鈍黄灰	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。罫は貼り付け。	吉井形羽蓋 甲斐 種呂類
166-7 123	須恵器 羽蓋	床直層 破片	口 (20.0)	白色鉱物粒子 白色粒子	中性焰	鈍黄緑	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。罫は貼り付け。胴部は縦位の整形。	吉井形羽蓋 甲斐 種呂類
166-8 123	須恵器 羽蓋	覆土内 破片	底 (8.0)	黒色鉱物粒子 白色粒子	中性焰	鈍褐	紐作り後轆轤整形(右回転)。外面は縦位の整形無し。	吉井形羽蓋 甲斐 種呂類
166-9 123	須恵器 羽蓋	覆土内 破片	底 (6.8)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	暗褐	紐作り後轆轤整形(右回転)。外面は縦位の整形無し。	吉井形羽蓋 甲斐 種呂類
166-10 123	施釉陶器 灰釉埴	覆土内 破片	口 (14.0)	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。施釉は不詳。	---
166-11 123	施釉陶器 灰釉皿	覆土内 瓦	口 (12.2) 底 6.2 高 2.0	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は段掛。器内面及割れ口に墨痕が認められる。	---
166-12 123	施釉陶器 灰釉埴	覆土内 破片	底 6.6	密	良好	黄灰	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は不詳。円盤状に加工を加えている。	---
166-13 123	施釉陶器 灰釉皿	ビット内 瓦	底 4.8	密	良好	白灰	轆轤成形(左回転)。付高台。施釉は段掛。	---

遺物一覧表

166-14 123	鉄器 鏃	覆土内 一部欠損	長 幅 重	11.4 1.4 5.3	—	—	—	全体に錆化が及んでいるが根の部分はやや良好である。有蓋蓋被五角形式の鏃である。	図録編6
166-15 123	鉄器 釘	覆土内 先端欠損	重	10.7	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。先端側が欠損している。	—
166-16 123	鉄器 釘	覆土内 先端欠損	幅 重	0.7 8.5	—	—	—	全体に錆化が著しい。調査後の欠損により破損している。	—
166-17 123	鉄器 釘	覆土内 破片	幅 重	0.5 2.0	—	—	—	全体に錆化が及び、調査後欠損している。釘の先端側と思われ、断面正方形状を呈する。	—
167-1 123	陶器 樽石	覆土内 完存	長 幅 厚	16.1 0.8 4.5	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。小口側に敲打痕が認められる。	重760g
167-2 123	陶器 樽石	覆土内 完存	長 幅 厚	6.5 7.1 2.5	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重150g
167-3 男瓦-591	瓦	覆土内 破片	厚	1.7	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凸面輪縁整形。側面面取り1回。器縁き文字瓦「手」(凸面)。	吉井系
167-4 女瓦-592 瓦-593 (文字)	瓦	覆土内 破片	厚	1.6	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	黒灰	半截作り。凸面縁位の側で整形。凹面粘土板割き取り痕露出き文字瓦不詳(凸面)。凹面側に内管の削突。	吉井系
167-5 123	瓦 玉縁付男瓦	覆土内 破片	厚	1.6	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面輪縁整形。側面面取り2回・端部面取り2回。玉縁接合はA類。	吉井系
167-6 女瓦-594	瓦	覆土内 破片	厚	1.9	白色鉱物粒子 デイスайт	還元焰	灰黄	一枚作りか。凹面布目標り削し。凸面縁位の側で整形。器縁き文字瓦「十」(凸面)。	吉井系
167-7 123	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	1.4	白色鉱物粒子 粗粒砂	酸化焰	鈍橙	桶巻き造り。凹面横骨痕・粘土板割き取り痕。凸面輪縁整形。側面面取り3回・端部面取り4回。	吉井・藤岡系

B区第101号住居跡

棟別 図番	種別 器	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	土	焼色	色調	器形・技法等の特徴	備考
169-1 124	須恵器 埴	カマド内 破片	口 14.4 底 (6.0) 高 (4.7)	微粒雲母 白色鉱物粒子	酸化焰	赤・赤灰 内橙橙	輪縁成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
169-2 123	須恵器 埴	カマド内 破片	底 (6.5)	微粒雲母	酸化焰	浅黄橙	輪縁成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
169-3 124	須恵器 羽蓋	カマド内 瓦	口 (16.1)	白色鉱物粒子 白色粒子 微粒雲母	中性焰	灰黄	口縁部は内傾する。紐作り後輪縁整形(右回転)。脚は貼り付け。	吉井・藤岡系 甲武種改型
169-4 124	須恵器 羽蓋	カマド内 破片	口 (22.0)	微粒雲母 デイスайт 白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は内傾する。紐作り後輪縁整形(右回転)。脚は貼り付け。	吉井・藤岡系
169-5 瓦-647	瓦 繪瓦	覆土内 破片	—	白色粒子	還元焰	灰黄	瓦当意匠は不詳であるが単弁系のもと考えられる。	吉井系
169-6 瓦-595	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面輪縁整形。器縁き文字瓦「五」(凸面)。	吉井系
169-7 124	土師器 坏	カマド内 瓦	口 (14.2) 底 (9.8)	微粒雲母	酸化焰	暗橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下に型痕を残し、下半部は煎割り。底部は煎割り。	藤岡系
169-8 124	土師器 坏	床直層 %	口 14.2 底 10.2 高 3.7	微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾する。体部は煎割り。底部は煎割り。	藤岡系か
169-9 124	須恵器 坏蓋	床直層 %	口 4.2 口 19.0 高 4.0	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。輪縁成形(右回転)。上半部は回転煎割り。脚部は貼り付け。	秋岡系
169-10 124	須恵器 坏蓋	床直層 %	口 2.6	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	輪縁成形(右回転)。上半部は回転煎割り。脚部は貼り付け。	秋岡系
169-11 124	須恵器 坏蓋	覆土内 瓦	口 (18.3)	白色微粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。輪縁成形(右回転)。	秋岡系か 兼附系
169-12 124	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	口 (21.1)	黒色細粒砂	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。輪縁成形(右回転)。	秋岡系

169-13 124	須恵器 環	カマド内 完形	口 12.0 底 7.0 高 3.6	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	輪縁成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
169-14 124	須恵器 環	床直層 完形	口 12.2 底 7.0 高 3.4	黒色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰	輪縁成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
169-15 124	須恵器 環	床直層 完形	口 12.6 底 7.4 高 3.5	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	輪縁成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
169-16 124	須恵器 環	カマド内 瓦	口 13.5 底 8.6 高 3.2	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	白灰	輪縁成形 (右回転)、底部は回転突起し。	秋間系
169-17 124	須恵器 環	床直 完形	口 15.5 底 9.7 高 6.7	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	輪縁成形 (右回転)。付高台。	秋間系
169-18 124	須恵器 環	床直層 瓦	口 16.4 底 10.0 高 7.0	白色微粒子	還元焰	灰	輪縁成形 (右回転)。付高台。	秋間系
169-19 124	土師器 小型壺	覆土内 破片	口 (11.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は外反する。紐作り。外面割部は寛削り、口縁部は横撫で、内面割部は寛撫で。	藤岡系
169-20 124	土師器 小型壺	カマド内 破片	口 (13.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色微粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は外反する。紐作り。外面割部は寛削り、口縁部は横撫で、内面割部は寛撫で。	藤岡系
170-1 124	土師器 壺	覆土内 瓦	口 (21.0)	黒色微粒子 微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	赤橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面割部は寛削り、口縁部は横撫で、内面割部は寛撫で。	藤岡系
170-2 124	土師器 台付壺	覆土内 破片	厚 0.7	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙	紐作り成形。脚は貼り付。	藤岡系
170-3 124	土師器 壺	カマド内 破片	底 (4.6)	赤褐色粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	紐作成形後縦位の寛削整形。	藤岡系
170-4 126	瓦 男瓦	カマド内 瓦	広 22.0 幅 22.6 厚 2.2	白色微粒子	還元焰	灰	手轆作り。凸面輪縁整形。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側面面取り2回・端部面取り3回。	笠巻系
170-5 124	瓦 男瓦	カマド内 一部欠損	長 38.3 幅 15.0 厚 14.6	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作りか、凸面平行叩き?。側面面取り3回・端部面取り2回。	重1.7kg 吉井系
171-1 125	瓦 男瓦	カマド内 完形	長 41.3 幅 18.3 厚 16.5	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	灰	手轆作り。凸面叩き整形 (密) 後縦位の撫で再整形。凹面布合せ目痕。側面面取り2回・端部面取り1回。	重3.0kg 吉井系
171-2 125	瓦 男瓦	カマド内 ほぼ完形	長 38.6 幅 17.2 厚 1.4	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。凸面輪縁整形。側面面取り3回・端部面取り2回。	重2.3kg 笠巻系
172-1 125	瓦 宇瓦か	カマド内 瓦	広 32.8 幅 37.6 厚 2.3	白色微粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	紐作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面叩き (密) 後縦位の撫で整形。釘穴を有する。側面面取り1回・端部面取り3回。	吉井系
172-2 125	瓦 女瓦	カマド内 瓦	厚 1.9	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	柄巻き造りか。凸面叩き (密) 縦位の撫で整形。粘土板剥ぎ取り痕。側面面取り1回・端部面取り1回。	吉井系
172-3 126	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.2	白色微粒子 白色粒子 黒色粒子	還元焰	暗灰	柄巻き造り。凹面横脊痕・粘土板剥ぎ取り痕。凸面輪縁整形。	吉井系

B区第103号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 保存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
173-1 126	須恵器 環	覆土内 破片	口 (14.5) 底 (7.0) 高 (3.2)	白色微粒子	還元焰	灰	輪縁成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
173-2 126	須恵器 環	覆土内 破片	口 (15.0)	微粒雲母 白色微粒子	中性焰	灰黄	輪縁成形 (右回転)。	藤岡系
173-3 126	土師器 壺	覆土内 破片	底 4.4	細粒砂	酸化焰	鈍黄橙	紐作り成形後印毛撫でを施す。	古墳時代 前期

遺物一覧表

173-4 126	羽口	覆土内 破片	—	白色粒子	—	純真褐	使用に伴う色調変化が認められるが、細片の為、顕著なスラグ等は認められない。	—
173-5 126	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子	還元焰	灰黄	一枚作りか、凸面縦位の割で整形。凹面粘土板割り取り筋。側面面取り3回。	吉井系

B区第104号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (#)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考	
174-1 126	須恵器 埴	覆土内 瓦	口 14.6 底 6.9 高 5.6	微粒雲母 細粒砂 シルト粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
174-2 126	須恵器 埴	床直層 破片	底 7.1	白色鉱物粒子 微粒雲母	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
174-3 126	土師器 甕	覆土内 破片	口 (17.1)	微粒雲母 黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、口縁部は横溝で。	藤岡系
174-4 126	土師器 椀	ビツ内 破片	口 (19.0)	黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面割部は貫削り、口縁部は横溝で、内面割部は貫溝で。	藤岡系
174-5 126	土師器 甕	覆土内 破片	口 (20.3)	微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、口縁部は横溝で。	藤岡系
174-6 126	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.4	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰 か二次 焼成	鈍橙	半截作り。凸面叩き整形(密)後轆轤再整形。側面面取り3回。粘土板接合は「Z」。	藤岡系

B区第105号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (#)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考	
175-1 127	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.7)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横溝で、底部は貫削り。体部に遺溝を残す。	藤岡系
175-2 127	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.6)	微粒雲母 黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横溝で、底部は貫削り。体部に遺溝を残す。	藤岡系
175-3 126	須恵器 坏	覆土内 破片	底 6.0	微粒雲母 白色鉱物粒子 ダイヤサイト	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	吉井・藤岡系
175-4 126	須恵器 坏	床直層 瓦	口 14.0 底 7.8 高 4.2	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
175-5 127	須恵器 埴	カマド内 瓦	口 14.5 底 7.4 高 5.7	微粒雲母 黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
175-6 127	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (15.5)	微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。	藤岡系か
176-1 127	土師器 甕	覆土内 瓦	口 (18.1) 肩径(20.6)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面割部は貫削り、口縁部は横溝で、内面割部は貫溝で。	藤岡系
176-2 127	須恵器 盤	覆土内 破片	口 (19.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系か 栗附系
176-3 127	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 0.6 肩 (18.0)	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛みは背割板文)。	栗附系
176-4 126	須恵器 甕	床直層 破片	底 (20.2)	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
176-5 127	海狗陶器 灰胎埴	覆土内 破片	口 (13.4)	密	良好 焼成	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	—
176-6 127	雜器 漆石	覆土内 完存	長 12.2 幅 6.0 厚 4.3	石英閃緑岩	—	—	平面が使用に伴う磨損が認められる。	重410g
176-7 127	鉄器 紡錘車	覆土内 軸欠損	長径 4.8 短径 4.4 重 26.5	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。軸は調査後の欠損である。	—

B区 (104・105・106・107号住居跡)

176-8 127	鉄 器 不 詳	覆土内 破片	幅 重	0.45 2.4	—	—	—	全体に錆化が著しい。調査後の欠損により両 端を欠損する。断面は正方形気味。	—
176-9 127	鉄 器 不 詳	覆土内 破片	幅 厚 重	0.4 0.25 1.1	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。両端側共に調査後 の欠損である。断面は長方形状を呈する。	—
176-10 127	鉄 器 不 詳	覆土内 一部欠損	幅 重	0.6 20.8	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。錆鉄片の可能性も ある。	—
176-11 127	瓦 男	床直前 破片	厚	1.8	白色鉱物粒子 雑粒雲母 透明鉱物粒子	酸化焰	黄橙	半截作り。凸面輪軸整形。側部面取り4回。	吉井系
176-12 126	瓦 男	ピット内 破片	厚	1.9	白色鉱物粒子	中性焰	黄灰	半截作り。凸面輪印き整形(凸)凸面輪軸整 形。側部面取り2回・端部面取り4回。	吉井・藤 岡系
176-13 127	瓦 男	カマド内 破片	厚	1.9	白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面輪軸整形。側部面取り2回。	笠懸系
176-14 127	瓦 男	カマド内 破片	厚	1.8	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面部位の撫で整形。側部面取り 3回・端部面取り4回。	吉井・藤 岡系
177-1 127	瓦 女	ピット内 破片	厚	2.1	白色鉱物粒子 シルト粗粒子	酸化焰	鈍黄橙	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面部位 の撫で整形。側部面取り2回・端部面取り2 回。	吉井系
177-2 127	瓦 女	カマド内 破片	厚	2.2	白色鉱物粒子 雲母 デイスサイト	酸化焰	橙	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面部位 の撫で整形。側部面取り2回・端部面取り2 回。	藤岡系
177-3 127	瓦 女	覆土内 破片	厚	1.8	白色粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面横骨直。凸面輪印き。側部 面取り2回・端部面取り2回。	中之条系 か

B区第106号住居跡

検出番号 図記番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
178-1 瓦-596	瓦 女	ピット内 破片	厚 2.8	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面部位の撫で整形。縦書き文字 瓦「女」か(凸部)。	吉井系
179-1 127	瓦 女	覆土内 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面 平行叩き。	栗附系か
179-2 127	瓦 女	カマド内 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。凸面部位の撫で整形。側部面取り 3回・端部面取り2回。	吉井系

B区第107号住居跡

検出番号 図記番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
180-1 128	須 恵 器 坏	覆土内 破片	口 (15.0)	白色微粒子	還元焰	暗黄	輪軸成形(右回転)。底部は手持り型削り。	秋間系	
181-1 128	須 恵 器 坏	覆土内 破片	底 (6.9)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	輪軸成形(右回転)。底部は回転糸切り。	栗附系か 秋間系	
181-2 128	須 恵 器 坏	覆土内 瓦	底 (10.0)	白色粒子 白色微粒子	還元焰	暗灰	輪軸成形(右回転)。付高台。	栗附系か 吉井・藤 岡系	
181-3 128	鉄 器 不 詳	覆土内 先端欠損	幅 重	0.8 5.6	—	—	—	全体に錆化が著しい。全体に調査後の欠損に より破損が著しい。断面正方形と考えられる。	—
181-4 128	鉄 器 不 詳	覆土内 破片	幅 重	0.3 1.4	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。調査後の欠損で尖 端を欠損。釘か鐵等の茎と思われる。	—
181-5 128	鉄 器 不 詳	覆土内 完存	長 重	17.0 34.3	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。刃部は使用に伴な う研ぎ減りで著しく磨耗の状態でなっている。	—
181-6 128	瓦 男	覆土内 破片	厚	1.5	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面輪軸整形。側部面取り3回。	吉井系

遺物一覧表

B区第110号住居跡

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成色調	器形・技法等の特徴	備考
182-1 128	須志器 坏	覆土内 破片	口 (13.4) 底 (8.9) 高 (2.8)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰 灰白	轆轤成形 (右回転)。底部は回転削りか。	秋田系
182-2 128	須志器 坏	覆土内 片	底 5.9	白色微粒子	還元焰 灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転削りか。	秋田系
183-1 128	須志器 坏	覆土内 破片	底 (6.9)	白色微粒子 白色鉱物粒子 少	還元焰 灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転削りか。	乗附系か
183-2 128	須志器 坏	覆土内 片	底 7.8	白色微粒子	還元焰 灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転削りか。	乗附系か
183-3 128	須志器 壺	覆土内 片	底 14.6	白色微粒子	還元焰 灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	乗附系か 秋田系
183-4 128	須志器 壺	覆土内 片	底 13.0	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰 外・黒灰 内・灰白	紐作り後轆轤成形 (右回転)。	秋田系
183-5 129	雜器 磨石	覆土内 完存	長 11.5 幅 7.5 厚 2.6	粗粒安山岩	—	平坦面が磨滅する。	重380g
183-6 129	雜器 磨石	覆土内 完存	長 17.0 幅 7.2 厚 3.0	粗粒安山岩	—	平坦面が磨滅する。	重660g
183-7 129	雜器 磨石	覆土内 完存	長 15.6 幅 6.9 厚 5.6	ひん岩	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重870g
183-8 128	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.1	白色微粒子	還元焰 灰白	半截作りか。自然剥付着の為詳細不詳。	笠懸系
183-9 128	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白色微粒子 白色鉱物粒子	酸化焰 黒灰	半截作り。凸面轆轤成形。側面取切り2回。 凹面粘土板剥ぎ取り痕。	笠懸系

B区第111号住居跡

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成色調	器形・技法等の特徴	備考
185-1 129	須志器 坏	床直層 片	口 12.3 底 6.0 高 3.7	微粒質母 白色微粒子	酸化焰 純橙	轆轤成形 (右回転)、底部は回転削りか。	藤岡系か
185-2 129	須志器 埴	床直層 片	口 13.6 底 6.6 高 5.3	白色鉱物粒子	還元焰 灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。	乗附系か
185-3 129	土師器 壺	覆土内 破片	口 (18.8)	微粒質母 黒色鉱物粒子 細粒砂	酸化焰 橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は 削り、口縁部は横溝で、内面胴部は旋削で。	藤岡系
185-4 129	須志器 壺	覆土内 破片	底 (15.0)	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰 灰白	紐作り後轆轤成形 (右回転)。	乗附系か
185-5 129	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子 透明鉱物粒子	還元焰 灰白	一枚作り。凹面縦位の無で整形。凸面斜格子 叩き。端部面取り1回。	笠懸系
185-6 129	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰 焼締	桶巻き造りか。凹面布目刷り消し。凸面縄叩 き(密)後溝で整形後更に縄叩き(密)を施 す。	吉井系 か
185-7 129	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.7	白色微粒子	還元焰 黒灰	一枚作り。凹面布目刷り消し。凸面縄叩 き。側面面取り2回・端部面取り2回。	笠懸系

B区第112号住居跡

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成色調	器形・技法等の特徴	備考
186-1 129	土師器 坏	覆土内 片	口 11.9 高 3.6	白色微粒子 微粒質母 黒色鉱物粒子	酸化焰 橙	型作り。口縁部直立気味。体部・底部は旋削 り整形。器内面は溝で整形。	藤岡系

B区(110・111・112・113・114号住居跡)

186-2 130	土 鉢 器 坏	覆土内 破片	口 (12.3)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内両気味。体部・底部は篋形り整形。器内面は無で整形。	藤岡系
186-3 130	土 鉢 器 坏	覆土内 破片	口 (14.3)	白色微粒子 黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋形り。体部に彫溝を残す。	藤岡系
186-4 129	土 鉢 器 坏	覆土内 片	口 (15.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り。口縁部は外傾し体部は斜位の篋形り、底部は篋形整形。口縁部器内面放射状凹凸を施す。	藤岡系
186-5 130	須 恵 器 坏	覆土内 破片	胴 4.0	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。胴部は貼り付け。	秋間系
186-6 130	須 恵 器 坏	覆土内 破片	口 (14.4) 底 (8.5) 高 (3.7)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は凹転脱起し。	秋間系
186-7 130	須 恵 器 皿	覆土内 片	口 (12.3)	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	秋間系か 飛船系
186-8 130	須 恵 器 内黒土器 埴	覆土内 片	底 8.2	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	黄褐色	轆轤成形(右回転)。付高台。器内面に暗文を施す。	藤岡系 笠懸系
186-9 130	須 恵 器 埴	覆土内 片	口 (20.0)	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。	秋間系
186-10 130	須 恵 器 埴	覆土内 片	口 (19.9)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	飛船系
186-11 130	須 恵 器 鉢	覆土内 破片	口径(25.8)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	型作り後轆轤整形(右回転)。胴部直下に2条の横線を施す。	秋間系
186-12 130	鉄 器 不 詳	破片	幅 0.6 重 3.3	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。2個体の製品が錆化により接合している。断面は長方形と正方形状である。	—
186-13 瓦-597 130	瓦 女 瓦 文	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋形き文字瓦「山成」(凸面)。凹面布目滑り消し。側面取り5回。	吉井系
186-14 130	瓦 女 瓦 細片	覆土内 破片	厚 1.5	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面寄木直。凸面鈍叩き(密)。側面取り出し残有り。	秋間系

B区第113号住居跡

押出番号 図録番号	種 別	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形・技 法等の特 徴	備 考
187-1 130	須 恵 器 坏	覆土内 破片	胴 4.0	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。胴部は貼り付け。内面白 然釉付着。	飛船系
187-2 130	須 恵 器 埴	覆土内 破片	底 (8.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
187-3 130	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.2	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	黄灰	半截作り。凸面轆轤整形。端面取り2回。	秋間系
187-4 130	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	半截作り。凸面轆轤整形。側面取り3回・ 端面取り1回。	秋間系
187-5 130	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色微粒子	還元焰	灰白	型作り。両面縦位の撫で整形。側面取り2 回。	吉井系
187-6 130	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.8	黒色粒子 白色粒子	中性焰	灰	桶巻き造り。凸面鈍叩き(密)凹面横骨痕。 端面取り1回。	秋間系
188-1 130	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.5	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面横骨痕。粘土剥ぎ取り痕。 凸面鈍叩き(密)整形後轆轤無での再整形。	秋間系
188-2 130	瓦 女 瓦	覆土内 破片	重 1.2	白色微粒子	酸化焰	橙	桶巻き造り。凹面横骨痕。粘土剥ぎ取り痕。 凸面鈍叩き(密)整形後轆轤無での再整形。	吉井系

B区第114号住居跡

押出番号 図録番号	種 別	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形・技 法等の特 徴	備 考
189-1 130	土 鉢 器 坏	覆土内 破片	口 (11.3) 高 (3.0)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部変状工具の横撫により直 立気味。底部は篋無で。	藤岡系

遺物一覧表

189-2 130	須恵器 坏 蓋	覆土内 破片	径 7.0 口 (17.0) 高 3.0	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	端部は返りを有する。轆轤成形(右回転)。上半部は回転脱脂り。胴部は貼り付け。	秋田系
189-3 131	須恵器 査	覆土内 破片	口 (7.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	秋田系
189-4 131	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	還元焰	黄焼	紐作り。両面縦位の無で整形。側部面取り2回。	吉井系
189-5 131	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	半截作り。凸面隅叩き(密) 轆轤成形。側部面取り2回・端部面取り2回。	吉井系
189-6 131	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.3	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凹面寄木。側部面取り2回。	吉井系
189-7 131	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子	酸化焰 か二次焼成	橙	半截作り。凸面縦位の無で整形。	吉井系
189-8 131	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	黄灰	半截作り。凸面縦位の無で整形。端部面取り2回。	笠懸系
189-9 131	瓦 男 瓦	覆土内 細片	厚 1.7	白色微粒子	中性焰	褐灰	半截作り。凸面轆轤成形。凹面粘土板割り笠取り痕。	笠懸系
189-10 131	瓦 男 瓦	覆土内 細片	厚 1.2	白色微粒子 透明鉱物粒子 赤褐色粒子	酸化焰	黄橙	半截作り。凸面轆轤成形。側部面取り2回。粘土板接合は「Z」。	吉井系
189-11 131	瓦 女 瓦	埋土内 破片	厚 1.6	細粒砂	還元焰	灰白	柄巻き造りか。凸面隅叩き(密) 後無で整形。	秋田系
189-12 131	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子	中性焰	黄灰	柄巻き造り。凹面横脊痕。凸面隅叩き(密)。側部面取り2回・端部面取り3回。	吉井系
189-13 131	瓦 女 瓦	覆土内 細片	厚 2.0	白色鉱物粒子	還元焰	灰	柄巻き造り。凹面粘土板割り笠取り痕。凸面轆轤成形。	吉井系
190-1 131	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面縦位の無無で整形。端部面取り2回。	吉井系
190-2 131	瓦 女 瓦	覆土内 細片	厚 1.9	白色鉱物粒子	還元焰	灰	柄巻き造りか。凸面縦位の無で整形。	吉井系

B区第115号住居跡

押出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考	
191-1 251	土師器 坏	覆土内 破片	口 (10.2)	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は段を有する。器厚は薄く、体部に整膚を残し底部は脱脂り。	藤岡系
191-2 251	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.6)	白色微粒子	酸化焰	赤褐	型作り成形。口縁直下に整膚を残す。体部・底部は脱脂り。	藤岡系
192-1 131	須恵器 埴	床直層 瓦	口 (11.8) 底 6.6 高 4.1	白色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井系
192-2 131	須恵器 皿	覆土内 瓦	口 (13.8) 底 (6.4) 高 (3.4)	白色微粒子 微粒雲母	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井系
192-3 131	須恵器 埴	床直層 瓦	口 15.1 底 7.3 高 5.1	微粒雲母 赤褐色粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。付高台。内・外面に焼りが認められる。	藤岡系
192-4 131	須恵器 埴	床直層 瓦	底 6.8	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井系
192-5 131	須恵器 埴	覆土内 瓦	底 7.8	白色微粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井系
192-6 251	土師器 罍	覆土内 瓦	口 (19.1)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	紐作り。「コ」の字状口縁。外面胴部は脱脂り。口縁部は横無で。内面胴部は脱脂無で。	藤岡系
192-7 251	土師器 罍	覆土内 破片	底 (4.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	黒褐	紐作り成形後、脱脂り整形。	藤岡系
192-8 251	陶輪陶器 灰地塊	覆土内 破片	口 (13.0)	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。陶輪は脱脂。体部下半は回転脱脂り。	—
192-9 251	鉄器 釘	覆土内 先端欠損	幅 0.5 重 5.3	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。先端側は調査後の欠損により不分明。	—

192-10 251	鉄 器	器 群	覆土内 破片	幅 重	0.55 1.7	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。断面正方形状を呈する。両端は調査後の欠損。	—
192-11 251	鉄 器	器 群	覆土内 破片	幅 重	0.3 1.9	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。「S」字状に屈曲している。断面は正方形。	—
192-12 251	鉄 器	器 群	覆土内 破片	幅 重	0.3 1.9	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。断面正方形状を呈する。	—
192-13 251	鉄 釘	器 群	カマド内 頭部欠損	幅 重	0.35 3.3	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。断面やや長方形気味である。	—
192-14 131	瓦	瓦	カマド内 破片	厚	1.7	白色鉱物粒子	還元焰 焼締	灰	平截作り。凸面鈍引き整形(密)後縦位の無で丙整形。側面面取り4回・端部面取り4回。	吉井系
192-15 131	瓦	瓦	覆土内 破片	厚	2.4	白色鉱物粒子	中性焰	浅黄	柄巻き造り。凸面鈍引き(密)後縦位の無で整形。側面面取り2回・端部面取り2回。	吉井系
192-16 131	瓦	瓦	カマド内 破片	厚	1.5	白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	柄巻き造り。凹面横骨筋。凸面鈍引き整形。側面面取り2回・端部面取り2回。	吉井系

B区第116号住居跡

押印番号 図面番号	種別	種類	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
193-1 132	土師器	器 群	覆土内 破片	口 (12.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。器厚は薄く、体部に型腐を残し底部は蓋削り。	藤岡系
193-2 132	須恵器	器 群	カマド内 破片	口 (16.2)	白色微粒子	中性焰	黄灰	縦縞成形(右回転)。	吉井系
193-3 132	須恵器	器 群	カマド内 破片	口 (17.2)	白色微粒子	酸化焰	赤・灰 赤・黒	縦縞成形(右回転)。器内面に暗文を施す。	笠懸系
194-1 131	須恵器	器 群	カマド内 破片	底 (7.0)	黒色微粒子	還元焰	灰黄	縦縞成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
194-2 131	須恵器	器 群	覆土内 破片	底 (7.0)	白色微粒子	還元焰	灰白	縦縞成形(右回転)。底部は回転蓋削り。	秋間系
194-3 131	須恵器	器 群	カマド内 瓦	—	白色微粒子 白色微粒子 微粒雲母	還元焰	灰	縦縞成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	吉井系
194-4 132	須恵器	器 群	覆土内 破片	底 6.4	白色微粒子 微粒雲母 赤褐色粒子	酸化焰	橙黄	縦縞成形(右回転)。付高台。	藤岡系
194-5 132	須恵器	器 群	床直層 ほぼ完整	口 14.0 底 7.9 高 2.8	白色微粒子	還元焰	新・白灰 外・黒灰	縦縞成形(右回転)。付高台。内外面を焼成時に焼している。	秋間系
194-6 132	土師器	器 群	覆土内 破片	口 (19.0)	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り。外面割部は蓋削り、口縁部は横線で、内面割部は蓋削り。	藤岡系
194-7 131	土師器	器 群	覆土内 破片	—	白色微粒子 黒色微粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。胴部は貼り付け。	藤岡系
194-8 132	須恵器	器 群	覆土内 破片	底 (16.4)	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	白灰	縦縞成形(右回転)。付高台。器内面に火跡が認められる。	秋間系
194-9 132	石製品	器 群	覆土内 破片	—	蛇紋岩	—	—	灰・整形時の磨痕が認められるが詳細は不分明。	—
195-1 瓦-648	瓦	瓦	覆土内 破片	厚 2.2	微粒砂	還元焰	白灰・ 黒	瓦当意匠は飛弁七葉蓮華文。	秋間系
195-2 瓦-649	瓦	瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色微粒子	還元焰	灰	単弁5葉蓮華文。中房の字葉は1+4。	吉井系
195-3 瓦-650	瓦	瓦	カマド内 破片	厚 1.7	白色微粒子	還元焰	灰	195図-2と同一個体と考えられる。	吉井系
195-4 瓦-651	瓦	瓦	覆土内 破片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	灰	195図-2と同一個体。	吉井系
195-5 132	瓦	瓦	カマド内 瓦	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰黄	平截作り。凸面縦位の無で整形。側面面取り3回。	吉井系
195-6 133	瓦	瓦	カマド内 瓦	厚 1.7	黒色粒子 白色粒子	還元焰 焼締	灰	平截作り。凸面鈍引き整形(密)後縦縞丙整形。側面面取り2回・端部面取り2回。	秋間系

遺物一覧表

196-7 132	瓦 女瓦	カマド内 坪	厚	2.5	白色藍物粒子	還元焰	灰褐	一枚作りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
196-1 瓦-598 132	瓦 女瓦	覆土内 突形	長 広 狭	39.0 28.8 22.0	白色藍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回・端部面取り3回。縦書き文字瓦「秋口」(凸面)。	厚3.0cm 重5.6kg 吉井系

B区第117号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
197-1 133	須恵器 埴	床直層 ほぼ完形	口 底 高	13.5 7.8 3.0	白色藍物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井系
197-2 133	須恵器 埴	カマド内 破片	口 (13.0)	白色藍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤成形(右回転)。	秋間系	
197-3 瓦-599 133	瓦 女瓦	カマド右 壁 瓦	厚	2.2	白色藍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り4回。縦書き文字瓦「不詳」(凸面)。	吉井系

B区第118号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
198-1 133	土師器 埴	覆土内 一部欠損	口 高	11.7 4.0	黒色藍物粒子 白色藍物粒子 微粒霞母	酸化焰	鈍橙	型作り成形(紐)。口縁部・器内面は模撫で、体部に型磨を残す。底面に摩砂痕有り。蓋は須恵器環と考えられる。	藤岡系
198-2 133	土師器 埴	覆土内 坪	口 高	12.7 4.5	白色藍物粒子 微粒霞母	酸化焰	黄橙	型作り成形(紐)。口縁部は外傾する。口縁直下に腹磨を残し、下半部は直削り。底部は篋削り。	藤岡系
198-3 133	須恵器 埴	カマド内 ほぼ完形	口 底 高	10.9 5.5 3.7	白色藍物粒子 微粒霞母	還元焰	暗灰 白灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	吉井系か
198-4 133	須恵器 埴	掘り方内 坪	口 底 高	11.6 3.2 5.2	白色藍物粒子	還元焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	不詳 搬入品か
198-5 133	須恵器 埴	カマド内 破片	口 (11.0)	白色藍物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	搬入品か	
199-1 133	須恵器 埴	覆土内 坪	口 (12.0)	細粒砂	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	吉井系	
199-2 133	須恵器 埴	覆土内 ほぼ完形	口 底 高	12.0 5.8 3.9	白色藍物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	不詳
199-3 133	須恵器 埴	覆土内 坪	口 底 高	12.3 4.9 4.1	白色藍物粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	吉井系
199-4 133	須恵器 埴	ビッド内 坪	口 (12.4) 底 高	8.1 3.4	白色藍物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。回転部起し。	秋間系
199-5 133	須恵器 埴	覆土内 坪	口 (12.2)	微粒霞母 デイヤイト	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。器外面に墨書「平」。	吉井・藤岡系	
199-6 133	須恵器 埴	カマド内 坪	口 底 高	12.4 5.6 5.2	微粒霞母 白色藍物粒子	還元焰 中性焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
199-7 134	須恵器 埴	覆土内 破片	底	5.6	微粒霞母 白色藍物粒子	還元焰 中性焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
199-8 134	須恵器 埴	覆土内 坪	口 底 高	13.2 6.8 4.8	白色藍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井系
199-9 134	須恵器 埴	覆土内 破片	—	—	白色藍物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	秋間系か

B区(117・118号住居跡)

199-10 134	須 器 器 皿	覆土内 瓦 片	□ (13.2) 底 7.6 高 2.6	黒色粒子	還元焰	灰	縦織成形(右回転)。付高台。	乗附系
199-11 133	土 師 器 甕	覆土内 破片	□ (20.5)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	紐作り。口縁部は外反する。外面割部は寛削り。口縁部は横狭で、内面割部は寛狭で。	藤岡系
199-12 133	須 器 壺	ビツト内 破片	□ (16.8)	白色微粒子	酸化焰 中性能	暗灰	紐作り後縦織成形(右回転)。器内・外面を吸炭している。	不詳
200-1 134	須 器 壺	カマド内 破片	頸 (9.5)	デザート 微粒雲母	酸化焰	黄橙	紐作り後縦織成形(右回転)。内面に傷りが見られる。	吉井・藤岡系
200-2 133	須 器 羽 釜	床直層 破片	□ (18.0)	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後縦織成形(右回転)。罫は貼り付け。	吉井形羽釜 甲斐型羽釜
200-3 133	須 器 羽 釜	床直層 破片	□ (18.0) 罫 (22.2)	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	口縁部は内傾する。紐作り後縦織成形(右回転)。罫は貼り付け、割部下半・底部は寛削り。	吉井形羽釜 甲斐型羽釜
200-4 133	須 器 羽 釜	カマド内 破片	□ (20.3)	細粒砂	酸化焰	明黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後縦織成形(右回転)。罫は貼り付け。	吉井形羽釜 甲斐型羽釜
200-5 251	須 器 羽 釜	床直層 破片	□ (23.0)	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	口縁部は内傾する。紐作り後縦織成形(右回転)。罫は貼り付け、割部下半・底部は寛削り。	吉井形羽釜 甲斐型羽釜
200-6 134	施軸陶器 灰 軸 境	覆土内 瓦 片	□ (12.4) 底 4.0 高 6.4	密	良好	灰白	縦織成形(右回転)。付高台。	—
200-7 134	鉄 器 不 詳	覆土内 不詳	長 3.9 幅 0.5 厚 0.5	—	—	—	先端部が欠損する。細い棒状で断面正方形状を呈する。鍛えはややいい。	重2.7g
200-8 134	鉄 器 不 詳	覆土内 両端欠損	幅 0.6 厚 0.1 重 4.6	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。左端は「U」字状に曲がっている。両端は調査後の欠損により失っている。	—
200-9 134	鉄 釘 釘 か	覆土内 先端欠損	幅 0.75 重 15.0	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。調査後の欠損も著しい。断面は丸味で帯びた正方形状であるが、錆化による可能性もある。	—
200-10 134	鉄 器 刀 子	覆土内 完存	全長 14.3 身長 7.3 茎長 7.0	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。茎関係に木質が残存する。全体に研ぎ跡が顕著である。	重ね0.3m 重12.5g
200-11 134	鉄 器 有袋鉄片	覆土内 完存	長 8.8 重 88.5	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。又、調査後の錆化も非常に著しく破損部分が多い。	—
200-12 134	鉄 器 不 詳	覆土内 破片	厚 0.35 重 20.0	—	—	—	全体に錆化が著しい。錆化の状態からは、鑄鉄鍛造鉄とも判断し難い。全体は調査後の欠損。	—
200-13 134	鉄 器 不 詳	覆土内 不詳	重 7.4	—	—	—	全体に錆化が著しい。製品の錆とスラグ状の付着物が製品なのか否か判断し難い。	—
200-14 134	鉄 器 錐 鉄	ビツト内 破片	厚 0.4 重 3.9	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。錆化が全体にブロック状であることから鑄鉄と考えられる。	—
200-15 134	鉄 器 錐 鉄	ビツト内 破片	厚 0.4 重 5.5	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。錆化ブロック状であることから鑄鉄と考えられる。	—
200-16 134	磨 器 磨 石	ビツト内 一部欠損	長 13.4 幅 (9.5) 厚 4.3	粗粒安山岩	—	—	平ら面が使用に伴ない磨滅する。	重き900g
200-17 134	石 製 品 火 打 石	覆土内 瓦 片	長 11.1 幅 7.8	石英	—	—	楕円形状の自然礫を分割している。	重き370g
201-1 134	石 造 品 瓦 脚	ビツト内 一部欠損	長 18.0 幅 10.5 厚 10.3	未固結凝灰岩	—	—	地山土を削り出した支脚でカマドの袖等に利用されるものと同質のもの。	重 1,630g
201-2 134	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	酸化焰	橙	半載作り。凸面縦織成形。側面直取り1回。	笠笠系
201-3 134	瓦 女 瓦	カマド内 瓦 片	厚 1.1	微粒雲母 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	一枚作り。凸面縦位の無で整形。側面直取り1回・端部直取り1回。	吉井・藤岡系

遺物一覧表

201-4 134	瓦 女瓦	カマド内 瓦	厚 1.2	微粒雲母 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側面面取り1回・端部面取り1回。凸面に磨書・磨痕有り。	吉井・藤 岡系
202-1 瓦-600 135	瓦 女瓦	カマド内 瓦	長 40.8 底 29.1 狭 23.0	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。両面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側面面取り3回・端部面取り1回。磨書文字瓦「武美子」(凹面)。	重4.4kg 吉井系
203-1 135	瓦 女瓦	カマド内 瓦	長 38.4 底 29.0 狭 21.8	白色粒子 細粒砂	中性焰	灰黄	一枚作り。凸面木目叩き。側面面取り3回・端部面取り1回。	重2.7kg 吉井・藤 岡系
204-1 瓦-601 134	瓦 女瓦	佛壇坑内 瓦	厚 2.6	白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形・粘土板剥ぎ取り痕。側面面取り3回・端部面取り2回。刻印文字瓦「富」(凸面)。	吉井系 藤岡・ 金山瓦窯 か
204-2 136	瓦 女瓦	カマド内 瓦	厚 2.4 底 39.9	白色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	桶巻き造り。凹面横骨張。凸面鈍叩き(密)。側面面取り2回・端部面取り5回。	吉井系
205-1 135	瓦 女瓦	カマド内 瓦	長 36.8 底 27.1 厚 1.1	白色鉱物粒子 白色粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側面面取り1回・端部面取り1回。	吉井・藤 岡系

B区第119号住居跡

探出番号 図版番号	種別 種類	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
206-1 136	須恵器 坏	覆土内 瓦	口 11.6 底 5.5 高 3.9	白色微粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部切り磨しは不詳。	吉井系
206-2 136	須恵器 坏	覆土内 瓦	口 12.0 底 4.7 高 4.1	黒色鉱物粒子 微粒雲母	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。底部は回転系切り。二次焼成あり。	吉井系
206-3 136	須恵器 埴	覆土内 瓦	口 12.2 底 5.9 高 4.6	微粒雲母 白色微粒子 細粒砂	還元焰	鈍黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
206-4 136	須恵器 埴	覆土内 破片	底 7.5	微粒雲母 白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	不詳
206-5 136	須恵器 皿 破片	覆土内 破片	口 (22.2)	黒色粒子 微粒雲母	還元焰	灰	型作り成形か。口縁部に粘土紐の積み上げ痕が認められる。器面の整形は、轆轤と異なる器種である。	藤岡系か
206-6 136	須恵器 羽 蓋	カマド内 破片	底 (9.0)	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	黒褐	紐作り後轆轤整形(右回転)。外面荒張で再整形。器部周辺に布の圧痕が見られる。	吉井系 吉井型羽 蓋
206-7 136	鉄器 釘	覆土内 先端欠損	幅 0.75 重 30.8	—	—	—	全体に錆化が著しい。器部は一辺3cm程で形乃至正方形状を呈する。又、単なる折り返しによる造作とは考えられない。	—
206-8 136	鉄器 不詳	覆土内 破片	幅 1.2 重 17.4	—	—	—	比較的錆化は少ない。断面長方形状を呈する。調査後の欠損部分が多い。	—
206-9 136	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 4.9	—	—	—	錆化は顕著である。両端部に調査以前の欠損である。断面長方形状を呈する。	—
206-10 136	陶胎陶器 灰輪軸	覆土内 瓦	口 (15.3) 底 7.9 高 5.0	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。遺物は浸損。	—
206-11 136	瓦 男瓦	カマド内 瓦	厚 2.1	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	半轆作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面鈍叩き整形(密)。側面面取り3回・端部面取り2回。	吉井系
206-12 136	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	暗灰	半轆作り。凸面平行叩き。自然釉付着。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側面面取り3回。	吉井系
207-1 136	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	黄橙	一枚作り。凸面鈍叩き(密)(T字状)。側・端部に布圧痕。側面噴出し段有り。側面面取り3回。	秋間系
207-2 137	瓦 女瓦	床直層 瓦	厚 1.9	白色微粒子 微粒砂	酸化焰 か二次 焼成	浅黄橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側面面取り1回・端部面取り1回。釘穴を有する。	秋間系か

B区(119・120号住居跡)

207-3 136	瓦 女瓦	床直衝 破片	厚 0.7	白色微粒子 微粒砂	酸化焰 か二次 焼成	浅黄橙	一枚作り。凸面縦位の無で整形。側面取り 7回・端部面取り1回。	杖間系か
207-4 136	瓦 女瓦	カマド内 瓦	厚 1.4	白色鉱物粒子 細粒砂	酸化焰	黄橙	横巻き造り。凸面非常に小単位な横骨筋。凸 面平行叩き(木目)。側面取り3回・端部面 取り2回。	吉井系
207-5 136	瓦 女瓦	カマド内 瓦	厚 1.2	微粒雲母 白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凸面縦位の無で整形。側面取り 1回・端部面取り1回。	藤岡系

B区第120号住居跡

押出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	寸目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
209-1 137	須恵器 埴	覆土内 瓦	口 13.8 底 5.6 高 4.8	白色微粒子 微粒雲母	還元焰	黄灰	無職成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
209-2 138	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口(21.1)	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	暗灰	口縁部は内高する。紐作り後無職整形(右回 転)。跡は貼り付け。	吉井羽須 釜 甲式 種伊類
209-3 138	磁器 燗石	覆土内 宛存	長 10.6 幅 9.5 厚 3.4	粗粒安山岩	—	—	平ら面が使用に伴ない磨滅する。	重520g
209-4 138	磁器 燗石	覆土内 宛存	長 12.0 幅 8.2 厚 3.1	粗粒安山岩	—	—	平ら面が使用に伴ない磨滅する。	重525g
209-5 138	磁器 燗石	覆土内 宛存	長 14.4 幅 9.6 厚 5.1	粗粒安山岩	—	—	平ら面が使用に伴ない磨滅する。	重 1.069g
209-6 138	磁器 燗石	カマド内 宛存	長 12.5 幅 8.5 厚 3.3	実質安山岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重520g
209-7 138	磁器 燗石	覆土内 宛存	長 15.5 幅 6.2 厚 3.8	粗粒安山岩	—	—	平ら面が使用に伴ない磨滅する。	重590g
209-8 138	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 15.9	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。調査後の錆化欠損 により詳細不明。除色状のものが認められる。	—
209-9 138	鉄器 釘	覆土内 破片	幅 0.5 重 9.6	—	—	—	錆化が著しく調査後の欠損により破損してい る。一方は緩やかに曲がっている。	—
209-10 138	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 6.2	—	—	—	全体に錆化が著しい。「く」の字状に屈曲して いる。断面は正方形状か。	—
209-11 138	鉄器 仏具か 鏡	覆土内 不分明	厚 0.4 寸 5 重 0.5	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。内面が外面側か不 分明であるが耳状の瘤状突起を付す。	内耳鍋か 重85.4g
209-12 138	金銅製品 飾り金具	覆土内 破片	重 7.3	—	—	—	全体に錆化が及んでいるが、埋金の遺存は比 較的良好。背面側の端部に2ヶ1対の足を有 する。	—
209-13 瓦-602	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰 焼締	暗灰	一枚作りか。凸面縦位の無で整形。雲蓋き文 字瓦「不詳」(凸面)。	吉井系
209-14 137	瓦 男瓦	カマド内 瓦	厚 1.9	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰 焼締	暗灰	半載作り。凸面叩き整形(密)後縦位の無 で再整形。凸面自然輪付着。凹面布合せ目取。	吉井系
210-1 137	瓦 男瓦	カマド内 瓦	狭 12.8 厚 1.6	白色粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面無職整形。側面取り3回・ 端部面取り3回。粘土板接合は「Z」。	笠懸系
210-2 137	瓦 男瓦	床直 瓦	広 18.9 厚 1.9	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面無職整形。凸面粘土板割ぎ取 り痕・布合せ目取。側面取り3回・端部面 取り2回。粘土板接合は「Z」。	吉井系か
211-1 137	瓦 女瓦	覆土内 瓦	厚 2.2	黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	横巻き造り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面 叩き(密)。側面取り4回・端部面取り3回。	兼肘系
211-2 137	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰黄	一枚作り。凸面叩き(密)後縦位の無で整 形。側面取り1回。	兼肘系か 吉井系か

遺物一覧表

B区第122号住居跡

押印番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	寸目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
213-1 138	須恵器 環	傍壺坑内 破片	□ (12.2) 底 (6.0) 高 (3.5)	黒粒雲母 赤褐色粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	太田系か
213-2 138	須恵器 環	覆土内 破片	□ (14.0) 底 (7.0) 高 (4.0)	黒粒雲母	中性焰 酸化焰	鈍褐	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	太田系か
213-3 138	須恵器 環	カマド内 破片	□ (14.4) 底 (8.6) 高 (3.6)	黒色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
213-4 138	須恵器 環	覆土内 片	□ (14.8) 底 7.4 高 (5.4)	黒粒雲母 白色微粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
213-5 138	須恵器 環	傍壺坑内 片	□ (16.2)	白色鉱物粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	吉井・藤岡系
213-6 138	須恵器 鉢	覆土内 破片	□ (22.0)	赤褐色粒子	還元焰	にぶい 橙	轆轤成形 (右回転)。二次焼成を受けている。	秋間系
213-7 138	須恵器 環	覆土内 片	底 8.4	白色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
213-8 138	土師器 壺	覆土内 破片	□ (19.0)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 黒粒雲母	酸化焰	黄橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は覆削り、口縁部は横撫で、内面胴部は縦撫で。	藤岡系
213-9 138	土師器 壺	カマド内 破片	底 (4.8)	白色微粒子 黒粒雲母	酸化焰	鈍褐	紐作り成形後縦位の覆削り整形。	藤岡系
213-10 138	鉄器 釘	掘り方内 破片	重 2.9	—	—	—	全体に錆化が著しい。別個体の破片が付いている。釘か利器の茎と考えられる。	—
213-11 138	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚 2.4	白色微粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	作り不評。凸面縦位の撫で整形。側面面取り2回・端部面取り2回。	笠懸系か
213-12 138	瓦 男瓦	傍壺坑内 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半軟作り。凸面縦位の撫で整形。側面面取り4回。	吉井系
214-1 瓦-603 138	瓦 男瓦	床直 片	厚 2.5	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側面面取り3回・端部面取り1回。凹面粘土板剥ぎ取り痕。裏書き文字瓦「上」(凸面)。	吉井系
214-2 瓦-604 139	瓦 女瓦	カマド内 片	厚 2.5	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側面面取り5回。裏書き文字瓦「口幸」(凸面)。	吉井系
214-3 瓦-605 139	瓦 女瓦	カマド内 片	長 40.3 厚 2.0	白色鉱物粒子 シルト	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側面面取り3回・端部面取り3回。裏書き文字瓦「馬」(凸面)。	吉井系
214-4 138	瓦 女瓦	傍壺坑内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子	中性焰	鈍橙	桶巻き造りか。凹面横骨痕。凸面縦位の撫で整形。側面面取り3回・端部面取り1回。	吉井系
215-1 139	瓦 女瓦	傍壺坑内 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面白布目消し。凸面撫で整形後粘土印き整形。側面面取り2回・端部面取り1回。	笠懸系
215-2 139	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰 焼締	灰	桶巻き造りか。凸面横印き。	中之条系

B区第123号住居跡

押印番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	寸目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
216-1 139	土師器 環	覆土内 破片	□ (11.0)	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。体部外面は横位の覆削り、内面に暗文を施すが脱落程度は見られない。	藤岡系
216-2 139	須恵器 環	覆土内 破片	□ (12.8)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。内外面自然軸付き。	秋間系
216-3 139	須恵器 蓋	覆土内 破片	□ (16.0)	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。蓋は貼り付け轆轤成形。	秋間系
216-4 139	土師器 壺	覆土内 破片	□ (13.0)	黒粒雲母 白色微粒子	酸化焰	暗褐	口縁部は外傾する。紐作り。口縁部は横撫で、内面は縦撫で。	藤岡系

B区(122・123・121・124号住居跡)

216-5 139	瓦製門扉	覆土内 完存	長 幅 厚	3.6 3.1 1.9	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	平載作り男瓦を転用している。	瓦は吉井系
216-6 139	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚	1.2	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の無で整形。側面取り 1回。	吉井・藤 岡系

B区第121号住居跡

探出番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
218-1 250	須恵器 坏	カマド内 破片	口 (12.0)	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	轆轤成形(右回転)。	藤岡系
218-2 250	須恵器 坏	カマド内	底 6.0	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	吉井系か
218-3 139	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚 1.6	白色微粒子 白色粒子	中性焰	灰黄	平載作り。凸面轆轤整形後縦位の無で整形。 側面取り2回・端面取り3回。	吉井系
219-1 139	瓦 女瓦	カマド内 片	厚 2.2	白色微粒子	酸化焰	黄橙	一枚作りか。凹面粘土板割ぎ取り肌。凸面側 叩き(密)後縦位の無で整形。側面取り2 回・端面取り3回。	吉井系
219-2 139	瓦	カマド内 破片	厚 1.8	白色微粒子	還元焰 焼締め	灰	検査き道り凹面横骨肌・粘土板割ぎ取り肌。 凸面轆轤整形後縦位の無で整形。	吉井系
219-3 139	瓦 女瓦	カマド内 片	厚 1.7	白色微粒子	還元焰	暗灰	平載作り。凸面轆轤整形後縦位の無で整形。 側面取り3回・端面取り3回。	吉井系

B区第124号住居跡

探出番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
220-1 140	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.3)	白色微粒子 微粒寄母 黒色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横無で、底部 は彫削り。体部に型痕を残す。	藤岡系
220-2 140	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.2)	黒色微粒子 白色微粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横無で、底部 は彫削り。体部に型痕を残す。	藤岡系
220-3 140	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.4)	白色微粒子 黒色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部に型痕を残す。体部は斜 位気味の彫削りを実施。器内面に彫文を施す。	藤岡系
220-4 140	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0)	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は段を有する。器厚は薄 く、体部に型痕を残し底部は彫削り。	藤岡系
220-5 140	土師器 坏	覆土内 破片	口 (15.4)	赤褐色粒子 白色微粒子 シルト質	中性焰	橙	型作り成形。口縁直下に型痕を残す。体・底 部は彫削り、器内面に彫文を施す。	藤岡系
220-6 140	須恵器 坏	床直壁 ほぼ完形	口 14.8 脚 3.9	白色微粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。 上半部は回転彫削り。横部は貼り付け。	秋間系
220-7 140	須恵器 坏	覆土内 片	脚 4.0	白色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。天上部は回転彫削り。	秋間系
220-8 140	須恵器 坏	覆土内 破片	脚 (3.4)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。天上部は回転彫削りを実施 す。	秋間系
220-9 140	須恵器 坏	覆土内 片	口 (11.2) 底 (8.0) 高 (3.8)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
220-10 140	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (11.6) 底 (7.0) 高 (3.3)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	黒灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。外面 自然釉付着。	秋間系
220-11 140	須恵器 坏	覆土内 片	口 (12.0) 底 (7.4) 高 (3.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
220-12 140	須恵器 坏	床直壁 片	口 13.0 底 7.0 高 4.0	白色微粒子 微粒寄母	中性焰	浅黄橙 黄灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
220-13 140	須恵器 坏	覆土内 片	口 (12.4) 底 (7.0) 高 (3.7)	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転彫削り。	秋間系

遺物一覧表

220-14 140	須恵器 環	覆土内 片	□ 13.4 底 6.5 高 3.6	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	褐	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
220-15 140	須恵器 環	覆土内 片	底 7.8	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。底部周辺部に磨痕が認められる。	秋間系
220-16 140	須恵器 塊	覆土内 ほぼ完形	□ 11.0 底 6.6 高 5.1	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
221-1 140	須恵器 円面硯	覆土内 破片	□ (14.0)	白色微粒子	酸化焰	新・硝 煙 内・外 黒	轆轤成形(右回転)。体部に6ヶ所の窓を具備したと考えられる。	吉井系
221-2 140	須恵器 土	覆土内 破片	□ (24.0)	白色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
221-3 140	土師器 壺	覆土内 破片	□ (19.9)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄緑	紐作り。口縁部は外反する。外面側部は篋削り。口縁部は横無で、内面側部は凹無で。	藤岡系
221-4 140	土師器 壺	覆土内 破片	—	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	紐作り。口縁部は外反する。外面側部は篋削り。口縁部は横無で、内面側部は凹無で。	藤岡系
221-5 140	土師器 小形壺	覆土内 破片	□ (12.2)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍赤褐	紐作り。口縁部は外反する。外面側部は篋削り。口縁部は横無で、内面側部は凹無で。	藤岡系
221-6 140	須恵器 大壺	覆土内 破片	厚 1.2	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。横線間に5本1単位の波状文を施す。	秋間系か 栗附系
221-7 140	雑器 不詳	覆土内 完存	長 5.4 幅 4.7 厚 2.1	ニツ房軽石	—	—	全体が人為的な磨滅により形を成している。	重30g
221-8 140	雑器 礫石	覆土内 完存	長 12.9 幅 5.9 厚 3.5	石英閃緑岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重540g
221-9 140	雑器 礫石	覆土内 完存	長 17.7 幅 6.6 厚 5.4	実質安山岩	—	—	上面が使用に伴ない磨滅が認められる。	重970g
221-10 140	石製品 砥石か	覆土内 片	長 13.8 幅 15.1 厚 6.8	粗粒安山岩	—	—	平坦面が非常によく磨滅する。深部底位の溝が多数集中し認められる。	重2570g
221-11 互-652	瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色微粒子	還元焰	灰	一本作り。半弁5葉蓮華文、中房の子葉は1+5。背面布目。男瓦部は半載作り。	笠懸系
222-1 141	瓦 玉縁付 男瓦	覆土内 破片	厚 3.3	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	半載作り。凸面轆轤整形。玉縁接合は人形。	秋間系
222-2 141	瓦 瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面轆轤整形後凸面網叩き。側面取り2回。	吉井系
222-3 141	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色微粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面轆轤整形。側面取り3回・端部取り2回。	笠懸系
222-4 141	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面轆轤整形。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側面取り1回。端部取り1回。	栗附系
222-5 141	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.0	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	暗灰	半載作り。凸面轆轤整形・自然軸付着。端部面取り2回。	笠懸系
222-6 141	瓦 男瓦	覆土内 細片	厚 1.1	白色微粒子	還元焰	灰褐	半載作り。凸面轆轤整形。側面取り3回・端部取り1回。	笠懸系
222-7 141	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	橙	一枚作り。凹面寄木板。凸面斜格子叩き。	笠懸系
222-8 141	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.6	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面横骨痕。凸面網叩き。側面取り2回・端部取り1回。	中之条系
222-9 141	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.5	白色鉱物粒子	還元焰 焼締め	灰	一枚作り。凸面網叩き(密)後縦位の無で整形。	吉井系
222-10 141	瓦 女瓦	掘り方内 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子	還元焰 焼締め	灰	一枚作りか。凸面網叩き(密)後縦位の無で整形。	吉井系

B区(125号住居跡)

222-11 141	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子	酸化焙	梅状	一枚作り。凸面縦位の楕で整形。側面面取り 2回・端面面取り1回。	不詳
222-12 141	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.3	白色鉱物粒子	還元焙	暗灰	一枚作り。凸面縦位の楕で整形。	笠懸系

B区第125号住居跡

検出番号 図記番号	種別	出土位置 遺存状態	径目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	形状・技法等の特徴	備考
223-1 142	土師器 環	覆土内 破片	口 (10.5) 高 (2.6)	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子 微粒霞母	酸化焙	橙	型作り成形。口縁部は内湾気味。口縁直下に 型腐を残す。底部は笠削り。	藤岡系
223-2 142	土師器 環	覆土内 破片	口 (12.2)	白色鉱物粒子 微粒霞母 黒色鉱物粒子	酸化焙	鈍黄橙	型作り成形。口縁部は段を有する。器厚は薄 く、体部に型腐を残し底部は笠削り。	藤岡系
223-3 142	土師器 環	覆土内 破片	口 (13.0)	白色鉱物粒子 微粒霞母 黒色鉱物粒子	酸化焙	鈍橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は笠削り。体部に型腐を残す。	藤岡系
223-4 142	土師器 環	覆土内 破片	口 (13.1)	白色鉱物粒子 微粒霞母 黒色鉱物粒子	酸化焙	鈍黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は笠削り。体部に型腐を残す。	藤岡系
223-5 142	土師器 環	覆土内 破片	口 (14.2)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子 微粒霞母	酸化焙	浅黄橙	型作り成形。口縁部は段を有する。器厚は薄 く、体部に型腐を残し底部は笠削り。	藤岡系
223-6 143	土師器 環	床直層 片	口 12.3 底 8.1 高 4.2	白色鉱物粒子 微粒霞母	酸化焙	浅黄橙	型作り成形。器内面に放射状暗文を施す。器 厚は厚く、体部に型腐を残し底部は笠削り。	藤岡系
223-7 142	土師器 環	覆土内 片	口 (14.0) 底 (8.8) 高 (4.2)	白色鉱物粒子 微粒霞母	酸化焙	黄橙	型作り成形。器内面に二重暗文を施す。器厚 は薄く、体部に型腐を残し底部は笠削り。	藤岡系
224-1 143	須恵器 蓋	覆土内 片	横 3.5 口 3.8 高 3.2	白色鉱物粒子	還元焙	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。 上半部は回転笠削り。横部は貼り付け。	秋間系
224-2 143	須恵器 環蓋	覆土内 片	横 (4.2) 口 (14.4) 高 (3.2)	白色鉱物粒子	還元焙	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。 上半部は回転笠削り。横部は貼り付け。	秋間系
224-3 143	須恵器 環蓋	覆土内 片	横 2.2 口 18.4 高 4.1	白色鉱物粒子	還元焙	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。 上半部は回転笠削り。横部は貼り付け。	秋間系
224-4 143	須恵器 環蓋	覆土内 片	横 4.7 口 19.4 高 4.5	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焙	白灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。 上半部は回転笠削り。横部は貼り付け。	秋間系
224-5 143	須恵器 環蓋	覆土内 破片	口 (10.0) 高 (3.3)	白色鉱物粒子	還元焙	灰白	轆轤成形(右回転)。上半部は回転笠削り。	秋間系
224-6 142	須恵器 蓋	覆土内 破片	横 (14.0)	白色鉱物粒子	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)。横は貼り付け後轆轤整形。	秋間系
224-7 142	土師器 環	覆土内 破片	口 (13.0)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子 微粒霞母	酸化焙	鈍黄橙	型作り成形。口縁部は段を有する。器厚は薄 く、体部に型腐を残し底部は笠削り。	藤岡系
224-8 143	須恵器 環	床直層 片	口 12.5 底 7.2 高 3.5	白色鉱物粒子	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
224-9 143	須恵器 環	床直層 片	口 14.6 底 7.4 高 3.9	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。内面 に自然輪付着する。	秋間系
224-10 143	須恵器 環	床面直上 一部欠損	口 15.2 底 7.8 高 3.5	白色鉱物粒子	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転笠削り。	笠懸系
224-11 143	須恵器 環	床直層 片	口 14.0 底 4.0	白色鉱物粒子	還元焙	灰青	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	東附系

遺物一覧表

224-12 143	須恵器 環	覆土内 破片	底 (9.0)	黒色微粒子	還元焰	白灰	輪軸成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋田系
224-13 142	土師器 小形壺	覆土内 破片	口 (9.9)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	紐作り。口縁部は外傾する(直立気味)。外面 胴部は置削り。口縁部は横撫で。内面胴部は 荒撫で。	藤岡系
224-14 142	土師器 小形壺	覆土内 破片	—	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は置削り。 口縁部は横撫で。内面胴部は荒撫で。	藤岡系
224-15 142	土師器 小形壺	覆土内 破片	口 (13.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	紐作り。口縁部は外傾する。外面胴部は置削り。 口縁部は横撫で。内面胴部は荒撫で。	藤岡系
224-16 142	土師器 小形壺	覆土内 破片	最径(15.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	紐作り成形後胴部上半は置削り、胴部下半は 荒撫でを施す。	藤岡系
224-17 143	土師器 台付壺 (脚部)	覆土内 破片	底 (9.6)	白色微粒子 黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍赤褐	紐作り成形後撫で整形。	藤岡系
224-18 143	須恵器 壺	床直層 片	底 7.3	白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後輪軸整形(右回転)。底部周辺は手持 ち置削り。内外面自然釉付着。	吉井系
224-19 142	須恵器 大壺	覆土内 破片	厚 0.7	黒色粒子	還元焰	黒・黄 灰・内・灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面短具 は青銅波文)。外面自然釉付着。	東海系
224-20 143	鉄器 釘	覆土内 先端欠損	重 13.1	—	—	—	全体に錆が及んでいるが比較的旧状を留めて いる。頭部は折り返し。	—
224-21 143	鉄器 釘 か	覆土内 破片	幅 0.9 厚 0.5 重 9.8	—	—	—	全体に錆化が及んでいるが比較的遺存状態は 良好である。断面は長方形形状を呈する。	—
224-22 143	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 2.8	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。上位個は調査以前 の欠損である。断面正方形形状を呈する。	—
224-23 143	鉄器 不詳	覆土内 破片	幅 0.3 重 0.8	—	—	—	全体に錆化が及んでおり、調査後両端を欠損 している。	—
224-24 143	鉄器 不詳	覆土内 破片	幅 0.3 重 1.1	—	—	—	全体に錆化が及び調査後両端を欠損している。 錆化は比較的少ない。全体に平坦である。	—
224-25 143	鉄器 不詳	覆土内 破片	幅 0.7 重 1.1	—	—	—	錆化は比較的少ない。全体に平坦である。	—
224-26 143	鉄器 不詳	覆土内 破片	幅 0.5 重 5.4	—	—	—	全体に錆化が著しく、調査後の欠損により破 損している。平面「コ」の字を呈しカコ等金 具と思われる。	—
224-27 144	石製 砥石	覆土内 瓦	長 (10.3) 幅 5.1 厚 1.7	砥沢石	—	—	4面に使用面が認められるもの、顕著な使用 面は1面のみである。	重220g
224-28 142	雑器 擦石	覆土内 完存	長 9.0 幅 3.1 厚 2.5	砂岩	—	—	側面に使用面がある。	重112g
224-29 142	雑器 擦石	覆土内 完存	長 12.0 幅 5.2 厚 3.4	粗粒安山岩	—	—	平坦面に使用に伴ない磨減している。	重420g
225-1 142	須恵器 大壺	覆土内 破片	厚 0.8	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形(外面板叩き・内面短具は 素文)。	栗附系か 藤岡系
225-2 143	瓦 男瓦	覆土内 片	厚 1.7	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面輪軸整形後縦位の撫で整形。 側面面取り3回・端面面取り2回。	吉井系 225図-3 と同一個 体
225-3 143	瓦 男瓦	床直層 片	厚 1.3	白色鉱物粒子	還元焰	灰	225図-2と同一個体。	吉井系
225-4 143	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面調叩き整形(密)後輪軸再整形。 形。	吉井系
226-1 143	瓦 男瓦	覆土内 片	厚 1.4	白色鉱物粒子	還元焰	白灰	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側面面取り 1回。	吉井系
226-2 143	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子	還元焰	白灰	半截作り。凸面調叩き整形(密)後輪軸再整形。 形。側面面取り2回・端面面取り1回。	吉井系

B区 (126号住居跡)

226-3 144	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	赤褐色粒子 グイサイト	還元焰	焼	柄巻き造り。凹面布目摺り消し(荒撫で)粘土板剥ぎ取り痕。凸面輪縁整形。側面取り2回・端面取り1回。	吉井系
226-4 144	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.3	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	柄巻き造り。凹面横骨板。凸面縦位の撫で整形。側面取り2回。	不詳
226-5 144	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面布目摺り消し。凸面刷叩き。	笠懸系
226-6 143	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目摺り消し。凸面撫で整形後格子叩き整形。側面取り2回・端面取り2回。	笠懸系
226-7 144	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.7	赤褐色粒子 白色粒子	還元焰	灰白	作り不詳。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側面取り1回。	吉井系
226-8 144	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色粒子 細粒砂	還元焰	灰白	柄巻き造り。凹面横骨板・粘土板剥ぎ取り痕。凸面輪縁整形後刷叩き(密)後縦位の撫で再整形。側面取り3回。	吉井系か
226-9 144	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.4	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目摺り消し。側面取り3回・端面取り1回。	笠懸系
226-10 144	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	シット粗粒子	還元焰	灰白	柄巻き造りか。凸面刷叩き(密)後縦位の撫で整形。	栗駒系
227-1 143	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	黒灰	一枚作りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面自然輪付着。側面取り2回・端面取り2回。	笠懸系
227-2 144	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色紅物粒子	還元焰	灰	柄巻き造り凹面横骨板。凸面撫で整形。側面取り2回・端面取り2回。	吉井系
227-3 144	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	黒色粒子 白色粒子 白色紅物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凹面縦位の撫で整形。側面取り1回・端面取り1回。	不詳
227-4 144	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色紅物粒子	還元焰	暗灰	横作り。凸面縦位の撫で整形。側面取り3回。	吉井系
227-5 144	瓦 女瓦 か 瓦 斗瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色紅物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の荒撫で整形。	吉井系
227-6 144	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.6	白色紅物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凹面縦位の荒撫で整形。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側面取り2回。	吉井系

B区第126号住居跡

押図番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	産目 量目 (g)	土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
228-1 144	須志 器 環	床直 破片	口 (13.2) 底 (6.6) 高 3.5	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
228-2 145	須志 器 環	覆土内 破片	口 (14.0)	黒色紅物粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	輪縁成形(右回転)。	吉井系
228-3 144	須志 器 鉢	床直層 破片	口 14.4 底 7.0 高 5.6	白色微粒子	還元焰	灰	輪縁成形(右回転)。付高台。	秋間系
228-4 145	須志 器 鉢	覆土内 破片	口 (15.2)	白色微粒子 黒色紅物粒子	還元焰	灰	輪縁成形(右回転)。高台欠損(付高台)。内面に傷り認められる。	秋間系か
228-5 144	須志 器 鉢	床直層 破片	口 (23.5)	黒色粒子	還元焰	灰白	輪縁成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	秋間系
230-1 145	須志 器 壺	床直層 破片	口径(30.0)	白色微粒子	還元焰	灰白	横作り。叩き整形(外面平行叩き・内面短具は青海文)後輪縁再整形。	秋間系
230-2 145	鉄 不 詳	覆土内 不詳	長 5.8 幅 1.1 厚 0.9	—	—	—	先筒部はやや先細り状である。平たい棒状製品である。器種の特定は不能。	重11.9g
230-3 145	礫 石 完存	カマド内 破片	長 11.2 幅 4.2 厚 3.5	粗粒安山岩	—	—	平ら面に使用に伴ない磨滅する。	重310g
230-4 144	瓦 玉縁 付 瓦	カマド内 破片	厚 1.6	白色微粒子 透明紅物粒子	還元焰	灰	平造り。凸面輪縁整形。側面取り2回。凹面布合せ目尻。玉縁接合はA類。	栗駒系
230-5 145	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.7	黒色粒子 白色紅物粒子	還元焰	灰	横作り。凸面輪縁整形後縦位の撫で整形。側面取り3回。	吉井系

遺物一覧表

230-6 146	瓦 女 瓦	カマド奥壁 瓦	厚 1.7	白色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。凹面布目磨り消し。凸面縦位の跡で整形。側面取り1回・端部面取り1回。	吉井系
230-7 145	瓦 女 瓦	覆土内破片	厚 1.8	白色粒子 細砂	還元焰	灰	柄巻き造り。凹面横骨痕・粘土板割ぎ残り痕。凸面磨叩き。側面面取り3回。	中之条系か
231-1 145	瓦 男 瓦	覆土内瓦	厚 1.1	黒色粒子	還元焰	白灰	半截作り。凸面磨叩き整形(密)後轆轤再整形。側面面取り2回・端部面取り2回。	秋田系
231-2 145	瓦 男 瓦	覆土内瓦	厚 2.0	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰 焼締	灰	半截作り。凸面磨叩き整形(密)後轆轤再整形。側面面取り2回・端部面取り3回。	乗附系
231-3 145	瓦 男 瓦	覆土内瓦	厚 1.7	黒色粒子	還元焰	白灰	半截作り。凸面轆轤整形。側面面取り1回・端部面取り1回。	秋田系
231-4 145	瓦 女 瓦	カマド内細片	厚 1.8	白色微粒子	酸化焰 か二次焼成	鈍黄橙	一枚作り。凹面布目磨り消し。凸面磨叩き。	笠懸系
231-5 145	瓦 女 瓦	覆土内破片	厚 1.6	白色粒子 破片	還元焰	灰	一枚作り。凸面磨砂痕。磨叩き(密)。側面面取り1回有り。側面面取り3回。	秋田系
231-6 146	瓦 女 瓦	覆土内瓦	厚 1.3 長 37.7	黒色粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面磨叩き(密)。凸面磨砂痕。側面面取り3回・端部面取り2回。	秋田系
232-1 145	瓦 女 瓦	覆土内破片 白色微粒子	厚 1.8	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	黒灰	一枚作りか。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面磨叩きの跡で整形。	笠懸系
232-2 145	瓦 女 瓦	覆土内破片 傍電坑周辺	厚 2.2	黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縦位の跡で整形。端部面取り2回。刷印文字瓦不詳(凸面)。	吉井系
232-3 145	瓦 女 瓦	覆土内破片	厚 1.7	黒色粒子	還元焰	白灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面磨叩き(密)・磨砂。側面面取り2回長書き文字瓦「大」か(凸面)。	秋田系
232-4 146	瓦 女 瓦	覆土内瓦	厚 2.1	黒色粒子 シルト粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凹面布目磨り消し。凸面磨叩き。(密)凸面磨砂痕。側面面取り3回・端部面取り1回。	秋田系

B区第128号住居跡

探査番号 図表番号	種別 種別	出土位置 遺存状態	産目 (cm) 数量 (個)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
233-1 146	土師器 壺	覆土内破片	口 (18.0)	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	赤褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外面割部は笠筒形、口縁部は横溝で、内面割部は直溝で、轆轤成形(右回転)。付高台。器内面に暗文を施す。器内面は炭灰を塗っている。	藤岡系
233-2 146	須恵器 内黒土器 埴	覆土内破片	底 (8.0)	白色微粒子 黒色粒子 デイスайト	酸化焰	外・橙 内・黒		藤岡系
233-3 146	須恵器 高坏	覆土内瓦	口 (15.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	秋田系
233-4 146	摩 磨石	覆土内 完存	長 4.5 幅 3.8 厚 2.8	石英閃緑岩	—	—	上面が使用に伴ない磨滅している。	重70g
234-1 146	石造品 不詳	覆土内破片	長 9.9 幅 3.3 重 80.0	粗粒安山岩	—	—	立方体を呈する石造品の一部と考えられる。面は磨き整形されている。	—
234-2 146	瓦 男 瓦	カマド内破片	厚 2.0	黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。側面面取り3回。	秋田系
234-3 146	瓦 玉縁村 男 瓦	覆土内破片	厚 2.1	細砂	還元焰	灰黄	半截作り。凸面轆轤整形。側面面取り3回。玉縁接合はA型。	乗附系
234-4 146	瓦 男 瓦	床直磨破片	厚 2.5	白色鉱物粒子 シルト粗粒子	還元焰	暗黄褐	半截作り。凸面轆轤整形。側面面取り4回・端部面取り3回。	吉井系
234-5 146	瓦 女 瓦	カマド内破片	厚 1.8	白色鉱物粒子 デイスайト	酸化焰	鈍黄橙	柄巻き造り凹面横骨痕。凸面磨叩き(密)後凸面縦位の跡で整形。側面面取り1回・端部面取り2回。	吉井系
235-1 147	瓦 女 瓦	カマド内 瓦形	長 40.5 広 26.0 狭 20.5	白色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	柄巻作り。凹面横骨痕。粘土板割ぎ取り痕。凸面磨叩き(密)整形後轆轤での再整形。側面面取り3回・端部面取り2回。	重360g 吉井系
235-2 147	瓦 女 瓦	覆土内破片	厚 1.7	黒色粒子 シルト粒子	還元焰 焼締	白灰	柄巻き造り。凹面横骨痕・凸面磨叩き(密)後、縦位の跡で整形。側面面取り3回。	笠懸系

B区 (128・129・130号住居跡)

235-3 146	瓦 女	カマド内 瓦	厚 2.3	白色微粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凹面布目磨り消し。凸面脚印き。	笠懸系 側部面取り2回・端部面取り2回。
236-1 147	瓦 女	カマド内 瓦	厚 2.7	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰 焼締	暗灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縦線の 無で整形。側部面取り3回・端部面取り2 回。寛縮き文字瓦「平」(凸面)。	吉井系

B区第129号住居跡

採出番号 図版番号	種別 種類	出土位置 遺存状態	寸目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
237-1 147	土師器 環	覆土内 破片	口 (12.4)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は寛削り。体部に型腐を残す。	藤岡系
237-2 147	土師器 環	覆土内 破片	口 (12.6)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。器厚は薄く、体部に型腐を残し 底部は寛削り。	藤岡系
237-3 147	土師器 環	覆土内 瓦	口 (12.6)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は寛削り。体部に型腐を残す。	藤岡系
237-4 147	土師器 環	覆土内 瓦	口 (13.2)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は寛削り。体部に型腐を残す。	藤岡系
237-5 147	土師器 環	覆土内 破片	口 (14.2)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。器厚は薄く、体部に型腐を残し 底部は寛削り。	藤岡系
237-6 147	土師器 環	覆土内 破片	口 (18.0) 底 (11.2)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	型作り成形。器内面に放射状暗文を施す、体 部に型腐を残し底部は寛削り。	藤岡系
237-7 147	土師器 環	覆土内 破片	口 (18.2)	白色微粒子	酸化焰	淡黄橙	型作り成形。器内面に放射状暗文を施す。体 部に型腐を残し底部は寛削り。	藤岡系
237-8 147	土師器 環	床直割 一部欠損	口 17.0 底 10.3 高 6.3	シルト質 白色微粒子	酸化焰	明黄橙	型作り成形。器厚は厚く、器内面に二重暗文 を施す。体部に型腐を残し底部は寛削り。	藤岡系
237-9 147	須恵器 環	覆土内 瓦	口 13.4 底 8.0 高 3.6	黒色粒子 白色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部周縁は回転削り。	秋岡系か 柴附系
237-10 147	須恵器 環	覆土内 破片	口 (14.0) 底 (8.0)	細粒砂	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転削り。	秋岡系
237-11 147	須恵器 環	覆土内 破片	底 (8.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転削り。器面 に有機質付着。	吉井系
237-12 147	須恵器 環	覆土内 蓋	横 4.0 口 14.0 高 3.4	白色微粒子	還元焰	灰褐	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。 上半部は回転削り。横部は貼り付け。内面 自然釉付着。	秋岡系
237-13 147	須恵器 環	覆土内 瓦	横 3.2 口 17.0 高 4.1	白色鉱物粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。 上半部は回転削り。	吉井系
237-14 147	須恵器 環	覆土内 破片	口 (18.6)	白色微粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。 上半部は回転削り。	秋岡系
237-15 147	土師器 環	埋土内 破片	口 (21.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	紐作り成形乃至型作り成形。口縁部は横撫で 後縦位の縦撫で。	藤岡系
238-1 148	瓦 女	床直 破片	厚 2.8	白色鉱物粒子 白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	横巻造り。凹面脚印き。凸面脚印き(密)。整 形後轆轤撫での再整形。側部面取り3回・端 部面取り3回。	吉井系

B区第130号住居跡

採出番号 図版番号	種別 種類	出土位置 遺存状態	寸目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
239-1 148	須恵器 環	覆土内 瓦	口 12.2 底 5.0 高 4.4	白色微粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	鈍黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転削り。	吉井系
239-2 148	須恵器 環	傍室内 瓦	口 (12.4) 底 (5.6) 高 (3.4)	白色微粒子 微粒雲母 白色微粒子	還元焰	褐灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転削り。	不詳

遺物一覧表

239-3 148	須恵器 坏	覆土内 片	口 (13.0) 底 (5.0) 高 (3.9)	白色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	吉井系
239-4 148	須恵器 坏	カマド内 片	口 13.6 底 5.4 高 5.5	透明鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	月夜野系
239-5 148	須恵器 埴	覆土内 破片	口 (14.0)	黒色鉱物粒子 微粒雲母 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。	吉井・藤 岡系
240-1 148	須恵器 埴	覆土内 片	口 (14.0) 底 6.8 高 (5.0)	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井系
240-2 148	須恵器 埴	カマド内 破片	底 (6.0)	微粒雲母 白色微粒子 ダイヤサイト	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系か 吉井系
240-3 148	須恵器 黒色土器 埴	覆土内 破片	底 (6.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	黒褐	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
240-4 148	須恵器 埴	覆土内 破片	底 (6.2)	白色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
240-5 148	須恵器 埴	覆土内 破片	底 (6.4)	細粒砂 微粒雲母	還元焰	橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	不詳
240-6 148	須恵器 埴	カマド内 破片	底 (6.4)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
240-7 148	須恵器 埴	覆土内 破片	底 (7.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	灰黄褐	轆轤成形 (右回転)。付高台。器内面有機質付着。	吉井・藤 岡系
240-8 148	須恵器 内黒土器 坏	カマド内 破片	カマド内 破片	黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形 (右回転)。内面は磨きを施しこぼし処理。	——
240-9 148	須恵器 埴	覆土内 破片	最径 (40.0)	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面叩きは不詳、内面宛具は平行文)。後轆轤再整形。	乗附系
240-10 148	鉄器 刀子	覆土内 破片	幅 1.0 重 3.1	——	——	——	全体に錆化が及んでいる。鋒側は調査後の欠損で、茎は調査以前の欠損である。	——
240-11 148	鉄器 釘	覆土内 先端欠損	幅 0.75 重 13.8	——	——	——	全体に錆が及んでいる。調査後錆化による欠損が著しい。頸部は折り返している。先端側を欠損している。	——
240-12 148	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 11.4	——	——	——	全体に錆化が著しく、調査後の欠損も多い。断面正方形状を呈すると思われる。	——
240-13 148	鉄器 不詳	覆土内 両端欠損	重 14.8	——	——	——	全体に錆化が及んでおり、調査後の欠損がある為、全体形状は不分明である。断面は正方形状を呈する。	——
241-1 148	土師器 甕	覆土内 破片	底 (8.0)	細粒砂 黒色粒子 白色粒子	酸化焰	黄灰	紐作り。外面は磨削・内面は高で整形。	吉井系
241-2 148	須恵器 転用硯 (大甕)	覆土内 破片	厚 1.0	白色微粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (内面宛具は素文)。器内面は磨削し墨痕が見られる。	乗附系か 藤岡系
241-3 148	須恵器 大甕	覆土内 破片	厚 1.0	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	器内面側が磨削する。紐作り。叩き整形 (外面叩き不詳・内面宛具は素文)。	乗附系か 藤岡系
241-4 148	施釉陶器 灰輪埴	覆土内 片	口 5.5 底 5.6 高 2.1	密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。	——
241-5 148	施釉陶器 灰輪埴	覆土内 破片	口 (12.0) 底 (6.0) 高 (2.1)	密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。高台は付高台。施釉は没掛。	——
241-6 148	施釉陶器 灰輪埴	覆土内 破片	口 (13.0)	密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。施釉は没掛。	——
241-7 148	施釉陶器 灰輪埴	覆土内 破片	口 (15.0)	密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。施釉は没掛か。	——

B区 (131号住居跡)

241-8 148	雑 掘	覆土内 完存	長 幅 厚	8.3 8.0 4.0	粗粒安山岩	—	—	平面が使用に伴ない磨滅する。	重390g
241-9 148	石 界 砥 石	覆土内 完存	長 幅 厚	17.2 7.6 6.4	粗粒安山岩	—	—	全体が使用され4面が認められる。	重 1,150g
241-10 148	雑 掘	覆土内 完存	長 幅 厚	14.3 14.3 4.3	粗粒安山岩	—	—	平面が使用に伴ない磨滅する。	重900g
242-1 149	瓦 男	覆土内 破片	厚	2.3	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	桶巻作り。凹面横骨痕。粘土板割ぎ取り痕。 凸面縄叩き(密)整形後繼續盤での再整形。 側面取2回。	吉井系
242-2 149	瓦 女	床直置 破片	厚	1.4	白色微粒子	還元焰	灰黄	一枚作り。凹面寄木痕。凸面木目叩き。側面 取2回・端部取2回。	藤岡系
242-3 149	瓦 女	カマド内 破片	厚	1.0	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面木目叩き整形。側面取2回・ 端部取1回。	不詳
242-4 149	瓦 女	カマド内 破片	厚	1.0	白色粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	一枚作り。凹面寄木痕。凸面縦位の寛撫で整 形。側面取2回・端部取1回。	藤岡系
242-5 149	瓦 女	床直置 破片	厚	1.1	白色粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	242図-4と同一個体。	藤岡系
242-6 149	瓦 女	カマド内 破片	厚	1.0	赤褐色粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凸面木目叩き。側面取1回・ 端部取1回。	藤岡系
242-7 149	瓦 女	覆土内 破片	厚	1.9	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰黄	紐作り。凹面縦位の横で整形。凸面繼續整形。 側面取3回・端部取2回。	藤岡系か
242-8 瓦-609	瓦 女	カマド内 破片	厚	1.6	白色微粒子	還元焰	灰白	刻印文字瓦「山田」(凸面)。	笠懸系

B区第131号住居跡

押出番号 図版番号	種 別	出土位置 埋藏状況	度目 量目 (cm)	軸 土	焼 成	色 調	器 形・技 法等の特 徴	備 考
244-1 149	須 恵 器 環 か 埴	覆土内 破片	口 (11.4)	黒色鉱物粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	黄灰	繼續成形(右回転)。	吉井・藤 岡系
244-2 149	須 恵 器 埴	覆土内 瓦	口 (14.4) 底 (8.0) 高 (3.5)	白色鉱物粒子	還元焰	白灰	繼續成形(右回転)、底部は回転筋削り。	吉井系か 月夜野系
244-3 149	須 恵 器 環	覆土内 瓦	底 6.8	デイナイト 白色鉱物粒子	還元焰	灰	繼續成形(右回転)、底部は回転糸切り。	吉井系
244-4 149	須 恵 器 埴	カマド内 瓦	底 7.4	微粒雲母 白色微粒子	中性焰	鈍橙	繼續成形(右回転)。付高台。	藤岡系
244-5 149	土 師 器 環 蓋	覆土内 瓦	胴 3.2	微粒砂	酸化焰	浅黄橙	繼續成形(右回転)。胴部は貼り付け。器内面 に暗文を施す。	東毛系
244-6 149	須 恵 器 椀	カマド内 破片	厚 0.9	デイナイト 微粒雲母 白色鉱物粒子	還元焰	橙	紐作り後繼續整形(右回転)。	吉井系
244-7 149	土 師 器 壺	カマド内 破片	口 (13.1)	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	橙	口縁部は短く外反する。紐作り。外面側部は 寛撫で、口縁部は横撫で、内面側部は寛撫で。	藤岡系
244-8 149	施 軸 陶 器 灰 軸 皿	覆土内 破片	口 (12.4) 底 (6.7) 高 (2.5)	密	良好	灰	繼續成形(右回転)。付高台。施軸は没損。	—
244-9 149	施 軸 陶 器 灰 軸 埴	覆土内 破片	口 (15.4)	密	良好	灰白	繼續成形(右回転)。施軸は没損。	—
244-10 149	鉄 器 刀	覆土内 肉 肉端欠損 (調査後)	重 7.2	—	—	—	全体に錆化が著しい。鋒・茎尻は調査後の欠 損。刀身に研ぎ減りが認められる。	—
244-11 瓦-610	瓦 男	覆土内 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半截作りか。凸面縦位の横で整形。窪抜き文 字瓦「不詳」(凸面)。	吉井系
244-12 150	瓦 女	カマド内 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面横骨痕。粘土板割ぎ取り痕。 凸面繼續整形。側面取2回。	吉井系
244-13 150	瓦 女	カマド内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目磨り消し凸面縄叩き。端 部取2回。	笠懸系

遺物一覧表

244-14 150	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.3	白色紅物粒子 黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	栴卷き造り。凹面横骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。 凸面轡輪整形。側部面取り2回・端部面取り 1回。	吉井系
245-1 150	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色紅物粒子	還元焰	灰黄	栴卷き造り。凹面横骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。 凸面轡輪叩き(密)整形後轡輪での再整形。	吉井系
245-2 150	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.7	白色紅物粒子 細粒砂	酸化焰	橙	一枚作りか。凸面縦位の櫛で整形。凸面縦位の 櫛で整形。端部面取り2回。	吉井系
245-3 150	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色紅物粒子	酸化焰	橙	一枚作りか。凸面木目叩き後櫛で整形。側部 面取り3回・端部面取り2回。	吉井系
245-4 150	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色紅物粒子 黒色粒子 白色粒子	酸化焰	灰	栴卷き造り。凹面横骨痕。凸面轡輪整形。端 部面取り2回。	吉井系
245-5 150	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.2	白色紅物粒子	酸化焰	灰黄	栴卷き造り。凹面横骨痕・粘土板剥ぎ取り痕。 凸面轡輪整形。側部面取り3回・端部面取り 2回。	吉井系
245-6 150	瓦 女瓦	カマド内 瓦	厚 1.4	白色紅物粒子	還元焰	灰	栴卷き造りか。凹面横骨痕・粘土板剥ぎ取り 痕。凸面縦位の櫛で整形。側部面取り2回・ 端部面取り1回。	吉井系

B区第132号住居跡

押出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	径目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考	
246-1 150	須恵器 坏	覆土内 瓦	口 径 12.6 底 6.7 高 3.8	黒色粒子	還元焰	灰	轡輪成形(右回転)、底部は回転未切り。	秋田系
246-2 150	須恵器 坏	カマド内 瓦	底 5.7	白色微粒子	還元焰	灰	轡輪成形(右回転)、底部は回転未切り。	秋田系
246-3 150	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 (14.0)	黒色紅物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り。外面胴部は篋用 り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
246-4 151	瓦 男瓦	カマド内 瓦	狭 12.6	白色紅物粒子 白色粒子 細粒砂	中性焰	黄灰	半截作り。凸面縦位の櫛で整形。側部面取り 3回・端部面取り2回。	吉井・藤 岡系
247-1 瓦-611 151	瓦 男瓦	カマド内 瓦	長 (34.6) 厚 2.0	白色微粒子 デイスайт	酸化焰	赤橙	半截作り。凸面縦位の櫛で整形。側部面取り 1回・端部面取り2回。篋撫き文字瓦「人」 (凸面)。	藤岡系

B区第133号住居跡

押出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	径目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考	
248-1 151	土師器 坏	カマド内 瓦	口 11.0 高 3.5	黒色紅物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	洗黄橙	型作り成形。口縁部は直立する。口縁直下に 型膚を残す。底部は篋用り。	藤岡系
248-2 151	土師器 坏	覆土内 破片	口 (10.8)	黒色紅物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は内傾する。口縁部・器 内面は横撫で、底部は篋用り。	藤岡系
248-3 151	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0)	黒色紅物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は内傾気味。口縁部・器 内面は横撫で、底部は篋用り。	藤岡系
248-4 151	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.3)	黒色紅物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は直立気味。口縁直下に 型膚を残す。底部は篋用り。	藤岡系
249-1 151	土師器 壺	カマド内 瓦	口 20.2	細粒砂 黒色紅物粒子	酸化焰	洗黄橙	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は篋用 り。口縁部は横撫で。内面胴部は篋撫で。	藤岡系
249-2 151	土師器 壺	カマド内 瓦	口 23.8	細粒砂 黒色紅物粒子	酸化焰	黄橙	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は篋用 り。口縁部は横撫で。内面胴部は篋撫で。	藤岡系
250-1 150	土師器 壺	カマド内 破片	口 (21.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色紅物粒子	酸化焰	洗黄橙	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は篋用 り。口縁部は横撫で。内面胴部は篋撫で。	藤岡系
250-2 150	須恵器 大甕	覆土内 破片	厚 0.7	黒色紅物粒子	還元焰	白灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青黄波文)。	不詳

B区第134号住居跡

棟号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
251-1 150	須恵器 坏 蓋	覆土内 瓦	口 (17.4)	白色微粒子	還元焰	灰	内面に返りを有し口唇部は下方に折り返す。 轆轤成形(右回転)。上半部は回転削り。胴 部は貼り付け。	秋間系
251-2 150	須恵器 坏	覆土内 破片	底 (8.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転削り。	秋間系
251-3 150	須恵器 甕	覆土内 破片	口 (16.0)	白色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形 (右回 転)。	吉井系
251-4 150	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 1.0	白色微粒子 赤褐色粒子	中性焰	浅黄橙	紐作り。叩き整形 (外面板目叩き・内面瓦具 は青海波文)。	秋間系

B区第135号住居跡

棟号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
253-1 150	須恵器 坏	床直層 ほぼ完形	口 13.5 底 6.2 高 3.7	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	橙褐色	轆轤成形 (右回転)、底部は回転削り。内・ 外面に横りが認められる。	藤岡系
253-2 151	須恵器 坏	覆土内 瓦	口 13.3 底 6.3 高 3.7	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	灰褐色	轆轤成形 (右回転)、底部は回転削り。内・ 外面に横し処理を施す。	藤岡系
253-3 151	須恵器 坏	覆土内 瓦	底 5.4	白色微粒子	還元焰	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)、底部は回転削り。内・ 外面に横し処理を施す。	藤岡系
254-1 151	須恵器 埴	カマド内 ほぼ完形	口 14.7 底 6.6 高 5.7	白色微粒子 微粒雲母 白色微粒子	還元焰	橙褐色	轆轤成形 (右回転)。付高台。内・外面に横し 処理を施す。	藤岡系
254-2 151	土師器 甕	カマド内 破片	口 (22.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色微粒子	還元焰	黄橙	紐作り。「コ」の字状口縁。外面胴部は削り。 口縁部は横無で。内面胴部は瓦無で。	藤岡系
254-3 151	土師器 甕	カマド内 破片	底 (4.6)	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	橙	紐作り。外面底部は削り。	藤岡系
254-4 151	鉄器 刀子か	覆土内 茶灰か	重 3.0	—	—	—	全体に錆化が著しい。開例は調査後の欠損。	—
254-5 瓦-612	瓦 男 瓦	カマド内 瓦	厚 2.1	白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。側面取り4回・ 端面面取り2回。刻印文字瓦「口」(凸面)。	兼勝系
254-6 151	瓦 男 瓦	カマド内 瓦	長 37.2 厚 2.0	赤褐色粒子 白色微粒子 シルト	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。凹面粘土板剥ぎ取 り痕。側面取り3回・端面面取り3回。	兼勝系
256-1 151	瓦 男 瓦	覆土内 瓦	厚 1.6	黒色粒子	還元焰	白灰	半截作り。凸面叩き整形 (密) 後轆轤再整形。 凹面粘土板剥ぎ取り痕。側面取り2回。	秋間系
256-2 151	瓦 女 瓦	覆土内 細片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	新・橙 外・黒	一枚作り。凹面布目磨り消し。凸面側で整形 後斜格子叩き整形。	笠懸系
256-3 151	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.7	黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面青木漆。凸面叩き(密)。側 面取り3回。側面喰出し痕有り。	秋間系
256-4 151	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 1.5	白色微粒子 デイサイト 黒色粒子	還元焰	鈍橙	一枚作り。凸面縦位の横で整形。側面取り 2回・端面面取り2回。	吉井系

B区第136号住居跡

棟号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
256-1 152	須恵器 坏 蓋	カマド内 瓦	胴 1.5	白色微粒子	還元焰	橙	轆轤成形(右回転)。上半部は回転削り。胴 部は貼り付け。	秋間系
256-2 152	須恵器 坏 蓋	カマド内 破片	口 (13.3)	白色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。上半部は回転削り。	吉井系
256-3 152	土師器 甕	カマド内 破片	口 (16.3)	微粒雲母 白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。口縁部は横 無で。	藤岡系

遺物一覧表

256-4 152	土師器 壺	カマド内 破片	口 (20.6)	微粒雲母 白色微粒子 黒色微粒子	酸化焰	橙褐	「フ」の字状口縁。器作り成形。外面割部は 宛削り、口縁部は横撫で、内面割部は直撫で。	藤岡系
256-5 152	須恵器 坏	カマド内 瓦	口 9.7 底 4.6 高 3.2	白色微粒子 黒色鉱物微粒子	酸化焰	橙褐	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。内・ 外面に焼りが認められる。	太田系か 笠懸系
256-6 152	須恵器 坏	カマド内 瓦	口 (13.1) 底 (5.4) 高 (3.6)	黒色微粒子 白色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井系
256-7 152	須恵器 坏	カマド内 瓦	口 13.7 底 7.0 高 4.0	赤褐色微粒子 黒色微粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。口唇 部に焼りが認められる。	不詳
256-8 152	須恵器 埴	カマド内 破片	口 (17.8)	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	東海系
256-9 152	須恵器 大 壺	カマド内 破片	厚 1.0	白色微粒子 赤褐色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰黄	紐作り後叩き整形(内面宛削りは素文・外面は 不詳)後轆轤再整形。	藤岡系
257-1 151	須恵器 大 壺	カマド内 破片	口 (46.0)	白色微粒子 赤褐色微粒子	還元焰	灰黄	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。	藤岡系
257-2 152	須恵器 大 壺	カマド内 破片	厚 1.7	白色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰黄	紐作り後轆轤整形後、一部破位の箇所を以て 撫す。	秋田系
257-3 152	須恵器 羽 釜	カマド内 破片	口 (21.6)	白色微粒子 黒色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰黄	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。脚は貼り付け。体部下半は窪削り。	吉井羽釜 甲斐 越后類
258-1 152	瓦 男 瓦	カマド内 破片	幅 15.3 厚 1.6	黒色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。凹面布合せ目痕。 側面取取り2回。	秋田系
258-2 152	瓦 男 瓦	カマド内 破片	厚 1.9	白色微粒子	還元焰	黒灰	半截作り。凹面破位の側で整形。側面取取り 3回・端面取取り2回。	吉井系
258-3 152	瓦 男 瓦	カマド内 破片	厚 1.6	白色微粒子 白色微粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凹面平行叩き。凹面粘土板割ぎ取 り痕。側面取取り2回。	東野系か 秋田系
258-4 瓦 女 瓦 58-613 153	瓦 女 瓦	カマド内 瓦	厚 2.6	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面布目跡が消失。凹面粘土板割 ぎ取り痕。凸面不整格子叩き。刻印文字「佐」 (凸面)。側面取取り2回・端面取取り2回。	笠懸系
258-5 153	瓦 女 瓦	カマド内 瓦	厚 1.7	白色微粒子	還元焰	灰黄	一枚作り。凹面布目跡が消失。凸面叩き。 側面取取り3回・端面取取り2回。	笠懸系
258-6 152	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 2.2	白色微粒子	還元焰	灰	桶巻作り。凹面横骨痕。粘土板割ぎ取り痕。 凸面叩き(密)整形後轆轤側での再整形。 側面取取り2回・端面取取り3回。	吉井系
258-7 152	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 1.9	白色微粒子 細粒砂	還元焰	灰	桶巻作り。凹面横骨痕。粘土板割ぎ取り痕。 凸面叩き(密)整形後轆轤側での再整形。 側面取取り2回。	吉井系
258-8 152	瓦 女 瓦	カマド内 瓦	厚 2.2	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面破位の側で整形。側面取取り3 回・端面取取り1回。	吉井系
259-1 153	瓦 女 瓦	カマド内 瓦	厚 3.0	白色微粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凸面破位の側で整形。側面取取り 3回・端面取取り2回。	吉井系

B区第137号住居跡

棟号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
260-1 153	須恵器 坏	カマド内 瓦	口 (13.0) 底 6.0 高 3.5	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井・藤 岡系
260-2 153	須恵器 埴	カマド内 破片	口 (14.0)	微粒雲母	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。	藤岡系
260-3 153	須恵器 埴	床直層 瓦	底 7.0	白色微粒子 微粒雲母	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤岡系
260-4 153	須恵器 埴	カマド内 破片	口 (23.4)	黒色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。	秋田系
260-5 153	土師器 壺	掘り方内 破片	口 (21.5)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	「フ」の字状口縁。器作り成形。外面割部は 宛削り、口縁部は横撫で、内面は直撫で。	藤岡系
260-6 153	陶軸内器 戻 瓶 底	覆土内 破片	底 (13.0) (13.6)	密	良好	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。胴部外面は回転 宛削り。	—

B区(137・138・139・153号住居跡)

261-1 153	須恵器 土	カマド内 破片	口 (23.0)	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	褐・黒 褐	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は彫削り、口縁部は横撫で、内面胴部は横撫で。平底面が使用に伴わない磨滅する。	笠懸系か 吉井系
261-2 153	織物 石	カマド内 完存	長 14.0 幅 6.5 厚 4.4	白堊斑岩	—	—		重610g
261-3 153	瓦 女瓦	床直内 瓦片	厚 1.9	白色鉱物粒子	還元焰	鈍黄橙	桶巻き造り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面平行叩き。側面面取り2回・端面面取り1回。	吉井系
261-4 153	瓦 女瓦	覆土内 瓦片	厚 1.1	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	一枚作りか。凸面平行叩き。側面面取り1回・端面面取り1回。	吉井・藤 岡系
262-1 153	瓦 女瓦	カマド内 瓦片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面寄木板。凸面叩き(密)。側面面取り2回・端面面取り1回。側面咬出し没有り。	秋岡系

B区第138号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
263-1 154	土師器 壺	カマド内 破片	口 (21.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	還元焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾し横撫でを施す。	藤岡系

B区第139号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
264-1 154	須恵器 坏	カマド内 瓦	口 (12.0) 底 (6.0) 高 (3.4)	白色微粒子 微粒砂	還元焰	灰黄	縦輪成形(右回転)。底部は回転糸切り。	兼附系
264-2 154	須恵器 坏	カマド内 瓦	口 12.4 底 3.0 高 3.9	白色微粒子 微粒砂	還元焰	灰黄	縦輪成形(右回転)。底部は回転糸切り。	兼附系
264-3 154	須恵器 埴	覆土内 瓦	口 13.0 底 (5.6) 高 (6.0)	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	暗黄灰	縦輪成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤岡系
264-4 154	須恵器 埴	床直内 瓦	口 14.2 底 (5.8) 高 (5.5)	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	灰	縦輪成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤岡系
264-5 154	須恵器 壺	覆土内 破片	頸部 5.8	黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後縦輪整形(右回転)。	兼附系か 秋岡系
265-1 154	須恵器 壺	覆土内 瓦	底 12.4	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後縦輪整形(右回転)。	秋岡系
265-2 154	瓦 男瓦	ビツト内 瓦	厚 1.9	黒色粒子	還元焰	白灰	半載作り。凸面縦輪整形。側面面取り2回・端面面取り1回。	秋岡系
265-3 154	瓦 男瓦	ビツト内 瓦	厚 2.5	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面縦輪整形。側面面取り2回・端面面取り1回。	吉井系
265-4 154	瓦 宇瓦	ビツト内 瓦	厚 3.5	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面咬位の無で整形。側面面取り7回・端面面取り4回。	吉井系

B区第153号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
266-1 154	土師器 坏	カマド内 破片	口 (15.0)	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	鈍黄橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下に彫削を残し、下半部は彫削り。底部は平底で彫削り。	藤岡系
266-2 154	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (14.6)	細粒砂 白色微粒子	還元焰	灰白	縦輪成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋岡系か
266-3 154	須恵器 坏	覆土内 破片	底 (8.0)	白色微粒子	還元焰	灰	縦輪成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋岡系
266-4 250	土師器 壺	カマド内 破片	口 (23.0)	白色微粒子 白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	橙	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は彫削り。口縁部は横撫で。内面胴部は横撫で。	藤岡系

遺物一覧表

266-5 154	雜器 磨石	覆土内 完存	長 15.0 幅 7.3 厚 5.2	消結凝灰岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅し、小口側に敲打痕が認められる。	重800g
267-1 154	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.3	白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	半截作り。凸面輪軸整形。側面面取り2回。	吉井系
267-2 154	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面輪軸整形。側面面取り3回。	吉井系
267-3 154	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白色微粒子	還元焰	褐灰	一枚作り。凹面布目押し消し。凸面側で整形後正格子叩き整形。	笠懸系
267-4 154	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕。楔骨痕(?)。凸面輪軸整形後縦位の撫で整形。	吉井系
267-5 154	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 0.8	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。	笠懸系

B区第141号住居跡

押附番号 四取番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 重量 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
268-1 154	土師器 埴	覆土内 破片	口 (13.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形(組)。体部に型膚を残し、縦の痕跡も認められる。	藤岡系
268-2 154	須恵器 埴	覆土内 破片	—	微粒砂	還元焰	灰白	輪軸成形(右回転)。付高台。	秋間系か
268-3 154	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面平行叩き。側面面取り2回・端部面取り1回。	吉井系
269-1 154	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	細粒砂 (白色微粒子)	還元焰	灰黄	一枚作りか。凹面楔骨痕。凸面編叩き(密)。	不詳
269-2 155	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側面面取り2回・端部面取り1回。	藤岡系 布目粗

B区第142号住居跡

押附番号 四取番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 重量 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
271-1 155	土師器 埴	覆土内 破片	口 (13.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は縦削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
271-2 155	土師器 埴	覆土内 破片	口 (13.1)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は縦削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
271-3 155	土師器 埴	覆土内 破片	口 (14.0)	白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に強い線を有する。底部は縦削り。	藤岡系
271-4 155	土師器 埴	覆土内 破片	口 (16.2)	微粒雲母 黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。体部・底部は縦削り。器内面は横撫で後放射状暗文を指す。	藤岡系
271-5 155	須恵器 埴	覆土内 破片	口 (17.0)	白色微粒子	還元焰	灰	輪軸成形(右回転)。	秋間系
271-6 155	須恵器 埴	覆土内 破片	底 (7.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	輪軸成形(右回転)。底部は手持り蓋削りか回転蓋削り。	秋間系
271-7 155	土師器 甕	カマド内 破片	口 (20.1)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	淡黄橙	組作り。口縁部は外反する。外面側部は縦削り。口縁部は横撫で、内面側部は縦撫で。	藤岡系
271-8 155	土師器 甕	覆土内 破片	底 (5.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍黄橙	組作り成形後蓋削り整形。	藤岡系
271-9 155	土師器 甕	覆土内 破片	口 (28.1)	白色微粒子 微粒雲母 白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は強く外反する。組作り。外面側部は縦削り、口縁部は横撫で、内面側部は縦撫で。	藤岡系
271-10 155	須恵器 甕	覆土内 破片	口 (24.0)	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	組作り後輪軸整形(右回転)。	乗附系か
271-11 155	雜器 磨石	覆土内 片	長 7.5 幅 3.0 厚 5.6	粗粒安山岩	—	—	平坦面が磨滅する。	重240g

B区 (141・142・143・144号住居跡)

271-12 155	須 磨 石	覆土内 穴存	長 幅 厚	15.0 4.8 3.5	閃緑岩	—	—	平坦面が使用に伴う磨減が認められる。	重450g
271-13 155	瓦 女	カマド内 破片	厚	1.8	白色鉱物粒子 デイスサイト	還元焰	褐灰	幅巻き造り。凸面輪縁整形。凹面粘土板割ぎ 取り痕。端面面取り3回。	吉井・藤 岡系

B区第143号住居跡

探査番号 図版番号	種 別 種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (φ)	胎 土	焼 成 色 調	器 形・技 法等の特 徴	備 考		
272-1 155	須 磨 器	覆土内 破片	□ (5.0)	白色微粒子	還元焰	灰白	輪縁成形 (右回転)。内・外面に磨りが認めら れる。	秋岡系	
272-2 155	須 磨 器 坏	覆土内 破片	底	6.0	白色微粒子	還元焰	灰	輪縁成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	秋岡系
272-3 155	須 磨 器 坏	覆土内 破片	底 (3.0)	白色微粒子	還元焰	黒灰	輪縁成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。高 台欠損後坏に転用。底面に意図不明の刻みが 認められる。	吉井系	
272-4 155	胎 軸 陶 器 戻 軸 塊	覆土内 破片	底 (8.0)	密	良好	灰白	輪縁成形 (右回転)。付高台。	—	
272-5 155	胎 軸 陶 器 戻 軸 塊	覆土内 破片	底 (7.0)	やや粗	良好	灰	輪縁成形 (右回転)。付高台。	—	
272-6 155	土 師 器 壺	カマド内 破片	□ (20.3)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は菱削り。 口縁部は横溝で、内面胴部は直溝で。	藤岡系	
272-7 155	須 磨 器 羽 釜	覆土内 破片	□ (21.0) 脚 (25.5)	白色鉱物粒子	還元焰	橙	口縁部は直立気味。紐作り後輪縁整形 (右回 転)。脚は貼り付け。	吉井型羽 釜 甲斐 種呂類	
272-8 155	須 磨 器 羽 釜	覆土内 破片	□ (21.0) 脚 (24.0)	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	橙	口縁部は直立気味。紐作り後輪縁整形 (右回 転)。脚は貼り付け。	吉井型羽 釜 甲斐 種呂類	
272-9 155	須 磨 器 羽 釜	覆土内 破片	□ (21.8) 脚 (28.7)	白色鉱物粒子	還元焰	橙	口縁部は内湾する。紐作り後輪縁整形 (右回 転)。脚は貼り付け。	吉井型羽 釜 甲斐 種呂類	
273-1 155	瓦 男	覆土内 破片	厚	0.9	デイスサイト 白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	半截作り。凸面輪縁整形。側面面取り2回。	吉井・藤 岡系
273-2 155	瓦 男	覆土内 瓦	厚	2.0	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	浅黄橙	半截作り。凸面輪縁整形 (密) 後輪縁整形 。凹面粘土板割ぎ取り痕。側面面取り3回・ 端面面取り1回。	吉井系
273-3 155	瓦 女	覆土内 破片	厚	2.0	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰 焼結	灰黄	幅巻き造り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面輪 縁整形後側面面取り (密)。	吉井系
273-4 155	瓦 女	カマド内 破片	厚	1.3	黒色粒子	還元焰 焼結	白灰	一枚作り。凸面輪縁整形 (密) 後縁部の縁で整 形。端面面取り2回。	笠懸系か

B区第144号住居跡

探査番号 図版番号	種 別 種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (φ)	胎 土	焼 成 色 調	器 形・技 法等の特 徴	備 考	
274-1 155	土 師 器 坏	床直 ほぼ完形	□ 11.8 底 6.5 高 3.7	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	褐	型作り成形。口縁部・器内面は横溝で、底部 は菱削り。体部に壺蓋を残す。	藤岡系
274-2 156	土 師 器 破片	覆土内 破片	□ 12.0	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横溝で、底部 は菱削り。体部に壺蓋を残す。	藤岡系
275-1 155	須 磨 器 坏	床直層 片	□ 10.8 底 5.3 高 3.3	白色微粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	白灰 底層黒	輪縁成形 (左回転)、底部は回転糸切り。器内 面布巻き撫で整形。	不詳
275-2 155	須 磨 器 坏	ピット内 完形	□ 11.5 底 6.1 高 3.2	白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	輪縁成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	秋岡系か
275-3 155	須 磨 器 坏	ピット内 完形	□ 12.4 底 5.4 高 4.2	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	暗褐	輪縁成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系か

遺物一覧表

275-4 156	須恵器 坏	覆土内 片	口 (13.0) 底 (6.0) 高 (4.7)	白色微粒子 微粒雲母 白色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	吉井系
275-5 156	須恵器 埴	覆土内 破片	底 (10.2)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。高台は削り出し。	秋間系
275-6 156	須恵器 埴	覆土内 片	口 (10.6) 底 6.2 高 4.7	白色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井系
275-7 156	須恵器 坏 (埴)	覆土内 片	口 (17.1)	白色鉱物粒子	中性焰	黄灰	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台) 後坏として転用している。	吉井系
275-8 156	須恵器 盤	覆土内 破片	口 (18.0)	白色粒子	還元焰 焼締	灰	轆轤成形 (右回転)。	搬入品か
275-9 156	須恵器 器台	ビツ内 片	口 23.0	白色粒子 黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。付高台。底部を穿孔する。	吉井系
275-10 156	土師器 小形埴	床直 破片	口 (12.6)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	赤褐	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は貫削り。口縁部は横撫で。内面胴部は貫撫で。	藤岡系
275-11 156	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口 (20.0) 脚 (23.4)	白色微粒子 白色鉱物粒子 細粒砂	酸化焰	橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。脚は粘り付け。	吉井部羽 釜 甲冑 種呂類
275-12 156	須恵器 羽釜	覆土内 破片	底 (6.3)	白色微粒子 赤褐色粒子 デイズイト	酸化焰 か	暗褐	紐作り後轆轤整形 (右回転)。後斜位の型削り成形。	吉井部羽 釜
275-13 156	施釉陶器 灰輪埴	覆土内 破片	底 (9.1)	密	良好	白灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。施釉は浸掛。	割れ口に 擦接きの 痕跡がある。
275-14 156	雑器 石	覆土内 完存	長 9.8 幅 7.9 厚 3.2	粗粒安山岩	—	—	平坦面に使用に伴ない磨減する。	重375g
276-1 156	雑器 石	覆土内 完存	長 12.2 幅 6.8 厚 4.7	石英閃緑岩	—	—	平坦面に使用に伴ない磨減する。	重610g
276-2 156	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白色粒子 黒色粒子	還元焰 焼締	灰	半截作り。凸面縄叩き・自然軸付着。	秋間系
276-3 156	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子	中性焰	黄灰	半截作り。凸面轆轤整形。側面取り2回。	吉井・藤 岡系
276-4 156	瓦 男瓦	覆土内 片	厚 1.3	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。側面取り2回。	樂附系
276-5 瓦-614 156	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側面取り2回。階級き文字瓦「甲」(凸面)。	吉井系 文字は左 文字
276-6 156	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	桶巻き造りか。凹面横骨痕。凸面縦位の撫で整形。側面取り2回。釘穴を有する。	吉井系
276-7 156	瓦 宇字瓦	覆土内 破片	厚 3.6	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面縄叩き(密)後縦位の撫で整形。側面取り3回。	吉井系
276-8 156	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 3.1	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凹面横骨痕?・粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)。釘穴を有する。	吉井系

B区第145号住居跡

押印番号 図録番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
277-1 156	土師器 坏	覆土内 片	口 (13.6) 底 (8.7) 高 (3.7)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	淡黄橙	器内面に放射状暗文を施す。型作り成形。口縁部は段を有する。器厚は厚く、体部に型痕を残し底部は貫削り。	藤岡系
277-2 157	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (6.0) 底 (4.0) 高 (2.8)	白色微粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	黄灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	不詳
278-1 156	須恵器 坏蓋	ビツ内 破片	横 3.5	白色微粒子	還元焰	灰褐	轆轤成形 (右回転)。天上部は回転型削り。内面自然軸付着。	秋間系

B区(145・146号住居跡)

278-2 157	須恵器 環 蓋	覆土内 破片	楕 3.4 口 (13.2) 高 (3.2)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転置削り。胴部は貼り付け。器内面が磨滅する。内面自然釉付着。	秋間系
278-3 156	須恵器 環 蓋	床直 破片	楕 4.6	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰 灰黄	轆轤成形(右回転)。天上部は回転置削り。	秋間系
278-4 157	須恵器 環 蓋	覆土内 破片	口 (19.0)	白色鉱物粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転置削り。	吉井系
278-5 156	須恵器 環	覆土内 完形	口 12.3 底 7.3 高 3.8	白色微粒子	還元焰	灰～ 灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転承切り。	秋間系
278-6 157	須恵器 環	覆土内 片	口 (15.0) 底 (10.0) 高 (3.8)	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰黄褐	轆轤成形(右回転)。底部は回転置削り。	不詳 (吉井系?)
278-7 156	須恵器 皿	覆土内 片	口 (20.0) 底 12.4 高 5.9	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。底部は回転置削り整形。	秋間系
278-8 157	土製品 羽 口	覆土内 陶端欠損	厚 2.4	白色微粒子	—	—	使用に伴う色調変化が認められるが、端部の為、スラグ等は認められない。	—
278-9 157	土製品 羽 口	覆土内 破片	厚 2.5	細粒砂	—	—	使用に伴う色調変化が認められるが、細片の為、スラグ等は認められない。	—
278-10 157	土製品 羽 口	覆土内 上端欠損	厚 1.4 底 2.2	白色微粒子	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸が付着する。	—
278-11 157	陶軸陶器 灰輪段皿	埋土内 完形	口 16.0 底 7.4 高 2.3	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。陶軸は没損。	—
278-12 157	陶軸陶器 灰輪塊	覆土内 片	口 15.8 底 (8.2) 高 5.7	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。陶軸は没損。	—
278-13 157	陶軸陶器 灰輪塊	覆土内 破片	口 (16.4)	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。陶軸は没損。	—
278-14 250	銅製品 刀 装具 釧	カマド内 ほぼ完存	幅 3.3 重ね 0.7	—	—	—	全体に歪んでいるものの欠損部は微量である。横側は平様で、刃部側は凹状になっている。内面刃身側は、横刃部側は丸い作りになっている。	—
278-15 157	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 2.5	—	—	—	全体に錆化が著しい。断面長方形状である。	—
278-16 157	鉄器 小刀か	覆土内 基部	厚 0.9	—	—	—	茎の重ねは厚く、刀子とは思われない。鍛え割れがあり悪い鍛えと考えられる。	重14.2g
278-17 瓦一672	瓦 宇 瓦	貯蔵穴内 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子	還元焰	灰	右肩行書草文。二感界線を施す。	吉井系
278-18 瓦一615 158	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。側面面取り3回。刻印文字瓦「雲」(凸面)。寛隆き文字瓦「平」(凸面)を併記する。	吉井系
278-19 157	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰	手載作り。凸面轆轤成形。凹面粘土板割ぎ取り肌。	笠懸系
279-1 157	石製品 砥石	覆土内 片	長 (18.0) 幅 18.7 厚 20.0	粗粒安山岩	—	—	全体に使用痕が認められるが、顕著な面は2面のみである。一部に工具の先端部による傷が認められる。	重 4.280g
279-2 157	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子	酸化焰	赤橙	桶巻造りか。粘土板割ぎ取り肌。凸面轆轤成形?。側面面取り2回・端面面取り1回。	吉井系
279-3 157	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	桶巻作り。凹面横骨肌。粘土板割ぎ取り肌。側面面取り2回・端面面取り2回。	吉井系

B区第146号住居跡

博印番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	産目 産目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
280-1 159	土器 環	カマド内 破片	口 (9.7)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	粟作り成形。口唇部は内気味。口縁直下に空處を残す。底部は置削り。	藤間系
280-2 158	土器 環	覆土内 片	口 (9.8)	白色微粒子 黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	粟作り成形。口唇部筒状工具の横横により直立気味。底部は置削り。	藤間系

遺物一覧表

280-3 159	土師器 環	覆土内 破片	口 (11.0) 高 3.0	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部管状工具の横撫により直立気味。口縁直下に型膚を残す。底部は莖削り。	藤岡系
280-4 159	土師器 環	カマド内 破片	口 (11.0)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は内傾気味。口縁直下に型膚を残す。底部は莖削り。	藤岡系
280-5 159	土師器 環	カマド内 破片	口 (11.2)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は内湾気味。口縁直下に型膚を残す。底部は莖削り。	藤岡系
280-6 159	土師器 環	覆土内 破片	口 (11.6) 高 2.8	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部管状工具の横撫により直立気味。口縁直下に型膚を残す。底部は莖削り。	藤岡系
280-7 159	土師器 環	覆土内 破片	口 (11.9)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は莖削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
281-1 159	土師器 環	覆土内 破片	口 (12.2)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は莖削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
281-2 158	土師器 環	カマド内 破片	口 12.0 高 3.7	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は内傾する。口縁直下に型膚を残す。底部は莖削り。	藤岡系
281-3 158	土師器 環	覆土内 片	口 (12.4) 高 3.2	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は内傾する。口縁部・器内面は横撫で、底部は莖削り。	藤岡系
281-4 158	土師器 環	床直層 完形	口 12.4 高 4.2	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁直下に型膚を残す。底部は莖削り。口縁部は内湾気味。	藤岡系
281-5 159	土師器 環	覆土内 破片	口 11.2	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に強い稜を有する。底部は莖削り。	藤岡系
281-6 159	土師器 環	覆土内 破片	口 (12.0)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	浅黄橙	型作り成形。口縁部は外傾する。外面口縁直下に強い稜を有する。底部は莖削り。	藤岡系
281-7 158	土師器 短頸壺	床直 ほぼ完形	口 9.1 高 7.0	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	浅黄橙 黄橙	体部下半以下は型作り成形。上半・口縁部は紐作り。口縁は横撫でを施し、外面口縁部以下は莖削り。内面は横撫でを施す。	月夜野系
281-8 158	土師器 壺	カマド内 一部欠損	口 20.6 底 4.6 高 35.3	細粒砂 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙 黄橙	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は莖削り。口縁部は横撫で。内面胴部は莖削り。	藤岡系
281-9 158	土師器 壺	カマド内 一部欠損	口 (11.2) 底 4.0 高 37.2	黒色鉱物粒子 細粒砂	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。口縁部は横撫で。	藤岡系
282-1 159	土師器 壺	カマド内 片	口 19.3	細粒砂 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙 浅黄橙	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は莖削り。口縁部は横撫で。内面胴部は莖削り。	藤岡系
282-2 159	土師器 甕	カマド内 完形	口 27.7 孔 11.6 高 34.2	細粒砂 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は莖削り。口縁部は横撫で。内面胴部は莖削り後縦位の研磨を間を置き施す。	藤岡系
282-3 158	土師器 台付壺 (胴部)	覆土内 破片	底 (10.2)	粗粒砂 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り成形後莖削りで整形。	藤岡系
282-4 159	土師器 壺	カマド内 破片	口 (23.6)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は莖削り。口縁部は横撫で。内面胴部は莖削り。	藤岡系
282-5 159	須恵器 環蓋	覆土内 破片	口 (30.4)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	栗附系
282-6 158	須恵器 壺	カマド内 破片	厚 0.6	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。1条の横線を施す。	吉井系
282-7 158	須恵器 壺	床直層 片	口 (14.4)	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。胴部外面平行叩き内面塊具は青黄改文。上半は轆轤再整形。	栗附系 自然輪付 着
282-8 159	須恵器 大壺	床直層	厚 1.2	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面塊具は青黄改文)平行叩きは類似焼子状を呈する。	栗附系

B区(147・150号住居跡)

283-1 159	須恵 壘	カマド内 破片	厚 0.5	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	細作り。叩き整形(外面平行叩き・内面丸具は青海波文)。	秋間系
283-2 159	須恵 壘	カマド内 破片	厚 0.5	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	283図-1と同一個体	秋間系

B区第147号住居跡

押出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
284-1 159	土師器 壘	カマド内 破片	口 (22.0)	黒色紅物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面割部は貫削り、口縁部は横溝で、内面割部は貫削り。	藤岡系
284-2 瓦-673 159	瓦 宇瓦	カマド 割り方内 破片	—	白色粒子	還元焰 焼締	灰紫	重弧文の一部と思われる。	東附系
284-3 159	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.4	白色粒子	還元焰 焼締	灰	輪巻き造り。凹面模付。凸面鑄叩き。	中之条系

B区第150号住居跡

押出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
286-1 190	土師器 環	覆土内 破片	口 (12.0)	微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部形状工具の横溝により直立気味。底部は貫削り。口縁直下に型溝を残す。内面に「十」を型抜きする(焼成前)。	藤岡系
286-2 190	土師器 環	覆土内 破片	口 (12.6)	白色微粒子 微粒雲母 黒色紅物粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部・器内面は横溝で、底部は貫削り。体部に型溝を残す。	藤岡系
286-3 190	土師器 環	カマド内 破片	口 (15.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色紅物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横溝で、底部は貫削り。体部に型溝を残す。	藤岡系
286-4 190	土師器 環	覆土内 瓦	口 (16.5)	白色微粒子 微粒雲母 黒色紅物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横溝で、底部は貫削り。体部に型溝を残す。	藤岡系
286-5 159	土師器 環	覆土内 瓦	口 13.4 高 3.2	白色微粒子 微粒雲母 黒色紅物粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部・器内面は横溝で、底部は貫削り。体部に型溝を残す。	藤岡系
286-6 159	土師器 環	床直層 瓦	口 14.6 高 4.0	白色微粒子 微粒雲母 黒色紅物粒子	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横溝で、底部は貫削り。体部に型溝を残す。	藤岡系
287-1 190	土師器 環	覆土内 破片	口 (13.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色紅物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。器厚は厚く、体部に型溝を残し、底部は貫削り。	藤岡系
287-2 190	土師器 環	覆土内 破片	口 (15.0)	黒色紅物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に強い横を有する。底部は貫削り。	藤岡系
287-3 190	土師器 環	カマド内 破片	口 (14.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下に型溝を残し、下半部は貫削り。底部は貫削り。	藤岡系
287-4 190	土師器 環	覆土内 破片	底 (8.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部は外傾し体部は斜位の貫削り、底部は貫削り整形。口縁部器内面放射状模文を残す。	藤岡系
287-5 190	土師器 環	覆土内 破片	底 (9.5)	微粒雲母 赤褐色粒子 白色微粒子	還元焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下に型溝を残し、下半部は貫削り。底部は貫削り。	藤岡系
287-6 190	須恵器 環	覆土内 破片	横 5.6	白色微粒子	還元焰	灰	輪轆整形(右回転)。天上部は回転貫削り。横部は貼付付け。	秋間系
287-7 190	須恵器 環	覆土内 破片	口 (16.0)	白色微粒子	還元焰	灰	輪轆成形(右回転)。	秋間系
287-8 190	須恵器 環	覆土内 破片	口 (14.0)	白色微粒子	還元焰	鈍灰	輪轆整形(右回転)。天上部自然輪付着。	秋間系
287-9 190	須恵器 環	覆土内 破片	口 (16.0)	白色微粒子	還元焰	灰	輪轆成形(右回転)。	秋間系

遺物一覧表

287-10 160	須恵器 環蓋	覆土内 破片	□ (17.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰 灰	轆轤成形 (右回転)。天上部は回転歪削り。	秋間系
287-11 159	須恵器 環	覆土内 瓦	□ 12.5 底 7.5 高 3.4	白色微粒子	還元焰 鈍灰	轆轤成形 (右回転)。回転歪削り。	秋間系
287-12 159	須恵器 環	覆土内 瓦	□ 13.0 底 (8.0) 高 (3.4)	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰 灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転歪削り。	吉井系
287-13 160	須恵器 環	カマド内 瓦	□ 13.3 底 (8.0) 高 (3.4)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰 鈍灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転歪削り。	秋間系
287-14 160	須恵器 環	床面層 定形	□ 13.3 底 9.8 高 4.0	白色微粒子	還元焰 白灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転歪削り。底面 捺印「X」を露出させる。	秋間系
287-15 160	須恵器 環	覆土内 瓦	□ 14.0 底 9.4 高 3.6	赤褐色粒子 白色微粒子	中性焰 灰黄	轆轤成形 (右回転)。底部は回転歪削り。	笠懸系
287-16 160	須恵器 環	覆土内 瓦	□ 14.0 底 8.5 高 4.25	白色微粒子 黒色粒子	還元焰 灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転歪削り。見込 みが露出する。	秋間系
288-1 160	土師器 壺	覆土内 破片	□ (16.3)	白色微粒子 白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰 浅黄橙	紐作り。口縁部は外反する。外面側部は歪削り。 口縁部は横無で、内面側部は歪削り。	藤岡系
288-2 160	土師器 甕	覆土内 破片	□ (19.0)	細粒砂 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰 黒褐	紐作り。口縁部は外反する。外面側部は歪削り。 口縁部は横無で、内面側部は歪削り。	吉井・藤岡系
288-3 160	土師器 壺	カマド内 破片	□ (22.1)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰 黄橙	紐作り。口縁部は外反する。外面側部は歪削り。 口縁部は横無で、内面側部は歪削り。	藤岡系
288-4 160	土師器 鉢	カマド内 破片	□ (24.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰 黄橙	歪作り成形か。胴部・体部は歪削り成形。口 縁部は横無で、内面は歪削り。	藤岡系
288-5 160	須恵器 壺	覆土内 破片	□ (23.0)	黒色鉱物粒子	還元焰 鈍灰	轆轤成形 (左回転)。	吉井系か
288-6 160	須恵器 壺	覆土内 瓦	□ 21.8 底 (17.0) 高 3.35	黒色粒子 白色微粒子	還元焰 灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
288-7 160	須恵器 壺	覆土内 破片	底 (17.0)	白色微粒子	還元焰 灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
288-8 160	須恵器 壺 (脚付)	覆土内 破片	—	黒色粒子 白色微粒子	還元焰 灰	紐作り後轆轤成形 (右回転)。高台女損 (付高 台)。	栗附系か 秋間系
288-9 161	瓦 男瓦	カマド内 瓦	厚 1.3	白色鉱物粒子	還元焰 黄灰	半截作り。凸面轆轤成形。側面取り 2回・ 端部取り 3回。	吉井系
289-1 161	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白色鉱物粒子 デイスライト	還元焰 灰	半截作り。凸面脚叩き整形 (密) 後轆轤成形 側面取り 3回。側面取り 2回。	吉井系
289-2 161	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚 1.6	白色微粒子	還元焰 灰	半截作り。凸面縦位の側で整形。側面取り 3回・端部取り 2回。	笠懸系
289-3 160	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰 鈍褐	一枚作り。凹面布目磨り消し。凸面側で整形 後捺子叩き整形。側面取り 2回。	笠懸系
289-4 161	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.2	白色微粒子	還元焰 灰	一枚作り。凹面布目磨り消し面縦位の側で整形 後捺子叩き。側面取り 2回。	笠懸系
289-5 161	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰 白灰	桶巻き造り。凹面横骨筋・粘土板割ぎ取り痕。 凸面脚叩き (密)。	吉井系か
289-6 161	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰 灰	一枚作り。凹面布目磨り消し。凸面縦位の側 で整形。	笠懸系

B区第152号住居跡

棟内番号 図面番号	種別 器種	出土位置 透視状況	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
250-1 161	土師器 環	覆土内 破片	□ (12.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰 橙		歪作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下に 彫痕を残し、底部は平底で歪削り。	藤岡系

290-2 161	須恵器 埴	覆土内 瓦	口 13.7 底 (6.0) 高 (5.0)	白色微粒子 微粒雲母	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井系
290-3 161	須恵器 埴	覆土内 瓦	口 13.0 底 6.0 高 4.7	白色微粒子 黒色粒子 微粒雲母	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井系
290-4 161	須恵器 埴	覆土内 破片	口 (11.0)	微粒雲母 白色微粒子 白色藍物粒子	還元焰	褐	紐作り後轆轤成形(右回転)。胴部は縦位の器 附り。	吉井系
290-5 161	須恵器 埴	カマド内 破片	口 (12.4)	微粒雲母 黒色粒子 黒色藍物粒子	還元焰	暗黄灰	紐作り後轆轤成形(右回転)。	吉井系
290-6 161	土師器 坏	覆土内 破片	—	微粒雲母 黒色藍物粒子	酸化焰	橙	型作りの平底を呈する坏の底面に墨書する。 文字は「大」に類すると思われる。	藤岡系
290-7 161	鉄器 不詳	カマド内 破片	重 5.1	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。全体の形状は縦に 一定さが認められず、全体的に歪んだ形状で あるが、錆化に起因するものではない。	—
290-8 161	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.3	白色藍物粒子 ダイヤサイト	還元焰	橙	半截作りか。凸面縦位の無で整形。	吉井系

B区第180号住居跡

探出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
292-1 161	須恵器 坏	覆土内 破片	底 (6.8)	白色微粒子 透明藍物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。回転蓋附り。	吉井系
292-2 161	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凸面轆轤整形。側面取り3回。 凸面自然輪付着。	笠懸系
292-3 瓦-616	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.8	白色藍物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凹面布目捺り消し。面縦位の無 で整形。縦書き文字瓦不詳(凹面)。	吉井系
292-4 瓦-617	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色藍物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	一枚作りか。凸面縦位の無で整形。縦書き文 字瓦「夫」(凹面)。	吉井系
292-5 161	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.7	白色粒子 白色藍物粒子	還元焰	灰	桶巻造り。凹面換骨状。凸面鈍叩き。端部 面取り1回。	中之条系

B区第180号住居跡

探出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
293-1 162	土師器 坏	覆土内 破片	口 (17.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	淡黄橙	型作り。口縁部は外傾し体部は斜位の器附り、 底部は腹周整形。口縁部器内面放射状暗文を 呈す。	藤岡系
293-2 162	須恵器 坏	覆土内 瓦	換 (2.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。上半部は回転蓋附り。換 部は貼り付け。	秋間系
293-3 162	須恵器 埴	覆土内 破片	口 (12.4)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。	秋間系
293-4 161	須恵器 坏	床直面上 一部欠損	口 13.1 底 8.9 高 4.0	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転蓋起し。	秋間系
293-5 162	須恵器 坏	覆土内 破片	底 (8.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。回転蓋附り。	秋間系
293-6 162	磨器 磨石	覆土内 完存	長 4.6 幅 3.6 厚 3.6	粗粒安山岩	—	—	全体が丸く磨減する。	重90g
293-7 161	須恵器 大壺	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は背面波文)。内面一部磨減する。	太田系か

B区第160号住居跡

探出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
294-1 162	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下に 墨書を残し、下半部は腹周り。底部は平底で 器附り。	藤岡系

遺物一覧表

294-2 163	土器 環	覆土内 破片	口 (17.2)	微粒雲母 シルト質	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。口縁直下に塗着を残す。底部・底面は型削り整形。器内部は撫で整形後放射状噴文を施す。	藤岡系
294-3 162	土器 環	カマド内 環	口 12.2 高 3.5	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は型削り。口縁直下に塗着を残す。	藤岡系
295-1 162	土器 環	カマド内 環	口 13.0 高 3.6	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は型削り。口縁直下に塗着を残す。	藤岡系
295-2 162	土器 環	覆土内 ほぼ完形	口 13.7 高 3.0	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は型削り。口縁直下に塗着を残す。	藤岡系
295-3 162	土器 環	覆土内 環	口 18.2 高 6.0	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は型削り。口縁直下に塗着を残す。	藤岡系
295-4 163	須志器 環蓋	覆土内 破片	口 (16.5)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	輪縁成形(右回転)。端部は折り返し。天井側が剥落する。被熱による割れと思われる。	秋間系
295-5 162	須志器 環	カマド内 ほぼ完形	口 12.1 底 8.4 高 3.6	白色微粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰白	輪縁成形(右回転)。回転蹴起し後腰・底部は型削り整形。	秋間系
295-6 162	須志器 環	カマド内 環	口 12.2 底 8.0 高 3.4	白色微粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰白	輪縁成形(右回転)。回転蹴起しか。腰・底部は手持型削り。295図-5と同一技法。	秋間系
295-7 162	須志器 高台付環	床直層 環	口 (15.0) 底 (11.0) 高 3.7	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	輪縁成形(右回転)。付高台。	秋間系
295-8 162	土器 環	カマド内 一部欠損	口 23.8 底 5.8 高 32.6	細粒砂 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	紐作り。口縁部は外反する。外面側部は型削り。口縁部は横撫で。内面側部は皮撫で。	藤岡系
295-9 162	土器 環	カマド内 環	口 24.0	細粒砂 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	紐作り。口縁部は外反する。外面側部は型削り。口縁部は横撫で。内面側部は皮撫で。	藤岡系
296-1 163	土器 環	カマド内 環	口 23.7	細粒砂 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	紐作り。口縁部は外反する。外面側部は型削り。口縁部は横撫で。内面側部は皮撫で。	藤岡系
296-2 163	土器 環	カマド内 環	口 23.9	細粒砂 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	紐作り。口縁部は外反する。外面側部は型削り。口縁部は横撫で。内面側部は皮撫で。	藤岡系
296-3 163	火打石	カマド内 完存	長 4.2 幅 1.7 厚 1.6	石英	—	—	確固の角部を使用部としている。9回の使用(?)から認められる。	重20g
296-4 163	雑器 擦石・敲石	覆土内 完存	長 11.7 幅 5.9 厚 4.4	粗粒安山岩	—	—	小口側に敲打痕が認められ、平坦面に使用に伴ない磨滅する。	重420g
296-5 163	雑器 擦石	床直層 完存	長 13.0 幅 5.9 厚 3.6	粗粒安山岩	—	—	平坦面に使用に伴ない磨滅する。	重340g
296-6 163	雑器 敲石	床直層 完存	長 14.2 幅 13.6 厚 3.3	角閃石安山岩	—	—	縁辺の一部に刺傷が認められる。	重890g
296-7 163	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.3	白色微粒子 赤褐色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	桶巻き造り。凹面横骨状・布合せ目筋。凸面輪縁整形。	吉井・藤岡系
296-8 163	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。木目目き整形後縁位の撫で整形。	吉井系

B区第161号住居跡

縄文番号 調査番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	産目 量目 (g)	土質	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
297-1 163	須志器 環	覆土内 環	口 (12.0) 底 (5.5) 高 (3.5)	黒色鉱物粒子 デイスイト	酸化焰	黄橙	輪縁成形(右回転)。底部は回転蹴切り。	吉井・藤岡系
297-2 163	須志器 埴	ピット内 環	口 12.2	白色微粒子	酸化焰	灰黄	輪縁成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	吉井・藤岡系

B区(161・162(B)号住居跡)

297-3 163	須志 羽 黒色土器 埴	ピット内 埴	口(12.6) 底 7.2 高 5.3	微粒霞母 白色微粒子 白色紅物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
298-1 163	須志 羽 埴	ピット内 完全形	口 13.5 底 9.0 高 5.4	白色微粒子	中性焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	不詳
298-2 163	須志 羽 埴	ピット内 埴	口(14.2) 底 8.0 高 6.3	白色微粒子 微粒霞母	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
298-3 163	須志 羽 羽 差	覆土内 破片	厚 0.8	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井型羽 差
298-4 163	高輪陶器 埴	覆土内 破片	口(15.0)	密	良好	灰	轆轤成形(右回転)。施軸は没掛け。	—
298-5 163	瓦 瓦	ピット内 破片	厚 1.8	微粒霞母 白色微粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。凸面破位の無で整形。	藤岡系
299-1 163	瓦 男 瓦	床直 破片	厚 2.5	白色微粒子 赤褐色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	鈍黄橙	平截作り。凸面破位の無で整形。側面取 り2回・端面取り1回。	笠懸系
299-2 163	瓦 女 瓦	ピット内 破片	厚 1.7	白色紅物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面破位の無で整形。側面取 り2回・端面取り1回。	吉井・藤 岡系

B区第162(B)号住居跡

調査番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形・技 法 等 の 特 徴	備 考
301-1 164	須志 羽 埴	覆土内 破片	口(11.2) 底(6.0) 高(3.6)	白色微粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	東附系か 藤岡系
301-2 164	須志 羽 埴	覆土内 破片	口(12.4) 底(4.6) 高(4.5)	白色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	灰軸 不詳
301-3 164	須志 羽 埴	カマド内 破片	口(13.4)	白色紅物粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形(右回転)。	吉井系
301-4 164	須志 羽 埴	掘り方内 破片	口(13.6)	白色紅物粒子 白色微粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。	吉井系
301-5 164	須志 羽 埴	カマド内 破片	口(13.6) 底(5.7) 高(3.8)	微粒霞母 白色微粒子	中性焰	鈍黄橙 灰黄	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井系
301-6 164	須志 羽 埴	覆土内 破片	底(6.0)	黒色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
301-7 164	須志 羽 羽 差	覆土内 破片	口(19.2)	白色紅物粒子 微粒霞母 白色微粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。脚は貼り付け。	吉井型羽 差 甲武 種古類
301-8 164	須志 羽 羽 差	覆土内 破片	口(24.0)	白色紅物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。脚は貼り付け。	吉井型羽 差 甲武 種古類
302-2 164	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色紅物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凸面破位の無で整形。端面取 り1回・端面取り2回。貫抜き文字瓦「十」 〔凸面〕。	吉井系
302-3 164	瓦 男 瓦	カマド内 破片	厚 1.7	黒色微粒子	還元焰	灰	平截作り。凸面轆轤整形。側面取 り4回。凹面粘土板割ぎ取り痕。	秋間系
302-4 164	瓦 男 瓦	カマド内 破片	厚 1.9	黒色微粒子	還元焰	白灰	平截作り。凸面轆轤整形。側面取 り2回・端面取 り2回。凹面布合せ目 痕・粘土板割 ぎ取り痕。	秋間系
302-5 164	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 0.8	白色紅物粒子	還元焰	鈍黄橙	一枚作り。凸面破位の鋭削り整形。端面取 り2回。	吉井系
302-6 164	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 2.4	白色紅物粒子 白色微粒子	中性焰	黄灰	筒巻き造り。凹面布目摺り押し・布合せ目 痕。凸面轆轤整形。	吉井系
302-7 164	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.2	白色微粒子 赤褐色微粒子	還元焰	鈍黄橙	一枚作り。凸面丁字状縮印き(密)。側面取 り2回・端面取り2回。	秋間系

遺物一覧表

302-8 164	鉄器 不詳	覆土内 破片	厚 重	0.15 6.1	—	—	—	全体に錆化が入んでいる。中央部に孔を有している。孔は、片側より釘等により打ち抜かれた状態となっている。	—
302-9 164	鉄器 釘	覆土内 両端欠損	重	0.7	—	—	—	全体に錆化が入ぶが遺存状態は良好である。釘としては最も短かい一冊と考えられる。断面正方形形状を呈する。	—
302-10 164	鉄器 不詳	覆土内 破片	幅	0.5 1.4	—	—	—	全体に錆化が入んでいる。小破片であるため種別の特定は不可能であるが、地鉄も良好なため、釘とは思われない。	—
302-11 164	鉄器 不詳	覆土内 破片	幅 重	0.3 0.3	—	—	—	全体に錆化が入んでいる。両端は調査後の欠損。	—

B区第162号住居跡

押出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
303-1 164	土器 器 環	覆土内 破片	口 (13.2)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部・器内面は横溝で、底部は型削り。体部に歪みを残す。	藤岡系
303-2 164	土器 器 環	覆土内 破片	口 13.4	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は内再する。口縁直下に彫溝を残す。底部は型削り。	藤岡系
303-3 164	土器 器 環	覆土内 破片	口 15.8	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に軽い線を有する。口縁部に彫溝を残す。底部は型削り。	藤岡系
304-1 164	土器 器 環	覆土内 破片	口 (18.0)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に線を有する。底部は型削り。	藤岡系
304-2 165	土器 器 環	覆土内 片	口 (17.0) 高 4.9	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に軽い線を有する。底部は型削り。	藤岡系
304-3 164	須恵器 器 蓋	覆土内 破片	口 (14.2)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。口唇部に自然釉付着。	栗附系
304-4 165	須恵器 器 環	カマド内 片	横 3.2 口 (14.7) 高 4.9	黒色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	肩部は下方に折り返す。轆轤成形 (右回転)。上半部は回転削り。肩部は貼り付け。	吉井・藤岡系
304-5 165	須恵器 器 環	カマド内 片	口 (15.0) 底 (7.2) 高 (3.7)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転削り。	秋間系
304-6 165	土器 器 環	床直層 破片	底 5.6	細粒砂 白色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り成形後、費磨で整形。	藤岡系

B区第163号住居跡

押出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
306-1 165	須恵器 黒色土器 塊	覆土内 片	底 7.0	白色微粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	新・灰 外・黒	轆轤成形 (右回転)。高台は高台。	吉井・藤岡系
306-2 165	須恵器 器 蓋	カマド内 破片	口 (13.2)	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。	吉井系
306-3 165	須恵器 器 蓋	覆土内 破片	底 (17.0)	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	紐作り後轆轤整形 (右回転)。胴部下半・底部は型削り。	吉井系
306-4 165	須恵器 羽 蓋	覆土内 破片	口 (21.0)	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰黄	口縁部は直立気味。紐作り後轆轤整形 (右回転)。胴は貼り付け。	吉井羽蓋 釜甲斐 種呂類
306-5 165	須恵器 羽 蓋	カマド内 破片	口 (21.0)	白色鉱物粒子 白色粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は直立気味。紐作り後轆轤整形 (右回転)。胴は貼り付け。	吉井羽蓋 釜甲斐 種呂類
306-6 165	須恵器 羽 蓋	カマド内 破片	底 (8.2)	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	中性焰	鈍黄橙	紐作り後轆轤整形 (右回転)。外面型削りを残す。	吉井系 吉井羽蓋

306-7 165	雑 掘	瓦 石	覆土内 瓦	長 幅	7.7 6.5 2.0	粗粒安山岩	—	—	平組面が使用に伴ない磨滅する。	
306-8 165	瓦 男	瓦	覆土内 破片	厚	2.0	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面横叩き整形(密)後継輪内整形。側面面取り1回・端部面取り1回。	乗附系か
306-9 165	瓦 女	瓦	覆土内 破片	厚	1.9	白色鉱物粒子	還元焰	灰黄褐色	桶巻作り。凸面横叩き。粘土板割ぎ取り痕。凸面横叩き(密)整形後継輪面での再整形。側面面取り3回・端部面取り2回。	吉井系
307-1 165	瓦 男	瓦	覆土内 破片	厚	2.9	白色鉱物粒子	還元焰	黄灰	半截作り。凸面平行叩き。側面面取り3回。	吉井系
307-2 165	瓦 男	瓦	カマド内 破片	厚	1.1	白色鉱物粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰黄	半截作り。凸面継輪整形。側面面取り3回・端部面取り3回。凹面粘土板割ぎ取り痕。	吉井系
307-3 165	瓦 男	瓦	カマド内 破片	厚	2.1	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縦位の横で整形。側面面取り3回・端部面取り3回。	吉井系

B区第164住居跡

発掘番号 図面番号	種 別	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形・技 法等の 特徴	備 考
308-1 166	土 器	覆土内 破片	□ (11.65)	白色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍黄褐色	型作り成形。口縁部は直立する。口縁直下に 彫溝を残す。底部は寛削り。	藤岡系
308-2 166	土 器	覆土内 破片	□ (12.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄褐色	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は寛削り。体部に型溝を残す。	藤岡系
308-3 166	土 器	覆土内 破片	□ (12.0)	白色微粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍褐色	型作り成形。口縁部は内湾気味。口縁直下に 彫溝を残す。底部は寛削り。	藤岡系
308-4 166	土 器	覆土内 破片	□ (12.2)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄褐色	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は寛削り。体部に型溝を残す。	藤岡系
308-5 166	土 器	覆土内 破片	□ (12.7)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄褐色	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は寛削り。体部に型溝を残す。	藤岡系
308-6 166	土 器	覆土内 破片	□ (13.1)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄褐色	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は寛削り。体部に型溝を残す。	藤岡系
308-7 166	土 器	覆土内 破片	□ 13.5	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍黄褐色	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は寛削り。体部に型溝を残す。	藤岡系
309-1 166	土 器	覆土内 瓦	□ 14.2 高 3.6	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍褐色	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は寛削り。体部に型溝を残す。	藤岡系
309-2 166	土 器	覆土内 破片	□ (16.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍褐色	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は寛削り。体部に型溝を残す。	藤岡系
309-3 166	土 器	覆土内 破片	□ (12.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直 下に強い横を有する。口縁部に彫溝を残す。 底部は寛削り。	藤岡系
309-4 166	土 器	床直層 瓦	□ 11.9 高 3.6	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄褐色	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は寛削り。体部に型溝を残す。	藤岡系
309-5 166	土 器	床直層 一部欠損	□ 12.8 高 4.3	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄褐色	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は寛削り。体部に型溝を残す。	藤岡系
309-6 166	土 器	床直 ほぼ完形	□ 13.0 高 3.8	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は寛削り。体部に型溝を残す。	藤岡系
309-7 166	土 器	床直層 一部欠損	□ 13.1 高 4.8	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は寛削り。体部に型溝を残す。	藤岡系

遺物一覧表

309-8 166	土師器 坏	床直 列	口 高	14.0 4.55	白色微粒子 微粒炭母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横櫛で、底部は篋削り。体部に型腐を残す。	藤岡系
309-9 166	土師器 坏	覆土内 列	口 底 高	(11.0) (8.4) (3.4)	白色微粒子 微粒炭母	酸化焰	黄橙	型作り成形。器内面に二重縞文を施す。体部に型腐を残し底部は篋削り。	藤岡系
309-10 166	須恵器 高台付坏	覆土内 破片	底	(10.8)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	黄灰	輪縁成形(右回転)。回転発削り後削出し高台。	秋間系
309-11 166	土師器 壺	カマド内 底部破片	底	4.6	白色微粒子 微粒炭母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り成形後篋削り整形。	藤岡系
309-12 166	須恵器 大壺	覆土内 破片	厚	1.0	白色微粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰色	紐作り。叩き整形(外周叩き不詳・内周兎具は青黄波文)後無整形。	栗附系
309-13 166	雑器 磨石	覆土内 完形	長 幅 厚	11.6 9.0 2.5	粗粒安山岩	—	—	平組面が使用に伴ない磨減する。	重580g
309-14 166	雑器	床直 完形	長 幅 厚	18.5 6.8 5.7	粗粒安山岩	—	—	特別な使用痕は認められない。	—
309-15 166	瓦製円盤	覆土内 完形	長 幅 厚	6.5 5.8 2.2	白色鉱物粒子 細粒砂	酸化焰	黄橙	女瓦片を転用する。	吉井系
310-1 166	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚	0.9	白色粒子	中性焰	灰黄	一枚作りか。凸面木目叩き。側面面取り1回。	吉井・藤岡系
310-2 166	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	1.4	白色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	鈍褐	一枚作りか。凸面平行叩き。凹面粘土板割ぎ取り痕。	笠懸系
310-3 166	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	2.3	白色粒子 細粒砂	中性焰	鈍黄橙	桶巻き造り。凹面横骨筋。凸面輪縁整形。側面面取り2回。	吉井系

B区第166号住居跡

検出番号 図収番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
311-1 166	土師器 壺	覆土内 片	口径(33.8)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子 粗粒砂	酸化焰	橙褐	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削りで、口縁部は横櫛で、内面胴部は篋削りで。	藤岡系	
312-1 166	土師器 坏	覆土内 片	口 (20.0)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒炭母	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部は外傾する。体部は篋削り。口縁部に型腐を残す。	藤岡系	
312-2 166	須恵器 壺	覆土内 破片	厚	0.8	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	黒灰	口縁部は外反し、8本1単位の波状文を施す。紐作り後輪縁整形(右回転)。口縁部外面に自然輪縁着。	栗附系
312-3 166	須恵器 小型壺	覆土内 破片	口 (14.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。紐作り後輪縁整形(右回転)。口縁部に自然輪縁着。	秋間系	

B区第167号住居跡

検出番号 図収番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
313-1 167	土師器 坏	覆土内 破片	口 (19.8)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒炭母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁部下に強い横を有する。底部は篋削り。	藤岡系	
313-2 167	須恵器 壺	覆土内 破片	厚	1.3	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	灰黄	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面兎具は青黄波文)。	秋間系
313-3 167	雑器 磨石	覆土内 完形	長 幅 厚	8.0 4.7 1.3	砂岩	—	—	平組面が使用に伴ない磨減する。	重82.0g
314-1 167	土師器 壺	カマド内 片	底	5.5	黒色鉱物粒子 微粒炭母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。外面胴部は篋削り、内面胴部は篋削りで。	藤岡系

B区(166・167・168号住居跡)

314-2 167	煉瓦 磨石	覆土内 完存	長 幅 厚	15.3 5.6 4.8	滑結凝灰岩	—	—	平坦面に使用に伴ない磨滅する。	重760g
314-3 167	煉瓦 磨石	覆土内 完存	長 幅 厚	9.9 5.9 2.8	粗粒安山岩	—	—	平坦面に使用に伴ない磨滅する。	重271g
314-4 167	煉瓦 磨石	覆土内 完存	長 幅 厚	12.6 7.1 5.2	粗粒安山岩	—	—	平坦面に使用に伴ない磨滅する。	重610g
314-5 167	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚	1.6	白色顔料粒子	還元焰	灰黄	半截作り。凸面朝向き整形(逆)後轆轤再整形。	吉井系
314-6 167	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚	1.3	白色顔料粒子	中性焰	鈍黄橙	半截作り。凸面轆轤整形。	笠形系

B区第168号住居跡

押出番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	寸法 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
315-1 167	土師器 甕	覆土内 破片	□(12.2)	黒色顔料粒子 白色顔料粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は内湾気味。口縁直下に 彫溝を残す。底部は貫削り。	藤岡系
315-2 167	土師器 甕	覆土内 破片	□(13.0)	黒色顔料粒子 白色顔料粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下に 彫溝を残す。底部は貫削り。	藤岡系
315-3 167	土師器 甕	覆土内 破片	□(14.0)	白色顔料粒子 微粒雲母 黒色顔料粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は貫削り。体部に彫溝を残す。	藤岡系
315-4 167	土師器 甕	覆土内 破片	□(14.0)	黒色顔料粒子 白色顔料粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は内湾気味。口縁直下に 彫溝を残す。底部は貫削り。	藤岡系
315-5 167	土師器 甕	覆土内 破片	□(14.4)	白色顔料粒子 微粒雲母 黒色顔料粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は貫削り。体部に彫溝を残す。	藤岡系
315-6 167	土師器 甕	カマド内 破片	□(15.0)	黒色顔料粒子 白色顔料粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部筒状工具の横撫により直 立気味。口縁直下に彫溝を残す。底部は貫削 り。	藤岡系
315-7 167	土師器 甕	覆土内 破片	□(18.0)	黒色顔料粒子 白色顔料粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下に 彫溝を残す。底部は貫削り。	藤岡系
315-8 167	土師器 甕	カマド内 破片	□(18.6)	シレット 密	酸化焰	橙	型作り成形。底部は平底。口縁部は段を有し、 横撫で後研磨を施す。体部は貫削り後研磨を 施す。	畿内産
315-9 167	土師器 甕	床直層 瓦	□16.7 高4.2	黒色顔料粒子 白色顔料粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。口縁部は内湾気味。口縁直下に 彫溝を残す。底部は貫削り。	藤岡系
315-10 167	土師器 甕	カマド内 一部欠損	□16.6 底14.4 高3.4	黒色顔料粒子 白色顔料粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直 下に段を有する。口縁直下に彫溝を残す。底 部は平底気味貫削り。	藤岡系
315-11 167	土師器 甕	床直層 一部欠損	□15.4 高4.5	微粒雲母 白色顔料粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部は段を有する。器厚は薄 く、体部に彫溝を残し底部は貫削り。器内面 に研磨の痕跡が認められるが、風化により判 読不能。	藤岡系
315-12 167	須恵器 甕	覆土内 瓦	□(16.6)	黒色顔料粒子 白色顔料粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。上半部は回転削り後轆 轤再整形。	秋間系
316-1 167	須恵器 甕	床直層 ほぼ完形	□16.3 底11.4 高3.9	白色顔料粒子 白色顔料粒子 黒色顔料粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転削り。削り 出し高台。	秋間系
316-2 167	須恵器 甕	床直層 ほぼ完形	□16.6 底9.5 高4.5	黒色顔料粒子 白色顔料粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転削り。削り 出し高台。	秋間系
316-3 167	土師器 甕	カマド内 破片	□(20.2)	細粒砂 黒色顔料粒子	酸化焰	浅黄橙	型作り。口縁部は外反する。外面彫削り貫削 り。口縁部は横撫で。内面彫削り貫削り。	藤岡系

遺物一覧表

316-4 168	土器 壺	カマド内 片	口 (22.4)	細粒砂 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	紐作り。口縁部は外反する。外面割部は覆削り。口縁部は横撫で。内面割部は覆削り。	藤岡系
316-5 168	土器 壺	カマド内 片	口 (24.0)	細粒砂 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	紐作り。口縁部は外反する。外面割部は覆削り。口縁部は横撫で。内面割部は覆削り。	藤岡系
316-6 167	土器 壺	床直 破片	口 (26.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	紐作り。口縁部は外反する。外面割部は覆削り。口縁部は横撫で。内面割部は覆削り。	藤岡系
316-7 167	須恵器 フラスコ形 提瓶	覆土内 破片	厚 1.3	白色微粒子 黒色粒子	還元焰 焼締	灰	轆轤成形 (右回転)。胎線は浸蝕。	東海系
316-8 168	陶器 磨石	床直 完存	長 13.8 幅 6.4 厚 4.6	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重760g
317-1 168	陶器	床直 完存	長 14.9 幅 4.6 厚 4.0	粗粒安山岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重670g
317-2 168	陶器 磨石	覆土内 完存	長 15.3 幅 13.1 厚 4.2	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重1340g
317-3 168	鉄器 不詳	覆土内 破片	幅 0.4 重 5.4	—	—	—	全体に錆化が及入っている。「S」字状に屈曲する。	—
317-4 168	鉄器 不詳	覆土内 破片	厚 0.05 重 0.8	—	—	—	全体に錆化が及入っているが遺存状態は良好である。器厚は非常に薄い。産金物等が考えられる。	—

B区第169号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
318-1 168	土器 坏	カマド内 片	口 (11.9)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は覆削り。体部に型痕を残す。	藤岡系
318-2 168	土器 坏	覆土内 破片	口 (13.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は覆削り。体部に型痕を残す。	藤岡系
318-3 168	土器 坏	カマド内 破片	口 (13.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は覆削り。体部に型痕を残す。	藤岡系
318-4 168	須恵器 坏	覆土内 片	底 6.0	白色微粒子 黒色粒子	還元焰 焼締	灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	輸入品の 乗附系
318-5 168	施釉陶器 灰胎	覆土内 破片	底 (8.0)	密	良好	灰黄	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	—
318-6 168	土器 壺	カマド内 破片	口 (24.0)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面割部は覆削り、口縁部は横撫で、内面割部は覆削り。	藤岡系
318-7 168	陶器 磨石	覆土内 片	幅 6.6 厚 4.3 長 (9.5)	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重520g

B区第170号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
320-1 168	須恵器 坏	カマド内 完存	口 10.5 高 2.6	白色微粒子	還元焰	灰	底部は返りを有する。轆轤成形 (右回転)。上半部は回転笠削り。胴部は貼り付け。	秋間系
320-2 168	土器 坏	覆土内 破片	口 (12.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内両気味。体部・底部は覆削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
320-3 168	土器 坏	覆土内 破片	口 (14.0)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は覆削り。体部に型痕を残す。	藤岡系
320-4 168	土器 壺	覆土内 破片	口 (14.0)	白色微粒子 黒色微粒子 微粒砂	酸化焰	鈍橙	口縁部は外反する。紐作り乃至型作り成形。外面割部は覆削り、口縁部は横撫で、内面割部は覆削り。	藤岡系

320-5 168	土器 壺	覆土内 破片	断面(13.0)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 細粒砂	酸化焰	橙*	口縁部は外反する。紐作り乃至型作り成形。外面胴部は磨削り、口縁部は横削で、内面胴部は磨削で。	藤岡系
320-6 168	土器 壺	覆土内 破片	底 7.6	細粒砂 黒色鉱物粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	紐作り成形後磨削り整形。	吉井・藤岡系
320-7 168	須志器 壺	覆土内 破片	厚 0.9	白色微粒子	還元焰	灰黄	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。後輪軸再整形。	秋田系
320-8 168	須志器 大壺	カマド内 破片	厚 0.8	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩きの類似格子状・内面宛具は青海波文)。	乗原系
320-9 168	磨器 磨石	覆土内 完存	長 6.4 幅 5.0 厚 2.2	黒色頁岩	—	—	平ら面が使用に伴ない磨減する。	重100g

B区第171号住居跡

博覧番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目(φ)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
321-1 169	土器 坏	覆土内 破片	口 (10.5)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は直立する。口縁直下に磨削を残す。底部は磨削り。	藤岡系
321-2 169	土器 壺	覆土内 破片	口 (15.0)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	「コ」の字状口縁に類似する。紐作り乃至型作り成形。外面胴部は磨削り、口縁部は横削で、内面胴部は磨削で。	藤岡系
322-1 169	磨器 磨石	床直 完存	長 13.4 幅 6.6 厚 3.8	粗粒安山岩	—	—	平ら面が使用に伴ない磨減する。	重560g

B区第173号住居跡

博覧番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目(φ)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
324-1 169	土器 坏	カマド内 片	口 11.2 高 3.2	黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾する。外面口縁直下に強い稜を有する。器内面に指弾痕を残す。底部は磨削り。	藤岡系
324-2 169	土器 坏	覆土内 破片	口 (9.4)	黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部外傾気味。体部・底部は磨削り整形。器内面は磨で整形。口縁直下に磨削を残す。	藤岡系
324-3 169	須志器 坏	覆土内 破片	底 (7.4)	白色鉱物粒子 黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	輪軸成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井系
324-4 169	土器 壺	カマド周 辺破片	口 (20.7)	細粒砂 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は磨削り、口縁部は横削で。内面胴部は磨削で。	藤岡系
324-5 169	須志器 壺	床直層 破片	厚 0.9	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	乗原系

B区第174号住居跡

博覧番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目(φ)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
325-1 169	須志器 坏	カマド内 破片	口 (11.8)	黒色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	輪軸成形(右回転)。	不詳
325-2 169	陶物 灰輪軸	カマド内 破片	口 (13.0)	密	良好	白灰	輪軸成形(右回転)。施軸は段掛か。	—
325-3 169	瓦 男瓦	カマド右 袖破片	厚 1.8	白色鉱物粒子 白色粒子	中性焰	鈍黄橙	紐作り。凸面縦位の撫で整形。側面削取り1回・端部削取り1回。	吉井系
326-1 169	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.9	白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	一枚作り。凹面布目磨り消し。凸面縦位の削り後輪軸叩き整形。端部削取り3回。	笠巻系
326-2 169	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	柄巻き造りか。凹面布目磨り消し。凸面輪軸整形。	吉井系

遺物一覧表

B区第175号住居跡

発掘番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	寸法 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
328-1 169	須志器 坏	覆土内 破片	口 (7.8) 底 (4.0) 高 (2.4)	黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形 (右回転)、底部は回転余切り。	藤岡系
328-2 169	須志器 埴	覆土内 破片	口 (12.8)	黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形 (右回転)。	藤岡系
328-3 169	須志器 坏	覆土内 片	底 6.3	白色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)、底部は回転余切り。	吉井系
328-4 169	施釉陶器 灰胎小瓶	床直 破片	口 (4.8)	密	良好	白灰	紐作り投轆轤整形 (右回転)。	—
328-5 170	土師器 甕	覆土内 破片	口 (21.5)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り。口縁部は外挿する。外面割部は莖削り。口縁部は横撫で。内面割部は莖撫で。	藤岡系
328-6 169	土師器 甕	覆土内 破片	口 (26.0)	微粒雲母 白色微粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は強く外反し口唇部は直立する。紐作り。外面割部は莖削り。口縁部は横撫で。内面割部は莖撫で。	藤岡系
328-7 169	石製品 碁石か	覆土内 完存	長 1.7 幅 1.8 厚 0.8	チャート	—	—	全体圓滑らかである。	—
328-8 169	石製品 碁石か	覆土内 完存	長 2.2 幅 1.9 厚 0.8	チャート	—	—	328-7と同じ	—
328-9 169	石製品 碁石か	覆土内 完存	長 2.1 幅 2.1 厚 0.8	チャート	—	—	328-7と同じ。	—
328-10 169	灰 不詳	覆土内 破片か	重 30.0	—	—	—	全体に銷化が著しい。この銷化の為形状にやや疑問がある。全体は三叉状を呈する。	—
328-11 169	硬 磁石	覆土内 完存	長 9.9 幅 5.4 厚 3.5	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅し、側面・小口側に敲打痕が認められる。	重270g
328-12 169	硬 磁石	覆土内 完存	長 11.4 幅 5.2 厚 3.4	砂岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重386g
328-13 169	硬 磁石	覆土内 完存	長 12.6 幅 5.0 厚 4.3	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重440g
328-14 169	硬 磁石	床直 完存	長 17.3 幅 10.0 厚 3.6	ひん岩	—	—	特別な使用痕は認められない。	重 1,130g
328-15 瓦-653	瓦 鏡瓦	カマド内 片	—	白色鉱物粒子	還元焰	灰	単弁8葉蓮華文。中房の子葉は1+4。外区及び周縁は素文。	吉井系
328-16 170	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.0	白色粒子	中性焰	暗灰黄	半截作り。凸面轆轤整形。側面取り1回・端部面取り1回。	笠懸系
328-17 170	瓦 男瓦	床直 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子	酸化焰 か二次 焼成	橙	半截作り。凸面繩印整形 (密) 後轆轤再整形。凸面粘土板剥き取り痕。側面取り3回。	吉井系
329-1 170	瓦 玉縁付 男瓦	床直 片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。凸面粘土板剥き取り痕。玉縁接合はA類。側面取り2回。	笠懸系
329-2 170	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。面取位の撫で整形。凸面粘土板剥き取り痕。側面取り3回・端部面取り1回。	吉井系
329-3 170	瓦 女瓦	槽内 破片	厚 1.7	白色微粒子	還元焰	外・黒 断・灰 黄	一枚作り。凸面布目揮り消し。凸面撫で整形後斜格子叩き整形。凸面粘土板剥き取り痕。	笠懸系
329-4 170	瓦 女瓦	カマド内 細片	厚 2.2	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	桶巻き造りか。凸面繩印整形 (密) 後取位の撫で再整形。	北毛系
329-5 170	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.1	白色鉱物粒子 デイスサイト	酸化焰	鈍黄	桶巻作り。凸面繩印整形 (密) 整形後轆轤撫での再整形。側面取り3回・端部面取り1回。	吉井系

B区第181号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
330-1 170	土師器 坏	カマド内 瓦	口 (13.4) 底 3.45 高	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は荒削り。体部に墨唐を残す。	藤岡系
330-2 170	土師器 小形甕	カマド内 瓦	口 13.8	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍赤褐	紐作り。口縁部は外傾する。外面側部は荒削り。口縁部は横撫で。内面側部は荒撫で。	藤岡系

B区第183号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
331-1 170	須恵器 皿	カマド内 瓦形	口 8.4 底 4.6 高 1.9	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
331-2 170	土師器 土釜	覆土内 瓦	口 (20.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	黒褐	口縁部は外反する。紐作り。外面側部は斜位の荒撫で。口縁部は横撫で、内面側部は荒撫で。	藤岡系か
331-3 171	土師器 土釜	カマド内 瓦	口 24.0 底 (9.8) 高 (30.8)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	暗赤橙 黄橙	紐作り後撫で整形。	吉井・藤岡系
331-4 170	埴 器	床直層 完存	長 9.3 幅 9.0 厚 4.0	閃緑岩	—	—	特徴的な使用痕は認められない。	重500g
331-5 171	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.9	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面鑄叩き(密)・陶砂痕。側部噴出し段有り。	秋間系
331-6 170	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色微粒子 黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凸面位の撫で整形。側面面取り2回。	秋間系

B区第184号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
332-1 171	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	幅 (3.4)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。天上部は手持ち段有り。	秋間系
332-2 171	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	幅 (4.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。天上部は手持ち段有り。	秋間系
332-3 171	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	口 (18.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転置削り。胴部は貼り付け。	秋間系
332-4 171	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	口 (18.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転置削り。胴部は貼り付け。	秋間系
332-5 171	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (11.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	兼所系
332-6 171	須恵器 坏	覆土内 瓦	口 (12.2) 底 (7.0) 高 (4.1)	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
332-7 171	須恵器 坏	覆土内 瓦	口 (13.0) 底 (7.8) 高 (3.8)	白色微粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	兼所系
333-1 171	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (13.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転置削り。	秋間系
333-2 171	須恵器 坏	覆土内 瓦	口 13.9 底 8.2 高 4.1	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	笠懸系
333-3 171	須恵器 坏	覆土内 瓦	口 (14.0) 底 (8.0) 高 (4.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
333-4 171	須恵器 鉢	覆土内 破片	口 (15.0)	黒色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。	秋間系

遺物一覧表

333-5 171	土師 壺	覆土内 破片	口 (22.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	紐作り。「コ」の字状口縁。外面割部は削削り。 口縁部は横断。内面割部は原厚で。	藤岡系
333-6 171	須恵 壺	覆土内 破片	厚 1.2	黒色粒子 白色粒子	還元焰 焼締	灰	紐作り後輪軸整形(右回転)。外面自然釉付着。	東海系
333-7 171	須恵 壺	覆土内 破片	厚 0.9	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面丸具 は背舟状文)。	秋岡系
333-8 171	須恵 壺	覆土内 破片	厚 1.0	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面丸具 は背舟状文)。	秋岡系
333-9 171	須恵 大壺	床直層 破片	厚 0.8	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面丸具 は背舟状文)。	吉井・藤 岡系
333-10 171	鉄 不 詳	覆土内 破片	重 2.0	—	—	—	全体に錆化が著しい。断面正方形状を呈し、 上端側に巻巻が認められる。鉄等の基か。	—
333-11 171	鉄 刀 子	貯蔵穴内 基部か	重 7.1	—	—	—	全体の錆化による破損が著しい。中央部に鍛 え目の部分からの割が顕著である。	—
333-12 171	鉄 釘	貯蔵穴内 両端欠損 破片	重 18.7	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。しかし、旧状は良 好に留まっている。断面正方形状を呈する。鉄 質は良好である。	—
333-13 171	鉄 不 詳	覆土内 破片	重 5.1	—	—	—	全体に錆化が著しい。薄い板状のものが著し 潰された状態である。	—
333-14 171	鉄 不 詳	貯蔵穴内 破片	重 18.6	—	—	—	全体に錆化が著しい。遺存状態から製品とは 思えない。	—
333-15 172	雑 石	覆土内 充存	長 10.4 幅 8.0 厚 4.9	角閃石安山岩	—	—	側部・小口側に敲打痕が認められる。	重430g
334-1 172	羽 口	床直層 片	厚 5.9	白色粒子	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部に スラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	—
334-2 172	羽 口	ピット内 破片	厚 2.4	白色粒子 細粒砂	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部に スラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	—
334-3 172	羽 口	貯蔵穴内 破片	厚 6.5	細粒砂	—	—	使用に伴う色調変化が認められるが、スラ グ等は認められない。	—
334-4 172	羽 口	ピット内 破片	厚 2.2	細粒砂	—	—	使用に伴う色調変化が認められるが、細片 の為、スラグ等は認められない。	—
334-5 172	羽 口	ピット内 破片	厚 2.2	細粒砂	—	—	使用に伴う色調変化が認められるが、細片 の為、スラグ等は認められない。	—
334-6 172	瓦 蓋 瓦	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	単弁5葉蓮華文。中層の子葉は1+5。一本 作り。	笠懸系
334-7 172	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凸面隅叩き整形(密)後輪軸再整 形。側面取付2回。	吉井・藤 岡系
334-8 172	瓦 男 瓦	床直層 片	厚 1.6	白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縁位の割で整形。側面取付 1回・端部取付3回。	笠懸系
334-9 172	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙	半截作り。面縁位の割で整形。側面取付 2回。	笠懸系
335-1 172	瓦 男 瓦	床直層 片	厚 2.0	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	栴卷き造り。凹面模骨痕・粘土板合せ取付痕。 凸面輪軸整形。側面取付2回・端部取付 2回。	吉井系
335-2 172	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 1.6	白色微粒子 透明鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目磨り消し。凸面斜格子叩 き後輪軸叩き。端部取付1回。	笠懸系
335-3 172	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.1	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目磨り消し。凸面輪軸叩 き。側面取付2回。	東附系か 笠懸系
335-4 172	瓦 女 瓦	ピット内 破片	厚 1.9	白色粒子 細粒砂	中性焰	黄灰	栴卷き造り。凹面布目磨り消し。凸面輪軸整 形後輪軸叩き。端部取付1回。	不詳
335-5 172	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色微粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面隅叩き(密)後輪軸整形。 更に再輪軸叩き(密)。	吉井・藤 岡系
335-6 172	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 2.0	白色微粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。凹面布目磨り消し。凸面輪軸叩 き(密)。側面取付2回・端部取付1回。	笠懸系
335-7 172	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色微粒子 白色粒子	還元焰	白灰	栴卷き造り。凹面模骨痕・粘土板合せ目。凸 面輪軸叩き。端部取付2回・側面取付2回。	不詳

B区第185号住居跡

棟内番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	径目 (cm) 重量 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考
336-1 172	須恵器 坏	ビツ内 破片	口 (10.0)	白色微粒子	還元焰 灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。 上半部は回転器削り。	秋岡系
336-2 173	須恵器 坏	覆土内 片	口 12.0 底 6.2 高 3.4	白色微粒子	還元焰 灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋岡系
336-3 173	須恵器 坏	床直層 瓦	口 14.5 底 8.4 高 4.0	白色微粒子	還元焰 灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転起し。	秋岡系
336-4 173	石造品 不詳	覆土内 破片	長 23.8 幅 27.0 厚 15.5	角閃石安山岩	—	因分寺堂宇等に用いた基壇化軀の東石等と考 えられる。	重 9,300g
336-5 173	瓦 女瓦	ビツ内 破片	厚 1.7	白色粒子 細粒砂	還元焰 灰黄	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面縄印き。 側面面取り2回。	笠懸系

A区第21号住居跡

棟内番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	径目 (cm) 重量 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考
337-1 174	須恵器 埴	覆土内 片	口 12.2 底 6.3 高 4.0	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
337-2 174	須恵器 埴	カマド内 破片	口 (13.0) 底 (7.0) 高 (5.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
337-3 174	須恵器 埴	カマド内 片	口 13.4 底 6.8 高 4.9	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
337-4 174	須恵器 埴	覆土内 片	口 (14.0) 底 (7.4) 高 (5.0)	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
338-1 174	須恵器 埴	カマド内 片	口 15.4 底 6.5 高 6.0	白色鉱物粒子 透明鉱物粒子	還元焰	轆轤成形(右回転)。付高台。内面器面の風化 が著しい。	月夜野系
338-2	土師器 壺	カマド内 破片	口 (10.2)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	縄作り成形。器外面は刮削りを施す。	藤岡系
338-3	須恵器 長筒壺	覆土内 破片	口 (15.8)	白色粒子 黒色粒子	還元焰	縄作り後轆轤整形(右回転)。	秋岡系
338-4 174	土師器 壺	カマド内 片	口 (17.7)	黒色鉱物粒子 微粒雲母 白色微粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	口縁部は外反する。縄作り。外面割部は削り り、口縁部は横割で、内面割部は直割で。外 面割部に粘土層の痕跡が認められる。	藤岡系 甲
338-5	須恵器 羽蓋	カマド内 破片	口 (19.0)	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	口縁部は内窪する。縄作り後轆轤整形(右回 転)。罫は貼り付け、胴部下半は削削り。	吉井形羽 蓋 甲 中 種伊類
338-6	須恵器 羽蓋	覆土内 破片	口 (22.3)	白色粒子 微粒雲母	還元焰	口縁部は内窪する。縄作り後轆轤整形(右回 転)。罫は貼り付け。	吉井形羽 蓋 甲 中 種伊類
338-7	須恵器 羽蓋	カマド内 破片	口 (20.4)	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	口縁部は内窪する。縄作り後轆轤整形(右回 転)。罫は貼り付け。	吉井形羽 蓋 甲 中 種伊類
338-8 174	須恵器 壺	覆土内 破片	底 (17.8)	黒色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	轆轤成形(右回転)。	吉井・藤 岡系
339-1 瓦-674 174	瓦 半瓦	瓦 片	厚 2.3	白色微粒子	酸化焰	右斜行滑草文。外区に珠点を配する。女瓦部 は一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り直。側面 面取り1回。	笠懸系
339-2 瓦-619	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色粒子	還元焰	半載作りか。覆面位の胎で整形。側面 面取り2回。	吉井系
339-3 174	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色微粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	半載作りか。凸面縦位の胎で整形。側面 面取り2回・端部面取り3回。	吉井系

遺物一覧表

339-4 瓦-620 174	瓦 女 瓦	カマド内 瓦	厚 2.1	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	黒灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の 溝で整形。側面面取り3回・端面面取り4 回。荒書き文字瓦「山物一☆☆」(凸面)。	吉井系
339-5 174	瓦 女 瓦	覆土内 瓦	厚 1.6	黒色粒子 赤褐色粒子 白色微粒子	酸化焰	灰黄	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面溝で整形 後正格子叩き整形後溝で整形。側面面取り2 回。	笠懸系
339-6 174	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り。両面輪轡整形。側面面取り3回・端 面面取り3回。	吉井系
340-1 174	瓦 女 瓦	貯蔵穴内 瓦	厚 1.8	白色鉱物粒子 白色微粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位 の溝で整形。側面面取り3回・端面面取り3 回。	吉井系

A区第22号住居跡

検出番号 図版番号	種 別	出土位置 遺存状態	厚目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成 色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考	
341-1 175	土 師 器 環	ビツ内 瓦	口 6.0 高 3.3	白色微粒子 黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横溝で、底部 は寛削り。体部に彫痕を残す。	藤岡系
341-2 175	土 師 器 環	覆土内 瓦	口 (16.0)	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横溝で、底部 は寛削り。体部に彫痕を残す。	藤岡系
341-3 175	土 師 器 環	覆土内 破片	口 (16.0)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直 下に横を有する。底部は寛削り。	藤岡系
341-4 175	土 師 器 環	覆土内 破片	口 (18.0)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直 下に横を有する。底部は寛削り。	藤岡系
341-5 175	土 師 器 環	覆土内 破片	口 (16.0)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾する。外面口縁直 下に強い横を有する。底部は寛削り。	藤岡系
342-1 175	土 師 器 壺	覆土内 破片	口 (22.0)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面側部は寛削 り、口縁部は横溝で、内面側部は寛削り。	藤岡系
342-2 175	土 師 器 壺	床直 破片	口 (22.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面側部は 寛削り、口縁部は横溝で、内面側部は寛削り。	藤岡系
342-3 175	土 師 器 壺	覆土内 破片	口 (23.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面側部は 寛削り、口縁部は横溝で、内面側部は寛削り。	藤岡系
342-4 175	須 恵 器 壺	覆土内 破片	口 (14.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後輪轡整形(右回転)。	秋間系
342-5 175	須 恵 器 壺	覆土内 破片	厚 0.9	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面丸具 は平行文)。	秋間系
342-6 175	輪軸陶器 輪 不詳	覆土内 破片	口 (12.4)	軟質	良好	乳白 釉調は 緑	輪轡成形(右回転)。胎の面に小貫入が多い。	近江 美濃
343-1 175	瓦 玉 緑 付 男 瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	黄橙	半載作り。凸面輪轡整形。玉緑接合はA型。	笠懸系
343-2 175	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色粒子 白色微粒子	還元焰	暗灰	半載作り。凸面縦位の溝で整形。凹面粘土板 剥ぎ取り痕。	笠懸系
343-3 175	瓦 男 瓦	覆土内 細片	厚 1.6	白色微粒子	還元焰	灰白	半載作り。凸面縦位の寛削りで整形。凹面粘土 板剥ぎ取り痕。	笠懸系
343-4 175	瓦 磨 瓦 小	覆土内 細片	厚 2.2	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	半載作りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面横 位の強い溝で整形が見られる。	吉井系
343-5 175	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色粒子	還元焰 焼締	灰黄	桶書き造り。凹面横骨痲痺状の庄痕。凸面輪 叩き(密)・自然軸付着。端面面取り1回。	栗附系
343-6 175	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面帯木痕。凸面輪叩き(密)。端 面面取り2回。	秋間系
343-7 175	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色粒子	還元焰	褐灰	一枚作りか。凸面斜位の溝で整形。端面面取 り1回。	吉井・藤 岡系

343-8 175	瓦 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り或凸面錫印き(密)。端面面取り1回。	秋岡系
343-9 175	瓦 瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色微粒子 白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面破位の面で整形。端面面取り2回。	吉井系

A区第23号住居跡

押出番号 図面番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
344-1 175	須志器 坏	覆土内 瓦	口 13.0 底 7.6 高 3.7	黒色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋岡系
344-2 175	須志器 埴	覆土内 瓦	口 (15.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	鈍黄橙	轆轤成形(右回転)。	藤岡系
344-3 175	須志器 坏(柄)	覆土内 瓦	底 (5.0)	微粒雲母 白色微粒子	中性焰	黄灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。高台欠損後坏に転用。	藤岡系
344-4 175	須志器 羽差	覆土内 破片	口 (23.0)	白色微粒子 白色鉱物微粒子	中性焰	灰黄	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形(右回転)。脚は貼り付け。	吉井型羽差
344-5 175	施釉陶器 灰輪軸花 文埴	覆土内 破片	口 (15.0)	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。輪花部は内面側に摘まんでいる。	—
344-6 175	施釉陶器 灰輪埴	覆土内 破片	口 (17.0) 底 (8.0) 高 (5.0)	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	—

A区第24号住居跡

押出番号 図面番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
347-1 176	土器器 坏	覆土内 瓦	口 (13.0) 高 4.0	白色微粒子 微粒雲母 細粒砂	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は型削り整形。器内面は撫で整形。口縁直下に型溝を残す。	藤岡系
347-2 176	土器器 坏	カマド内 破片	口 (10.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は型削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
347-3 176	土器器 坏	覆土内 破片	口 (11.1)	白色微粒子 黒色鉱物微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は型削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
347-4 176	土器器 坏	覆土内 破片	口 (12.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色微粒子	酸化焰	褐	型作り成形。口縁部・器内面は模撫で、底部は型削り。体部に型溝を残す。	藤岡系
347-5 176	土器器 坏	覆土内 破片	口 (12.2)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は型削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
347-6 176	土器器 坏	覆土内 破片	口 (15.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は模撫で、底部は型削り。体部に型溝を残す。	藤岡系
347-7 176	土器器 坏	覆土内 瓦	口 (18.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に横を有する。底部は型削り。口縁直下に型溝を残す。	藤岡系

A区第26号住居跡

押出番号 図面番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
349-1 176	土器器 黒色土器 坏	覆土内 破片	口 (12.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に強い横を有する。底部は型削り。	藤岡系
349-2 176	土器器 坏	覆土内 破片	口 (12.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	黄褐 内・黒黄	型作り成形。口縁部型削り工具の横撫により直立し強い横を有する。横の直下に型溝を有する。底部は型削り。	不詳 足利系か

遺物一覧表

A区第118号住居跡

押印番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	目量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
351-1 176	土師器 短頸甕	床直 完形	口 11.1 高 8.0	白色微粒子 黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	浅黄褐色	体部下半は型作り成形。上半・口縁部は紐作り成形。口縁部器状工具の横撫により直立気味。底部・体部は置削り。	藤岡系
351-2 176	土師器 土師器 環	覆土内 片	口 (12.2) 高 (5.4) 口 (17.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍黄褐色	型作り。口縁部は内湾する。体部・底部は置削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
351-3 176	土師器 環	覆土内 破片	口 (17.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	黄	型作り。口縁部内傾気味。体部・底部は置削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
351-4 176	須恵器 環	覆土内 片	底 (7.2)	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
351-5 176	石製品 紡錘車	床直層 片	上径 4.4 下径 (1.7) 厚 1.7	滑石	—	—	比較的整形は丁寧であるが、全体形状が不均整な部分がある。	孔径0.5
351-6 176	瓦 男瓦	覆土内 細片	厚 1.1	白色微粒子	還元焰	灰	半截作りか。釘穴を有する。	笠懸系
351-7 176	瓦 男瓦	覆土内 細片	厚 1.3	白色微粒子 透明鉱物粒子	還元焰 焼締	灰黄褐色	半截作り。凸面轆轤整形。側面削り1回。	笠懸系
351-8 176	瓦 男瓦	覆土内 細片	厚 1.2	白色微粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	半截作りか。	吉井・藤岡系
351-9 176	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.1	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面不定方向の撫で整形。側面削り1回・端面削り1回。	兼附系

A区第119号住居跡

押印番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	目量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
353-1 176	土師器 土師器 環	覆土内 破片	口 (11.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は置削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
353-2 176	土師器 土師器 環	覆土内 破片	口 (11.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に強い稜を有する。底部は置削り。	藤岡系
353-3 176	須恵器 環	覆土内 破片	底 (6.4)	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は手持ち置削り。	秋間系
353-4 176	須恵器 壺	覆土内 破片	厚 0.8	白色微粒子 細粒砂	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。	兼附系か
353-5 176	須恵器 壺	覆土内 破片	厚 0.8	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面角具は青濁波文)。	秋間系
353-6 176	須恵器 脚付盤	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系

A区第155号住居跡

押印番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	目量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
355-1 176	須恵器 壺	覆土内 破片	口 (15.0)	白色微粒子 微粒雲母	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。	藤岡系
355-2 176	須恵器 内黒土師 環	覆土内 底部片	底 5.4	微粒雲母 白色微粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。内面に研磨は認められないが黒く感じている。	藤岡系
355-3 177	土師器 壺	覆土内 破片	口 (16.1)	赤褐色微粒子 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄褐色	「コ」の字状口縁。紐作り。外面側部は置削り、口縁部は横撫で、内面側部は置削り。	藤岡系か
355-4 177	土師器 壺	カマド内 片	口 (20.0)	黒色微粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍黄褐色	口縁部は斜めに外反する。紐作り。外面側部は置削り、口縁部は横撫で、内面側部は置削り。	藤岡系
355-5 176	石製品 砥石	覆土内 片	幅 4.6 厚 1.5 重 150	砥石	—	—	使用痕の状態から元来砥石であったものが手持に転用されている。	—
355-6 176	鉄器 鏝	覆土内 破片	重ね 0.07 重 11.8	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。地鉄は洋鉄と考えられる。	近代以降

355-7 瓦一621 176	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍焼	一枚作り。粘土板割ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側面面取り3回。寛幅き文字瓦「木」(凸面)。	吉井系
355-8 瓦一622	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍焼	一枚作り。凸面不定方向の撫で整形。寛幅き文字瓦「不詳」(凸面)。	吉井系
355-9 176	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 1.5	白色微粒子	酸化焰	鈍黄焼	一枚作り。凹面布目張り消し。凸面撫で整形。後斜格子叩き整形。	笠懸系

A区第156号住居跡

押出番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
356-1 177	須恵 器 坏	カマド内 %	口 13.0 底 6.5 高 4.1	白色微粒子 デザインサイト	還元焰	灰	輪軸成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井・藤 岡系
356-2 177	須恵 器 埴	カマド内 %	口 (15.0)	微粒子 白色微粒子	還元焰	白灰	輪軸成形(右回転)。高台欠損(付高白)。高台欠損後坏に転用する。	藤岡系
356-3 177	土師 器 小型 壺	カマド内 %	口 (12.4)	微粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍黄焼	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面割部は旋削り、口縁部は横撫で、内面割部は旋撫で。	藤岡系
357-1 177	土師 器 壺	カマド内 破片	口 (20.0)	白色微粒子 微粒子	酸化焰	赤褐	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面割部は旋削り、口縁部は横撫で、内面割部は旋撫で。	藤岡系
357-2 177	土師 器 壺	カマド内 破片	口 (21.0)	白色微粒子 微粒子	酸化焰	褐灰	「コ」の字状口縁。紐作り、外面割部は旋削り、口縁部は横撫で。	藤岡系
357-3 177	土師 器 壺	覆土内 破片	底 (10.8)	微粒子 白色微粒子	酸化焰	赤橙	型作り成形。胴部・底部は旋削り。	藤岡系
357-4 177	須恵 器 壺	床直 破片	直径(25.3)	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	黄橙	紐作り後輪軸整形(右回転)。	吉井・藤 岡系
357-5 177	須恵 器 大 壺	覆土内 破片	厚1.0	白色粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形(外面叩きは不詳・内面宛具は素文)。	栗附系
357-6 瓦一623	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作りか。寛幅き文字瓦「不詳」(凹面)。	吉井系
357-7 177	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.2	白色微粒子	還元焰	灰黄	半縁作り。凸面輪軸整形。側面面取り3回。	笠懸系
358-1 178	瓦 男 瓦	カマド内 %	厚 1.3	白色鉱物粒子 デザインサイト	酸化焰 か二次 焼成	鈍焼	半縁作り。凸面輪軸整形(密)後縦位の撫で再整形。側面面取り3回。	吉井系
358-2 177	瓦 男 瓦	カマド内 %	厚 1.3	白色微粒子 赤褐色粒子	中性焰	灰黄	半縁作り。凸面輪軸整形。側面面取り2回・端部面取り1回。	笠懸系
358-3 178	瓦 女 瓦	カマド内 %	厚 2.2	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	褐灰	一枚作り。粘土板割ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側面面取り3回・端部面取り3回。	吉井・藤 岡系
359-1 178	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面寄木板。凸面縦位の撫で整形。側面面取り1回。	秋間系
359-2 178	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面輪軸整形(密)後縦位の撫で再整形。	吉井・藤 岡系

A区第157号住居跡

押出番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
360-1 178	須恵 器 埴	カマド内 ほぼ完全形	口 11.8 底 5.0 高 5.5	白色微粒子 白色微粒子	酸化焰	褐灰	輪軸成形(右回転)。付高台。	吉井系
360-2 178	須恵 器 埴	覆土内 完全形	口 12.0 底 7.0 高 5.3	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰黄	輪軸成形(右回転)。付高台。内面有機質付着。	秋間系
360-3 178	須恵 器 埴	カマド内 %	底 6.6	白色微粒子 白色微粒子	還元焰	黒灰	輪軸成形(右回転)。付高台。	吉井系
360-4 178	須恵 器 埴	覆土内 破片	底 (6.0)	白色微粒子 白色微粒子	酸化焰	黄橙	輪軸成形(右回転)。付高台。	吉井系
361-1 178	須恵 器 埴	貯蔵穴内 破片	口 (14.0)	白色微粒子	不詳 二次焼 成	橙	輪軸成形(右回転)。	陶入品か

遺物一覧表

361-2 178	須恵器 甕	カマド周 辺 破片	厚 0.9	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面丸具は素文）。	藤岡系
361-3 178	施釉陶器 灰釉 埴	灰直 片	口 12.7 底 6.4 高 2.7	密	良好	灰	轆轤成形（右回転）。付高台。施釉は浸掛。	—
361-4 178	施釉陶器 灰釉 埴	覆土内 破片	口 (12.7)	密	良好	白	轆轤成形（右回転）。施釉は胡毛塗りか。	—
361-5 178	施釉陶器 灰釉 埴	灰直 片	口 15.0 底 7.7 高 5.0	密	良好	白灰	轆轤成形（右回転）。施釉は浸掛。	—
361-6 178	施釉陶器 灰釉 埴	カマド内 破片	口 (15.0)	密	良好	白灰	轆轤成形（右回転）。施釉は浸掛。	—
361-7 178	施釉陶器 灰釉 埴	覆土内 破片	口 (15.0)	密	良好	灰	轆轤成形（右回転）。施釉は浸掛か。	—
361-8 178	施釉陶器 灰釉 埴	カマド内 片	口 16.0 高 4.2	密	良好	灰	轆轤成形（右回転）。施釉は浸掛。	—
361-9 178	施釉陶器 灰釉 埴	カマド内 片	口 (16.6)	密	良好	灰	轆轤成形（右回転）。施釉は浸掛。	—
361-10 178	施釉陶器 灰釉 埴	灰直 片	口 (16.2) 底 (9.5)	密	良好	灰	轆轤成形（右回転）。施釉は浸掛。	—
361-11 178	鉄 器 不 詳	灰直 片	厚 0.2 厚 23.4	—	—	—	全体に錆化が著しく調査後の欠損により詳細不明である。鏝に類する製品か。	—
361-12 178	磨 擦 石	灰直 ほぼ完形	長 10.2 厚 3.9	粗粒安山岩	—	—	平ら面に使用に伴ない磨減する。	重670g
361-13 178	磨 擦 石	灰直 完形	長 8.2 幅 7.5 厚 3.9	粗粒安山岩	—	—	平ら面に使用に伴ない磨減する。	重370g
362-1 178	磨 擦 台	灰直 完形	長 12.2 幅 11.9 厚 4.3	粗粒安山岩	—	—	磨面平ら面に浅く窪んだ打痕が認められる。	重 1,030g

A区第158号住居跡

棟別 図面番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	径目 高さ (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
363-1 178	土器 埴	覆土内 片	口 (12.8)	微粒雲母 黒色粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部横溝により直立気味。底部は貫削り。口縁直下に彫溝を残す。	藤岡系
363-2 179	土器 埴	覆土内 破片	口 (16.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部・器内面は横溝で、底部は貫削り。体部に彫溝を残す。	藤岡系
363-3 178	土器 埴	覆土内 片	口 13.6	微粒雲母 白色微粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り。口縁部外縁し口唇部は強く外縁する。体部・底部は貫削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
363-4 179	土器 埴	覆土内 破片	口 (15.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に強い横を有する。底部は貫削り。	藤岡系
363-5 179	須恵器 埴	覆土内 片	底 (5.4)	白色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。	乗附系
364-1 179	土器 甕	カマド内 破片	口 (12.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	口縁部は直立する。型作り成形。外面割部は厚削り、口縁部は横溝で、内面割部は貫削り。	藤岡系
364-2 179	土器 甕	覆土内 破片	底 (6.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。内面は横溝で、外面は貫削りを施す。	藤岡系
364-3 179	須恵器 埴	覆土内 破片	厚 1.1	微粒砂 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面丸具は青海波文）。後内面は撫で整形。	藤岡系
365-1 179	須恵器 大 甕	覆土内 破片	厚 1.0	白色微粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面丸具は青海波文）。	乗附系

A区第159号住居跡

棟別 図面番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	径目 高さ (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
366-1 179	須恵器 埴	覆土内 片	口 (14.8) 底 5.8 高 (4.7)	微粒雲母 白色微粒子	中性焰	鈍橙	轆轤成形（右回転）。付高台。	藤岡系

A区(158・159・160・161号住居跡)

366-2 179	須恵器 埴 境	覆土内 破片	底 (7.0)	黒色粒子	還元焰	黄灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋田系
366-3 179	土師器 壺	カマド内 破片	口 (17.2)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面割部は 篋削り、口縁部は横撫で、内面割部は篋削で。 全体に錆化が著しい。「L」の字状に折れ曲 がっている。断面直方形状を呈する。	藤岡系
366-4 179	鉄器 釘 頭	カマド内 破片	幅 0.35 重 1.8	—	—	—	—	—
367-1 瓦-624	瓦 瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。篋削き文字 瓦文字「不評」(凹面)。	吉井系
367-2 179	瓦 瓦	カマド内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	黄灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。	吉井系

A区第160号住居跡

探出番号 四角番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
369-1 179	須恵器 埴 境	覆土内 破片	口 (14.2) 底 (7.0) 高 (5.3)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
369-2 179	須恵器 埴 境	覆土内 破片	底 (7.6)	細粒砂	還元焰	黄灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	不詳
369-3 180	須恵器 壺	カマド内 破片	厚 0.8	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平叩き・内面刃具 は青銅版文)。	秋田系
369-4 179	礫 石	掘り方内 完存	長 12.6 幅 7.6 厚 3.6	粗粒安山岩	—	—	小口側に敲打痕が認められる。	重580g
369-5 179	施釉陶器 灰粉皿	床直層 瓦	底 (9.5)	密 硬質	良好	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。施釉は没損。	—
369-6 180	瓦 瓦	カマド内 瓦	厚 1.7	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰 が二次 焼成	橙	横巻造り。凹面横骨痕。粘土板割ぎ取り痕。 凸面叩き(密)整形後轆轤撫での再整形。 側面面取り3回・端面面取り2回。	不詳

A区第161号住居跡

探出番号 四角番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
371-1 180	土師器 壺	覆土内 瓦	口 (13.6)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直 下に強い稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
371-2 180	土師器 壺	覆土内 破片	口 (14.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直 下に稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
371-3 180	土師器 壺	カマド内 破片	口 (12.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直 下に強い稜を有する。底部は篋削り。器内外 面に焼れている。	藤岡系
371-4 180	須恵器 埴 境	覆土内 破片	口 (13.6)	白色微粒子 黒色鉱物粒子 細粒砂	還元焰	黄灰	轆轤成形(右回転)。	吉井・藤 岡系
371-5 180	須恵器 埴 境	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	暗灰	強い外稜を有する。	東海系か
371-6 180	土師器 壺	覆土内 破片	口 (14.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	口縁部は直立する。型作り成形。外面割部は 篋削り、口縁部は横撫で、内面割部は篋削で。	藤岡系
371-7 180	土師器 小型鉢か	覆土内 瓦	口 (11.0)	微粒雲母 白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	鈍橙	型作り。口縁部直立気味。体部・底部は篋削 り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
371-8 180	須恵器 高 埴	覆土内 瓦	底 (11.2)	白色微粒子	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。二段の遣しを3 単位に施す。	東海系
371-9 180	礫 石	覆土内 ほぼ完存	長 9.9 幅 8.2 厚 4.0	粗粒安山岩	—	—	小口側に敲打痕が認められる。	重510g
371-10 180	礫 石	覆土内 一部欠損	長 (10.9) 幅 8.2 厚 2.6	粗粒安山岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重350g
371-11 180	礫 石	覆土内 完存	長 11.7 幅 7.4 厚 3.4	石英閃緑岩	—	—	平皿面が使用に伴ない磨滅する。	重540g

遺物一覧表

371-12 180	雑器 磨石	覆土内 ほぼ完存	長 幅 厚	13.0 6.3 4.9	粗粒安山岩	—	—	磨石な使用痕は認められない。	重600g
371-13 瓦-625	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	0.9	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面鞠叩き。側面面取り2回・端部面取り2回。窪抜き文字瓦「二」か(凹面)。	笠懸系

A区第162号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目(φ)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
373-1 181	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.2)	白色微粒子 黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系	
373-2 181	土師器 坏	覆土内 破片	口 (16.0) 高 (5.8)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系	
373-3 181	土師器 壺	覆土内 破片	口 (20.6)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄緑	口縁部は外反する。紐作り乃至型作り成形。外面割部は篋削り、口縁部は横撫で、内面割部は篋撫で。	藤岡系	
373-4 181	土師器 壺	覆土内 破片	口 (18.8)	黒色鉱物粒子 白色粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面割部は刷毛撫で。口縁部は横撫で、内面割部は刷毛撫で。	搬入品	
373-5 181	土師器 壺	覆土内 破片	厚 0.7		酸化焰	橙	紐作り後刷毛目を施す。外面は縦位、内面は横位に施す。	搬入品。 373-4 と同一個体	
373-6 181	須恵器 壺	覆土内 破片	厚 0.7	黒色粒子	還元焰	黄灰	紐作り後輪縁整形(右回転)。下半部は回転篋削り。	不詳	
373-7 181	須恵器 壺	覆土内 破片	厚 0.8	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面丸具は青海波文)。後内面は撫で整形。	乗附系	
373-8 181	須恵器 壺	覆土内 破片	厚 0.8	白色微粒子	還元焰	白灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面丸具は青海波文)。	秋間系	
373-9 181	須恵器 壺	覆土内 破片	厚 0.6	白色微粒子	還元焰	白灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面丸具は青海波文)。	秋間系	
373-10 181	須恵器 壺	覆土内 破片	厚 0.7	白色微粒子	還元焰 焼締	暗灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面丸具は青海波文)。	乗附系か 東海系	
373-11 181	須恵器 壺	覆土内 破片	厚 0.8	黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面丸具は青海波文)。	秋間系	
374-1 180	須恵器 壺	覆土内 破片	厚 1.0	白色微粒子 赤褐色粒子	還元焰	白灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面丸具は青海波文)。	秋間系	
374-2 180	雑器 磨石	床面直上 完存	長 幅 厚	14.1 5.8 3.5	粗粒安山岩	—	—	平組面が使用に伴ない磨滅する。	重540g
374-3 180	雑器 磨石	床直上 完形	長 幅 厚	14.6 9.5 3.6	粗粒安山岩	—	—	平組面が使用に伴ない磨滅する。	重790g
374-4 180	鉄器 釘	カマド内 完存	径 重	0.27 9.0	—	—	—	全体に錆化が著しい。地錆は厚鉄と考えられ、断面も円形と考えられる。丸釘3寸5分と思われる。	—

A区第164号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目(φ)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
375-1 181	土師器 地	覆土内 破片	口 (16.4)	赤褐色粒子 白色粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下に型痕を残し、下半部は篋削り。	東毛系	
375-2 181	土師器 坏	掘り方内 片	口 (17.4)	白色粒子 パミス 微粒雲母	酸化焰	赤褐	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に稜を有する。底部は篋撫で。	西毛系	
375-3 182	須恵器 壺	カマド内 片	口 底 高	14.3 7.8 5.5	微粒雲母 黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	黄灰	輪縁成形(右回転)。付高台。	藤岡系
375-4 181	須恵器 小壺	覆土内 破片	底 高	6.6 6.6	白色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	灰黄褐	紐作り成形後輪縁整形。底部は板の木目圧痕。	吉井系

375-5 182	土師器 壺	カマド内 破片	底 (8.7)	粗粒砂	酸化焰	鈍黄性	紐作り成形か。器面の風化が著しい。底面に 亀裂が入っている。	不詳
375-6 181	須恵器 壺	覆土内 破片	厚 0.9	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面短具 は不詳)。375図-1と同一個体。	不詳
375-7 181	須恵器 壺	覆土内 破片	厚 1.0	白色微粒子	還元焰	灰	375図-6と同一個体。	不詳
376-1 181	礫器 石	覆土内 完存	長 6.2 幅 6.1 厚 4.6	粗粒安山岩	—	—	平面面に使用に伴ない磨滅する。	重250g
376-2 181	礫器 石	覆土内 完存	長 13.0 幅 5.8 厚 3.2	粗粒安山岩	—	—	小口側に敲打痕が認められる。	重390g
376-3 181	礫器 石	覆土内 完存	長 13.6 幅 6.2 厚 4.1	輝緑岩	—	—	平面面に使用に伴ない磨滅する。	重640g
376-4 181	礫器 石	覆土内 完存	長 17.7 幅 6.2 厚 4.1	輝緑岩	—	—	小口側に敲打痕が認められる。	重920g
376-5 182	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 0.7	白色微粒子	酸化焰	黄橙	一枚作りか。凸面縦位の無で整形。側面取 り2回。	吉井・藤 岡系
376-6 瓦-626	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	一枚作りか。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縦 位の無で整形。寛幅き文字「不詳」(凸面)。	吉井系
376-7 182	瓦 男瓦	カマド内 瓦	厚 1.8	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子 微粒雲母	還元焰	橙	寸裁作り。縄叩き(密)後輪縁整形。凹面粘 土板割ぎ取り痕。側面取り2回・端部取 り2回。	吉井系
376-8 182	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色微粒子	酸化焰	橙黄	一枚作り。凸面縦位の無で整形。凹面布目 消し。側面取り2回。布目密(6cmで81 本)。	笠懸系
376-9 182	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	桶巻造り。凹面横骨。粘土板割ぎ取り痕。 凸面縄叩き(密)整形後輪縁側での再整形。 側面取り2回。	東附系

A区第165号住居跡

探検番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状況	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
377-1 182	土師器 坏	床直 瓦	□ 12.5 高 4.1	シルト粒子 微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り。口縁部は外傾し体部は斜位の貫削り。 底部は貫削整形。	藤岡系
377-2 182	土師器 鉢	カマド内 破片	□ (18.2)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内筒気味。体部は貫削り整形。 器内面は無で整形。口縁直下に型痕を残す。	藤岡系
378-1 182	須恵器 埴	床直層 瓦	□ 12.6 底 7.8 高 5.0	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	輪縁成形(右回転)。付高台。	秋間系
378-2 182	須恵器 埴	床直層 瓦	□ 14.0 底 6.0 高 4.3	白色微粒子	還元焰	灰	輪縁成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	東附系
378-3 182	土師器 壺	床直層 破片	□ (20.2)	微粒雲母 黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は外傾する。型作り成形。外面側部は 貫削り。口縁部は横撫で、内面側部は貫撫で。	藤岡系
378-4 182	土師器 壺	覆土内 破片	□ (24.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面側部は 貫削り。口縁部は横撫で、内面側部は貫撫で。	藤岡系
378-5 182	須恵器 坏	覆土内 破片	厚 0.9	黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後輪縁整形(右回転)。	東海系
378-6 182	須恵器 壺	カマド内 破片	厚 0.8	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰黄	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面短具 は素文)。	東附系
378-7 182	土師器 小型瓶	覆土内 瓦	□ 10.2 底 (4.8) 高 7.3	黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	暗赤褐	紐作り成形。器外面は丁寧な無で整形。	西毛
378-8 182	鉄器 刀	カマド内 破片	重ね 0.2 重 3.7	—	—	—	全体に錆化が著しい。調査後の欠損により茎 尻・関節部分が失われている。	—

遺物一覧表

378-9 182	施釉陶器 灰 輪 埴	カマド内 破片	口 (17.0)	密	良好	灰白	輪軸成形 (右回転)。施釉は没柄。	—
378-10 182	瓦 男 瓦	カマド内 破片	厚 1.3	白色灰物粒子 白色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面隅叩き整形 (密) 後輪軸再整形。側面取り 2 回・端面取り 1 回。	笠懸系
378-11 182	瓦 男 瓦	カマド内 破片	厚 1.8	白色微粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凸面輪軸整形。側面取り 2 回・端面取り 2 回。	杖間系
378-12 183	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 1.8	白色微粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰黄	一枚作り。凹面布目磨り消し。凸面隅叩き。側面取り 2 回・端面取り 2 回。	笠懸系
378-13 183	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 1.6	白色微粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凸面隅叩き。側面取り 2 回・端面取り 1 回。	笠懸系
379-1 183	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰	柄巻き造りか。凹面模骨痕が寄本直。凸面隅叩き (密)。凹面布目磨り消し。側面取り 2 回・端面取り 1 回。	笠懸系
379-2 183	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 2.0	白色灰物粒子 白色粒子	還元焰	灰	柄巻作り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。凸面隅叩き (密) 整形後輪軸での再整形。側面取り 5 回・端面取り 3 回。	吉井系
379-3 183	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.3	白色粒子	還元焰	灰	柄巻き造りか。凸面隅叩き (密) 後磨で整形。	吉井・藤岡系
379-4 183	瓦 女 瓦	床直 瓦	厚 2.6	白色灰物粒子 白色粒子	還元焰	灰	柄巻造り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。凸面隅叩き (密) 整形後輪軸での再整形。側面取り 4 回・端面取り 2 回。	吉井系
379-5 183	瓦 女 瓦	カマド内 瓦	厚 2.2	白色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	灰黄	一枚作り。凹面布目磨り消し。凸面磨で整形後斜格子叩き整形。側面取り 4 回・端面取り 2 回。	笠懸系
380-1 183	瓦 女 瓦	カマド内 瓦	厚 1.7	白色微粒子	還元焰	灰	組作り。凸面輪軸整形。側面取り 3 回・端面取り 2 回。	笠懸系か中之系
380-2 183	瓦 女 瓦	床直 瓦	厚 3.0	白色微粒子 細粒砂	還元焰	灰白	柄巻造り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。側面取り 5 回・端面取り 2 回。	吉井・藤岡系

A区第166号住居跡

棟頭番号 図面番号	種 別	出土位置 遺存状態	径目 (cm)	軸 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
381-1 184	土 師 器 埴 輪	覆土内 瓦	口 10.3 高 3.3	微粒雲母 白色微粒子 黒色灰物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は内傾する。口縁直下は凹溝を残し、下半部は寛削り。底部は寛削り。	藤岡系
381-2 184	土 師 器 埴 輪	覆土内 瓦	口 11.7 高 3.2	黒色灰物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	淡黄橙	型作り。口縁部は内傾気味。体部・高部は寛削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
381-3 184	土 師 器 埴 輪	覆土内 瓦	口 (12.7)	白色微粒子 微粒雲母 黒色灰物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁部に甘い型溝を残し、下半部は寛削り。底部は寛削り。	藤岡系
381-4 184	須 恵 器 埴 輪	覆土内 破片	口 (10.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	輪軸成形 (右回転)。底部は手持り蓋削り。	杖間系
381-5 184	須 恵 器 埴 輪	覆土内 破片	口 (13.0)	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	灰青緑	輪軸成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	藤岡系
381-6 184	須 恵 器 埴 輪	覆土内 宛形	口 14.0 底 7.8 高 3.9	白色微粒子	還元焰	灰	輪軸成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	杖間系
381-7 184	須 恵 器 埴 輪	カマド内 宛形	口 13.8 底 6.2 高 5.7	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍黄緑	輪軸成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
382-1 184	須 恵 器 埴 輪	覆土内 宛形	口 15.0 底 7.0 高 5.2	白色微粒子	還元焰	灰白	輪軸成形 (右回転)。付高台。	杖間系
382-2 184	土 師 器 埴 輪	覆土内 破片	口 (13.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面割部は寛削り。口縁部は横撫で、内面割部は寛撫で。	藤岡系
382-3 184	土 師 器 埴 輪	覆土内 破片	口 (19.4)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面割部は寛削り。口縁部は横撫で、内面割部は寛撫で。	藤岡系
382-4 184	土 師 器 埴 輪	カマド内 破片	口 (21.2)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面割部は寛削り。口縁部は横撫で、内面割部は寛撫で。	藤岡系
382-5 184	須 恵 器 皿	覆土内 破片	口 (15.4)	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	灰	輪軸成形 (右回転)。	藤岡系

A区(166・174号住居跡)

382-6 184	須恵器 高台付皿	覆土内 破片	口 (17.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	秋間系
382-7 184	須恵器 盤	覆土内 破片	口 (18.0)	白色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	藤原系
382-8 184	須恵器 壺	覆土内 片	最径(19.2) 底 (9.8)	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。下半部は回転削り。	秋間系
382-9 184	須恵器 石	覆土内 完存	長 6.7 幅 5.0 厚 4.1	二ツ岳砂石	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重90g
382-10 184	須恵器 石	カマド内 完存	長 5.1 幅 4.7 厚 3.4	二ツ岳砂石	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重40g
382-11 184	土製品 土 鋳	覆土内 完形	長 4.6 幅 1.9 孔 0.2	赤褐色粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	紡錘形状を呈し中央を穿孔する。	重13.8g
382-12 184	瓦 女 瓦	カマド左 壁 片	厚 2.1	白色微粒子 赤褐色粒子 白色粒子	酸化焰	鈍黄橙	一枚作りか、凸面叩き(密)製で整形。側部面取り2回・端部面取り2回。窪抜き文字瓦「不詳」(同調)。	吉井・藤原系
383-1 185	瓦 女 瓦	カマド左 壁日当	厚 2.7	白色微粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面寄木瓦。凸面叩き(密)。側部面取り3回・端部面取り1回。	秋間系

A区第174号住居跡

探検番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
384-1 185	須恵器 坏	貯蔵穴内 片	口 11.6 底 5.0 高 3.4	黒色微粒子 白色微粒子	還元焰	明黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤原系
384-2 185	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 (6.1)	黒色微粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	不詳
384-3 185	須恵器 坏	カマド内 破片	口 (14.6)	微粒雲母 白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形(右回転)。	藤原系
384-4 185	須恵器 坏	覆土内 片	口 12.1 底 6.8 高 3.7	白色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
385-1 185	須恵器 坏	カマド内 片	口 (13.6) 底 6.6 高 (5.1)	微粒雲母 黒色微粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤原系
385-2 185	須恵器 皿	覆土内 破片	口 (16.8)	白色微粒子	酸化焰	褐	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	不詳
385-3 185	須恵器 坏	ピット内 片	口 (15.6)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤原系か 笠懸系
385-4 185	須恵器 足高台付 埴	覆土内 破片	底 (12.6)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰 か二次 焼成	鈍橙	轆轤成形(右回転)。	藤原系
385-5 185	須恵器 足高台付 埴	覆土内 片	底 12.8	白色微粒子 赤褐色粒子	還元焰	鈍黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤原系
385-6 186	須恵器 瓶	覆土内 片	最大(23.2)	白色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井・藤原系
386-1 186	須恵器 羽蓋	貯蔵坑内 片	口 22.0	白色粒子 白色微粒子	中性焰	灰白 灰黄	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。脚は貼り付け。胴部下半・底部は削り。	吉井型羽蓋 甲斐種高類
386-2 185	須恵器 羽蓋	貯蔵穴内 破片	口 (20.4)	白色粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。脚は貼り付け。胴部は削り。	吉井型羽蓋 甲斐種高類
386-3 185	須恵器 羽蓋	覆土内 破片	口 (24.0)	白色粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。脚は貼り付け。	吉井型羽蓋 甲斐種高類

遺物一覧表

386-4 185	須志器 大 壺	カマド内 破片	厚 1.1	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	粗作り。甲き整形（外面平甲き・内面丸具は素文）。	秋田系
386-5 185	須志器 壺	カマド内 完形	長 13.2 幅 7.5 厚 2.8	ひん岩	—	—	平底面が使用に伴い磨減する。	重520g
386-6 185	施釉陶器 灰釉皿	覆土内 破片	口 (12.4) 底 (6.7) 高 (2.7)	密	還元焰	灰白	轆轤成形（右回転）。付高台。施釉は投掛。	—
386-7 185	施釉陶器 灰釉皿	覆土内 片	口 13.0 底 6.7 高 2.3	密	良好	灰白	轆轤成形（右回転）。付高台。施釉は投掛。	—
387-1 瓦-628 185	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍黄緑	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。瓦揃き文字瓦「山字郷」（凸面）。	東附系か 吉井・藤 岡系
387-2 185	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子 白色粒子 ダイヤイト	酸化焰	鈍黄緑	横巻き造り。凹面布目摺り消し。凸面轆轤整形後縦位の撫で整形。側面取取り3回。	吉井系

A区第175号住居跡

検出番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成 色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考	
388-1 186	土 師 器 環	カマド内 破片	口 (11.6)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は荒削り。体部に型腐を残す。	藤岡系
388-2 186	土 師 器 環	覆土内 破片	口 (13.7)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁部下に深い腰を有する。底部は荒削り。	藤岡系
388-3 186	須志器 環	覆土内 破片	口 (13.2)	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	褐灰	轆轤成形（右回転）。	吉井系
388-4 186	土 師 器 壺	カマド内 破片	口 (22.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は荒削り、口縁部は横撫で、内面胴部は荒撫で。	藤岡系
388-5 186	土 師 器 壺	カマド内 破片	口 (22.4)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は荒削り、口縁部は横撫で、内面胴部は荒撫で。	秋田系
389-1 186	土 師 器 壺	カマド内 破片	口 (24.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は荒削り、口縁部は横撫で、内面胴部は荒撫で。	藤岡系
389-2 186	須志器 脚不詳	カマド内 破片	口 (14.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。	秋田系
389-3 瓦-629 瓦-630	瓦 男 瓦	覆土内 ほぼ完形	長 36.7 広 (16.5) 狭 11.5	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作りか。面縦位の撫で整形。側面取取り3回・端面取取り2回。刻印・横書き文字瓦「方」（凸面）。（重1.85kg）。	吉井・藤 岡系 厚1.7cm
390-1 186	瓦 男 瓦	カマド内 片	広 (17.3) 厚 2.7	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰 焼締	灰	半截作り。凸面脚甲き整形（密）後縦位の撫で再整形。側面取取り6回・端面取取り2回。	東附系か 吉井系

A区第176号住居跡

検出番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成 色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考	
391-1 187	須志器 壺	覆土内 破片	口 (14.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形（右回転）。	藤岡系
391-2 187	須志器 壺	覆土内 破片	口 (14.2)	白色微粒子 微粒雲母	還元焰	灰白	轆轤成形（右回転）。	吉井・藤 岡系
391-3 186	須志器 壺	床直層 片	口 (15.2) 底 6.2 高 (5.5)	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形（右回転）。付高台。	藤岡系
392-1 187	土 師 器 壺	カマド内 破片	口 (18.2)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍黄	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は荒削り、口縁部は横撫で、内面胴部は荒撫で。	藤岡系
392-2 187	土 師 器 壺	床直層 破片	口 (20.0)	白色粒子 白色微粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は荒削り、口縁部は横撫で、内面胴部は荒撫で。	吉井・藤 岡系
392-3 186	土 師 器 台付 壺	床直層 破片	底 (9.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	明赤褐	型作り成形。脚部の成形は不分明。型作りの可能性がある。	藤岡系

392-4 187	須 壺	須 壺	床直層 瓦	径(8.2)	白色鉱物粒子 白色顔料粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	葉附系の 掘入品 (東海系)
392-5 187	須 壺	須 壺	床直層 瓦	径(13.2)	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰 焼締	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井系
392-6 187	瓦 男	瓦 瓦	床直層 破片	厚 2.1	白色顔料粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縁位の撫で整形。側面取り 4回。	笠懸系か 北毛系
392-7 187	瓦 男	瓦 瓦	床直層 破片	厚 2.0	シルト粗粒子	酸化焰 か二次 焼成	鈍橙	半截作り。凸面轆轤整形。側面取り2回。	秋間系
392-8 187	瓦 女	瓦 瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り。印き整形(外面平行印き・内面宛具 は背梅文)。側面取り3回・端面取り1 回。	不詳
392-9 187	瓦 女	瓦 瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	黒褐	柄巻き造り。凹面横骨痕。凸面踵印き(密) 後撫で整形。側面取り2回。	吉井・藤 岡系

A区第177号住居跡

押出番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	径目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考	
393-1 188	土 師 器 坏	覆土内 破片	□ (12.4)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は笠削り。体部に型腐を残す。	藤岡系	
393-2 187	須 壺 器 坏 蓋	床直層 瓦	□ (14.3)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	頸部は返りを有する。轆轤成形(右回転)。上 半部は回転彫削り。頸部は貼り付け。	秋間系	
393-3 188	須 壺 器 鉢	覆土内 破片	□ (22.2)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。体部は回転彫削り。	秋間系か	
393-4 188	土 師 器 壺	床直層 破片	□ (19.8)	黒色微粒子 細粒砂 赤褐色粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面削部は 笠削り、口縁部は横撫で、内面削部は笠撫で。	藤岡系	
394-1 187	土 師 器 鉢	カマド内 ほぼ完形	□ 21.1 底 4.3 高 36.7	細粒砂 黒色微粒子 白色微粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面削部は 笠削り、口縁部は横撫で、内面削部は笠撫で。	藤岡系	
394-2 187	土 師 器 壺	カマド内 瓦	底 (6.2)	微粒雲母 白色微粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍赤褐	型作り成形。外面笠削整形。内面は笠撫でを 施す。	藤岡系	
394-3 188	須 壺 器 脚 付 盤	覆土内 破片	□ (28.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。脚を欠損する。	藤岡系	
394-4 187	須 壺 器 脚 付 盤	覆土内 瓦	□ (33.4) 底 18.0 高 8.8	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。脚はカキヤブリ 後接合。	秋間系	
394-5 188	織 石 鏡	床直層 完形	長 12.5 幅 5.5 厚 3.7	閃緑岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重480g	
394-6 187	瓦 女	瓦 瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色鉱物粒子	還元焰	灰	柄巻き造り。凸面縁位の撫で整形。端面取 り1回。	吉井系

A区第178号住居跡

押出番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	径目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
395-1 188	須 壺 器 環 形 埴 輪	覆土内 破片	□ (15.4)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形(右回転)。	藤岡系
395-2 188	土 師 器 壺	カマド内 破片	□ (19.0)	白色微粒子 細粒砂	酸化焰	赤褐	口縁部は外反する。型作り成形。外面削部は 笠削り、口縁部は横撫で、内面削部は笠撫で。	藤岡系か
395-3 188	土 師 器 壺	カマド内 破片	□ (19.2)	微粒雲母	酸化焰	赤褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外面削部は彫削 り、口縁部は横撫で、内面削部は笠撫で。器 内面に補修部がある(焼成前)。	藤岡系
396-1 188	土 師 器 壺	カマド内 破片	□ (21.4)	微粒雲母 細粒砂	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面削部は 笠削り、口縁部は横撫で、内面削部は笠撫で。	藤岡系
396-2	須 壺 器 耳	覆土内 瓦	—	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。口縁部を積み耳 皿とする。	秋間系

遺物一覧表

306-3 188	胎軸陶器 灰胎 瓦	覆土内 破片	口 (14.4)	やや粗	良好	白黄	轆轤成形 (右回転)。胎軸は没損か。	—
306-4 188	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白色微粒子	還元焰	灰	半焼作り。凸面轆轤整形。側面取り 2回・ 端面面取り 2回。	吉井系
306-5 188	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白色微粒子	酸化焰	黒地	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面罫印き後 割て整形。	笠懸系

A区第179号住居跡

探出番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	厚目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
308-1 188	土 師 器 環	覆土内 ほぼ完形	口 10.7 高 2.9	微粒雲母 黒色鉱物粒子 細粒砂	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部笠状工具の横撫により外 傾し縁を有する。底部は寛削り。	藤岡系
308-2 188	土 師 器 環	覆土内 %	口 11.1 高 3.1	微粒雲母 黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	型作り成形。口縁部笠状工具の横撫により直 立気味。口縁直下に強い縁を有する。底部は 寛削り。	藤岡系
308-3 188	土 師 器 環	覆土内 %	口 11.3 高 3.4	白色微粒子 黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直 下に縁を有する。底部は寛削り。	藤岡系
308-4 189	土 師 器 環	覆土内 破片	口 (14.0)	白色微粒子 黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直 下に強い縁を有する。底部は寛削り。	藤岡系
308-5 189	土 師 器 環	覆土内 破片	—	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙褐	型作り成形。口縁部笠状工具の横撫により外 傾し縁を有し直立気味。底部は寛削り。	藤岡系
308-6 188	土 師 器 環	覆土内 %	口 10.3 高 3.3	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	型作り成形。口縁部笠状工具の横撫により直 立気味。底部は寛削り。	藤岡系
308-7 189	土 師 器 環	覆土内 破片	口 (9.2)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部は外傾する。外面口縁直 下に縁を有する。底部は寛削り。	藤岡系
308-8 189	土 師 器 環	覆土内 %	口 (10.3)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	型作り。口縁部内傾する。体部・底部は寛削 り整形。器内面は無で整形。口縁直下に型膚 を残す。	藤岡系
308-9 188	土 師 器 環	覆土内 %	口 11.2 高 (3.3)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部笠状工具の横撫により直 立気味。底部は寛削り。	藤岡系
308-10 189	土 師 器 環	覆土内 破片	口 (12.2)	シルト粒子 黒色鉱物粒子 細粒砂	酸化焰	浅黄橙	型作り成形。口縁部は内傾する。口縁部・器 内面は横撫で、底部は寛削り。体部に型膚を 残す。	藤岡系か
308-11 189	土 師 器 環	覆土内 破片	口 (12.3)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は寛削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
308-12 188	土 師 器 環	覆土内 %	口 10.8 高 3.4	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は寛削 り整形。器内面は無で整形。口縁直下に型膚 を残す。	藤岡系
308-13 189	土 師 器 環	覆土内 %	口 (10.0) 高 (3.2)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	型作り。口縁部直立する。体部・底部は寛削 り整形。器内面は無で整形。口縁直下に型膚 を残す。	藤岡系
308-14 189	土 師 器 環	覆土内 破片	口 (10.0)	白色微粒子 黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は寛削 り整形。器内面は無で整形。口縁直下に型膚 を残す。	藤岡系
308-15 189	土 師 器 環	カマド内 破片	口 (10.0)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は寛削 り整形。器内面は無で整形。	藤岡系
308-16 189	土 師 器 環	覆土内 破片	口 (10.1)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部横撫により直立気味。底 部は寛削り。口縁直下に型膚を残す。	藤岡系
308-17 189	土 師 器 環	覆土内 破片	口 (10.8)	白色微粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は寛削 り整形。器内面は無で整形。口縁直下に型膚 を残す。	藤岡系

A区 (179号住居跡)

398-18 189	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.2)	微粒霞母 白色微粒子 黒色藍物粒子	酸化焰	黄橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は型削り整形。器内面は撫で整形。口縁直下に型溝を残す。	藤岡系
398-19 189	土師器 坏	カマド内 破片	口 (11.2)	白色微粒子 微粒霞母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は型削り整形。器内面は撫で整形。口縁直下に型溝を残す。	藤岡系
398-20 189	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.2)	微粒霞母 白色微粒子 黒色藍物粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部器具工具の横撫により直立気味。底部は型削り。	藤岡系
398-21 188	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 高 (3.4)	微粒霞母 白色微粒子 黒色藍物粒子	酸化焰	黄橙	型作り。口縁部内傾する。体部・底部は型削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
398-22 189	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0)	黒色粒子 白色微粒子 黒色藍物粒子	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は型削り整形。器内面は撫で整形。口縁直下に型溝を残す。	藤岡系
398-23 189	土師器 坏	覆土内 片	口 (12.1)	微粒霞母 白色微粒子 黒色藍物粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部器具工具の横撫により直立気味。底部は型削り。口縁直下に型溝を残す。	藤岡系
398-24 189	土師器 坏	覆土内 破片	口 (21.0)	黒色藍物粒子 白色微粒子 微粒霞母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は型削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
398-25 189	土師器 坏	覆土内 破片	—	赤褐色粒子 白色微粒子 微粒霞母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は型削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
398-26 189	土師器 短頸壺	覆土内 片	口 (11.4)	微粒霞母 白色微粒子 黒色藍物粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。胴部は丸く口縁部は直立する。器面全体に型溝を残す。	藤岡系
398-27 189	土師器 小型壺	覆土内 破片	口 (12.1)	黒色藍物粒子 微粒霞母	酸化焰	橙	口縁部は直立する。下半部は型作り成形。上半部は組作り。外面削部は型削り、口縁部は横撫で、内面削部は横撫で、口縁直下に型溝を残す。	藤岡系
398-28 189	土師器 小型壺	覆土内 片	口 (12.0)	黒色藍物粒子 微粒霞母	酸化焰	黄橙	口縁部は直立する。組作り。外面削部は型削り、口縁部は横撫で、内面削部は横撫で。	藤岡系
398-29 188	土師器 短頸壺	覆土内 片	—	微粒霞母 白色微粒子 黒色藍物粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。底部・体部球は形状に近い。外面は横撫の型削り。内面は横撫でを施す。	藤岡系
398-30 189	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (10.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。返りを有する。	秋間系
398-31 189	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (10.8)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は手持ち型削り。	秋間系
399-1 189	土師器 壺	覆土内 破片	口 (21.0)	黒色藍物粒子 粗粒砂	酸化焰	橙	口縁部は外反する。組作りか型作り成形。外面削部は型削り、口縁部は横撫で、内面削部は横撫で。	藤岡系
399-2 189	土師器 壺	覆土内 破片	口 (22.0)	白色微粒子 黒色藍物粒子 微粒霞母	酸化焰	黄橙	口縁部は外反する。組作りか型作り成形。外面削部は型削り、口縁部は横撫で、内面削部は横撫で。	藤岡系
399-3 190	土師器 壺	覆土内 破片	口 (22.0)	白色微粒子 黒色藍物粒子 微粒霞母	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面削部は型削り、口縁部は横撫で、内面削部は横撫で。	藤岡系
399-4 189	土師器 壺	覆土内 片	口 (23.6)	黒色藍物粒子 微粒霞母 粗粒砂	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面削部は型削り、口縁部は横撫で、内面削部は横撫で。	藤岡系
399-5 189	土師器 壺	覆土内 破片	底 (4.3)	粗粒砂 黒色藍物粒子 微粒霞母	還元焰	黒褐 橙	型作り成形。外面は型削り、内面は横撫で。	藤岡系
399-6 188	土師器 小型壺	覆土内 片	口 (17.0) 底 (2.3) 高 10.5	白色微粒子 微粒霞母	還元焰	橙	型作り成形。口縁部は横撫で、口縁直下に型溝を残し、下半は型削りを施す。器内面は横撫を施す。	藤岡系
399-7 190	須恵器 坏	覆土内 片	底 (4.4)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転型削り。	秋間系
399-8 190	須恵器 附盤	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系

遺物一覧表

399-9 190	須志 器 盤	覆土内 破片	口 (25.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。底面は窪面。	秋間系
399-10 190	須志 器 盤	覆土内 破片	口 (29.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。	秋間系
399-11 189	須志 器 高台部片	覆土内	—	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	秋間系
399-12 189	須志 器 查	覆土内 片	底 (8.4)	黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。底部は窪削り。	輸入品か 東海系か
399-13 190	須志 器 壺	覆土内 破片	最径(17.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は青海波文) 後轆轤再整形外面自然釉付着。	秋間系
400-1 252	須志 器 大 壺	覆土内 片	最径(77.6)	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰 焼締	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。内面宛具は下半部と上半部では異なる。胎土も下半にシャモットを多く含ませる。	兼附系 東海系
401-1 401-1'	須志 器 横 壺	覆土内 破片	胴 (10.6)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰 焼締	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。器外面自然釉付着。	秋間系
401-2 190	須志 器 壺	覆土内 破片	厚 0.8	白色鉱物粒子 白色微粒子	白灰	還元焰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。口縁部は轆轤整形 (右回転)。	秋間系
401-3 190	須志 器 壺	覆土内 破片	厚 0.9	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面正縁叩き・内面宛具は青海波文)。	秋間系
401-4 190	須志 器 壺	覆土内 破片	厚 1.2	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面斜縁叩き・内面宛具は青海波文)。	秋間系
402-1 190	須志 器 壺	覆土内 破片	厚 0.7	白色粒子	還元焰 焼締	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	兼附系 秋間系か
402-2 190	須志 器 転用破か (礎)	覆土内 破片	厚 1.3	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。二辺の加工が認められる。	兼附系
402-3 190	礫 器 砥石 ?	覆土内 破片	厚 10.0	粗粒安山岩	—	—	周縁を欠損する為形状は不明。刺座 (?) 面が磨滅する。	
402-4 190	礫	覆土内 完存	—	粗粒安山岩	—	—	地山層に多出す礫に工具痕が認められる。	重 1,770g
402-5 190	礫	覆土内 完存	厚 10.0	粗粒安山岩	—	—	402図-4 と同一	重 3,900g
402-6 190	礫	覆土内 完存	—	粗粒安山岩	—	—	402図-4 と同一に同じ	重 3,680g
403-1 191	礫 器 砥石	覆土内 完存	長 11.2 幅 6.3 厚 4.1	粗粒安山岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重460g
403-2 191	礫 器 標石	覆土内 完存	長 13.5 幅 7.6 厚 4.6	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重790g
403-3 191	礫 器 標石	覆土内 完存	長 14.0 幅 7.5 厚 4.2	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重690g
403-4 191	礫 器 砥石	覆土内 完存	長 15.0 幅 6.1 厚 3.9	閃緑岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重760g
403-5 191	礫 器 砥石	覆土内 完存	長 15.1 幅 8.1 厚 3.8	粗粒安山岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重760g
403-6 191	礫 器 砥石	覆土内 完存	長 16.0 幅 7.0 厚 4.5	石英閃緑岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重740g
403-7 191	礫 器 砥石	覆土内 完存	長 17.1 幅 6.1 厚 3.1	珪質頁岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重560g

A区第180号住居跡

棟号 図面番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
404-1 191	土器 器 環	覆土内 破片	口 (13.0)	微粒霞母 赤褐色粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部横撫により直立気味。底部は莖削り。	藤岡系
404-2 191	土器 器 環	覆土内 破片	口 (13.1) 高 (3.3)	微粒霞母 赤褐色粒子	酸化焰	黄橙	型作り。口縁部外傾気味。器面風化の為詳細不詳。	藤岡系
404-3 191	土器 器 環	覆土内 破片	口 (18.0)	微粒霞母 黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部横撫により直立気味。底部は莖削り。	藤岡系
405-1 191	石器 不詳	覆土内 破片	長 6.2 幅 6.7 厚 3.2	粗粒安山岩	—	—	地山自然露の縁辺を磨き整形している。	重120g
405-2 191	雑器 器 充存	覆土内 充存	長 11.6 幅 7.5 厚 4.8	実質安山岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重640g
405-3 191	雑器 器 破片	覆土内 破片	長 11.4 幅 5.0 厚 3.9	砂岩	—	—	小口側に敲打痕が認められる。	重350g
405-4 191	雑器 器 破片	床直層 破片	長 12.7 幅 5.5 厚 3.3	砂岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重360g
405-5 191	雑器 器 充存	覆土内 充存	長 13.7 幅 5.1 厚 4.4	粗粒安山岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重520g

A区第181号住居跡

棟号 図面番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
406-1 191	須恵器 器 環	床直層 ほぼ完形	口 13.8 底 7.3 高 4.1	白色微粒子	中性焰	黄灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。器内外面に有機質の付着が認められる。	吉井・藤岡系
406-2 191	須恵器 器 環	床直層 片	底 5.4	微粒霞母 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
406-3 191	須恵器 器 環	カマド内 片	底 6.6	白色微粒子 微粒霞母 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
406-4 191	須恵器 器 環(残)	床直層 ほぼ完形	口 14.8 底 (6.7) 高 (4.5)	微粒霞母 白色微粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。高台欠損後環に転用。	藤岡系
406-5 191	須恵器 器 環	床直層 片	口 15.0 底 7.1 高 5.4	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
406-6 192	須恵器 器 環	覆土内 片	口 15.0 底 7.6 高 5.3	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系か
406-7 192	土器 器 壺	カマド内 破片	口 (20.0)	微粒霞母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は莖削り、口縁部は横撫で、内面胴部は横撫で。	藤岡系

A区第182号住居跡

棟号 図面番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
408-1 192	土器 器 環	覆土内 ほぼ完形	口 13.6 高 3.5	微粒霞母 黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部横撫により直立気味。底部は莖削り。口縁直下に型痕を残す。	藤岡系
408-2 192	土器 器 環	カマド内 破片	口 15.6 底 9.3 高 4.4	微粒霞母 白色微粒子	酸化焰	黄橙	型作り。口縁部は外傾し体部は斜位の莖削り、底部は莖削整形。	藤岡系

遺物一覧表

408-3 192	土師器 鉢	覆土内 破片	口 (16.6)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	灰褐	型作り成形。口縁部は横撫でを施す。体部は 莖削りを施す。	藤岡系
408-4 192	須恵器 坏 蓋	覆土内 片	胴 (6.0) 口 (16.2) 高 (3.0)	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	灰白	端部は返りを有する。轆轤成形(右回転)。上 半部は回転削り。胴部は貼り付け。	秋間系
408-5 192	須恵器 坏 蓋	覆土内 片	胴 7.0 口 (16.8) 高 (2.6)	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	灰	口唇部は返りを有する。轆轤成形(右回転)。 上半部は回転削り。胴部は貼り付け。	秋間系
408-6 192	須恵器 坏 蓋	床底 ほぼ完形	胴 6.0 口 17.0 高 3.1	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	灰白	端部は返りを有する。轆轤成形(右回転)。上 半部は回転削り。胴部は貼り付け。	秋間系
408-7 192	須恵器 坏 蓋	覆土内 破片	口 (17.8)	黒色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。 上半部は回転削り。	秋間系
408-8 192	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (11.0) 底 (7.0) 高 (3.2)	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転削り。	秋間系
408-9 192	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.2) 底 (4.0)	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転削り。	秋間系
408-10 192	須恵器 埴	床底 片	口 (18.0) 底 (12.0) 高 (8.0)	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
408-11 192	須恵器 壺	覆土内 破片	厚 0.7	白色微粒子	還元焰	白灰	紐作り後轆轤成形(右回転)。	秋間系
408-12 192	瓦製円盤	覆土内 完存	厚 1.1	白色微粒子	酸化焰	橙	桶巻き造りの女瓦片を転用している。	笠懸系
408-13 192	瓦製円盤	覆土内 完存	厚 2.2	白色微粒子	還元焰	黒灰	一枚作りの女瓦片を転用する。	吉井系
409-1 192	雑器 擦石	覆土内 完存	長 5.6 幅 4.3 厚 3.4	実質安山岩	—	—	平砥面が使用に伴ない磨減する。	重115g
409-2 192	雑器 敲石	覆土内 敲石	長 9.1 幅 7.8 厚 2.8	石英閃緑岩	—	—	小口側に敲打痕が認められる。	重320g
409-3 192	雑器 敲石	覆土内 完存	長 13.5 幅 8.4 厚 4.4	石英閃緑岩	—	—	小口側に敲打痕が認められる。	重860g
409-4 192	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.5	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	明黄橙	半敲作り。凸面鈍円形(密)後縁位の撫 で再整形。側面周取り1+a回。	藤岡系

A区第186号住居跡

発掘番号 図版番号	種別 器形	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
411-1 192	土師器 坏	ピット内 ほぼ完形	口 11.7 底 6.6 高 4.4	微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、胴部 は削り。底部は磨れ砂。体部に彫痕を残す。	藤岡系
411-2 192	土師器 坏	ピット内 ほぼ完形	口 12.0 高 4.3	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で。底部 は削り。器内面に指面痕を残す。	藤岡系
411-3 192	須恵器 坏	貯蔵穴内 ほぼ完形	口 11.9 底 6.0 高 4.5	細粒砂	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転削り。	吉井系
411-4 192	須恵器 坏	傍壺内 一部欠損	口 13.8 底 7.0 高 4.5	白色微粒子	還元焰	黒灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。欠 損後縁に転用。	吉井系
411-5 192	須恵器 埴	カマド内 一部欠損	口 12.5 底 6.5 高 5.0	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	黒・橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井系
411-6 192	須恵器 埴	ピット内 一部欠損	口 13.2 底 6.4 高 5.0	白色微粒子 ダイヤサイト	還元焰	暗灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転削り。	吉井系

411-7 192	須志器 坏	傍甕坑内 瓦	口 12.4 底 5.7 高 3.6	黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	黒褐 橙	轆轤成形(右回転)。底部は寛切り。器内面に 須し処理・暗文を施す。	藤岡系か
411-8 192	土師器 小型壺	貯蔵穴内 破片	口 (11.1)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	黒橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。外面縦位の無彫 り整形。	吉井・藤 岡系
411-9 193	須志器 羽蓋	貯蔵穴内 破片	口 (20.0)	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。罫は貼り付け、胴部下半・底部は覆削り。	吉井系 吉井形羽 蓋 甲斐 種伊類
411-10 192	須志器 蓋	覆土内 破片	口 (23.0)	白色微粒子 微粒雲母	中性焰	黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。罫は貼り付け。	吉井形羽 蓋 甲斐 種伊類
411-11 192	須志器 羽蓋	ビツ内 破片	口 (22.2)	白色粒子	中性焰	灰黄褐	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。罫は貼り付け。	吉井形羽 蓋 甲斐 種呂類
411-12 192	陶輪陶器 灰輪皿	カマド内 片	口 14.0 底 7.0 高 3.1	密	良好	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。陶輪は没損。	—
412-1 193	瓦 胎瓦	カマド内 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+4。背面 は覆削り整形。	吉井系
412-2 193	瓦 女瓦	傍甕坑内 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子 微粒雲母 白色粒子	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。凹面粘土板割き取り痕。凸面叩 き(密)後縦位の襷で再整形。側面面取り2 回。	吉井・藤 岡系
412-3 193	瓦 女瓦	カマド 破片	厚 2.0	白色微粒子 白色鉱物粒子	酸化焰 か二次 焼成	鈍黄橙	一枚作り。凹面寄木痕。凸面叩き(密)後 縦位の襷で整形。	吉井・藤 岡系

A区第187号住居跡

押印番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
414-1 193	土師器 土坏	掘り方内 破片	口 (12.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	原作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下に 形痕を残し、下半部は覆削り。底部は覆削り。	藤岡系
414-2 193	須志器 坏	覆土内 破片	口 (13.8) 底 (9.0)	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋岡系
414-3 193	須志器 坏	掘り方内 瓦	口 (14.2) 底 (8.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋岡系
414-4 193	須志器 黒色土器 坏	床直層 完形	口 12.8 底 5.8 高 4.0	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	黒褐	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
414-5 193	須志器 坏	ビツ内 完形	口 12.5 底 6.0 高 3.9	白色微粒子 白色粒子 ダイヤモンド	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	吉井系
414-6 193	須志器 坏(地)	覆土内 一部欠損	口 14.0 底 7.5 高 4.6	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	黄灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。高 台欠損後後に転用。	藤岡系
414-7 193	須志器 坏(地)	ビツ内 片	口 15.0 底 7.0 高 5.7	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。高 台欠損後後に転用。	藤岡系
414-8 193	須志器 坏	床直層 ほぼ完形	口 12.2 底 7.0 高 2.8	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰 焼締	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	栗原系か 秋岡系
415-1 193	須志器 埴	掘り方内 破片	底 (6.0)	白色微粒子 細粒砂	酸化焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	不詳
415-2 193	須志器 足高台 付埴	覆土内 瓦	底 (11.0)	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	灰褐	轆轤成形(右回転)。	藤岡系
415-3 193	須志器 羽蓋	覆土内 瓦	口 (19.4)	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰白	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。罫は貼り付け。	吉井形羽 蓋 甲斐 種呂類
415-4 193	須志器 壺	覆土内 破片	厚 1.0	白色鉱物粒子 ダイヤモンド 微粒雲母	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面叩き不詳・内面宛具 は背海波文)。	吉井・藤 岡系

遺物一覧表

415-5 193	鉄 塊	覆土内	—	—	—	—	—	不整形を呈する。	—
415-6 251	古 銭	掘り 完形	径 2.1 重 1.3	—	—	—	—	「承和昌寶」初鋳は承和2年(835)。	—
415-7 193	碑 石	傍壇坑上 面 一部 欠損	長 4.9 幅 5.2 厚 2.5	粗粒安山岩	—	—	—	側部に敲打痕が認められる。	重90g
415-8 193	碑 石	傍壇坑上 面 完存	長 25.0 幅 10.2 厚 12.3	粗粒安山岩	—	—	—	側部に使用に伴ない磨減する。	重 4,100g
415-9 193	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子 白色鉱物粒子 透明鉱物粒子	還元焰	灰	—	一枚作りか。凹面アンペラ痕。凸面鈍叩き(密)。側部面取り1回・端部面取り1回。	不詳
415-10 193	瓦 女 瓦	傍壇坑内 瓦	厚 1.8	白色微粒子 シルト粗粒子	還元焰 焼締め	灰	—	桶巻作り。凹面鈍叩き。凸面鈍叩き(密)整形後縦横での四整形。側部面取り3回・端部面取り1回。	栗附系
416-1 瓦-656	瓦 殿 瓦	傍壇坑内 完形	—	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	—	一本作り。単弁5葉蓮華文。中面の子葉は1+4。背面は布目。	吉井系 重2.7kg
417-1 瓦-657 194	瓦 殿 瓦	傍壇坑内 完形	長 39.0 幅 17.0 狭 13.5	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	—	一本作り。単弁8葉蓮華文。中面の子葉は1+4。男瓦部凸面縦位の無で整形。	吉井系 厚2.4 重3.0kg
418-1 瓦-658 195	瓦 殿 瓦	No24 完形	長 37.0 幅 15.0 狭 11.5	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	—	417回-1に同じ。	吉井系 厚1.6cm 重2.3kg
419-1 瓦-659 195	瓦 殿 瓦	No20 完形	長 38.0 幅 15.0 狭 13.5	白色鉱物粒子 白色粒子	吉井系 還元焰	灰	—	417回-1に同じ。	吉井系 厚2.0cm 重2.5kg
420-1 瓦-660 196	瓦 殿 瓦	No20 完形	長 35.5 幅 15.5 狭 11.5	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	—	417-1に同じ。	吉井系 厚1.3cm 重2.2kg
421-1 瓦-661 196	瓦 殿 瓦	No29 ほぼ完形	長 37.5 幅 14.5	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	—	417回-1に同じ。	吉井系 厚1.7cm 重1.9kg
422-1 瓦-631 197	瓦 男 瓦	No25 完形	長 38.5 幅 (19.5) 狭 12.5	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	—	半截作り。面縦位の無で整形。側部面取り3回・端部面取り2回。鹿積き文字瓦「山」(凸面)。	吉井系 厚2.6cm 重3.6kg
423-1 瓦-632 197	瓦 女 瓦	No25 完形	長 39.5 幅 29.0 狭 21.5	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰黄	—	一枚作り。凸面縦位の無で整形。側部面取り3回・端部面取り2回。鹿積き文字瓦「山」(凸面)。	吉井系 厚2.4cm 重4.3kg

A区第200号住居跡

棟号 図面番号	種 別	出土位置 遺存状況	厚目 (cm) 重目 (g)	胎 土	焼 色	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
424-1 197	須 恵 器 坏	床直層 片	口 10.2 底 4.7 高 3.5	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。	不詳
424-2 197	須 恵 器 塊	床直層 片	口(11.6) 底 6.4 高(5.6)	白色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	輪縁成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
424-3 197	須 恵 器 皿	掘り方内 片	口 13.6 底 6.0 高 2.9	白色微粒子	還元焰	暗灰	輪縁成形(右回転)。付高台。	秋間系
424-4 197	鉄 器 不 詳	床直層 両端欠損	幅 0.65 重 19.4	—	—	—	全体に錆化が著しい。調査後の錆化により破損が多い。上面は「し」字状になっている。	—
424-5 197	鉄 器 不 詳	床直層 部分欠損	1辺 5.5 重 17.4	—	—	—	全体に錆化が著しい。薄い板状の中央に丸丸方形の孔を有する。釘廻し的金具か。	—
424-6 197	施軸陶器 灰 軸 塊	床直層 片	口(14.2) 底(8.0) 高 4.9	密	良好	白灰	輪縁成形(右回転)。付高台。施軸は損傷。	—

A区第188号住居跡

押出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
426-1 197	土師器 壺	覆土内 破片	口 (18.2)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面割部は 窪削り、口縁部は横撫で、内面割部は荒撫で。	藤岡系
426-2 197	土師器 壺	カマド内 破片	口 (20.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍黄	口縁部は外反する。型作り成形。外面割部は 窪削り、口縁部は横撫で、内面割部は荒撫で。	藤岡系
426-3 197	土師器 壺	カマド内 破片	口 (26.0)	白色粒子 黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	黄橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面割部は 窪削り、口縁部は横撫で、内面割部は荒撫で。	藤岡系
426-4 198	土師器 台付壺	カマド内 破片	底 (7.4)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	成形は不詳。横位の回転撫で成形。	藤岡系
426-5 198	施釉陶器 緑釉輪花 皿	カマド内 片	口 19.4 底 9.6 高 3.5	密	良好	緑黄	輪縁成形(右回転)。磨き施し施釉。4単位の 輪花を施す。	—
426-6 198	瓦 女瓦	カマド内 瓦	厚 1.9	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形後脚叩き。側 部面取り2回・端部面取り2回。	笠懸系
426-7 198	瓦 女瓦	カマド内 瓦	厚 2.1	細粒砂	還元焰	灰白	横巻き造りか。両面粘土板割ぎ取り痕。凸面 脚叩き(密)。側部面取り2回・端部面取り2 回。	笠懸系 雷電山か
426-8 198	瓦 女瓦	カマド内 瓦	厚 1.8	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り 2回・端部面取り2回。	吉井系
427-1 198	瓦 女瓦	カマド内 片	長 38.2 厚 1.6	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	横巻作り。凹面横骨痕。粘土板割ぎ取り痕。 凸面脚叩き(密)整形後輪縁撫での再整形。 側部面取り2回・端部面取り1回。	北毛系

A区第189号住居跡

押出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
428-1 198	土師器 環	覆土内 瓦	口 (12.8)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部足工具の横撫により直 立気味。底部は窪削り。口縁直下に型着を残 す。	藤岡系
428-2 198	土師器 環	カマド内 瓦	口 (14.1)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部は直立する。外面口縁直 下に強い稜を有する。底部は窪削り。	藤岡系
428-3 198	土師器 環	床面直上 瓦	口 14.0 高 4.4	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部足工具の横撫により直 立気味。口縁直下に稜を有する。底部は窪削 り。	藤岡系
428-4 198	須恵器 環身	床面直上 瓦	口 13.4 高 4.3	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	型作り成形形全体を輪縁整形(右回転)。外縁 部は輪縁成形(右回転)。	栗附系
428-5 198	須恵器 短頸壺	床面直上 穴形	口 10.4 高 9.1	白色微粒子 黒色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙黄	輪縁整形(右回転)。口縁部は直立する。肩部 がやや張り2条の横線間に9本1単位の波状 文を施す。	栗附系か
428-6 198	土師器 壺	覆土内 破片	口 (14.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。外面面部の風化が著しい。	藤岡系
428-7 198	土師器 壺	床面直上 一部欠損	口 14.7	白色微粒子 シルト粗粒子	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は短かく外反する。組作りか型作り成 形。外面割部は窪削り、口縁部は横撫で、内 面割部は荒撫で。	吉井・藤 岡系
429-1 199	土師器 壺	床面直上 壺	口 26.6 底 5.0 高 31.7	白色微粒子 透明鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は外反する。下半部は型作り成形。上 半部は組作り。外面割部は窪削り、口縁部は 横撫で、内面割部は荒撫で。	藤岡系
429-2 198	土師器 壺	覆土内 瓦	—	円礫 黒色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。外面割部は窪削り、内面割部は 荒撫で。	吉井・藤 岡系

A区第190号住居跡

押出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
430-1 199	須恵器 埴	覆土内 破片	口 (12.0)	白色微粒子	還元焰	灰白	輪縁成形(右回転)。	藤岡系

遺物一覧表

430-2 199	鉄器 釘	覆土内 瓦	幅 重	0.3 2.2	—	—	—	全体に錆化が著しい、断面正方形状を呈する。頂部側は調査後の欠損。	—
430-3 199	鉄器 釘 ?	覆土内 破片	幅 重	0.4 1.9	—	—	—	全体に錆化が著しい、断面正方形状を呈する。	—
430-4 199	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚	1.8	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凸面縦位の撫で整形。側面取り1回・端面面取り1回。	吉井系
430-5 199	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚	0.7	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
430-6 199	瓦 女瓦	床直 瓦	厚	2.5	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面粘土板割き取り。凸面縦位の撫で整形。側面取り4回。	吉井系

A区第191号住居跡

棟号 図版番号	種別 種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (mm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
431-1 199	須恵器 埴	覆土内 瓦	口 底 高	13.1 6.6 5.3	白色粒子 白色鉱物粒子 ダイヤサイト	中性焰	灰 明黄橙	輪轆成形(右回転)。付高台。	吉井系
431-2 199	須恵器 埴	覆土内 破片	底	6.6	微粒炭母 白色微粒子	還元焰	黄灰	輪轆成形(右回転)。付高台。	藤岡系
431-3 199	須恵器 埴	覆土内 一部欠損	底	6.8	白色鉱物粒子 白色粒子 微粒炭母	酸化焰	灰黄	輪轆成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	吉井・藤岡系
432-1 199	須恵器 坏蓋	カマド内 瓦	口	(10.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	端部は返りを有する。輪轆成形(右回転)。上半部は回転削り。	秋岡系
432-2 199	須恵器 小型壺口 羽蓋	覆土内 破片	底	(7.0)	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り。底面は木目の圧痕。	吉井・藤岡系
432-3 199	須恵器 壺	カマド内 破片	底	(21.0)	微粒炭母 白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後輪轆整形(右回転)。	吉井系
432-4 199	瀬軸陶器 灰輪埴	覆土内 破片	口	(14.0)	赤	良好	灰	輪轆成形(右回転)。	—
433-1 199	須恵器 大壺	覆土内 破片	厚	1.0	微粒炭母 白色微粒子	還元焰	灰黄	紐作り成形。器内面が磨減する。	藤岡系
433-2 199	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	1.9	微粒炭母 白色微粒子 ダイヤサイト	還元焰	灰黄	一枚作り。面縦位の撫で整形。側面取り2回・端面面取り1回。	藤岡系

A区第192号住居跡

棟号 図版番号	種別 種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (mm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
434-1 200	土師器 坏	覆土内 破片	口	(11.0)	白色微粒子 微粒炭母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は覆削り。体部に型痕を残す。	藤岡系
434-2 200	土師器 坏	カマド内 瓦	口	(11.6)	微粒炭母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は内湾する。口縁部・器内面は横撫で、底部は覆削り。体部に型痕を残す。	藤岡系
434-3 199	土師器 坏	カマド内 瓦	口	13.2 4.0	微粒炭母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は覆削り。口縁直下に型痕を残す。	藤岡系
434-4 200	土師器 坏	覆土内 破片	口	(12.6)	微粒炭母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は覆削り。体部に型痕を残す。	藤岡系
434-5 200	土師器 坏	覆土内 破片	口	(18.6)	微粒炭母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り。口縁部内傾気味。体部・底部は覆削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
434-6 199	土師器 坏	覆土内 瓦	口 高	16.4 5.8	微粒炭母	酸化焰	橙	型作り。器面の風化が著しい。口縁部は外傾し体部は斜位の覆削り、底部は厚削整形か。口縁直下に型痕を残す。	藤岡系
435-1 199	土師器 高坏	覆土内 脚部欠損	口	14.4	微粒炭母 白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は覆削り整形。器内面は撫で整形。脚部は貼り付け。	藤岡系
435-2 199	土師器 台付壺	覆土内 完形	口 底 高	13.0 9.6 16.0	透明鉱物粒子 シルト粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。口縁部は粗かく外反する。胴部は丸く斜位の覆削りを施す。脚部・底部は縦位の覆撫でを施す。器内面は横位の覆撫でを施す。	吉井・藤岡系

435-3 200	土師器 壺	覆土内 破片	口 (20.0)	黒色藍物粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍黄澄	口縁部は外反する。紐作り乃至型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
435-4 200	土師器 壺	覆土内 破片	口 (21.0)	白色微粒子 微粒雲母 赤褐色粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
435-5 200	土師器 壺	覆土内 破片	口 (11.0)	黒色藍物粒子 白色微粒子 微粒雲母 細粒砂	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り乃至型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
435-6 200	須恵器 埴	覆土内 破片	口 (14.8)	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	黒灰	轆轤成形(右回転)。	吉井系
435-7 200	須恵器 壺	覆土内 破片	最径(13.8)	白色微粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。肩部に横線を3条と上位に更に1条施す。底部は凹転覆削り。	栗附系
435-8 200	須恵器 壺	覆土内 破片	最径(18.4)	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。肩部に刺突文を施す。体部は凹転覆削り。	秋間系
435-9 200	須恵器 壺	覆土内 破片	口 (24.0)	白色微粒子	還元焰	鈍黄澄	轆轤成形(右回転)。	秋間系
436-1 200	須恵器 大壺	覆土内 破片	口 (26.2)	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。口縁部は轆轤整形。胴部は叩き整形(外面は平行叩き内面兎耳型は青海波文)。	栗附系
436-2 200	磯原 蔵石	覆土内 一部欠損	長 10.9 幅 6.1 厚 3.3	閃緑岩	—	—	小口部に敲打痕が認められる。	重365g
436-3 200	磯原 蔵石	覆土内 完存	長 12.1 幅 7.0 厚 3.4	閃緑岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重520g
436-4 200	磯原 蔵石	床直層 完存	長 16.5 幅 8.9 厚 4.1	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重1,000g
436-5 200	磯原 蔵石	覆土内 完存	長 17.7 幅 7.5 厚 4.5	ひん岩	—	—	特別な使用痕は認められない。	重920g
436-6 200	磯原 蔵石	床直層 一部欠損	長 16.8 幅 12.0 厚 3.5	粗粒安山岩	—	—	側部に敲打痕が認められる。	重1,100g
437-1 201	石造 凹石	覆土内 一部欠損	長 24.7 幅 18.8 厚 4.3	粗粒安山岩	—	—	自然磨を用い、両面に凹が認められる。	重7,900g 深5.8 深3.4

A区第193号住居跡

探検番号 図録番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
438-1 201	須恵器 黒色土器 坪	床直 完形	口 11.0 底 5.8 高 3.2	微粒雲母 白色粒子	還元焰 か	黒灰	轆轤成形(右回転)、底部は凹転糸切り。	吉井・藤岡系
438-2 201	須恵器 坪	カマド内 破片	口 (12.0) 底 (6.0) 高 (4.1)	白色藍物粒子 白色粒子	酸化焰	橙 黒灰	轆轤成形(右回転)、底部は凹転糸切り。	吉井系
438-3 201	須恵器 埴	床直 瓦	口 13.0 底 6.4 高 5.5	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍橙 黒灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
438-4 201	須恵器 埴	床直 瓦	口 16.7	白色粒子 細粒砂	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	不詳
438-5 201	鉄釘 か	カマド内 破片	幅 0.7	—	—	—	全体に錆化が及び、調査後の錆化の為に全体が欠損する状態である。	—
438-6 201	鉄釘	カマド内 部分欠損	幅 1.0 重 33.7	—	—	—	全体に錆化が及び調査後の錆化に伴ない欠損している部分が多い。断面正方形状を呈する。	—

遺物一覧表

A区第194号住居跡

検出番号 図記番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
439-1 201	土師器 坏	カマド内 破片	口 (15.0)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下 に彫溝を残し、下半部は寛幅り。	藤岡系
439-2 201	須恵器 埴	カマド内 破片	口 (13.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。	吉井系
439-3 201	須恵器 埴	覆土内 列	口 13.0 底 6.0 高 5.0	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙 黒灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
439-4 201	須恵器 埴	カマド内 破片	口 (13.4) 底 (6.2) 高 (4.9)	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰 やや焼 締	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。器内外面に自然 釉付着。	吉井・藤 岡系
439-5 201	土師器 小豆埴	カマド内 破片	口 (12.0)	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は 削削り、口縁部は横撫で、内面胴部は旋撫で。	藤岡系
439-6 201	須恵器 羽釜	カマド内 破片	口 (21.0)	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	明黄橙	口縁部は内湾する。紐作り後轆轤成形 (右回 転)。脚は貼り付け。	吉井羽 釜 甲斐 種伊類
439-7 201	施釉陶器 灰釉埴	床直 列	底 (8.0)	赤	良好	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	—
440-1 201	瓦 女瓦	覆土内 列	厚 2.2	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰 焼締	灰	桶巻作り。凹面横骨痕。凸面隅印キ(密) 整 形後轆轤撫での円整形。側面取回り2回・端 部面取り2回。	垂附系か

A区第195号住居跡

検出番号 図記番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
441-1 202	土師器 坏	覆土内 列	口 (11.0)	微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直 下に強い横を有する。底部は削削り。口縁直 下に彫溝を残す。	藤岡系
441-2 202	土師器 坏	覆土内 列	口 11.2	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直 下に強い横を有する。底部は削削り。	藤岡系
441-3 202	土師器 坏	覆土内 列	口 (11.4) 高 (3.8)	黒色鉱物粒子 微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直 下に強い横を有する。底部は削削り。	藤岡系
441-4 202	土師器 小豆埴	覆土内 破片	口 (15.0)	微粒雲母 デイスait	酸化焰	橙	型作り成形。胴部は丸く口縁部は外傾する。 器面は風化が著しい。	藤岡系
441-5 202	土師器 粟	覆土内 破片	—	微粒雲母 細砂粒 片岩	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形か。内外面磨りが認められる。	藤岡系
442-1 202	雑器 磁石	床面直上 完存	長 11.3 幅 5.4 厚 2.9	実質安山岩	—	—	特徴的な使用痕は認められない。	重310g
442-2 202	雑器 磁石	床面直上 完存	長 12.5 幅 5.3 厚 3.6	石炭閃緑岩	—	—	特徴的な使用痕は認められない。	重360g
442-3 202	雑器 磁石	床面直上 完存	長 14.0 幅 9.5 厚 3.6	粗粒安山岩	—	—	平組面が使用に伴ない磨滅する。	重730g
442-4 202	雑器 磁石	床面直上 完存	長 13.1 幅 7.7 厚 3.5	実質安山岩	—	—	平組面が使用に伴ない磨滅する。	重650g
443-1 202	雑器 磁石	床面直上 完存	長 14.1 幅 8.2 厚 5.1	かこう岩	—	—	特徴的な使用痕は認められない。	重890g
443-2 202	雑器 磁石	覆土内 完存	長 14.9 幅 8.4 厚 5.3	粗粒安山岩	—	—	平組面が使用に伴ない磨滅する。	重 1,030g

A区(194・195・196・197号住居跡)

443-3 202	礎 礎石	床面直上 完存	長 幅 厚	15.0 6.6 4.2	溶結凝灰岩	— —	— —	平担面が使用に伴ない磨滅する。	重780g
443-4 202	礎 礎石	覆土内 完存	長 幅 厚	15.1 6.3 5.4	粗粒安山岩	— —	— —	特徴的な使用痕は認められない。	重840g
443-5 202	礎 礎石	床面直上 完存	長 幅 厚	16.5 8.5 5.1	石英閃緑岩	— —	— —	平担面が使用に伴ない磨滅する。	重 1,100g
443-6 202	礎 礎石	床面直上 完存	長 幅 厚	18.3 7.3 3.5	粗粒安山岩	— —	— —	特徴的な使用痕は認められない。	重850g

A区第196号住居跡

棟号 図版番号	種 別	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形・技 法等の 特徴	備 考	
445-1 202	須 恵 器 環	覆土内 破片	□ (10.0)	白色微粒子	還元焰	灰	縦縞成形(右回転) 後底部は段削り。	藤岡系	
445-2 203	土 師 器 環	覆土内 片	□ (13.7)	白色微粒子 微粒雲母 細粒砂	酸化焰	赤橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に強い稜を有する。底部は段削り。口縁部に二段の稜を有する。	藤岡系	
445-3 203	土 師 器 高 杯	覆土内 破片	—	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	紐作り後継で段整え。	藤岡系	
445-4 203	土 師 器 鉢	覆土内 破片	□ (26.0)	微粒雲母 ゼイサイト	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾する。体は丸味を帯びる。器内面に放射状贈文を有する。	藤岡系	
445-5 202	土 師 器 壺	覆土内 破片	—	微粒雲母 細粒砂	酸化焰	浅黄橙	型作り成形。器内面は横位の段整えを施す。外面表面の風化が著しい。	藤岡系	
445-6 203	土 師 器 甕	覆土内 ほぼ完 存	□ 26.2 底 9.6 高 32.1	白色鉱物粒子 微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は外反する。紐作り。外面腹部は段整えで、口縁部は横撫で、内面腹部は縦撫で。	藤岡系	
445-7 202	石 製 品 紡 輪 車	床直層 完存	上径 4.0 下径 2.6 厚 1.6	滑石	—	—	研ぎ整形は研磨台が粗い為か、粗いヒケ傷が多く認められる。	孔径0.6	
445-8 203	礎 礎石	床直層 ほぼ完 存	長 幅 厚	10.0 5.1 3.1	石英閃緑岩	— —	— —	小口側に敲打痕が認められる。	重240g
445-9 203	礎 礎石	覆土内 完存	長 幅 厚	14.5 6.6 4.4	溶結凝灰岩	— —	— —	顕著な使用痕は認められない。	重630g
445-10 203	礎 礎石	覆土内 完存	長 幅 厚	16.1 8.1 5.5	粗粒安山岩	— —	— —	顕著な使用痕は認められない。	重 1,020g

A区第197号住居跡

棟号 図版番号	種 別	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形・技 法等の 特徴	備 考
446-1 203	須 恵 器 埴	カマド内 破片	□ (12.0)	白色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	縦縞成形(右回転)。	吉井・藤岡系
446-2 203	須 恵 器 埴 乃 蓋 環	覆土内 破片	□ (14.0)	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	縦縞成形(右回転)。	藤岡系
446-3 203	須 恵 器 埴	覆土内 破片	底 (6.2)	白色粒子	還元焰	灰	縦縞成形(右回転)。付高台。	吉井系
446-4 203	須 恵 器 埴	覆土内 破片	底 7.3	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	外・黒 褐 新・鈍 褐	縦縞成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
446-5 203	須 恵 器 壺	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	白灰	縦縞成形(右回転)。	秋岡系

遺物一覧表

446-6 203	加軸陶器 灰 粉 瓦	カマド内 破片	口 (11.0)	密	良好	灰	輪軸成形 (右回転)。	—
446-7 203	瓦 女 瓦	カマド内 瓦	厚 1.7	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面裏印キ (密) 側面噴出し段・ 布目有り。	秋関係

A区第199号住居跡

押込番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	径目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
449-1 203	土 師 器 環	覆土内 瓦	口 (12.4)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は横撫により直立気味。 底部は覆削り。	藤岡系
449-2 204	土 師 器 環	覆土内 破片	口 (13.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直 下に横を有する。底部は覆削り。	藤岡系
449-3 204	土 師 器 環	覆土内 破片	口 (13.8)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直 下に弱い横を有する。底部は覆削り。	藤岡系
449-4 203	土 師 器 環	覆土内 瓦	口 (13.8)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は覆削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
449-5 204	土 師 器 環	覆土内 破片	口 (11.1)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は覆削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
449-6 203	土 師 器 環	覆土内 瓦	—	白色微粒子 黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内傾気味。体部・底部は覆削 り整形。器内面は強で整形。口縁直下に型膚 を残す。	藤岡系
449-7 203	土 師 器 環	覆土内 瓦	口 (15.8)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り。口縁部直立気味。体部・底部は覆削 り整形。器内面は強で整形。	藤岡系
449-8 203	土 師 器 環	覆土内 瓦	口 (17.3)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は覆削 り整形。器内面は強で整形。	藤岡系
449-9 203	土 師 器 環	カマド内 瓦	口 14.1 高 4.0	白色微粒子 白色粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下 に型膚を残し、下半部は覆削り。底部は覆削り。	藤岡系
449-10 203	土 師 器 環	覆土内 瓦	口 14.8	白色微粒子 ダイヤサイト 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下 に型膚を残し、下半部は覆削り。底部は覆削り。 器内面に放射状暗文を施す。	藤岡系
449-11 204	土 師 器 環	覆土内 破片	底 11.0	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部は覆削りを施す。	藤岡系
449-12 203	土 師 器 環	覆土内 瓦	口 14.1 高 4.4	白色微粒子 ダイヤサイト	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部横撫により直立気味。底 部は覆削り。	藤岡系
449-13 203	土 師 器 環	覆土内 瓦	口 14.4 高 4.6	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は覆削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
449-14 203	土 師 器 環	覆土内 瓦	口 14.4 高 4.8	白色微粒子 黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	型作り。口縁部内湾する。体部・底部は覆削 り整形。器内面は強で整形。口縁直下に型膚 を残す。	藤岡系
449-15 205	土 師 器 環	覆土内 破片	口 15.6 高 4.8	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部横撫により直立気味。底 部は覆削り。	藤岡系
450-1 203	須 恵 器 環 蓋	床直層 完形	口 15.0 横 3.9 高 3.0	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	箱部は返りを有する。輪軸成形 (右回転)。上 半部は回転覆削り。柄部は貼り付け。	秋関係
450-2 203	須 恵 器 環 蓋	床直層 一部欠損	口 15.4 横 3.7 高 3.4	白色微粒子 白色粒子	還元焰	灰	端部を返りを有する。輪軸成形 (右回転)。上 半部は回転覆削り。柄部は貼り付け。	搬入品
450-3 204	須 恵 器 環	覆土内 破片	口 (11.6)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	輪軸成形 (右回転)、底部は回転覆削り。	秋関係
450-4 204	須 恵 器 環	覆土内 破片	口 (12.0)	白色微粒子	還元焰	灰	輪軸成形 (右回転)。	秋関係
450-5 203	須 恵 器 環	床直層 ほぼ完形	口 11.9 底 7.8 高 4.0	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	輪軸成形 (右回転)、底部は回転覆削り。脚部 は覆削り。	秋関係

A区(199・201・202号住居跡)

450-6 203	須恵器 坏	覆土内 片	口(12.9) 高(3.9)	網粒砂	還元焰 灰白	輪軸成形(右回転)。底部は回転削り。不詳	
450-7 204	須恵器 坏	床直層 瓦	口11.7 底8.0 高4.1	白色粒子	還元焰 灰	輪軸成形(右回転)、底部は手持削り整形。秋間系	
450-8 204	須恵器 高台付 坏	床直層 破片	底(11.2)	白色微粒子	還元焰 灰	輪軸成形(右回転)、底部は回転削り。底面に箕掻き文字「成」。秋間系	
450-9 204	須恵器 坏	覆土内 破片	口(14.0)	白色微粒子 白色灰物粒子	還元焰 灰	輪軸成形(右回転)。口縁部外面に1本の横線を施す。吉井・藤岡系	
450-10 204	土師器 甕	覆土内 片	口(23.0)	白色微粒子 黒色灰物粒子 微粒雲母	酸化焰 黄橙	口縁部は外反する。紐作り。外面割部は削り、口縁部は横撫で、内面割部は横撫で。藤岡系	
450-11 204	石製 砥石	覆土内 破片	長5.2 幅3.0 厚2.8	砥石	—	両端を欠損する。遺存部は中央部と考えられる。使用痕から手持砥と考えられる。重60g	
450-12 204	礫 石	覆土内 完存	長6.7 幅3.5 厚2.0	粗粒安山岩	—	平面が使用に伴わない磨滅する。重80g	
450-13 204	礫 石	覆土内 完存	長7.1 幅5.7 厚2.3	砂岩	—	顕著な使用痕等は認められない。重150g	
450-14 204	礫 石	床直 完存	長9.4 幅5.6 厚2.9	粗粒安山岩	—	顕著な使用痕等は認められない。重235g	
451-1 252	須恵器 鉢	覆土内 ほぼ完形	口17.0 底10.3 高9.1	白色微粒子	還元焰 灰	紐作り後輪軸整形(右回転)。高台は断面三角形形状を呈する(付高台)。秋間系	
451-2 204	礫 石	覆土内 完存	長17.0 幅13.6 厚5.1	粗粒安山岩	—	地層中に含有する自然礫であるが、両面に顕著な工具痕が認められる。重1.070g	

A区第201号住居跡

押切番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
453-1 204	須恵器 耳皿	覆土内 一部欠損	長10.1 幅(6.3) 底5.1	白色微粒子 微粒雲母	還元焰	灰	輪軸成形(右回転)、底部は回転削り。見込み側の耳の折曲げ部に、左右共に置により筋を入れ、耳部の折曲げを曲げ易くしている。藤岡系	
453-2 204	須恵器 坏	カマド内 破片	口(7.1)	白色微粒子	還元焰	灰	輪軸成形(右回転)。吉井・藤岡系	
453-3 204	須恵器 羽釜	カマド内 破片	口(18.8)	微粒雲母 白色灰物粒子 白色微粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は内湾する。紐作り後輪軸整形(右回転)。脚は貼り付け。吉井原羽釜 甲斐種伊類	
453-4 204	施釉陶器 灰輪埴	カマド内 破片	—	密	良好	浅黄橙	輪軸成形(右回転)。下半部は回転削り。施釉は投掛。—	
453-5 204	施釉陶器 灰輪埴	カマド内 破片	口(13.8)	密	良好	浅黄橙	453図-4と同一個体か。—	

A区第202号住居跡

押切番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
455-1 204	土師器 坏	覆土内 完形	口12.6 底6.5 高3.8	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	純橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下に筋溝を残し、下半部は削り、底部は削り。内面横撫着。藤岡系	
455-2 204	須恵器 坏	床直層 瓦	口12.9 底6.5 高4.2	白色微粒子	還元焰	灰	輪軸成形(右回転)、底部は回転削り。455-5と同一工人の作り。秋間系	
455-3 204	須恵器 坏	覆土内 瓦	口12.9 底6.4 高3.6	白色微粒子 シルト粗粒子	還元焰	灰白	輪軸成形(右回転)、底部は回転削り。栗附系	

遺物一覧表

455-4 204	須恵器 坏	ビット内 ほぼ完形	口 底 高	13.0 6.2 4.0	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	乗附系か 秋間系
455-5 204	須恵器 坏	カマド内 完形	口 底 高	13.4 7.0 4.0	白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。 455-2と同一工人の作と考えられる。	秋間系
455-6 204	須恵器 坏	床直層 片	口 底 高	13.4 4.2 6.2	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系か 乗附系
455-7 205	須恵器 坏	カマド内 完形	口 底 高	13.1 6.0 4.3	白色微粒子 微粒雲母	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
455-8 205	須恵器 坏	覆土内 ほぼ完形	口 底 高	13.4 6.5 3.5	黒色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
455-9 205	須恵器 坏	覆土内 片	口 底 高	13.6 6.6 4.3	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
455-10 205	須恵器 坏	ビット内 完形	口 底 高	13.6 7.0 3.5	黒色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	乗附系
455-11 205	土師器 壺	覆土内 破片	底	(7.6)	白色微粒子 黒色粒子	酸化焰	銅橙	型作り成形。器外面は横位の寛削り、器内面は横位の寛削りを施す。	藤岡系
455-12 205	須恵器 塊	カマド内 ほぼ完形	口 底 高	13.8 7.0 4.6	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、付高台。器内外面に自然釉が付着する。	不詳
455-13 205	須恵器 塊	カマド内 片	口 底 高	13.1 6.7 5.4	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)、付高台。外器面に型厚状の器面が多く認められる。	藤岡系
455-14 205	須恵器 塊	カマド内 片	口 底 高	13.5 5.7 5.0	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)、付高台。	藤岡系
455-15 205	須恵器 塊	覆土内 片	口 底 高	(13.7) 6.3 (5.0)	白色粒子 透明鉱物粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)、高台欠損(付高台)。	吉井系
455-16 205	須恵器 塊	カマド内 一部欠損	口 底 高	13.7 5.7 5.8	白色微粒子 微粒雲母	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)、付高台。全体に歪みがある。	藤岡系
455-17 205	須恵器 塊	覆土内 完形	口 底 高	13.8 5.8 5.5	白色微粒子 微粒雲母 透明鉱物粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)、付高台。	藤岡系
455-18 205	須恵器 塊	カマド内 一部欠損	口 底 高	13.8 6.2 4.8	白色粒子 デイズライト	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)、付高台。	吉井・藤岡系
455-19 205	須恵器 塊	カマド内 片	口 底 高	14.4 7.2 4.9	白色微粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)、付高台。	不詳
455-20 205	須恵器 塊	覆土内 破片	口 底 高	(14.5) (7.0) (4.5)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、付高台。	吉井・藤岡系
456-1 205	須恵器 塊	覆土内 片	口 底 高	14.5 6.7 5.0	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	灰黄	轆轤成形(右回転)、付高台。	不詳
456-2 205	須恵器 塊	カマド内 片	口 底 高	(14.8) 7.0 5.2	白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、付高台。	秋間系
456-3 205	須恵器 塊	覆土内 片	口 底 高	(14.7) (6.5) 5.4	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、付高台。	秋間系
456-4 205	須恵器 塊	カマド内 片	口 底 高	14.8 7.6 5.2	黒色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、付高台。	吉井・藤岡系

A区(202号住居跡)

456-5 205	須志 器 埴	カマド 瓦	口 底 高	(15.7) 7.2 5.9	微粒雲母 白色顔料粒子	中性焰 灰黄	縦軸成形(右回転)。付高台。	藤岡系
456-6 205	須志 器 埴	カマド 瓦	口 底 高	(16.3) 8.0 6.7	微粒雲母 白色顔料粒子	還元焰 鈍黄橙	縦軸成形(右回転)。付高台。	藤岡系
456-7 205	須志 器 埴	覆土内 破片	底	(6.0)	白色顔料粒子	還元焰 灰	縦軸成形(右回転)。付高台。	東毛系 (笠懸系)
456-8 206	須志 器 埴	覆土内 破片	口	(13.0)	白色顔料粒子	還元焰 灰黄	縦軸成形(右回転)。	杖間系か
456-9 206	須志 器 黒色土器	覆土内 破片	口	(16.6)	白色顔料粒子 微粒砂	還元焰 明黄橙 黒灰	縦軸成形(右回転)。器内面に暗文を施し、張 灰させている。	不詳
456-10 205	須志 器 埴	覆土内 破片	底	9.0	白色顔料粒子 白色粒子	還元焰 灰	縦軸成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
456-11 206	土師 器 小型 壺	カマド内 破片	口	(6.2)	白色顔料粒子 微粒雲母	還元焰 橙黄	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面割部は 覆削り、口縁部は横削。内面割部は覆削で。	藤岡系
456-12 205	土師 器 ビツ内 付 壺	口 底 高	14.1 9.1 17.5	白色顔料粒子 黒色顔料粒子 微粒雲母	還元焰 黄橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面割部は 覆削り、口縁部は横削。内面割部は覆削で。 脚部は横削で施す。	藤岡系	
456-13 205	土師 器 壺	カマド内 瓦	口	18.6	微粒雲母	還元焰	口縁部は外反する。型作り成形。外面割部は 覆削り、口縁部は横削。内面割部は覆削で。	藤岡系
456-14 206	土師 器 壺	覆土内 破片	口	(19.0)	微粒雲母 白色顔料粒子	還元焰 鈍橙	「フ」の字状口縁。型作り成形。外面割部は 覆削り、口縁部は横削。内面割部は覆削で。	藤岡系
456-15 206	土師 器 壺	カマド内 破片	口	(19.1)	微粒雲母 白色顔料粒子	還元焰 鈍橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面割部は 覆削り、口縁部は横削。内面割部は覆削で。	藤岡系
457-1 205	土師 器 壺	覆土内 破片	口	(19.4)	微粒雲母 白色顔料粒子 黒色顔料粒子	還元焰 淡黄橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面割部は 覆削り、口縁部は横削。内面割部は覆削で。	藤岡系
457-2 206	鉄 器 鏝	覆土内 完存	幅 重	2.9 78.1	—	—	全体に錆化が及んでいる。調査後の欠損により 刃部を一部欠損する。	—
457-3 206	鉄 器 鏝	覆土内 完存	残長 身幅 重	15.1 3.3 71.7	—	—	全体に錆化が非常に著しい。刃部は形状から 2回の研ぎ遣えによる形状変化がある。	—
457-4 206	鉄 器 箱底 金具 か	覆土内 破片	重	24.3	—	—	全体に錆化が及んでいる。板状の素材を楕円 状に巻き、一方側を首にしたと考えられる。	—
457-5 206	鉄 器 刀子	覆土内 破片	重ね 重	0.2 3.4	—	—	全体に錆化が著しい。調査後の欠損で身側と 茎尻側を失っている。茎は断面長方形。	—
457-6 206	石製 品 紙 瓦	カマド内 瓦	長 幅 厚	15.0 12.1 9.6	粗粒安山岩	—	使用面は4面で、断面正方形状を呈する。使 用痕から置紙と考えられる。	重 1.430g
457-7 206	石製 品 紙 瓦	床面直上 完存	長 幅 厚	13.8 5.0 2.6	紙漉石	—	使用面の形状から置紙と考えられる。使用面 は4面で、特に裏面側は手持紙使用の可能性 がある。	重190g
457-8 206	男 瓦	カマド内 瓦	厚	2.4	白色顔料粒子	還元焰 黒褐	型作り。凸面縦位の撫で整形。側面面取り2 回。	笠懸系
457-9 瓦-633	男 瓦	カマド内 細片	厚	2.0	白色顔料粒子	還元焰 黄橙	一枚作りか。凹面縦位の撫で整形。凹面粘土板 割ぎ取り痕か。面描き文字瓦「不詳」(凸面)。	吉井系
457-10 瓦-634 206	女 瓦	カマド内 瓦	厚	1.6	白色顔料粒子 白色粒子 微粒雲母	還元焰 暗灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面木目 叩き置紙文字瓦「山浄七」(凸面)。端部面 取り1回。	兼附系か 吉井系
458-1 瓦-635 207	女 瓦	カマド周 辺瓦	厚	2.2	白色顔料粒子 白色粒子 黒色粒子	還元焰 灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側面面取り 2回置紙文字瓦「入木」(凸面)。	吉井系か 兼附系
458-2 207	女 瓦	カマド周 辺瓦	長 厚	41.9 1.8	白色顔料粒子 微粒雲母	還元焰 灰	一枚作りか。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面 叩き(密)後撫で整形。側面面取り2回・端 部面取り3回。	吉井系
458-3 207	女 瓦	カマド内 瓦	厚	1.9	白色粒子 黒色粒子	還元焰 暗灰	補修き遣り。凹面横骨直。凸面縦軸整形。側 部面取り2回・端部面取り2回。	兼附系

遺物一覧表

458-4 207	瓦 女瓦	カマド内 瓦	厚 1.6	白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・寄木痕。凸面陶砂痕・叩き(密)。側面面取り2回・端面面取り2回。	秋間系
--------------	---------	-----------	-------	-------	-----	----	--	-----

A区第204号住居跡

探出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目(φ)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
459-1 207	須恵器 埴	覆土内 破片	□ (13.2)	白色微粒子 微粒雲母 白色鉱物粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。行高台。	吉井・藤 岡系
459-2 207	須恵器 埴	覆土内 破片	□ (16.6)	白色鉱物粒子 微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	黒褐	轆轤成形(右回転)。	吉井・藤 岡系
459-3 207	瓦 女瓦	ビツ内 破片	厚 1.6	白色微粒子 白色粒子	還元焰 焼締	灰	桶巻作り。凹面硬骨痕。凸面叩き(密)整 形後轆轤無での再整形。側面面取り2回・端 面面取り3回。	吉井系

A区第207号住居跡

探出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目(φ)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
461-1 208	土師器 坏	覆土内 瓦	□ (10.9) 高 (3.9)	微粒雲母 赤褐色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直 下に強い稜を有する。底部は寛削り。	搬入品
461-2 207	土師器 坏	覆土内 破片	□ (12.9)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直 下に強い稜を有する。底部は寛削り。	藤岡系
461-3 207	須恵器 坏	覆土内 破片	□ (14.0)	白色微粒子	還元焰	暗灰	轆轤成形(右回転)か。	兼附系か 藤岡系
461-4 207	土師器 坏	覆土内 破片	□ (15.0)	白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反し、二枚作りする。 外面口縁直下に強い稜を有する。底部は寛削 り。	東毛系
461-5 207	土師器 坏	覆土内 破片	□ (14.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部簀状工具の横溝により直 立し強い外稜を有する。底部は寛削り。	藤岡系
461-6 207	土師器 坏	覆土内 破片	□ (12.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り。口縁部直立気味。体部・底部は寛削 り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
461-7 207	土師器 坏	覆土内 破片	□ (12.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は寛削り。体部に彫溝を残す。	藤岡系
461-8 207	土師器 坏	覆土内 破片	□ (13.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は寛削り。体部に彫溝を残す。	藤岡系
461-9 208	土師器 坏	覆土内 瓦	□ (13.7)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り。口縁部内凹気味。体部・底部は寛削 り整形。器内面は撫で整形。口縁直下に型溝 を残す。	藤岡系
462-1 207	土師器 壺	床直層 破片	□ (23.0)	微粒雲母 輝緑片岩 白色鉱物粒子	酸化焰	赤褐	紐作り乃至型作り成形。器外面は縦位の稜 で、器内面は横位の撫で整形。	藤岡系
462-2 207	須恵器 壺	覆土内 破片	厚 0.4	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	兼附系
462-3 207	須恵器 壺	覆土内 破片	厚 0.6	白色微粒子 白色鉱物粒子 細粒砂	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面短具 は不詳)。後轆轤再整形。	兼附系か 藤岡系
462-4 207	須恵器 高坏	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	白灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。壺を有する。	秋間系
462-5 207	須恵器 壺	覆土内 破片	厚 0.7	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
462-6 207	須恵器 壺	覆土内 破片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面短具 は蓋文)。	兼附系
462-7 208	須恵器 壺	覆土内 破片	—	白色微粒子 細粒砂	還元焰	白灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面短具 は背海抜文)。	秋間系
462-8 208	須恵器 甕	覆土内 破片	底 (6.5)	白色粒子	還元焰 焼締め	灰白 赤褐	紐作り後轆轤整形(右回転)。底部・腰部は寛 削り。内外面自然釉付着。	不詳
462-9 207	陶製品 不詳	カマド内 破片	厚 0.1以下 重 7.3	—	—	—	全体に硝化が著しい。薄い板状であるが焼成 時に折る様にして切断しており、この折の歪 みが全体に及んでいる。	—

462-10 207	石製 砥石	覆土内 完存	長 幅 厚	4.1 3.6 0.95	硬質泥岩	—	—	非常に硬質な材質である。断片の為詳細不詳。	重15g
462-11 208	礫 殻石	覆土内 完存	長 幅 厚	11.3 5.6 3.6	石英閃緑岩	—	—	小口側に敲打痕が認められる。	重320g
462-12 208	礫 擦石	覆土内 完存	長 幅 厚	13.2 7.7 4.1	粗粒安山岩	—	—	平組面が使用に伴ない磨滅する。	重650g
462-13 208	礫 擦石	床直層 完存	長 幅 厚	13.2 5.5 3.7	溶結凝灰岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重420g
462-14 208	礫 器	床直 完存	長 幅 厚	13.8 5.2 4.3	粗粒安山岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重510g
462-15 208	礫 殻石	床直 完存	長 幅 厚	14.2 8.7 3.6	安質安山岩	—	—	側面に敲打痕が認められる。	重685g
463-1 208	礫 殻石	床直 完存	長 幅 厚	13.7 6.5 4.4	凝灰岩質砂岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重550g
463-2 208	礫 殻石	床直層 完存	長 幅 厚	15.0 7.7 3.5	デイサイト	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重670g

A区第208号住居跡

押出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
465-1 209	土師器 杯	床直層 ほぼ完形	口 高	13.5 4.2	微粒霞母 赤褐色粒子	酸化焰 黄橙	型作り成形。口縁部は直立する。外面口縁直下に強い稜を有する。底部は篋削り。口縁直下に磨滅を残す。	藤岡系	
465-2 209	土師器 甕	覆土内 一部欠損	口 底 高	(22.0) 7.9 29.6	小円礫 透明白粒鉱物	酸化焰 黄褐	口縁部は外反する。紐作り。外面割部は篋削りで、口縁部は磨滅で、内面割部は篋削りで。	月夜野系	
465-3 208	礫 殻石	床直層 完存	長 幅 厚	13.1 7.6 5.3	粗粒安山岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重730g
465-4 208	礫 擦石	床直層 完存	長 幅 厚	14.7 5.6 5.8	ひん岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重710g
465-5 208	礫 殻石	床直層 完存	長 幅 厚	16.5 7.5 3.8	溶結凝灰岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重690g
465-6 208	礫 器	覆土内 完存	長 幅 厚	22.7 19.2 5.7	石英閃緑岩	—	—	表面は非常に荒れている。表皮は部分的にしこが残存しない。	重 5,700g
466-1	土師器 杯	ビッド内 破片	口 幅	(14.0)	白色微粒子 赤褐色粒子 デイサイト	酸化焰 黄橙	型作り成形。口縁は外傾する。下半部は篋削り。底部は篋削り。	藤岡系	

B区4号井戸跡

押出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
468-1 209	土師器 杯	埋土内 片	口 高	11.6 (3.6)	微粒霞母	酸化焰 橙	型作り。口縁部内両気味。口縁直下に磨滅を残す。底部は篋削り整形。器内面は磨滅整形。	藤岡系
468-2 209	土師器 杯	埋土内 破片	口 幅	(14.4)	微粒霞母 黒色鉱物粒子	酸化焰 浅黄橙	型作り。口縁部は外傾し体部は斜位の篋削り、底部は篋削り整形。口縁部内面放射状凹文を施す。	藤岡系
468-3 209	土師器 杯	埋土内 破片	口 幅	(17.2)	微粒霞母	酸化焰 浅黄橙	型作り。口縁部は外傾し体部は斜位の篋削り、底部は篋削り整形。口縁部内面放射状凹文を施す。	藤岡系

遺物一覧表

468-4 409	土師器 鉢	埋土内 破片	口 (18.0)	赤褐色粒子 白色微粒子 黒粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部は器作り整形。器内面は指で整形後放射状暗文を施す。	藤岡系
468-5 409	土師器 鉢	埋土内 破片	口 (23.0)	黒粒雲母 白色微粒子 黒色藍物粒子	酸化焰	橙	削作り成形。口縁部は短く外反する。外湾口縁直下に強い稜を有する。口縁直下に壓痕を残す。体部・底部は器削り。	藤岡系
468-6 409	須恵器 坏 蓋	埋土内 片	横 1.8 口 (13.4) 高 2.3	白色微粒子	還元焰	灰	端部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転器削り。横部は貼り付け。	秋間系
468-7 409	須恵器 坏 蓋	埋土内 片	横 (5.7) 口 (15.8) 高 2.5	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	端部は返りを有する。轆轤成形(右回転)。上半部は回転器削り。横部は貼り付け。	秋間系
468-8 209	須恵器 坏 蓋	埋土内 一部欠損	横 4.8 口 16.0 高 4.4	白色微粒子	還元焰	灰白	端部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転器削り。横部は貼り付け。	秋間系
468-9 409	須恵器 坏 蓋	埋土内 片	横 6.3 口 (17.0) 高 2.5	白色微粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰	端部は返りを有する。轆轤成形(右回転)。上半部は回転器削り。横部は貼り付け。	秋間系
468-10 409	須恵器 蓋	埋土内 片	口 (14.0)	白色粒子 黒色藍物粒子 黒粒雲母	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。天上部は回転器削り後轆轤再整形。	吉井・藤岡系
468-11 409	須恵器 蓋・蓋	埋土内 片	径 14.0	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。径は貼り付け。	秋間系
468-12 209	須恵器 蓋	埋土内 片		黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。横みは貼付。肩に強い稜を有する。	秋間系
468-13 209	須恵器 坏	埋土内 片	口 (10.7) 底 (6.1) 高 3.5	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転器削り。	秋間系
468-14 409	須恵器 坏	埋土内 片	口 11.2 底 6.6 高 3.7	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は手持ち器削り。	秋間系
468-15 210	須恵器 坏	埋土内 ほぼ完形	口 11.8 底 7.0 高 4.0	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
468-16 210	須恵器 坏	埋土内 一部欠損	口 11.9 底 6.9 高 3.7	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
468-17 210	須恵器 坏	埋土内 片	口 11.4 底 6.4 高 3.8	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転器削り。	秋間系
468-18 210	須恵器 坏	埋土内 片	口 (12.0) 底 (6.9) 高 3.8	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
468-19 210	須恵器 坏	埋土内 一部欠損	口 12.2 底 6.8 高 3.9	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
468-20 210	須恵器 坏	埋土内 片	口 (12.3) 底 (8.0) 高 3.5	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転器削り。	秋間系
468-21 210	須恵器 坏	埋土内 片	口 (12.4) 底 (8.0) 高 3.8	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転器削り。	秋間系
468-22 210	須恵器 坏	埋土内 片	口 12.7 底 7.6 高 3.2	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
468-23 210	須恵器 坏	埋土内 片	口 (12.7) 底 (8.0) 高 4.0	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転器削り。	秋間系
468-24 210	須恵器 坏	埋土内 片	口 (12.8) 底 (8.3) 高 3.5	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転器削り。	秋間系

B区(4号井戸跡)

468-25 210	須恵器 坏	埋土内 片	口 底 高	13.0 7.9 3.4	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
469-1 210	須恵器 坏	埋土内 片	口 底 高	13.1 7.2 3.8	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
469-2 210	須恵器 坏	埋土内 片	口 底 高	14.0 8.0 3.3	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転突起し。	秋間系
469-3 210	須恵器 坏	埋土内 片	口	10.4	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。器外面自然釉付着。	秋間系
469-4 209	須恵器 坏	埋土内 片	口	(14.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	黄灰	轆轤成形(右回転)。	藤岡系
469-5 210	須恵器 塊	埋土内 片	口 底 高	9.6 6.0 3.6	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
469-6	須恵器 高台付坏	埋土内 破片	口 底 高	(15.0) (10.0) 4.0	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	乗附系
469-7 210	須恵器 塊	埋土内 片	口 底 高	(13.1) 8.9 4.9	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
469-8 210	須恵器 塊	埋土内 片	口 底 高	(15.2) (9.3) 7.6	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
469-9 210	須恵器 塊	埋土内 片	口	14.8	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。高台欠損後坏に転用。	秋間系
469-10 210	須恵器 塊	埋土内 片	口	(12.8)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部・高台欠損。器外面自然釉付着。	秋間系
469-11 209	須恵器 塊	埋土内 破片	口	(16.0)	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部・高台欠損。	秋間系
469-12 209	須恵器 内黒土器 塊(内黒)	埋土内 破片	—	—	白色微粒子	酸化焰	内・黒外・黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。器内面に暗文を施し嵌炭させている。	笠懸系
469-13 210	須恵器 塊	埋土内 片	底	8.0	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
469-14 210	須恵器 塊	埋土内 破片	底	8.6	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
469-15 210	須恵器 塊	埋土内 片	底	(9.2)	黒色粒子 白色微粒子 透明鉱物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
469-16 209	須恵器 塊	埋土内 破片	底	(11.4)	白色粒子 黒色微粒子	還元焰 焼締	灰	器作り後轆轤成形(右回転)。付高台。外面自然釉付着。	不詳
469-17 210	須恵器 皿	埋土内 片	口 底 高	(14.4) 8.8 3.0	白色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系蛇
469-18 210	須恵器 皿	埋土内 破片	底	11.0	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	暗青灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
469-19 210	須恵器 塊	埋土内 破片	底	10.0	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
470-1 209	須恵器 盤	埋土内 破片	口	(9.7)	白色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
470-2 209	須恵器 盤	埋土内 破片	口	(22.0)	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。体部は回転旋削り。	秋間系
470-3 210	須恵器 盤	埋土内 破片	底	(15.0)	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
470-4 210	須恵器 盤	埋土内 片	底	(16.2)	赤褐色粒子 白色微粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	乗附系
470-5 209	須恵器 盤	埋土内 破片	底	(16.6)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰 焼締	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。器部が接地する。	搬入品か

遺物一覧表

470-6 210	須恵器 高坏	埴土内 破片	—	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	乗附系
470-7 209	須恵器 内黒土器 高坏	埴土内 瓦	—	白色微粒子 微粒雲母 白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。坏部器内面に暗文を施し、炭灰させている。	笠懸系
470-8 210	須恵器 高坏	埴土内 瓦	—	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	坏部は轆轤成形(右回転)。脚部は紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井・藤岡系
470-9 210	須恵器 高坏	埴土内 破片	底 9.4	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	脚部は紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
470-10 210	須恵器 高坏	埴土内 破片	底 9.7	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	脚部は紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
470-11 210	須恵器 高坏	埴土内 破片	—	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井・藤岡系
470-12 211	須恵器 高坏	埴土内 破片	底 (10.0)	白色微粒子	還元焰	灰	長脚二段透しの高坏脚部。紐作り後轆轤整形(右回転)。	乗附系
470-13 210	須恵器 鉢	埴土内 瓦	底 (10.7)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	乗附系か 秋間系
470-14 211	土師器 瓶	埴土内 破片	口 (28.0)	微粒雲母 白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部は短かく外反し横撫でを施す。器外面は縦位の寛撫で、器内面は横位の寛撫でを施す。	藤岡系
470-15 212	須恵器 壺	埴土内 破片	口 (13.8)	白色微粒子 白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	乗附系
470-16 211	須恵器 長頸壺	埴土内 瓦	—	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
470-17 211	須恵器 短頸壺	埴土内 破片	口 (9.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤整形(右回転)。	秋間系
470-18 211	須恵器 双耳壺	埴土内 破片	厚 0.7	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	黄灰	紐作り後轆轤整形(右回転)の肩部に粘土を貼付しヘラ撫で整形している。	秋間系
470-19 211	須恵器 壺	埴土内 破片	口 (39.0)	黒色粒子	還元焰 焼締	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	東海系
471-1 211	須恵器 壺	埴土内 破片	口 (39.0)	白色粒子 白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰 焼締	灰	口縁部は外傾し、口縁部及び口唇部に6本1単位の波状文を施す。紐作り後轆轤整形(右回転)。	東海系か
471-2 212	須恵器 壺	埴土内 破片	口 (20.8)	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は背海波文)。	吉井系
471-3 211	須恵器 壺	埴土内 破片	—	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	黄灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。器内外面に自然釉付着。	秋間系
471-4 211	須恵器 壺	埴土内 破片	厚 0.8	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は背海波文) 器内面に文字乃至墨痕が認められる。	秋間系
471-5 211	須恵器 壺	埴土内 破片	厚 0.7	白色粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文) 後轆轤再整形。内面は、磨滅。	秋間系
471-6 211	須恵器 壺	埴土内 破片	厚 1.2	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り後叩き整形。叩き等は不詳。	吉井系
471-7 211	須恵器 壺	埴土内 破片	厚 1.0	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は背海波文)。	吉井系
472-1 211	須恵器 壺	埴土内 破片	厚 1.2	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)。内面は磨滅。	秋間系
472-2 211	須恵器 壺	埴土内 破片	厚 1.5	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は背海波文)。	秋間系
472-3 211	須恵器 大壺	埴土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は背海波文)。下半と上半で胎土使い別ける。	秋間系
472-4 211	須恵器 壺	埴土内 破片	厚 1.1	白色粒子 黒色粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は背海波文)。	秋間系
472-5 211	須恵器 壺	埴土内 破片	底 (15.6)	白色微粒子	還元焰 焼締	暗灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。付高台。	藤岡系
473-1 212	須恵器 壺	埴土内 破片	底 (13.0)	白色粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。外面は粗い寛撫でを施す。	秋間系
473-2 212	雑器	埴土内 完存	長幅 1.1 厚 5.2 3.6	石英閃緑岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重320g

473-3 212	礎 礎	埋土内 完存	長 幅 厚	12.5 4.7 4.6	流紋岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重500g
473-4 212	礎 礎	埋土内 ほぼ完存	長 幅 厚	(13.1) 6.2 4.5	ホルンフェル ス	—	—	小口側に敲打痕が認められる。	重520g
473-5 212	礎 礎	埋土内 完存	長 幅 厚	12.6 5.1 4.5	ひん岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重400g
473-6 212	礎 礎	埋土内 完存	長 幅 厚	13.9 5.3 3.5	ひん岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重340g
473-7 212	礎 礎	埋土内 完存	長 幅 厚	13.4 6.5 3.8	石英閃緑岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重580g
473-8 212	礎 礎	埋土内 完存	長 幅 厚	14.3 6.6 3.9	粗粒安山岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重530g
473-9 212	礎 礎	埋土内 完存	長 幅 厚	14.9 7.0 4.3	石英閃緑岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重650g
473-10 212	礎 礎	埋土内 ほぼ完存	長 幅 厚	(15.5) 6.9 4.5	石英閃緑岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。小口側は敲打に伴ない欠損する。	重870g
474-1 212	石 砥	埋土内 破片	幅 厚	8.8 8.8	粗粒安山岩	—	—	確実な使用面は2面認められる。縄文期の石皿の転用と思われる。	重920g
474-2 212	礎 礎	埋土内 完存	長 幅 厚	13.8 6.4 3.2	石英閃緑岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重460g
474-3 212	石 砥	埋土内 破片	幅 厚	4.2	流紋石	—	—	残存部で縦位に8面の使用面が認められ多面体状になる。使用痕から手持砥と考えられる。	重16.0
474-4 212	石 造	埋土内 破片	幅 厚	14.8	二ツ岳軽石	—	—	堂塔の基礎の化粧に用いられていると考えられる。面は磨かれている。	—
474-5 212	施軸陶面 線 輪 花 残	埋土内 破片	厚	0.42	やや粗い。	良好	灰	輪軸成形(右回転)。口唇部を狭み輪花を施す。	—
475-1 212	石 造	埋土内 破片	厚	11.6	角閃石安山岩	—	—	先端(小口)側が残存する。国分寺の堂宇の基礎化粧に用いた東石か。面整形は粗い。	重 2,980g
476-1 213 瓦-662	瓦 瓦	埋土内 片	厚	2.4	白色磁物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一本作りのみ。単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+4。瓦当部は印籠付。	吉井系
476-2 213 瓦-675	瓦 瓦	埋土内 片	厚	3.6	白色磁粒子	還元焰	灰	右側行唐草文。外区に珠文帯を有する。額は曲線型。凹面右目擦り消し。	還元焰
476-3 213 瓦-676	瓦 瓦	埋土内 破片	厚	3.9	白色磁粒子	還元焰	黄緑	国分寺創建統一意匠右行唐草文。外区に珠文を配するが、珠文は遺存しない。	笠懸系
476-4 213 瓦-636	瓦 瓦	埋土内 破片	厚	1.8	白色磁粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面右目擦り消し。凸面側で整形後斜格子印き整形。刻印文字瓦「付」(凸面)。	笠懸系
476-5 213 瓦-637	瓦 瓦	埋土内 破片	厚	1.2	白色磁粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面斜格子印き。琵琶き文字瓦「付」(凹面)。	笠懸系
476-6 213 瓦-638	瓦 瓦	埋土内 破片	厚	1.1	白色磁粒子	還元焰	灰	手敲作り。凸面輪軸整形。凹面布合せ目痕琵琶き文字瓦「不詳」(凸面)。	秋岡系
476-7 213 瓦-639	瓦 瓦	埋土内 破片	厚	2.4	白色磁物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の横で・真無で整形。側面取3回。琵琶き文字瓦「不詳」(凸面)。	吉井・藤岡系
476-8 213 瓦-640	瓦 瓦	埋土内 片	厚	2.3	白色磁物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の横で整形。側面取3回。琵琶き文字瓦「子校男」(凸面)。	吉井系

遺物一覧表

477-1 213	瓦 玉縁付瓦	埋土内 瓦	狭 玉 厚 1.4 10.7 1.9	白色磁物粒子 白色粒子	酸化焙 黄橙	半載作り。凸面隅印き整形(密)後轆轤再整形。側部面取り3回・端部面取り2回。玉縁接合はA型。	笠懸系	
477-2 213	瓦 玉縁付瓦	埋土内 瓦	玉 厚 12.5 1.6	白色磁物粒子 白色粒子	還元焙 焼締	半載作り。凸面隅印き整形(密)後轆轤再整形。側部面取り2回・端部面取り2回。玉縁接合はA型。	吉井・藤 岡系	
477-3 213	瓦 男瓦	埋土内 磁片	厚 1.5	白色粒子	還元焙	半載作りか。凸面隅印き(密)後轆轤の撫で整形。側部面取り3回。	杖間系か	
477-4 213	瓦 男瓦	埋土内 磁片	厚 1.0	白色磁物粒子 白色粒子	還元焙	半載作りか。側部面取り2回。	吉井系	
477-5 213	瓦 男瓦	埋土内 瓦	厚 2.3	白色磁物粒子 白色粒子	還元焙	半載作り。凸面隅印き整形(密)後轆轤の撫で再整形。側部面取り3回・端部面取り2回。	吉井系	
477-6 213	瓦 男瓦	埋土内 磁片	厚 2.0	黒色粒子 白色磁物粒子	還元焙	半載作りか。凸面隅印き(密)。	栗附系	
477-7 213	瓦 男瓦	埋土内 瓦	厚 1.7	白色磁物粒子 白色粒子	酸化焙	明黄橙	半載作り。凸面轆轤整形。側部面取り3回・端部面取り2回。	吉井系
478-1 214	瓦 男瓦	埋土内 瓦	厚 1.6	白色磁粒子	酸化焙	黄橙	半載作り。凸面轆轤整形。側部面取り3回・端部面取り4回。	笠懸系
478-2 214	瓦 男瓦	埋土内 瓦	厚 2.6	白色磁粒子	還元焙	暗灰青	半載作り。凸面轆轤整形。端部面取り4回。	笠懸系
478-3 214	瓦 男瓦	埋土内 瓦	厚 1.8	白色磁粒子	中性焙	鈍黄橙	半載作り。凹面粘土板刺ぎ取り或凸面轆轤整形。側部面取り4回。	笠懸系
478-4 214	瓦 男瓦	埋土内 瓦	狭 厚 15.0 1.4	白色磁粒子	酸化焙 か二次 焼成	黄橙	半載作り。凸面轆轤整形。側部面取り3回・端部面取り3回。	笠懸系
478-5 214	瓦 男瓦	埋土内 磁片	厚 2.1	白色磁物粒子 白色粒子	還元焙 焼締	灰	半載作り。凸面隅印き(密)。側部面取り2回。	吉井系
479-1 214	瓦 男瓦	埋土内 磁片	厚 0.9	白色磁物粒子 白色粒子	還元焙 焼締	灰	477-4と同一個体。	吉井系
479-2 214	瓦 男瓦	埋土内 磁片	厚 2.4	白色磁物粒子 白色粒子	還元焙	黄橙	半載作り。凸面轆轤の撫で整形。側部面取り2回。	吉井系
479-3 214	瓦 男瓦	埋土内 磁片	厚 1.4	白色磁粒子	還元焙	暗灰	半載作り。凸面轆轤の撫で整形。側部面取り3回・端部面取り2回。	笠懸系
479-4 214	瓦 男瓦	埋土内 磁片	厚 2.0	白色磁粒子	還元焙	灰	半載作り。凸面轆轤の削り整形。側部面取り2回。	笠懸系
479-5 215	瓦 男瓦	埋土内 瓦	厚 1.7	白色磁物粒子 白色磁粒子 赤褐色粒子	酸化焙	黄橙	半載作り。面紋位の撫で整形。側部面取り3回。粘土板接合は「Z」。	笠懸系
479-6 214	瓦 男瓦	埋土内 瓦	厚 1.6	白色磁粒子	還元焙	暗灰	半載作り。凸面轆轤整形。側部面取り1回。	笠懸系
479-7 214	瓦 男瓦	埋土内 瓦	厚 1.6	白色磁粒子	酸化焙	黄橙	半載作り。凸面轆轤整形。側部面取り1回・端部面取り3回。	笠懸系
480-1 214	瓦 女瓦	埋土内 磁片	厚 1.6	白色磁粒子	還元焙	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後斜格子叩き整形。側部面取り4回。	笠懸系
480-2 215	瓦 女瓦	埋土内 磁片	厚 2.0	白色磁粒子	還元焙	灰	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り或。凸面撫で整形後正格子叩き整形。側部面取り2回。	笠懸系
480-3 215	瓦 女瓦	埋土内 磁片	厚 1.9	白色磁粒子	還元焙	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後斜格子叩き整形。凸面粘土板刺ぎ取り或。端部面取り2回。	笠懸系
480-4 215	瓦 女瓦	埋土内 磁片	厚 1.8	白色磁粒子	酸化焙	黄橙	一枚作り。凸面撫で整形後正格子叩き整形。側部面取り2回。	笠懸系
480-5 215	瓦 女瓦	埋土内 磁片	厚 1.8	白色磁粒子	酸化焙	黄橙	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後斜格子叩き整形。凹面粘土板刺ぎ取り或。側部面取り2回・端部面取り1回。	笠懸系
480-6 215	瓦 女瓦	埋土内 磁片	厚 1.5	白色磁粒子	還元焙	灰	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り或。凸面撫で整形後斜格子叩き整形。側部面取り2回・端部面取り2回。	笠懸系
480-7 215	瓦 女瓦	埋土内 瓦	厚 2.2	白色磁粒子	酸化焙	鈍黄橙	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後正格子叩き整形。側部面取り3回・端部面取り2回。	笠懸系

B区(4号井戸跡)

481-1 215	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚	2.0	白色微粒子	酸化培 か二次 焼成	微	一枚作り。凸面調印き。側面面取り3回。	笠懸系
481-2 215	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚	2.0	白色鉱物粒子	還元培	白灰	横巻き造りか。凹面横骨痕。凸面調印き。端部面取り2回。	秋間系
481-3 215	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚	1.4	白色粒子	還元培 焼締	灰	横巻き造り。凹面横骨痕。凸面調印き。側面面取り3回・端部面取り2回。	栗附系か 藤河系
481-4 216	瓦 女瓦	埋土内 瓦	狭 厚	27.5 2.1	白色鉱物粒子 白色粒子	還元培 焼締	灰	横巻き造り。凹面布目摺り消し。凸面調印き(密)。側面面取り4回・端部面取り3回。	吉井系
481-5 215	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚	2.0	白色微粒子 透明鉱物粒子	還元培	灰白	一枚作り。凹面布目摺り消し・粘土板割ぎ取り痕。凸面調印き(密)。側面面取り3回・端部面取り2回。	笠懸系
482-1 216 遺書-20	瓦 女瓦	埋土内 ほぼ完形	長 広	39.2 26.0	白色鉱物粒子 白色粒子	還元培	灰	一枚作り。凸面調印き(密)後縦位の撫で整形。側面面取り2回・端部面取り2回。凸面に遺書「人」が認められる。	吉井系
483-1 215	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚	2.0	白色鉱物粒子 白色粒子	還元培	灰	横巻き造り。凹面横骨痕。凸面調印き(密)。側面面取り3回・端部面取り4回。	吉井系
483-2 215	瓦 女瓦	埋土内 瓦	厚	1.8	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化培	微	横巻き造りか。凹面横骨痕。凸面調印き(密)後縦位の撫で整形。側面面取り1回。	吉井系
483-3 216	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚	2.3	白色鉱物粒子 白色粒子	還元培	灰白	横巻き造り。凹面横骨痕。粘土板割ぎ取り痕。凸面調印き(密)。側面面取り3回。	吉井系
483-4 216	瓦 女瓦	埋土内 瓦	厚	2.4	白色鉱物粒子 白色粒子	還元培 焼二次 焼成	灰	横巻き造り。凹面横骨痕。粘土板割ぎ取り痕。凸面調印き(密)整形後横軸撫での再整形。側面面取り3回。	吉井系か 笠懸系
483-5 216	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚	2.1	白色微粒子	還元培	灰	横巻き造りか。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面調印き。	北毛系
483-6 216	瓦 女瓦	埋土内 瓦	厚	1.8	白色鉱物粒子 白色粒子	還元培	灰黄	横巻き造り。凹面横骨痕。粘土板割ぎ取り痕。凸面調印き(密)側面面取り3回・端部面取り4回。	吉井系
484-1 216	瓦 女瓦	埋土内 瓦	厚	2.0	白色鉱物粒子	還元培	灰黄	横巻き造り。凹面横骨痕。粘土板割ぎ取り痕。凸面調印き(密)整形後横軸撫での再整形。側面面取り3回・端部面取り3回。	不詳
484-2 217	瓦 女瓦	埋土内 瓦	厚	2.3	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化培	微	横巻き造り。凹面横骨痕。凸面調印き(密)。側面面取り4回。	吉井系
484-3 216	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚	2.9	白色粒子	還元培	灰	横巻き造り。凹面横骨痕。粘土板割ぎ取り痕。側面面取り4回・端部面取り3回。	栗附系か 藤河系
484-4 217	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚	2.0	白色鉱物粒子 白色粒子	還元培	灰	横巻き造り。凹面横骨痕。粘土板割ぎ取り痕。側面面取り3回・端部面取り2回。	吉井・藤 河系
484-5 217	瓦 女瓦	埋土内 瓦	厚	2.0	白色鉱物粒子 白色粒子 ダイヤサイト	酸化培	黄微	横巻き造り。凹面横骨痕。凸面横軸整形。側面面取り2回。	吉井系
485-1 217	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚	2.1	白色鉱物粒子 白色粒子	還元培	黒褐 灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側面面取り3回。	吉井・藤 河系
485-2 217	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚	1.6	白色鉱物粒子 白色粒子	還元培	灰黄	横巻き造りか。凹面横骨痕。凸面縦位の撫で整形。側面面取り4回。	吉井系
485-3 217	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚	1.6	白色微粒子	還元培	灰	手織作り。凸面横軸整形。側面面取り3回・端部面取り3回。	笠懸系
485-4 217	瓦 女瓦	埋土内 瓦	厚	1.9	白色微粒子	還元培	灰白	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕・寄木痕。凸面縦位の撫で整形。側面面取り2回。	秋間系
486-1 217	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚	2.5	白色鉱物粒子 白色粒子	中性培	黄灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側面面取り2回。	吉井系
486-2 217	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚	1.6	白色微粒子	酸化培	鈍褐	一枚作り。凹面布目摺り消し。凸面粘土板割ぎ取り痕。側面面取り2回・端部面取り1回。	笠懸系
486-3 217	瓦 女瓦	埋土内 瓦	厚	2.3	黒色粒子 白色粒子	還元培	灰	一枚作り。凹面寄木痕・粘土板割ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側面面取り3回。	秋間系
486-4 217	瓦 女瓦	埋土内 瓦	厚	3.5	白色鉱物粒子 白色粒子 ダイヤサイト	還元培	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側面面取り3回。	吉井系
486-5 217	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚	1.2	白色鉱物粒子 白色粒子	還元培	灰	一見余体等の継着物と思われるが小鍛治での所産とも考えられる。瓦自体の成作技法は不分明。	吉井・藤 河系

遺物一覧表

B区土坑

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
487-1 218	須恵器 蓋	B区39土 坑 破片	口 (17.2)	白色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。端部は折り返し。	秋間系
487-2 218	須恵器 埴 破片	B区39土 坑 破片	口 (13.0)	白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。	吉井・藤 岡系
487-3 218	須恵器 埴 破片	B区39土 坑 破片	口 (11.4)	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。	秋間系か
487-4 218	須恵器 坏 破片	B区39土 坑 破片	口 (14.8)	白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)	秋間系
487-5	土師器 坏	B区80土 坑 覆土内 破片	口 (13.0)	黒色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部直下に型膚を残す。底部 は磨削りを施す。	藤岡系
488-1 218	土師器 坏	B区96土 坑 破片	口 13.0	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	赤褐	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は磨削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
488-2 218	施釉陶器 灰 輪 破片	B区96土 坑 破片	口 (15.0)	密	良好	灰	轆轤成形 (右回転)。施釉は没掛か。	—
488-3 218	土師器 罍 破片	B区96土 坑 破片	口 (17.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	赤褐	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面側部は 磨削り、口縁部は横撫で。	藤岡系
488-4 218	雜器	B区96土 坑 完存	長 9.5 幅 8.1 厚 3.7	粗粒安山岩	—	—	特別な使用度は認められない。	重460g
488-5 218	須恵器 蓋	B区101 土坑 破片	口 (14.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。端部は返りを有する。	秋間系
488-6 218	須恵器 埴 破片	B区101 土坑 破片	口 (11.8)	白色微粒子 微粒雲母	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
488-7 218	須恵器 罍 土坑 破片	B区101 土坑 破片	厚 0.8	白色微粒子	酸化焰	浅黄	紐作り。叩き整形 (外面格子印き・内面宛具 は背海抜文)。	秋間系
488-8 218	須恵器 埴 破片	B区109 土坑 破片	口 (14.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。	秋間系
488-9 218	土師器 坏 土坑 破片	B区147 土坑 破片	口 (11.4)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は磨削 り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
489-1 218	土師器 坏 土坑 破片	B区148 土坑 破片	口 (18.0)	微粒雲母 黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁 下に強い稜を有する。底部は磨削り。	藤岡系
489-2 218	土師器 坏 土坑 破片	B区148 土坑 破片	口 (18.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙褐	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁 下に稜を有する。底部は磨削り。	藤岡系
489-3 218	須恵器 羽 蓋 土坑 破片	B区150 土坑 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	黄緑	紐作り後轆轤成形 (右回転)。	吉井型羽 蓋
489-4 218	須恵器 黒色土器 埴 破片	B区150 土坑 破片	底 (6.4)	白色粒子	還元焰 か	黒灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
489-5 218	須恵器 罍 土坑 破片	覆土内 破片	厚 1.0	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面叩き不分明・内面宛 具は素文) 後外面轆轤成形 (右回転)。	秋間系
489-6 218	須恵器 坏 蓋 破片	覆土内 破片	厚 0.5	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。天上部は回転磨削り。東 面に自然釉付着。	東附系

B区土坑

490-1 218	須志器 足高高台 付坑	B区120 土坑 口縁部 一部欠損	口 底 高	24.3 13.8 11.0	白色微粒子 白色紅物粒子 微粒雲母	酸化焰	黄灰	縦轆成形(右回転)。付高台。腰部寛削。	藤岡系
490-2	須志器 壺	B区120 土坑 破片	厚	1.5	白色紅物粒子	還元焰	外灰 内橙	全体にハゼが多く荒れている。	吉井・藤 岡系
491-1 218	須志器 壺	A区4土 坑 破片	口	(16.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍黄濁	縦轆成形(右回転)。	藤岡系か
491-2 218	瓦 女瓦	A区8土 坑 破片	厚	2.4	白色紅物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凸面木目叩き。側面面取り4回。	吉井系
492-1 218	土師器 壺	A区142 土坑 破片	底	6.0	白色粒子	酸化焰	鈍橙	紐作成形乃至型作り成形。器外面は風化が著しく整形は不明。	不詳
492-2 218	施釉陶器 民輪壺	A区144 土坑 破片	底	(8.0)	やや密	良好	黄灰	紐作り後轆轤成形(左回転か)。外面回転控削り(左回転)。	—
492-3 218	須志器 壺	A区256 土坑 破片	口	(12.0)	微粒雲母 白色紅物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	縦轆成形(右回転)。	藤岡系
493-1 219	瓦 女瓦	A区287 土坑 破片	厚	1.6	白色紅物粒子	酸化焰	黄灰	一枚作りか。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面編叩き(密)後撫で整形。側面面取り1回。	笠懸系か
493-2 218	土師器 坏	A区332 土坑 破片	口	(14.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内両気味。体部・底部は寛削り整形。器内面は撫で整形。口縁直下に彫溝を残す。	藤岡系
493-3 218	土師器 坏	A区332 土坑 破片	口	(13.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に弱い稜を有する。底部は寛削り。	藤岡系
493-4 218	須志器 高台付坏	A区332 土坑 破片	口	(13.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	橙	縦轆成形(右回転)。付高台。	秋間系
493-5 218	土師器 坏	覆土内 破片	底	(4.4)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。体部は斜位の稜削り。底部は寛削整形。器内面に二重暗文を施す。	藤岡系
493-6 218	土師器 坏	覆土内 破片	口	(12.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部冠状工具の横溝により直立気味。底部は寛削り。	藤岡系
493-7 219	瓦 女瓦	A区2土 坑 瓦	厚	2.3	白色紅物粒子 黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	桶巻造り。凹面横骨痕。粘土板刺ぎ取り痕。凸面編叩き(密)整形後轆轤造りの再整形。側面面取り2回・端部面取り2回。	吉井系
493-8	瓦 女瓦	A区17土 坑 破片	厚	2.0	白色紅物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	一枚作りか。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
493-9 219	瓦 女瓦	A区12土 坑 破片	厚	2.0	白色紅物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凸面編叩き(密)撫で整形。凹面布目磨り消し。側面面取り2回・端部面取り2回。	栗附系
493-10 219	瓦 男瓦	A区20土 坑 破片	厚	2.0	白色微粒子	酸化焰	橙	手轆作り。凸面縦轆成形。側面面取り3回。	笠懸系
493-11 219	瓦 女瓦	A区42土 坑 破片	厚	1.9	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。磨砂状。凸面編叩き(密)T字状。側面面取り1回・端部面取り1回。	秋間系
493-12 219	瓦 女瓦	A区183 土坑 破片	厚	2.3	白色紅物粒子 白色粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面寛削。凸面縦轆成形。側面面取り1回。	吉井系
494-1 218	土師器 壺	A区178 土坑 破片	口	(25.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部には型作りの痕跡を留める。	藤岡系

遺物一覧表

B 区 外

発掘番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	径目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
495-1 223	縄文式土器 浅鉢	V層 破片	—	白色粒子	酸化焰	鈍赤	直立気味の口縁部。全体に赤色顔料を塗布する。	—
495-2 223	縄文式土器 深鉢	II-E-1 破片	—	白色粒子 細粒砂	酸化焰	鈍橙	口縁部は外反する。地文に節目条痕を施し、ボタン状・棒状貼付文を施す。	—
495-3 223	縄文式土器 深鉢	土坑 破片	—	白色粒子	酸化焰	鈍橙	4単位の波状口縁と考えられる。隆帯文を施文し地文に縄文R-1を施す。	—
495-4 223	縄文式土器 深鉢	V層 破片	—	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰青緑	把手部、地文にR1の縄文を施文する。	—
495-5 223	縄文式土器 深鉢	V層 破片	—	白色粒子 細粒砂	酸化焰	鈍黄緑	把手部、地文にR・1の縄文を施文する。	—
495-6 223	縄文式土器 深鉢	B区内 破片	—	白色鉱物粒子 細粒砂	酸化焰	鈍褐	4単位の波状口縁を呈すると考えられる。地文にR1の縄文を施文し、隆帯文を施す。	—
495-7 223	縄文式土器 台付鉢	IV層 破片	底 5.2	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	淡黄緑	底部は丸く、脚を有する。器外面は磨面を施す。	—
495-8 223	縄文式土器 深鉢	V層 破片	—	白色粒子 細粒砂	酸化焰	褐	キャリパー状を呈す口縁部に隆帯文を施す。隆帯文間に幾何文を施文する。	—
495-9 223	縄文式土器 不詳	43-37皿 層破片	—	細粒砂 白色粒子	酸化焰	橙	紐作り成形。口縁部は受け口状を呈する。	—
495-10 223	縄文式土器 不詳	覆土内 破片	厚 1.1	赤褐色粒子 透明鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	明黄緑	地文にR L原体の縄文を施文し二条の懸垂文を施す。	—
495-11 223	縄文式土器 深鉢	79土坑 破片	底 (6.0)	白色微粒子	酸化焰	鈍黄緑	地文にL R縄文を施文する。	—
495-12 223	土器 壺	II層 破片	□ (10.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横無で、底部は磨面を施す。器内面は磨面を施す。	藤岡系
495-13 223	土器 壺	B区内 破片	□ (12.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横無で、底部は磨面を施す。器内面は磨面を施す。	藤岡系
495-14 223	土器 壺	II層 破片	□ (12.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横無で、底部は磨面を施す。器内面は磨面を施す。	藤岡系
495-15 223	土器 壺	覆土内 破片	□ (12.8)	微粒雲母 白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横無で、底部は磨面を施す。器内面は磨面を施す。	藤岡系
495-16 223	土器 壺	覆土内 破片	□ (13.9)	黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横無で、底部は磨面を施す。器内面は磨面を施す。	藤岡系
495-17 223	土器 壺	B区内 破片	□ (16.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下に磨面を施す。底部は磨面を施す。	藤岡系
495-18 223	土器 壺	表土 破片	□ (14.0)	微粒雲母 細粒砂	酸化焰	橙	型作り。口縁部直立気味。器内面は磨面を施す。器内面は磨面を施す。	藤岡系
495-19 223	土器 壺	II層 破片	□ (10.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に強い稜を有する。底部は磨面を施す。器内面は磨面を施す。	藤岡系
495-20 223	土器 壺	II層 破片	□ (10.2)	黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍黄緑	型作り。口縁部直立気味。器内面は磨面を施す。器内面は磨面を施す。	藤岡系
495-21 223	土器 壺	II層 破片	□ (14.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾する。器内面は磨面を施す。器内面は磨面を施す。	藤岡系
495-22 223	土器 壺	表土 破片	□ (13.8)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に稜を有する。底部は磨面を施す。	藤岡系
495-23 223	土器 壺	B区内 破片	□ (10.0)	白色微粒子 黒色鉱物粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	黄褐	型作り成形。口縁部は直立する。外面口縁直下に稜を有する。底部は磨面を施す。	不詳
495-24 219	土器 壺	43-B-37 II層 片	□ (11.0) 底 (6.0) 高 (3.0)	微粒雲母 黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	淡黄緑	型作り成形。口縁部は横無を施す。器内面は磨面を施す。器内面は磨面を施す。	藤岡系
495-25 223	土器 壺	表土 破片	□ (3.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	淡黄緑	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に稜を有する。底部は磨面を施す。	藤岡系
495-26 223	土器 壺	40-B-42 II層 破片	□ (16.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に稜を有する。底部は磨面を施す。	藤岡系

495-27 223	土 師 器 環	皿層 破片	口 (16.2)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰 橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に強い稜を有する。底部は匙削り。	藤岡系
495-28 223	土 師 器 環	皿層 破片	口 (12.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰 鈍黄橙	型作り。口縁部は外傾し体部は斜位の匙削り、底部は匙削整形。口縁部器内面放射状暗文を施す。	藤岡系
495-29 219	土 師 器 環	皿層 破片	口 (12.0) 高 4.5	赤褐色粒子 微粒雲母	酸化焰 黄橙	型作り。口縁部は外傾し体部は横位の匙削り、底部は匙削整形。口縁部器内面放射状暗文を施す。	藤岡系
495-30 223	土 師 器 環	中世 ビット 破片	口 (17.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰 黄橙	型作り。口縁部は外傾し体部は斜位の匙削り、底部は匙削整形。口縁部器内面放射状暗文を施す。	藤岡系
495-31 223	土 師 器 環	38-B-36 皿層 破片	口 (13.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰 橙	型作り。口縁部は外傾し体部は斜位の匙削り、底部は匙削整形。口縁部器内面風化が著しいが放射状暗文を施したと考えられる。	藤岡系
495-32 223	土 師 器 環	表土 破片	口 (13.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰 黄橙	型作り。口縁部は外傾し体部は斜位の匙削り、底部は匙削整形。口縁部器内面放射状暗文を施す。	藤岡系
495-33 223	土 師 器 環	皿層 破片	口 (16.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰 橙	型作り。口縁部は外傾し体部は斜位の匙削り、底部は匙削整形。口縁部器内面放射状暗文を施す。	藤岡系
495-34 223	土 師 器 環	表土 破片	口 (16.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰 橙	型作り。口縁部は外傾し体部は斜位の匙削り、底部は匙削整形。口縁部器内面放射状暗文を施す。	藤岡系
495-35 223	土 師 器 環	表土 破片	口 (18.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰 橙	型作り。口縁部は外傾し体部は斜位の匙削り、底部は匙削整形。口縁部器内面放射状暗文を施す。	藤岡系
495-36 223	土 師 器 内黒土器 環	表土 破片	口 (12.0)	白色微粒子	酸化焰 内・黒 外・鈍 黄橙	型作り成形。口縁部は直立する。外面口縁直下に強い稜を有する。底部は匙削り。口縁部・口縁直下に型痕を残す。	月夜野系
495-37 223	土 師 器 環	皿層 破片	—	白色微粒子 微粒雲母 赤褐色粒子	酸化焰 黄橙	型作り。口縁部は外傾し体部は斜位の匙削り、底部は匙削整形。口縁部器内面放射状暗文を施す。器内面に布目の任意が認められる。	藤岡系
496-1 224	須 恵 器 環 蓋	41-B-42 覆土内 破片	横 1.6 口 (11.8) 高 3.2	黒色粒子	還元焰 灰	返りを有する。轆轤成形(右回転)。上半部は回転削り。横部は履室隆を呈し貼り付け。	秋間系
496-2 224	須 恵 器 環 蓋	41-B-42 皿層 破片	横 (4.8) 口 (16.0) 高 (2.8)	黒色粒子	還元焰 灰	返りを有する。轆轤成形(右回転)。上半部は回転削り。横部は貼り付け。	東海系
496-3 224	須 恵 器 環 蓋	皿層 破片	横 5.8 口 (13.0) 高 2.8	白色微粒子 微粒雲母	還元焰 灰白	轆轤成形(右回転)。横部は貼り付け後轆轤整形。	藤岡系
496-4 219	須 恵 器 環 蓋	皿層 破片	横 (4.0) 口 (14.0) 高 (3.2)	白色粒子 黒色粒子	還元焰 灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転削り。横部は貼り付け。	秋間系
496-5 224	須 恵 器 環 蓋	皿層 破片	口 (11.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰 灰	返りを有する。轆轤成形(右回転)。上半部は回転削り。	秋間系
496-6 224	須 恵 器 環 蓋	皿層 破片	横 (4.8) 口 (17.6) 高 (4.5)	黒色粒子 白色粒子	還元焰 灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転削り。横部は貼り付け。	秋間系
496-7 224	須 恵 器 環 蓋	B区表土 破片	口 (19.0)	白色粒子 黒色粒子	還元焰 暗灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転削り。横部は貼り付け。器内面自然釉付着。	秋間系
496-8 224	須 恵 器 環 蓋	B区内 破片	口 (14.0)	黒色粒子	還元焰 灰	轆轤成形(右回転)。横部は貼り付け。	秋間系
496-9 224	須 恵 器 環 蓋	表土 破片	口 (16.0) 高 (2.7)	白色微粒子	還元焰 灰白	轆轤成形(右回転)。天上部は回転削り。	秋間系
496-10 224	須 恵 器 環 蓋	覆土内 破片	横 (13.8) 口 (12.8)	黒色粒子	還元焰 灰	轆轤成形(右回転)。横は貼り付け。器外面に自然釉付着。	秋間系
496-11 224	須 恵 器 環 蓋	皿層 破片	横 (12.0) 口 (11.4)	白色微粒子	還元焰 灰白	轆轤成形(右回転)。横は貼り付け。	秋間系

遺物一覧表

496-12 219	須恵器 栗登蓋	表土 破片	径 (3.0) 口 (13.0) 高 (3.6)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	輪軸成形 (右回転)。	秋間系
496-13 224	須恵器 栗登蓋	山層 破片	径 (13.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	輪軸成形 (右回転)。踵は貼り付け。	秋間系
496-14 224	須恵器 栗登蓋	38-B-35 破片	径 (13.6)	白色微粒子	還元焰 焼締	灰	輪軸成形 (右回転)。踵は貼り付け。	栗附系
496-15 224	須恵器 栗登蓋	山層 破片	口 (16.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	輪軸成形 (右回転)。踵は貼り付け。	秋間系
496-16 224	須恵器 栗登蓋	38-B-1 35-山層 破片	径 (14.0)	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	輪軸成形 (右回転)。踵は貼り付け。	秋間系
496-17 224	須恵器 栗登蓋	無注記 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰白	輪軸成形 (右回転)。踵は貼り付け。	秋間系
496-18 224	須恵器 栗登蓋	表土 破片	径 (17.2)	白色微粒子	還元焰	灰	輪軸成形 (右回転)。踵は貼り付け。	秋間系
496-19 219	須恵器 環	B区内 破片	口 (12.0) 底 (7.0) 高 3.7	白色微粒子	還元焰	灰白	輪軸成形 (右回転)、底部は回転蹴起し。	秋間系
496-20 224	須恵器 環	II層 覆土内 破片	口 (15.0) 底 (7.0) 高 (3.8)	白色微粒子	還元焰	灰白	輪軸成形 (右回転)。底部は手持ち蹴削り。	秋間系
496-21 219	須恵器 環	山層 破片	口 (13.0) 高 3.4	白色粒子 微粒炭母 黒色粒子	還元焰	灰白	輪軸成形 (右回転)。底部は手持ち蹴削り。	秋間系か
496-22 224	須恵器 環	II層 破片	口 (13.0) 底 (9.6) 高 (3.7)	黒色粒子 微粒炭母 白色微粒子	還元焰	灰	輪軸成形 (右回転)、底部は回転蹴起し。	秋間系
496-23 219	須恵器 環	山層 瓦	口 (13.0) 底 (7.0) 高 (3.7)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	輪軸成形 (右回転)、底部は回転蹴起し。	栗附系
496-24 224	須恵器 環	II層覆土 内 破片	口 (14.0) 底 (8.4) 高 (2.9)	白色微粒子	還元焰	灰	輪軸成形 (右回転)、底部は回転蹴起し。	秋間系
496-25 219	須恵器 環	覆土内 瓦	口 (14.4) 底 10.6 高 3.2	白色微粒子	還元焰 焼締	灰	輪軸成形 (右回転)。底部は回転蹴起し。	栗附系か 藤岡系
496-26 224	須恵器 環	V層 瓦	口 (8.0) 底 (6.0) 高 (3.1)	黒色粒子	還元焰 焼締	灰	輪軸成形 (右回転)、底部は回転蹴削り。	東海系
496-27 219	須恵器 環	I溝 破片	口 (12.6) 底 (9.2) 高 (3.1)	白色微粒子	還元焰	灰白	輪軸成形 (右回転)。回転蹴削り。	秋間系
496-28 224	須恵器 環	II層 破片	口 (12.6) 底 (8.0) 高 (4.0)	白色微粒子	還元焰	灰白	輪軸成形 (右回転)、底部は回転蹴削り。	秋間系
496-29 224	須恵器 環	山層 破片	口 (10.4) 底 (7.6) 高 (2.7)	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	輪軸成形 (右回転)、底部は回転蹴削り。	秋間系
496-30 219	須恵器 環	B区内 破片	口 (12.0) 底 (6.0) 高 (3.6)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	輪軸成形 (右回転)、底部は回転蹴削り。	秋間系
497-1 219	須恵器 環	II層覆土 内 瓦	口 (13.0) 底 (7.0) 高 (3.2)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	輪軸成形 (右回転)、底部は回転蹴削り。	秋間系
497-2 219	須恵器 環	II層 破片	口 (13.8) 底 (7.0) 高 (3.3)	白色微粒子 透明鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	輪軸成形 (右回転)、底部は回転蹴削り。	笠懸系
497-3 219	須恵器 環	35-B-25 山層 破片	口 (14.0) 底 (9.8) 高 (3.5)	白色微粒子 微粒炭母 黒色鉱物粒子	還元焰	灰白	輪軸成形 (右回転)、底部は回転蹴削り。	吉井・藤 岡系か

B 区 外

497-4 219	須恵器 坏	表土 片	口 (14.0) 底 8.4 高 3.1	白色微粒子	還元焰	黄灰	縦軸成形(右回転)、底部は回転部削り。器内 面「+」の捺印。	藤岡系
497-5 219	須恵器 皿	表土 破片	口 (8.5) 底 (5.0) 高 (2.0)	微粒雲母 ダイヤモンド 細粒砂	酸化焰	黄橙	縦軸成形(右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
497-6 219	須恵器 皿	皿層 破片	口 (10.3) 底 (5.3) 高 (1.8)	微粒雲母 ダイヤモンド 細粒砂	酸化焰	黄橙	縦軸成形(右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
497-7 224	須恵器 黒色土器 坏	皿層 片	口 (9.6) 底 (5.0) 高 (3.9)	白色微粒子 ダイヤモンド 微粒雲母	酸化焰	新・真濁 外・黒濁	縦軸成形(右回転)、底部は回転糸切り。	吉井・藤 岡系
497-8 219	須恵器 坏	皿層 破片	底 (11.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	縦軸成形(右回転)、底部は回転部削り。	秋間系
497-9	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (10.9)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	縦軸成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
497-10 219	須恵器 坏	皿層 破片	口 (6.4) 底 (6.4) 高 (3.2)	微粒雲母 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	縦軸成形(右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
497-11 219	須恵器 坏	B区覆乱 破片	口 (11.6) 底 (6.0) 高 (3.8)	白色鉱物粒子 細粒砂	酸化焰	橙	縦軸成形(右回転)、底部は回転糸切り。	吉井系
497-12 219	須恵器 坏	38-B-26 皿層 片	口 (11.8) 底 6.8 高 3.8	白色微粒子	還元焰	灰白	縦軸成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
497-13 219	須恵器 坏	II2-T P 溝 片	口 12.0 底 7.2 高 3.8	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	縦軸成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
497-14 219	須恵器 坏	B区表土 片	口 (12.0) 底 (6.2) 高 3.5	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	縦軸成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
497-15 219	須恵器 坏	B区内 破片	口 (12.2) 底 (6.0) 高 (2.8)	白色微粒子	還元焰	灰	縦軸成形(右回転)、底部は回転糸切り。	笠懸系
497-16 219	須恵器 坏	表土 破片	口 (12.2) 底 (6.0) 高 4.1	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	縦軸成形(右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
497-17 219	須恵器 坏	II層覆土 内 破片	口 (12.0) 底 (7.0) 高 3.9	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	灰白	縦軸成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
497-18 219	須恵器 坏	皿層 破片	口 (12.6) 底 (6.0) 高 (3.3)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	縦軸成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
497-19 220	須恵器 坏	II層 覆土内 片	口 (12.6) 底 6.2 高 3.3	白色粒子 微粒雲母 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	縦軸成形(右回転)、底部は回転糸切り。	吉井系
497-20 220	須恵器 坏	表土 片	口 12.8 底 7.4 高 4.0	白色微粒子	還元焰	浅黄橙	縦軸成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
497-21 224	須恵器 坏	40-B-40 皿層破片	口 (13.0) 底 (7.4) 高 (3.9)	白色微粒子	還元焰	灰白	縦軸成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
497-22 220	須恵器 坏	皿層 破片	口 (13.0) 底 (7.0) 高 (4.2)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	縦軸成形(右回転)、底部は回転糸切り。	東海系
497-23 220	須恵器 坏	皿層 破片	口 (13.0) 底 (7.0) 高 (3.4)	黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	灰黄	縦軸成形(右回転)、底部は回転糸切り。	吉井・藤 岡系か
497-24 220	須恵器 坏	表土 破片	口 (13.0) 底 (6.0) 高 (3.5)	白色微粒子 微粒雲母	還元焰	灰白	縦軸成形(右回転)、底部は回転糸切り。	吉井・藤 岡系

遺物一覧表

497-25 220	須恵器 坏	1溝 破片	口 (13.4) 底 (6.8) 高 (3.8)	微粒霞母 白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙	縦輪成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
497-26 220	須恵器 坏	表土 片	口 13.2 底 6.2 高 4.2	白色微粒子	還元焰	灰	縦輪成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系 (蛇食み)
497-27 224	須恵器 坏	35-5-26 トレンチ 破片	口 (13.4) 底 (9.0) 高 (4.1)	白色微粒子	還元焰 焼締	灰	縦輪成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	東海系
497-28 220	須恵器 坏	表土 破片	口 (13.8) 底 (6.2) 高 (5.0)	白色微粒子 微粒霞母 白色鉱物粒子	酸化焰	褐灰	縦輪成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	吉井系
497-29 220	須恵器 坏 (坑)	表土 破片	口 14.4	白色微粒子 微粒霞母 白色微粒子	還元焰	灰黄	縦輪成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。高台欠損後坏に転用する。	吉井・藤岡系
498-1 220	須恵器 坏	表土 破片	口 (15.0) 底 (6.2) 高 (5.6)	白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	縦輪成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	北毛系
498-2 220	須恵器 坏 (坑)	表土 片	口 14.8 底 7.0	白色粒子 微粒霞母	還元焰	灰白	縦輪成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。高台欠損後坏に転用する。	吉井・藤岡系
498-3	須恵器 坏	B区 8土 坑 破片	口 (14.0)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒霞母	還元焰	鈍黄橙	縦輪成形 (右回転)。	吉井・藤岡系
498-4 220	須恵器 坏 (坑)	表土 破片	—	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	縦輪成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。高台欠損後坏に転用する。	吉井・藤岡系
498-5	須恵器 坏	覆土内 片	底 7.6	黒色粒子	還元焰	白灰	縦輪成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
498-6 220	須恵器 坏	表土 破片	底 (9.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	縦輪成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
498-7 220	須恵器 高台付坏	表土 破片	底 (10.6)	黒色粒子	還元焰	白灰	縦輪成形 (右回転)。底部側転削り。高台は削り出し。	秋間系
498-8 224	須恵器 高台付坏	破片	底 (10.6)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	縦輪成形 (右回転)。高台は削り出し。	秋間系
498-9 220	須恵器 高台付坏	表土 破片	底 (10.4)	白色微粒子	還元焰	灰	縦輪成形 (右回転)、底部は回転糸切り後回転削り。	樂附系か
498-10 220	須恵器 高台付坏	表土 破片	底 (10.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	縦輪成形 (右回転)。高台の成形技法は不詳。	秋間系
498-11	須恵器 高台付坏	田層 破片	底 (11.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	縦輪成形 (右回転)。高台は削り出し。	秋間系
498-12 220	須恵器 埴	田層 片	口 (14.6) 底 3.3 高 7.4	白色鉱物粒子 白色微粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰黄	縦輪成形 (右回転)。付高台。	吉井系
498-13 220 黒書-21	須恵器 埴	田層 破片	口 (12.0) 底 (6.8) 高 5.7	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	縦輪成形 (右回転)。付高台。器外面に墨書が認められるが判読不能	秋間系
498-14 220	須恵器 埴	表土 片	口 (12.0) 底 7.2 高 5.0	赤褐色粒子 微粒霞母 白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	縦輪成形 (右回転)。付高台。器外面に墨書「企」か。	吉井系
498-15 220	須恵器 埴	35-B-32 田層 片	口 (10.0) 底 4.9 高 (6.0)	白色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	黒・黄灰 赤・黒灰	縦輪成形 (右回転)。付高台。	樂附系
498-16 220	須恵器 埴	38-B-32 田層 破片	口 (15.0) 底 6.8 高 5.4	微粒霞母 白色粒子	還元焰	灰白	縦輪成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
498-17 224	須恵器 内黒土器 埴	B区 8土 坑 破片	—	白色微粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	内・黒黄 外・黄黄	縦輪成形 (右回転)。付高台。器内面に暗文を加し吸込させている。	笠巻系
498-18 224	須恵器 埴	B区 4土 坑 破片	底 (8.0)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒霞母	還元焰	淡黄橙	縦輪成形 (右回転)。付高台。	藤岡系

498-19 220	須恵器 埴	19-B-42 IV層 瓦	□ (15.0) 底 6.8 高 5.2	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	繊維成形 (右回転)。付高台。	吉井系
498-20 220	須恵器 埴	III層 破片	□ (15.0) 底 (8.8) 高 (7.8)	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	繊維成形 (右回転)。付高台。	秋間系か 栗附系
498-21 220	須恵器 埴	36-B-40 III層 破片	底 (3.3)	透明鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	内・黒 外・黄	繊維成形 (右回転)。付高台。	笠懸系
498-22	須恵器 埴	B区4土 坑 破片	底 (7.8)	黒色粒子	還元焰	灰	繊維成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
498-23 220	須恵器 黒色土器 埴	表土 瓦	□ (17.0) 底 5.7 高 7.8	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	黒灰	繊維成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
498-24 220	須恵器 埴	表土 破片	□ (17.0) 底 (10.0) 高 (7.1)	白色微粒子	還元焰	灰	繊維成形 (右回転)。付高台。	秋間系
499-1 220	須恵器 皿	42-B-43 III層 瓦	□ (13.4) 底 7.2 高 (2.3)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	繊維成形 (右回転)。付高台。	秋間系
499-2 220	須恵器 土器	表土 破片	□ (15.0) 底 (7.8) 高 (3.1)	黒色粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	繊維成形 (右回転)。付高台。	栗附系か 藤岡系
499-3 220	土器器 壺	46-B-40 III層破片	□ (14.4)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面割部は 寛削り、口縁部は横撫で、内面割部は寛撫で。	藤岡系
499-4 224	土器器 壺	46-B-35 III層破片	□ (15.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面割部は 寛削り、口縁部は横撫で、内面割部は寛撫で。	藤岡系
499-5 224	土器器 壺	40-B-25 III層破片	□ (16.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は直立気味。型作り成形。外面割部は 寛削り、口縁部は横撫で、内面割部は寛撫で。	藤岡系
499-6 224	土器器 壺	表土 破片	□ (9.2)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	体部は型作り成形。肩部に型膚を残し、下半 部は横撫での型削り。	藤岡系
499-7 220	土器器 壺	40-B-42 III層破片	□ (17.0)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は強く外反し口唇部は直 立する。肩はやや強い線を有し二種の刷毛目 の撫でを施す。器内面は横撫でを施す。	藤岡系
499-8	土器器 壺	III層 破片	□ (17.2)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は短く外反する。型作り成形。外面割 部は寛削り、口縁部は横撫で、内面割部は寛 撫で。	藤岡系
499-9 224	土器器 壺	表土 破片	□ (18.4)	白色粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面割部は 寛削り、口縁部は横撫で、内面割部は寛撫で。	藤岡系
499-10 224	土器器 壺	38-B-36 III層破片	□ (19.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面割部は寛削 り、口縁部は横撫で。	藤岡系
499-11 224	土器器 壺	43-B-37 III層破片	□ (20.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面割部は 寛削り、口縁部は横撫で、内面割部は寛撫で。	藤岡系
499-12 225	土器器 壺	III層土 内 破片	□ (20.2)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍赤褐	「コ」の字状口縁か。型作り成形。外面割部 は寛削り、口縁部は横撫で、内面割部は寛撫 で。	藤岡系
499-13 225	土器器 壺	40-B-29 III層破片	□ (20.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面割部は 寛削り、口縁部は横撫で、内面割部は寛撫で。	藤岡系
499-14 225	土器器 壺	表土 破片	□ (22.0)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍黄橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面割部は 寛削り、口縁部は横撫で、内面割部は寛撫で。	藤岡系
499-15 225	土器器 壺	42-B-39 III層 トレンチ 内 破片	□ (11.0)	微粒雲母 黒色鉱物粒子 顔料砂	酸化焰	淡黄	口縁部は外反する。型作り成形。外面割部は 寛削り、口縁部は横撫で、内面割部は寛撫で。	藤岡系
499-16 225	土器器 土蓋	43-B-37 III層破片	□ (18.0)	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	黄褐	紐作り後横撫整形 (右回転)。	吉井系
499-17 225	土器器 土蓋	46-B-35 III層破片	□ (24.4)	透明鉱物粒子 白色粒子 微粒雲母	酸化焰	黄・黄 外・黄	口縁部は外反する。紐作り。外面割部は寛削 り、口縁部は横撫で、内面割部は寛撫で。	月夜野系

遺物一覧表

499-18 225	土師器 土 釜	V-B-1 破片	底 (9.6)	黒色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り成形。後継位の重削り成形。	吉井・藤 岡系
499-19 225	土師器 土 釜	42-B-37 II層破片	口 (18.0)	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	赤褐	紐作り成形。後継位の脱脂で整形。	吉井系
499-20 220	須恵器 土 釜	B区内 破片	底 (10.0)	黒色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	外・黒灰 内・黒	紐作り成形。器外面は継位の脱脂り整形。器 内面は横溝でを施す。	吉井系
499-21 220	土師器 土 釜	B区I溝 覆土内 破片	底 (6.6)	白色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	赤褐	紐作り成形。後削り成形。	吉井系
500-1 220	須恵器 脚付 鉢	II層 破片	底 (12.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
500-2 225	須恵器 鉢	II層 覆土内 破片	底 (13.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
500-3 225	須恵器 鉢	表土 破片	底 (25.0)	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	浪外搬入
500-4 225	須恵器 高 坏	II層 破片	口 (24.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
500-5 220	須恵器 高 坏	42-B-33 破片	—	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成・整形(右回転)。脚部は貼付後轆轤整 形(右回転)。	秋間系
500-6 225	須恵器 高坏脚部	表土 破片	—	白色粒子	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。窓を有する(二 段か)。	栗附系
500-7 220	土師器 脚 鉢	表土 破片	底 (7.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形後回転整形。	藤岡系
500-8 225	須恵器 高 坏	B区3号 井戸破片	—	白色粒子	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	太田系か
500-9 225	須恵器 鉢	表土 破片	口 (19.8)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
500-10 225	須恵器 鉢	43-B-37 II層破片	口 (17.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
500-11 225	須恵器 短頸 壺	II層 破片	口 (6.0)	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。口縁部は絞りが 認められる。	東海系
500-12 220	須恵器 短頸 壺	II層 破片	口 (9.0) 底 (7.8) 高 (3.7)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台は削り出し。	秋間系
500-13 225	須恵器 短頸 壺	表土 破片	口 (9.0)	黒色粒子	還元焰 焼締	白灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	東海系
500-14 225	須恵器 短頸 壺	II層 破片	口 (10.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰 焼締	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	栗附系
500-15 225	須恵器 短頸 壺	覆土内 破片	口 (13.4)	黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。	秋間系
500-16 225	須恵器 短頸 壺	II層 破片	口 (12.0)	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
500-17 225	須恵器 長頸 壺	表土 破片	口 (7.0)	白色微粒子	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。自然輪付着。	秋間系
500-18 225	須恵器 壺	表土 破片	口 (12.8)	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。自然輪付着。	秋間系
500-19 225	須恵器 壺	38-B-36 II層破片	口 (11.0)	白色微粒子	還元焰 焼締	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。自然輪付着。	東海系
500-20 225	須恵器 壺	表土 破片	口 (13.0)	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系 栗附系
500-21 225	須恵器 壺	IV層 須恵器	口 (17.0)	白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井系
500-22 225	須恵器 壺	表土 破片	口 (18.0)	微粒雲母 白色微粒子	中性焰	外・黒 濁 新・淺 黄橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井・藤 岡系
500-23 225	須恵器 壺	フタ土 破片	口 (17.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
500-24 221	須恵器 壺	B区表土 破片	口 (14.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外周平行叩き・内面瓦具 は背海放文)。口縁部は轆轤整形。	秋間系

B 区 外

500-25 225	須志器 甕	田層 破片	口 (20.0)	白色微粒子	還元焰 灰	組作り後輪軸整形 (右回転)。自然軸付着。	東附系
501-1 225	須志器 甕	田層 破片	口 (20.0)	白色灰物粒子 白色微粒子	還元焰 灰	組作り後輪軸整形 (右回転)。	東附系
501-2 225	須志器 甕	49-B-30 田層破片	口 (20.0)	白色粒子	還元焰 焼締	灰 組作り後輪軸整形 (右回転)。	東附系
501-3 225	須志器 甕	表土 破片	—	黒色粒子	還元焰 焼締め	灰 組作り後輪軸整形 (右回転)。器外面自然軸付着。	秋間系か 東海系
501-4 225	須志器 短頸 甕	田層 破片	胴 (10.0)	黒色粒子	還元焰 灰	組作り後輪軸整形 (右回転)。	秋間系
501-5 225	須志器 甕	表土 破片	厚 0.9	白色微粒子 黒色粒子	還元焰 灰	輪軸成形。詳細不詳。器外面に底記号乃至置 掛き文字「人」を刻書する。	秋間系
501-6	須志器 甕	表土 破片	厚 0.8	白色微粒子 黒色粒子	還元焰 灰	組作り後輪軸整形 (右回転)。「口内。不詳。」 の4文字以上の置掛き文字がある。	秋間系
501-7 221	須志器 甕	田層 破片	最径 19.3	白色微粒子 白色粒子 黒色粒子	還元焰 灰	組作り後輪軸整形 (右回転)。	吉井系
501-8 221	須志器 甕	B区表土 ・田層 片	—	白色微粒子 黒色粒子	還元焰 灰	組作り。叩き整形 (外面斜格子叩き・内面宛 具は背海波文) 縦上半分は輪軸再整形。	秋間系
501-9 221	須志器 甕	表土 破片	底 (17.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰 暗灰	組作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具 は素文) 後輪軸再整形。	秋間系
501-10 225	須志器 甕	表土 破片	底 (13.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰 焼締	灰 輪軸成・整形 (右回転)。器外面自然軸付着。	器外縁不 詳
501-11 221	須志器 甕	IV層 底部完存	底 (9.8)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰 灰	輪軸成形 (右回転)。付高台。	秋間系
501-12 221	須志器 甕	40-B-42 田層破片	底 (5.0)	白色微粒子	還元焰 灰	組作り後輪軸整形 (右回転)。外面自然軸付着。	東海系
501-13 221	須志器 甕	42-B-37 田層破片	底 11.8	白色粒子 白色微粒子	還元焰 灰	組作り後輪軸整形 (右回転)。	吉井・藤 岡系
501-14 221	須志器 甕	B区内 脚付 破片	底 (13.6)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰 灰	輪軸成形 (右回転)。脚は貼付。	秋間系
501-15 225	須志器 甕	田層 破片	底 (7.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰 灰	組作り後輪軸整形 (右回転)。自然軸付着。	秋間系
502-1 221	須志器 甕	田層 破片	底 (12.2)	白色微粒子	還元焰 白灰	組作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具 は素文)。	秋間系
502-2 226	須志器 甕	表土 破片	口 (16.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰 白灰	組作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具 は背海波文)。口縁部は組作り後輪軸整形 (右 回転)。	秋間系
502-3 226	須志器 甕	田層 破片	—	白色微粒子	還元焰 灰黄	組作り後輪軸整形 (右回転)。	秋間系
502-4 226	須志器 甕	田層 破片	厚 0.5	白色微粒子	還元焰 白灰	組作り後輪軸整形 (右回転)。	秋間系
502-5 226	須志器 甕	田層 破片	—	白色灰物粒子	還元焰 焼締	口縁部は外傾し、9本1単位の波状文を廻ら す。組作り後輪軸整形 (右回転)。	東附系
502-6 226	須志器 甕	表土 破片	口 (18.4)	白色微粒子 微粒置得 黒色粒子	還元焰 灰	組作り後輪軸整形 (右回転)。外面有機質付着。	藤岡系か
502-7 226	須志器 甕	表土 破片	口 (26.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰 白灰	組作り後輪軸整形 (右回転)。	秋間系
502-8 226	須志器 甕	田層 破片	口 (23.4)	黒色粒子 白色粒子 白色灰物粒子	還元焰 灰	組作り後輪軸整形 (右回転)。内外面に底位に 帯状に墨痕が認められる。	東附系
502-9	須志器 甕	田層 破片	口 (24.0)	白色灰物粒子 白色粒子 透明灰物粒子	中性焰 黄灰	組作り後輪軸整形 (右回転)。器内面に帯状墨 痕を有する。	巻面カウ 壘
502-10	須志器 大 甕	田層 破片	口 (40.0)	白色灰物粒子 黒色粒子 白色微粒子	還元焰 暗灰	口縁部は外反する。組作り後輪軸整形 (右回 転)。口縁部外面に帯状に墨痕があり内面は横 位に墨痕がある。	東附系か 藤岡系
502-11 226	須志器 大 甕	田層 破片	厚 1.2	白色粒子	還元焰 赤灰	組作り後輪軸整形 (右回転)。口縁部は外反し、 5本1単位の波状文を廻らす。組作り後輪軸 整形 (右回転)。	東附系

遺物一覧表

502-12 226	須恵器 壺	皿層 破片	厚 0.9	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	褐灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。口縁部は外反し、 7本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤 整形(右回転)。	栗附系
503-1	須恵器 大 壺	表土 破片	口 (22.0)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。	藤岡系
503-2 226	須恵器 壺	表土 破片	口 (32.0)	黒色粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	栗附系
503-3 226	須恵器 大 壺	表土 破片	口 (36.0)	白色微粒子	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	栗附系
503-4 226	須恵器 壺	V層 破片	厚 0.6	白色微粒子	還元焰	浅黄	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
503-5 226	須恵器 壺	表土 破片	厚 (0.8)	白色微粒子	還元焰	灰	口縁部は外反し、13本1単位の波状文を廻ら す。紐作り後轆轤整形(右回転)。	栗附系
503-6 226	須恵器 壺	皿層 破片	厚 0.9	白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。口縁部は外反し、 6本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤 整形(右回転)。	吉井系
503-7 226	須恵器 壺	皿層 破片	厚 0.8	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。口縁部は外反し、 5本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤 整形(右回転)。	栗附系
503-8 226	須恵器 壺	表土 破片	厚 0.9	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。口縁部は外反し、 9本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤 整形(右回転)。	栗附系
503-9 226	須恵器 壺	皿層 破片	厚 0.9	黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。口縁部は外反し、 8本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤 整形(右回転)。	栗附系
503-10 226	須恵器 壺	皿層 破片	厚 0.9	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。口縁部は外反し、 6本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤 整形(右回転)。	吉井系
503-11 226	須恵器 壺	表土 破片	厚 0.6	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
503-12 226	須恵器 大 壺	皿層 破片	厚 1.4	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰 焼締	暗灰	口縁部は外反し、7本1単位の波状文を廻ら す。紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井系
503-13 226	須恵器 壺	38-B-30 皿層破片	厚 0.9	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰褐	紐作り後轆轤整形(右回転)。外面自然釉付着。	秋間系
503-14 226	須恵器 壺	皿層 破片	厚 1.1	白色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
504-1 226	須恵器 壺	表土 破片	厚 0.7	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
504-2 226	須恵器 壺	皿層 破片	厚 0.8	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
504-3 226	須恵器 壺	皿層 破片	厚 1.1	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
504-4 226	須恵器 壺	皿層 破片	厚 0.8	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰黄	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井系
504-5 226	須恵器 壺	45-B-30 皿層 破片	厚 0.9	黒色鉱物粒子 赤褐色粒子	酸化焰 か二次 焼成	明黄褐	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
504-6 227	須恵器 大 壺	35-B-25 皿層破片	厚 1.1	白色鉱物粒子	還元焰	赤灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。裏面内外面自然 釉付着。	栗附系
504-7 227	須恵器 壺	皿層 破片	厚 0.9	白色微粒子	還元焰	鈍黄橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
504-8 221	須恵器 大 壺	表土 破片	厚 1.2	白色微粒子	中性焰	褐灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面規具 は青海紋)後轆轤整形。	栗附系
504-9 227	須恵器 大 壺	表土 破片	厚 1.0	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面規具 は素文)。内面は磨減する。	秋間系
504-10 227	須恵器 壺	皿層 破片	厚 1.1	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。口縁部は外反し、 7本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤 整形(右回転)。	秋間系
504-11 227	須恵器 大 壺	皿層 破片	厚 1.0	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系

504-12 227	須志器 壺	表土 破片	厚 1.0	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面瓦具 は青海波文）。内面が磨滅する。	秋間系
504-13 227	須志器 大 壺	表土 破片	厚 1.0	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面瓦具 は素文）。内面が磨滅する。	乗附系
504-14 227	須志器 壺	表土 破片	厚 1.1	白色微粒子	還元焰	明赤灰 焼締	紐作り後轆轤整形（右回転）。口縁部は外反し、 7本1単位の波状文を施す。紐作り後轆轤 整形（右回転）。内外面自然軸付着。	乗附系
505-1 227	須志器 壺	表土 破片	厚 1.1	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。整形は不分明。喉部内面に腫でが認め られる。又磨滅する。	秋間系
505-2 227	須志器 壺	表土 破片	厚 0.9	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面不詳・内面瓦具は素 文）。	秋間系
505-3 227	須志器 大 壺	表土 破片	厚 1.2	白色微粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面瓦具 は素文）。内面が磨滅する。	藤岡系
505-4 227	須志器 大 壺	1号溝覆 土内破片	厚 1.3	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面瓦具 は素文）。内面が磨滅する。	秋間系
505-5 227	須志器 大 壺	35-B-32 皿層破片	厚 0.8	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面不詳・内面瓦具は素 文）内面が磨滅する。	乗附系
505-6 227	須志器 大 壺	38-B-30 皿層破片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	暗灰 焼締	紐作り。器外面に正格子の叩きを施す。	不詳
505-7 227	須志器 大 壺	表土 破片	厚 1.1	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面瓦具 は青海波文）。内面が磨滅する。	乗附系
505-8 227	須志器 大 壺	皿層 破片	厚 1.1	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面瓦具 は素文）。内面が磨滅する。	秋間系
505-9 227	須志器 壺	表土 破片	厚 1.1	白色粒子 白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面不詳・内面瓦具は素 文）後内面は無再整形。内面が磨滅する。	秋間系
505-10 227	須志器 大 壺	表土 破片	厚 1.4	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。後叩き整形か。器内面に轆轤の爪痕も ある。内面が磨滅する。	秋間系か
505-11 227	須志器 大 壺	表土 破片	厚 1.0	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面瓦具 は青海波文）内面が磨滅する。	乗附系か 東海系
505-12 227	須志器 大 壺	表土 破片	厚 1.0	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面瓦具 は青海波文）。内面が磨滅する。	秋間系
506-1 227	須志器 大 壺	35-B-32 北田層 破片	厚 1.1	白色微粒子	還元焰		紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面瓦具 は青海波文）後内面無整形。内面が磨滅する。	秋間系
506-2 227	須志器 大 壺	38-B-35 皿層破片	厚 1.0	白色微粒子 黒色粒子	還元焰		紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面瓦具 は木目）。外面に自然軸付着する。	秋間系
506-3 227	須志器 大 壺	表土 破片	厚 1.0	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形（右回転）か。内面が磨滅 する。	乗附系
506-4 227	須志器 大 壺	表土 破片	厚 1.4	白色微粒子 黒色粒子	還元焰		紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面瓦具 は素文）。内面が磨滅する。	乗附系か
506-5 227	須志器 大 壺	表土 破片	厚 1.3	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面正格子叩き・内面瓦 具は青海波文）。内面が磨滅する。	秋間系
506-6 227	須志器 大 壺	皿層 破片	厚 0.7	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面瓦具 は青海波文）。内面が磨滅する。	秋間系
506-7 227	須志器 大 壺	表土 破片	厚 1.4	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面瓦具 は素文）内面が磨滅する。	乗附系か 藤岡系
506-8 228	須志器 大 壺	皿層 破片	厚 0.8	白色微粒子	還元焰	黄灰 焼締	紐作り後轆轤整形（右回転）。	東海系
506-9 228	須志器 大 壺	皿層 破片	厚 0.7	黒色粒子 白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面瓦具 は素文）。	吉井・藤 岡系
506-10 228	須志器 大 壺	35-B-41 覆土内 破片	厚 1.0	白色鉱物粒子 白色粒子 デイスイト	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面瓦具 は素文）。内面が磨滅する。	吉井・藤 岡系
506-11 228	須志器 大 壺	表土 破片	厚 1.2	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面瓦具 は素文）。内面が磨滅する。	秋間系
507-1 228	須志器 大 壺	47-B-42 破片	厚 1.1	白色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面不詳・内面瓦具は素 文）。内面が磨滅する。	乗附系か 藤岡系
507-2 228	須志器 壺	皿層 破片	厚 1.4	白色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面瓦具 は素文）。	吉井系

遺物一覧表

507-3 228	須恵器 大 壺	30-B-35 トレンチ 内付近 破片	厚 1.1	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面不詳・内面瓦具は素文）。	乗附系
507-4 228	須恵器 大 壺	II層 破片	厚 0.8	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形（右回転）。	吉井系
507-5 228	須恵器 大 壺	表土 破片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面瓦具は素文）。内面が磨滅する。	秋田系
507-6 228	須恵器 大 壺	B区内 破片	厚 1.0	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面瓦具は素文）後外面撫で整形。内面が磨滅する。	吉井・藤岡系
507-7 228	須恵器 大 壺	表土 破片	厚 1.0	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面正格子叩き・内面瓦具は素文）後内面は撫で再整形。	秋田系か
507-8 228	須恵器 大 壺	表土 破片	厚 1.3	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面瓦具は素文）後撫で再整形。内面が磨滅する。	
507-9 228	須恵器 大 壺	II層 破片	厚 1.0	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面瓦具は青海波文）。内面が磨滅する。	吉井・藤岡系
507-10 228	須恵器 大 壺	表土 破片	厚 1.3	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り。後叩き整形。叩き・瓦具は不詳。内面が磨滅する。	乗附系か 藤岡系
508-1 228	須恵器 大 壺	表土 破片	厚 0.9	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面瓦具は素文）内面が磨滅する。	秋田系
508-2 228	須恵器 大 壺	B区内 破片	厚 1.2	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面瓦具は青海波文）。	乗附系
508-3 228	須恵器 大 壺	表土 破片	厚 1.7	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面瓦具は青海波文）。内面が磨滅する。	乗附系
508-4 228	須恵器 大 壺	II層 破片	厚 1.4	白色微粒子 微粒母	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面不詳・内面瓦具は素文）。内面が磨滅する。	藤岡系
508-5 228	挨拶陶器 大 壺	表土 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子	酸化焰 赤褐 焼酎	赤褐	紐作り後叩き整形。自然釉が付着する。	常滑焼
509-1 228	須恵器 大 壺	II層 破片	厚 1.2	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面瓦具は素文）。	乗附系
509-2	須恵器 風字 硯台か	表土 破片	—	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	粘土板と紐作りの併用。	秋田系
509-3 228	須恵器 器台か	II層 破片	厚 0.9	白色粒子 黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤整形（右回転）。器外面に平行叩き？の痕跡が認められる。	乗附系
509-4 229	須恵器 羽 釜	表土 破片	口 (18.0) 脚 (21.4)	微粒器母 白色粒子	酸化焰	橙	口縁部は内湾する。紐作り後轆轤整形（右回転）。脚は貼り付け。	吉井型羽釜 乙斐 種伊類
509-5 229	須恵器 羽 釜	38-B-35 II層破片	口 (19.0) 脚 (21.1)	白色粒子 透明鉱物粒子	中性焰	灰褐	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形（右回転）。脚は貼り付け。	月夜野型 羽釜
509-6 229	須恵器 羽 釜	49-B-30 II層 破片	口 (20.6) 脚 (23.6)	白色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	黒褐	口縁部は内湾する。紐作り後轆轤整形（右回転）。脚は貼り付け。	吉井型羽釜 甲斐 種伊類
509-7 229	須恵器 羽 釜	B-3 破片	口 (17.0) 脚 (20.0)	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	浅黄橙	口縁部は内湾する。紐作り後轆轤整形（右回転）。脚は貼り付け。	吉井型羽釜 甲斐 種伊類
509-8 229	須恵器 羽 釜	B区II層 破片	口 (20.0) 脚 (25.0)	白色鉱物粒子 白色粒子	中性焰	褐	口縁部は内湾する。紐作り後轆轤整形（右回転）。脚は貼り付け。	吉井型羽釜 甲斐 種伊類
509-9 229	須恵器 羽 釜	B-IV 破片	口 (20.0) 脚 (22.8)	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰黄	口縁部は内湾する。紐作り後轆轤整形（右回転）。脚は貼り付け。	吉井型羽釜 甲斐 種伊類
509-10 229	須恵器 羽 釜	表土 破片	口 (20.2) 脚 (27.2)	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は内湾する。紐作り後轆轤整形（右回転）。脚は貼り付け。	吉井型羽釜 乙斐 種伊類
510-1 229	須恵器 羽 釜	表土 破片	口 (21.0) 脚 (25.0)	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	口縁部は内湾する。紐作り後轆轤整形（右回転）。脚は貼り付け。	吉井型羽釜 甲斐 種伊類
510-2 229	須恵器 羽 釜	表土 破片	口 (22.0) 脚 (27.0)	白色微粒子	中性焰	鈍黄橙	口縁部は内湾する。紐作り後轆轤整形（右回転）。脚は貼り付け。	吉井型羽釜 甲斐 種伊類

B 区 外

510-3 229	須恵器 羽 釜	表土 破片	□ (22.0) 罫 (26.6)	白色粒子 白色鉱物粒子 微粒寄母	中性塩	黒褐	口縁部は内傾する。組作り後継継盤形(右回転)。罫は貼り付け。	吉井形羽 釜 甲斐 器品類
510-4 229	須恵器 羽 釜	表土 破片	□ (22.0) 罫 (25.4)	白色微粒子 微粒寄母 白色鉱物粒子	中性塩	橙	口縁部は内傾する。組作り後継継盤形(右回転)。罫は貼り付け。	吉井形羽 釜 甲斐 器品類
510-5 229	須恵器 羽 釜	田層 破片	□ (22.0)	微粒寄母 白色微粒子 赤褐色粒子	酸化塩	鈍黄橙	口縁部は内傾する。組作り後継継盤形(右回転)。罫は貼り付け。	吉井形羽 釜 甲斐 器品類
510-6 229	須恵器 羽 釜	49-B-40 田層 破片	□ (23.4) 罫 (26.4)	透明鉱物粒子 黒色鉱物粒子 白色粒子	酸化塩	鈍橙	口縁部は内傾する。組作り後継継盤形(右回転)。罫は貼り付け。	月夜野型 羽釜
510-7 229	瓦製内盤	表土 完存	厚 1.6	白色微粒子 黒色粒子 細粒砂	酸化塩	浅黄橙	女瓦(縄印)片を転用し、縁辺を加瓦する。	笠懸系
510-8 229	土師器 円 盤	田層 完存	厚 0.4	白色微粒子 微粒寄母	酸化塩	橙	土師器製の割部片を転用している。周辺は磨いている。	藤岡系
510-9 229	須恵器 円 盤	田層 完存	厚 0.8	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元塩	灰	須恵器製の割部片を転用している。周辺を打ち欠き磨いている。	乗野系
510-10 229	瓦製内盤	C区客土 完存	厚 1.7	白色微粒子	還元塩	灰白	瓦(縄印き(密))片を転用し、縁辺を加工している。	笠懸系
510-11 229	須恵器 円 盤	表土 完存	厚 1.0	白色微粒子	還元塩	灰	須恵器製の割部片を転用する。周辺を打ち欠き縁辺を磨いている。	秋間系
510-12 229	灰須恵器 円 盤	表土 完存	厚 1.7	白色微粒子	還元塩	灰白	須恵器製の割部片を転用する。周辺を打ち欠き磨いている。	秋間系
510-13 229	瓦製内盤	田層 完存	厚 1.1	白色鉱物粒子	還元塩	灰	須恵器大壁片を転用する。縁辺を加工する。	乗野系
510-14 229	須恵器 円 盤	完存	厚 0.8	黒色粒子 白色微粒子	還元塩	灰	須恵器壁片を転用。周辺部を打ち欠き整形する。	秋間系
510-15 229	瓦製内盤	田層 瓦	厚 2.0	白色鉱物粒子	還元塩 焼締	白灰	一枚作り(縄印き(密))の女瓦片の縁辺を加工している。	不詳
511-1 229	瓦製内盤	表土 完存	厚 1.9	黒色粒子 白色微粒子	還元塩	灰	平版作り1の男瓦片を転用し、縁辺を加工している。	乗野系
511-2 229	瓦製内盤	田層 完存	厚 3.0	白色微粒子	酸化塩	鈍黄橙	平瓦の破片(?)の縁辺を加工している。	笠懸系
511-3 230	土製品 羽 □	土坑 破片	—	植物繊維を含む	—	—	使用に伴う色調変化が認められるが、破片の為、スラグ等は認められない。	—
511-4 230	土製品 羽 □	田層 破片	厚 2.3	細粒砂	—	—	使用に伴う色調変化が認められるが、破片の為、スラグ等は認められない。胎土中にスサを含有する。	—
511-5 230	土製品 羽 □	38-B-36 田層破片	厚 3.1	粗い	—	—	使用に伴う色調変化が認められるが、破片の為、スラグ等は認められない。	—
511-6 230	土製品 羽 □	C区内 破片	厚 2.0	細粒砂	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが附着し、ケイ酸分が付着する。胎土中にスサを含有する。	—
511-7 230	土製品 羽 □	田層 破片	厚 2.3	細粒砂	—	—	使用に伴う色調変化が認められるが、破片の為、スラグ等は認められない。	—
511-8 230	土製品 羽 □	38-B-30 田層破片	厚 2.6	細粒砂	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが附着し、ケイ酸分が付着する。	—
511-9 230	土製品 羽 □	土坑 破片	—	植物の繊維を含む。	—	—	511図-3と同一個体。	—
511-10 230	土製品 羽 □	B区内 瓦	厚 3.0	細粒砂	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが附着し、ケイ酸分が付着する。胎土中に植物繊維を多く含有する。	厚3.2cm
511-11 230	土製品 羽 □	46-B-40 田層 瓦	幅 7.6 孔径 2.5	細粒砂	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが附着し、ケイ酸分が付着する。	—
511-12 230	土製品 羽 □	B区田層 破片	厚 3.1	細粒砂	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが附着し、ケイ酸分が付着する。	—
511-13 230	土製品 土 鉢	瓦 完形	長 4.1 幅 1.4 孔 0.18	白色微粒子 微粒寄母	酸化塩	鈍黄橙	紡錘形状を呈し中央を穿孔する。	重8.0g

遺物一覧表

511-14 230	須恵器 転用 紡錘車	45-B-32 覆土内 片	—	白色動物粒子 白色微粒子	還元焰 灰	須恵器内の底部を転用する。周縁は擦る。	象形系か	
511-15 230	石製品 紡錘車	II層 片	厚 (1.1) 上径 (4.5) 孔径 (0.6)	滑石	—	遺存状態は欠損後の風化によりやや悪い。	—	
511-16 221	土製品 紡錘車	表土 ほぼ完形	口 5.7 底 3.4 高 1.7	白色微粒子 微粒質母	酸化焰 橙	側部は剝削りを施す。全体に作りは丁寧で 罐壁成形の可能性がある。	藤岡系	
512-1 221	施釉陶器 灰釉皿	表土 破片	口 (11.8) 底 6.6 高 (2.5)	密	良好	灰白	罐壁成形 (右回転)。付高台。施釉は浸掛。	—
512-2 230	施釉陶器 灰釉皿	1号溝 破片	口 (12.0)	密	良好	灰	罐壁成形 (右回転)。施釉は不評。	—
512-3 230	施釉陶器 灰釉段皿	1溝 覆土内 破片	口 (14.0)	やや粗い。	良好	灰	罐壁成形 (右回転)。施釉は刷毛塗り。	—
512-4 230	施釉陶器 灰釉段皿	表土 破片	口 (15.0)	密	良好	灰白	罐壁成形 (右回転)。施釉は不評。	—
512-5 221	施釉陶器 灰釉皿	38-B-29 II層 片	口 (15.0) 底 7.4 高 (3.0)	粗	良好	灰白	罐壁成形 (右回転)。付高台。施釉された釉は 残存しない。	—
512-6 230	施釉陶器 灰釉皿	表土 破片	—	密	二次焼 成を受け る	白灰	罐壁成形 (右回転)。輪花を有する。二次焼成 により釉が荒れる。貫入が著しい。	—
512-7 230	施釉陶器 灰釉皿	II層 破片	口 (15.0)	密	良好	灰白	罐壁成形 (右回転)。施釉は浸掛。	—
512-8 230	施釉陶器 灰釉皿	II層 破片	口 (14.0)	密	良好	灰白	罐壁成形 (右回転)。施釉は浸掛。	—
512-9 230	施釉陶器 灰釉皿	46-B-35 II層破片	口 (14.0)	密	良好	灰白	罐壁成形 (右回転)。施釉は浸掛。	—
512-10 230	施釉陶器 灰釉皿	北南トレ ンチ破片	口 (14.0)	密	良好	灰	罐壁成形 (右回転)。施釉は不評。	—
512-11 230	施釉陶器 灰釉皿	II層 破片	口 (14.0)	密	良好	白灰	罐壁成形 (右回転)。施釉は浸掛。	—
512-12 230	施釉陶器 灰釉皿	破片	口 (15.0)	密	良好	灰	罐壁成形 (右回転)。施釉は浸掛。	—
512-13 230	施釉陶器 灰釉皿	1溝 破片	口 (15.0)	密	良好	灰白	罐壁成形 (右回転)。施釉は浸掛か。	—
512-14 230	施釉陶器 灰釉皿	II層 破片	口 (15.2)	やや粗	良好	灰	罐壁成形 (右回転)。施釉は浸掛か。	旗形系
512-15 230	施釉陶器 灰釉皿	35-B-32 北破片	口 (16.0)	密	良好	灰	罐壁成形 (右回転)。施釉は不評。	—
512-16 230	施釉陶器 灰釉皿	表土 破片	口 (15.8) 底 (8.6) 高 (5.1)	やや粗	良好	灰白	罐壁成形 (右回転)。付高台。施釉は浸掛。	—
512-17 230	施釉陶器 灰釉皿	II層 破片	口 (16.0)	密	良好	灰	罐壁成形 (右回転)。施釉は浸掛か。	—
512-18 230	施釉陶器 灰釉皿	II層 破片	口 (16.0)	密	良好	灰	罐壁成形 (右回転)。施釉は浸掛。	—
512-19 230	施釉陶器 灰釉 輪花皿	表土 破片	口 (15.0)	密	良好	灰白	罐壁成形 (右回転)。施釉は浸掛か。口唇部に 輪花を施す。	—
512-20 230	施釉陶器 灰釉皿	40-B-29 II層破片	口 (16.0)	密	良好	灰	罐壁成形 (右回転)。施釉は浸掛か。	—
512-21 230	施釉陶器 灰釉皿	B区内 破片	口 (16.0)	密	良好	灰白	罐壁成形 (右回転)。施釉は浸掛。	—
512-22 230	施釉陶器 灰釉 輪花皿	II層 破片	口 (17.0)	密	良好	灰白	罐壁成形 (右回転)。口唇部を内に返し輪花を 表出する。	—
512-23 230	施釉陶器 灰釉段皿	II層 破片	底 (7.0)	やや密	良好	白灰	罐壁成形 (右回転)。付高台。施釉は刷毛塗り。	—

512-24 230	施軸陶器 灰軸拉直	皿層 破片	底 (7.0)	密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。施軸は不分明。	—
512-25 221	施軸陶器 灰軸塊	45-B-25 付近 底部完存	底 3.0	粗	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。	—
512-26 221	施軸陶器 灰軸塊	表土 破片	底 (6.0)	密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。施軸は浸掛。	—
512-27 230	施軸陶器 灰軸塊	皿層 破片	底 (6.0)	密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。	—
512-28 230	施軸陶器 灰軸塊	表土 破片	底 (6.0)	密	良好	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。施軸は浸掛。	—
512-29 230	施軸陶器 灰軸塊	表土 破片	底 (6.8)	密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。施軸は浸掛。	—
512-30 230	施軸陶器 灰軸塊	表土 破片	底 (6.0)	やや密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。施軸は不詳。	—
512-31 221	施軸陶器 灰軸塊	表土 底部完存	底 6.6	密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。	—
512-32 230	施軸陶器 灰軸塊	表土 破片	底 (7.6)	密	良好	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。施軸された軸は 残存しない。	—
512-33 230	施軸陶器 灰軸塊	40-B-42 皿層破片	底 (7.0)	密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。施軸は刷毛塗。	—
512-34 230	施軸陶器 灰軸塊	表土 破片	底 (7.4)	密	良好	黄灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。施軸は浸掛。	—
512-35 221	施軸陶器 灰軸塊	表土 破片	底 7.0	密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。	—
513-1 231	施軸陶器 灰軸塊	表土 破片	底 (8.0)	やや粗	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。施軸は浸掛。	—
513-2 231	施軸陶器 灰軸塊	II層 破片	底 (8.2)	密	良好	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。施軸は刷毛塗か。	—
513-3 231	施軸陶器 灰軸塊	38-B-30 皿層破片	底 (9.0)	密	良好	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。施軸は浸掛か。	—
513-4 221	施軸陶器 灰軸瓶	40-B-42 皿層破片	底 (6.8)	やや密	良好	白灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。器内面はコナ痕 が顕著。古期の灰軸。	—
513-5 221	施軸陶器 瓶	表土 破片	底 (8.0)	密	良好	灰白	紐作り後 — 整形 (右回転)。付高台。	—
513-6 221	施軸陶器 瓶	表土 破片	底 (9.0)	やや粗	良好	灰白	紐作り後轆轤整形 (右回転)。付高台。胴下半 部は回転痕有り。	—
513-7 231	施軸陶器 瓶	38-B-30 皿層破片	底 (9.0)	密	良好	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。付高台。	—
513-8 231	施軸陶器 灰軸長頸 瓶	B区皿層 破片	直径 13.8	密	良好	灰	轆轤成形 (右回転)。施軸は刷毛塗りか。	—
513-9 231	施軸陶器 灰軸双耳 瓶	皿層 把手片	厚 2.6	やや粗	良好	灰白	粘土板を接合し内側を削り抜いている。外面 は無地整形。	—
513-10	施軸陶器 瓶	表土	—	—	良好	白灰	紐作り後轆轤整形。	瀬戸系
513-11	3探陶器 坏	35-B-28 破片	口 (13.0)	密	良好	露胎は 灰	轆轤成形 (右回転) か。全体に銀化状になり、 赤色変化する部分がある。	—
513-12 231	施軸陶器 灰軸短 鉢	表土 破片	厚 1.0	—	良好	黒色粒子 還元焰 白灰	轆轤成形 (左回転)。	瀬戸系
513-13	施軸陶器 緑軸使 碗	表土	—	密	良好	灰	轆轤成形。外面に紋を有する。	—
513-14	施軸陶器 緑軸使 碗	B区皿層 破片	口 (13.0)	やや粗	良好	灰	轆轤成形 (右回転)。	—
513-15 231	施軸陶器 緑軸使 碗	表土 破片	—	密	軟	黄緑	轆轤成形 (右回転)。体部に強い稜を有する。	—
513-16 231	施軸陶器 緑軸碗	皿層 破片	—	密	硬	暗灰	轆轤成形 (右回転)。釉調は明るい。胎土の 発色が暗いため全体に暗く見える。	—
513-17 231	施軸陶器 緑軸塊	皿層 破片	—	密	硬	灰白	轆轤成形 (右回転)。釉調は淡く薄い。	—

遺物一覧表

513-18 231	石器 火打石	表土 完存	—	石英	—	—	片面に自然面を残し、他の面には一部使用痕が残っている。	—
513-19 231	石器 火打石	表土 完存	—	石英	—	—	打面以外自然面が残っている。顕著なる使用痕は認められない。	—
513-20 231	石製品 不詳	表土 破片	厚 0.9	燧石	—	—	「V」字状の沈線が認められ、文様と考えられるものの全体文様等詳細は不明。	—
513-21 231	石器 乳棒状 磨製石斧	B区内 片	幅 5.5 厚 2.6	変玄武岩	—	—	全体に凹凸が非常に著しい。	重 170g
513-22 231	石製品 石棒	土坑 破片	幅 4.9 厚 3.2	砂岩	—	—	先端側の破片である特徴的な加工痕は認められない。	重220g
513-23 231	礫器 砥石	79土坑 片	長 15.8 幅 5.9 厚 5.2	粗粒安山岩	—	—	小口側に砥打痕が認められる。	重690g
513-24 231	礫器 砥石	No25 完存	長 11.5 幅 6.7 厚 4.1	—	—	—	小口・側面に砥打に伴う刻痕が認められる。	重450g
513-25 231	礫器 砥石	79土坑 完存	長 10.6 幅 8.1 厚 4.3	粗粒安山岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重600g
514-1 231	石製品 砥石	B区表土 破片	残長 4.9 幅 2.5 厚 2.1	砥沢石	—	—	使用に伴ない4面磨滅するが、成形切り出し時の稜目が残存する面もある。又、小口面も稜目が残存する。手持砥。	—
514-2 231	石製品 砥石	田圃 破片	幅 3.1 重 20.0	砥沢石	—	—	細片であるが小型の磨滅と考えられる。上面に縦面に4本の条痕が認められる。	—
514-3 231	石製品 砥石	B区田圃 表土 破片	幅 2.8 重 30.0	砥沢石	—	—	両端側を欠損する。使用痕から手持砥と考えられる。	—
514-4 231	砥石	38-B-3S 田圃破片	幅 3.4 重 50.	砥沢石	—	浅黄橙	欠損品を再加工したものである。使用痕は旧状の状態のものと思われる。手持砥。	—
514-5 231	石製品 砥石	B区表土 完存	幅 3.2 重 90.0	砂岩	—	—	目は粗い。小型であるが手持砥としての使用痕は顕著に残る。	—
514-6 231	石製品 砥石	III B-5 破片	幅 7.3 重 4.8 厚 3.9	粗粒安山岩	—	—	四面に使用が有る。手持砥。	重160g
514-7 231	石製品 砥石	I溝 破片	幅 2.3 重 140.0	砥沢石	—	—	使用面は面的に少ない。欠損部（使用時）に主体面が考えられる。また面取り加工が残存する。手持砥。	—
514-8 231	石製品 砥石	IV-2S 破片	幅 3.6 重 100.0	砥沢石	—	—	下面側を欠損する。他の3面に使用面が認められる。使用痕から手持砥と考えられる。	—
514-9 231	石製品 砥石	B区表土 破片	幅 4.7 重 280.0	砥沢石	—	—	4面に使用が認められ、2面で対面が著しく湾曲する状態で使用がある。置砥。	—
514-10 231	石製品 砥石	V-B-1 片	幅 2.0 重 40.0	砥沢石	—	—	使用に伴う研ぎ減りが著しい。欠損部は少し磨いてある。手持砥。	—
514-11 231	石製品 砥石	Iミゾ S-F-B 片位か	幅 2.3 重 45.	砥沢石	—	灰白	使用面は全体に多く、中世の刀剣用手持砥の形状に類似する。本品自体も使用痕から手持砥と考えられる。	—
514-12 231	石製品 砥石	B-V 完存	幅 1.3 重 15.0	砥沢石	—	灰	小型工具（調刻刃状の工具）の砥石である。	—
514-13 221	石製品 砥石	B区田圃 片	幅 6.5 厚 6.1	砂岩	—	—	使用面は6面認められる。使用面は非常に滑らかである。	—
514-14 221	土師質土器 (カワラケ)	表土 片	口 (12.4) 底 7.0 高 2.6	黒色炭物粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙	轆轤成形（左回転）、底部は回転糸切り。	—
514-15 231	土師質土器 (カワラケ)	表土 破片	口 10.0 底 6.4 高 2.0	白色粒子	酸化焰	灰黄	轆轤成形（左回転）、底部は回転糸切り。	—
514-16 221	土師質土器 (カワラケ)	B区内 片	口 (11.3) 底 (6.0) 高 (2.8)	赤褐色粒子 微粒砂	酸化焰	明黄橙	轆轤成形（左回転）、底部は回転糸切り。	藤岡系か

514-17 231	土師質土 器 皿 (カワラ ヶ) 坪	45-B-32 付近田圃 破片	口 (13.4) 底 (6.0) 高 (2.8)	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	鈍焼	輪縁成形 (左回転)、底部は回転糸切り。	—
514-18 221	軟質陶器 不 詳	V区-E 破片	厚 1.4	中世五治土の 片類	還元焰	灰	三足の獣足を有し、底部を穿孔する。動物等の互製品の可能性ある。	—
514-19 231	軟質陶器 榎木鉢	表土 破片	底 (8.8)	白色微粒子 黒色植物粒子	中性焰	鈍黄灰	輪縁成形か。	太田系か
514-20 222	古 鏡	表土 完形	径 2.3	—	—	—	熊率元寶。初鑄は熊率元年 (1068)。	—
514-21 231	施胎陶器 青 磁	II層 破片	—	密	硬	乳白	口唇直下に片切りの横線二条を施す。	龍泉窯系
514-22 231	磁 器 青 磁	II層 破片	—	密	良好	灰	輪縁成形 (左回転)。柄手蓮弁文。	龍泉窯系
515-1 221	練 器	96土坑 破片	長 9.5 幅 8.1 厚 3.7	粗粒安山岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重460g
515-2 222	練 器	土坑 破片	—	粗粒安山岩	—	—	高熱により表面が融変している。	—
515-3 231	金属製品 銅 器	試験トレ ンチ 埋土 破片	厚 0.15	—	—	—	四角形状を呈する製品の断片である。	—
515-4 231	銅 器 不 詳	表土層 破片	重 14.2	—	—	—	全体の遺存は比較的良好である。背面側に小粒状の小突起が2ヶ所に認められるが錆化に伴う可能性がある。	—
515-5 231	鉄 器 釘	B区内 四端欠損	重 1.2	—	—	—	全体に錆化が認められるが、旧状は良く遺存する。断面正方形形状を呈する。	—
515-6 231	鉄 器 不 詳	ビット群 片	厚 0.1 重 6.5	—	—	—	全体に錆化が著しい。断面は、板状のものが「J」の字状に屈曲する。	—
515-7 231	鉄 器 釘	試験トレ ンチ 先端欠損	厚 0.4 重 4.6	—	—	—	全体に錆化が著しい。断面は正方形形状を呈する。	—
515-8 231	鉄 器 釘	B区内 先端欠損	重 1.0	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。断面は正方形形状を呈する。	—
515-9 231	鉄 器 釘	表土 先端欠損	幅 0.5 重 4.0	—	—	—	全体に錆化が著しい。頭部は折り曲げが認められない。	—
515-10 231	鉄 器 釘	35-B-26 トレンチ 内	幅 0.35 重 2.1	—	—	—	全体に錆化が著しい。小型の釘の頭部、周辺で頭部は折り曲げている。断面正方形形状を呈する。	—
515-11 231	鉄 器 釘	II層土内 先端欠損	重 8.0	—	—	—	全体に錆化が著しい。頭は折り曲げている。断面正方形を呈する。	—
515-12 231	鉄 器 釘	D区内 先端欠損	重 8.1	—	—	—	全体に錆化が著しい。調査後の欠損がある。	—
515-13 231	鉄 器 釘	B区内 先端欠損	幅 0.6 重 4.5	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。先端側の欠損は調査後の欠損。	—
515-14 231	鉄 器 釘	層土内 破片	幅 0.45 重 6.1	—	—	—	全体に錆化が著しい。釘の頭部周辺と思われる。	—
515-15 231	鉄 器 釘	II層土中 破片	重 4.3	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。調査後の破損が著しい。頭は折り曲げ。	—
515-16 232	鉄 器 釘	表土層 先端欠損	幅 0.55 重 13.0	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。断面正方形形状を呈する。頭は折り返しに認められない。	—
515-17 232	鉄 器 釘	表土 四端欠損	幅 0.85 重 13.7	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。四端共に調査以前の欠損である。	—
515-18 232	鉄 器 不 詳	III層土内 破片	幅 0.8 重 8.2	—	—	—	調査後の錆化欠損により旧状を著しく失っている。詳細不分明。	—
515-19 232	鉄 器 不 詳	表土 先端欠損	幅 0.7 重 15.8	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。上端側は旧状の一部が残存する。先端側は調査後の欠損により不分明。	—
515-20 232	鉄 器 不 詳	38-B-30 III層破片	幅 0.8 重 12.3	—	—	—	全体に錆化が著しい。頭部側は不分明全体に棒状になっている。	—

遺物一覧表

515-21 232	鉄 釘	器 か	且区内 先端欠損	重	26.5	—	—	—	全体に錆化が非常に著しく調査後の欠損を含め遺存は不良である。	—
515-22 232	鉄 不	器 評	30-B-35 ほぼ完存	長 幅 重	7.9 0.45 16.2	—	—	—	全体に錆化が著しい。頭部周辺は調査後の欠損により不分明な部分がある。	—
515-23 232	鉄 不	器 評	B区内 破片	重	0.7	—	—	—	全体に錆化が及ぶが比較的遺存良好である。断面は正方形状を呈する。利器等の基の可能性がある。	—
515-24 232	鉄 釘	器 か	田圃土中 破片	幅 重	0.3 1.5	—	—	—	全体に錆化が著しい。断面正方形状を呈する。	—
515-25 232	鉄 釘	器 か	田圃土内 破片	幅 重	0.35 1.8	—	—	—	全体に錆化が著しい。断面正方形状を呈する。	—
515-26 232	鉄 不	器 評	表土層 破片	幅 重	0.4 3.1	—	—	—	全体に錆化が著しい。調査後の錆化の進行により両端を欠損している。釘の可能性もある。	—
515-27 232	鉄 釘	器 か	B区内 破片	重	2.0	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。下端側は調査後の欠損。	—
515-28 232	鉄 釘	器 か	30-B-35 付近 トレンチ 内	重	2.8	—	—	—	全体に錆化が著しい。断面正方形状を呈する。釘以外の製品の可能性がある。	—
515-29 232	鉄 不	器 評	田圃土内 両端欠損	重	4.6	—	—	—	全体に錆化が顕著である。断面正方形状を呈する。	—
515-30 232	鉄 不	器 評	B区内 破片	重	2.8	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。断面は薄い長方形状を呈する。	—
515-31 232	鉄 不	器 評	田圃土中 破片	幅 重	0.65 5.9	—	—	—	全体に錆化が著しい。断面正方形状を呈する。	—
515-32 232	鉄 不	器 評	田圃土内 両端欠損	幅 重	0.4 3.3	—	—	—	全体に錆化が及び、調査後の欠損により詳細は不分明である。断面は正方形状を呈する。	—
515-33 232	鉄 不	器 評	覆土内 破片	幅 重	0.5 4.3	—	—	—	全体に錆化が著しい。両端は調査後の欠損。釘乃至「コ」の字に屈曲する金具と思われる。	—
515-34 232	鉄 釘	器 か	田圃土内 破片	重	4.3	—	—	—	全体に錆化が著しい。調査後の欠損も著しく旧状を著しく失っている。断面正方形状を呈する。	—
515-35 232	鉄 釘	器 か	38-B-36 周辺田圃 破片	重	12.7	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。遺存状態はやや不良。断面が正方形状を呈する。	—
515-36 232	鉄 不	器 評	49-B-30 破片	幅 重	0.7 3.4	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。断面長方形状を呈する。	—
515-37 232	鉄 釘	器 か	表土層 破片	幅 重	0.53 4.9	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。断面正方形状を呈する。	—
515-38 232	鉄 不	器 評	表土層 破片	厚 重	0.45 11.6	—	—	—	全体に錆化が著しい。「L」字状に屈曲している。下層は調査後の欠損。	—
515-39 232	鉄 不	器 評	試掘トレン チ 破片	重	4.5	—	—	—	全体に錆化が非常に著しい。断面は長方形状を呈する。	—
515-40 232	鉄 不	器 評	表土層 先端欠損	幅 重	0.8 8.0	—	—	—	全体に錆化が著しい。調査後の欠損により詳細不分明。断面横長方形を呈する。	—
515-41 232	鉄 不	器 評	33-B-42 破片	幅 重	0.5 2.4	—	—	—	全体に錆化が著しい。鏡手状に屈曲する。断面は正方形。	—
515-42 232	鉄 不	器 評	田圃土 両端欠損	重	22.6	—	—	—	全体に錆化が及ぶが旧形状は良好な状態で残存する。	—
515-43 232	鉄 釘	器 か	38-B-36 周辺田圃	重	17.1	—	—	—	全体に錆化が著しく、調査後の酸化破損が全体に及んでいる。	—
515-44 232	鉄 釘	器 か	42-B-39 破片	幅 重	0.7 6.7	—	—	—	全体に錆化が著しい。調査後釘の片側面が剥落したものである。	—
515-45 232	鉄 釘	器 か	表土層 尖端部	重	1.0	—	—	—	全体に錆化が著しい。断面正方形状を呈する。釘とも、利器の基とも考えられる。	—
515-46 232	鉄 釘	器 か	覆土内 尖端部	重	1.4	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。断面正方形状を呈する。	—
515-47 232	鉄 釘	器 か	表土 頭部側欠 損	幅 重	0.5 3.6	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。断面は正方形状を呈する。	—

515-48 232	鉄 不 詳	表土 破片	重 1.4	—	—	—	全体に錆化が著しい。形状から基爪か釘等の ものが考えられる。	—
515-49 232	鉄 釘	B区内 頭部欠損	重 4.7	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。頭部は調査以前の 欠損。断面正方形を呈する。	—
515-50 232	鉄 釘	表土層 尖端側	重 1.6	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。断面は正方形形状を 呈する。全体が「S」字状に屈曲している。	—
515-51 232	鉄 釘	B区内 破片	重 2.4	—	—	—	全体に錆化が及んでいるが比較的旧状を遺存 する。頭部側は調査後の欠損。断面正方形を 呈する。	—
515-52 232	鉄 釘	表土 破片	幅 0.5 重 4.2	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。断面正方形形状を呈 する。	—
515-53 232	鉄 釘	表土層 破片	重 6.0	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。上端部側は調査後 の欠損であるが、釘の可能性が高い。	—
516-1 232	鉄 釘	II層土中 破片	幅 0.5 重 8.4	—	—	—	全体に錆化が非常に著しい。断面正方形形状を 呈する。	—
516-2 232	鉄 釘	表土 破片	重 5.2	—	—	—	全体に錆化が著しい。断面やや扁卵状形状で ある。	—
516-3 232	鉄 不 詳	覆土内 II層土内 先端欠損	幅 0.55 重 6.8	—	—	—	全体に錆化が著しく旧状に就いては不分明な 部分がある。断面は正方形形状を呈する。	—
516-4 232	鉄 釘	B区内 頭部欠損	重 8.1	—	—	—	全体に錆化が顕著である。頭部は調査以前に 欠損している。断面正方形を呈する。	—
516-5 232	鉄 釘	30-B-35 破片	長 7.2 幅 1.0 厚 0.15	—	—	—	全体に錆化が著しい。全体に作りが薄い。釘 以外の製品の可能性が高い。	重11.7g
516-6 232	鉄 釘	33-B-42 一部欠損	幅 0.55 重 13.7	—	—	—	全体に錆化が顕著である。下端は調査以前に 欠損しているのか、製品としての形状なのか は不分明。	—
516-7 232	鉄 不 詳	46-B-35 不詳	重 21.4	—	—	—	調査後の欠損が著しく詳細不分明。	—
516-8 232	鉄 不 詳	45-B-35 不詳	重 25.3	—	—	—	調査後の欠損が非常に著しく詳細不分明であ る。	—
516-9 232	鉄 刃 子	調査区内 破片	重 6.2	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。鋒側は調査以前の 欠損で、背側は調査後の欠損である。	—
516-10 232	鉄 刀 子	表土 破片	重ね 0.25 重 1.3	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。刀子の基の破片と 考えられる。	—
516-11 232	鉄 刀 子	II層土内 破片	重ね 6.2 重 3.6	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。基爪側と鋒側は調 査後の欠損。全体から極度に使い減りした刀 子と考えられる。	—
516-12 232	鉄 刀 子	表土層 破片	重 16.7	—	—	—	全体は錆化及び、調査後の錆化により破損が 非常に著しい。断片的な破片であるが、錆身 での状況から刀子乃至小刀と思われる。	—
516-13 232	鉄 刀 子	II層土内 破片	重ね 0.3 重 7.8	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。鋒側は調査後の欠 損。基は商業以前に折り曲げられて欠損。	—
516-14 232	鉄 刀 子	II層土内 破片	重ね 0.25 重 4.1	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。基爪側・鋒側が調 査後欠損している。間は隙間は無く刃先だけ である。	—
516-15 232	鉄 刃 子	表土層 破片	重ね 0.4 重 12.1	—	—	—	全体に錆化が顕著である。調査後基爪・鋒側 を欠損する。	—
516-16 232	鉄 不 詳	II層土内 破片	重 7.7	—	—	—	全体に錆化が顕著で器種の特定が出来ない。 利器とも思われるが、刃部の断面形状に疑問 が残る。	—
516-17 232	鉄 鏃	表土層 断片欠損	重 8.9	—	—	—	全体に錆化が非常に顕著である。又、調査後 の錆化により全体的に欠損する。旧状はほぼ 完存状態であったと思われる。有基平根三角 形広鋒板状刃部式	—
516-18 232	鉄 不 詳	表土 ほぼ完存	重 9.6	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。刀子の破片とも思 われるが不分明。	—
516-19 232	鉄 鏃	調査区内 基欠損	重 17.9	—	—	—	全体に錆化が顕著。雁又式鏃で基を欠損する。	—

遺物一覧表

516-20 232	鉄器 鎌	田層土中 破片	厚 0.15 径 0.2 重 22.1	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。刃の部分は廃棄時に折り曲でとられている。	—
516-21 232	鉄器 不詳	田層土中 瓦	厚 0.1 重 14.8	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。薄い円盤状である。	—
516-22 232	鉄器 不詳	田層土中 一部欠損	厚 0.15 径 6.5 重 28.9	—	—	—	全体に錆化が著しい。円盤状の薄い板状である。中心には孔は認められない。	—
516-23 232	鉄器 紡錘車か	田層土中 破片	厚 0.1 重 6.7	—	—	—	全体に錆化が著しい。欠損部は全て調査後の欠損である。平面形状は不整形円形状を呈すると考えられ、中央に正方形の孔を有する。	—
516-24 232	鉄器 火打	田層土中 瓦	厚 0.2 重 18.6	—	—	—	全体の錆化は比較になく、旧状を想し保っている。全体に片側に若干湾曲している。	—
516-25 232	鉄器 不詳	田層 破片	厚 11.7	—	—	—	全体に錆化が著しい。断面正方形形状を呈する。厚状製品の部分と考えられる。	—
516-26 232	鉄器 不詳	表土層 完存	幅 0.7 重 15.5	—	—	—	全体に錆化が及んでいるが遺存状態は良好であった。しかし、調査後の錆化により破損が多い。断面正方形を呈する。	—
516-27 232	鉄器 不詳	田層土内 先存	径 1.0 重 44.9	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。断面は円形状で先端部が平たく尖がる状態になっている。	—
516-28 232	鉄器 不詳	IV層 破片	重 4.3	—	—	—	調査後の錆化欠損により旧状を著しく失っている。断面は扇状を呈すると考えられる。	—
516-29 232	鉄器 不詳	表土層 破片	厚 0.1 重 2.6	—	—	—	全体に錆化が著しい。板状の製品であるが断片である為詳細不明。	—
516-30 232	鉄器 不詳	表土層 先端欠損	重 48.7	—	—	—	全体に錆化が著しい。調査後の錆化の進行が著しく破損している。	—
516-31 232	鉄器 釘	49-B-30 先端欠損	幅 0.5 重 5.9	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。調査後の錆化により破損が著しい。断面正方形形状を呈し、頭は折り曲げている。	—
516-32 232	鉄器 不詳	覆土内 破片	幅 0.5 重 6.8	—	—	—	全体に錆化が著しい。調査後の欠損も著しいものがある。全体形状は「I」の字状に屈曲し両端部を欠損する。断面は正方形形状を呈する。	—
516-33 232	鉄器 不詳	表土層 不詳	厚 0.4 重 7.7	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。錆化の状態から銹鉄と考えられる。	—
516-34 232	鉄器 不詳	田層中 破片	重 9.9	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。調査後の欠損は無い。断面は「L」字状に折れた状態である。形状等は不明な点が多い。	—
516-35 232	鉄器 不詳	田層土中 破片	重 1.9	—	—	—	全体に錆化が著しい。中央に正方形の孔を有する。上半は球体状のものが付く。下半は薄い板状である。	—
516-36 232	鉄器 不詳	B区内 破片	重 9.1	—	—	—	全体に錆化が顕著で、調査後の欠損により旧状は不明な点がある。	—
516-37 232	鉄器 不詳	B表土層 破片	厚 0.1 重 4.2	—	—	—	全体に錆化が著しい。小さい鉄片である。	—
516-38 232	鉄器 不詳	田層土内 破片	厚 0.2 重 4.8	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。調査後の欠損も著しい。薄い板状の製品であるが器種の特定は不能である。	—
516-39 232	鉄器 不詳	B区内 両端欠損	幅 1.3 厚 0.3 重 21.8	—	—	—	全体に錆化が著しい。薄い棒状の製品。調査後の欠損がやや多い。	—
516-40 232	鉄器 不詳	D区内 破片	重 7.4	—	—	—	全体に錆化が非常に著しい。詳細は不明である。	—
516-41 232	鉄器 不詳	表土層 破片	幅 0.45 重 10.3	—	—	—	全体に錆化が顕著である。「T」字状を呈する形状であるが、器種は不明である。断面は正方形形状を呈する。	—
516-42 232	鉄器 刀子か	覆土内 基破片	重 2.2	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。断面棒形状を呈する。刀子の茎と考えられる。	—
516-43 232	鉄器 刀子か	試験トレ ンチ基残 存	厚 0.15 重 4.2	—	—	—	全体に錆化が著しい。調査以前の欠損。茎尻が残存する。	—

516-44 232	鉄 器 釘	45-B-32 一部欠損	幅 0.6 重 17.9	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。上端側は「L」字状にほぼ直角に屈曲している。断面は正方形状を呈する。	—
516-45 232	鉄 不 詳	F区内 両端欠損	重 8.5	—	—	—	全体に錆化が及んでいるが比較的良く形状を残している。錆の質感から中世の所産と考えられる。	中世
516-46 232	鉄 器 釘	38-B-36 周辺 田層	重 33.4	—	—	—	全体に錆化が著しい。両端側を欠損する。断面正方形。	—
516-47 232	鉄 器 釘	田層 両端欠損	重 11.0	—	—	—	全体が調査後の錆化により剥落している。	—
516-48 232	鉄 器 釘	D区内 中央部・ 先端欠損	重 17.3	—	—	—	全体に錆化が及んでいるが、旧状はある程度判断出来、頭部が非常に大きいことが認められる。断面は正方形状を呈する。	—
516-49 232	鉄 不 詳	田層 断片	重 24.1	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。断面は正方形を呈する。	—
516-50 232	鉄 器 不 詳	45-B-39 完存	幅 0.5 重 21.4	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。調査後の錆化に伴ない剥落している部分がある。全体形は先端傾がフック状になっている。	—
516-51 232	鉄 器 釘	田層土内 写	重 142.0	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。調査後の錆化による破損が非常に著しい。先端側はほぼ直角に屈曲し「T」字状になっている。手元側は「V」字状になっている。	—
516-52 232	鉄 器 鋳 鉄	表土 破片	厚 0.8 重 88.2	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。錆化の状態から鋳鉄と考えられる。	—
516-53 232	鉄 器 塊	田層土中 不明	重 5.9	—	—	—	全体に錆化が著しい。質量はある。	—
516-54 232	鉄 器 不 詳	46-B-35 不明	重 10.1	—	—	—	全体に錆化が非常に著しい。断面正方形状と思われる。詳細不詳。	—
516-55 232	鉄 器 鋳 鉄	表土 不明	厚 0.7 重 19.8	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。錆化の状態から鋳鉄と考えられる。	—
516-56 232	鉄 器 塊	35-B-26 トレンテ 内	重 24.8	—	—	—	鉄製品ではない。体積に比較し質量がやや少ない感がある。	—
516-57 232	鉄 器 塊	38-B-30 田層 不明	高 28.0	—	—	—	鉄製品ではない。質量は鉄製品並である。	—
516-58 232	鉄 器 塊	田層土中 不明	重 42.0	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。質量重い。	—
516-59 232	鉄 器 不 詳	調査区内 完存	重 18.4	—	—	—	全体に錆化が著しい。上面に孔を有する。火打ち鎌か？	—
516-60 232	鉄 器 鏃	G区内 完存	重 12.5	—	—	—	全体的に錆化は著しくない。旧状は非常によく留めている。	—
516-61 232	鉄 器 鏃	G区内 完存	重 13.1	—	—	—	全体的に錆化は著しくない。旧状は非常に良く留めている。	—
516-62 232	鉄 器 鏃	表土 ほぼ完存	重 17.1	—	—	—	全体に錆化が及ぶが比較的遺存は良好。刃部は錆化により失なっている。	—
516-63 232	鉄 器 鉄	表土層 写	重 3.4	—	—	—	全体が錆化する。小型の握り鉄と考えられる。	—
516-64 232	鉄 火器 弾	表土層 写	径 0.77 重 5.9	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。形状は比較的良く残存する。口径7.7mmの小銃弾頭と思われる。	—

A 区外

神国番号 団隊番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
517-1 233	縄文式土 器 深 鉢	覆土内 破片	口 (24.0)	白色微粒子	酸化焰	鈍黄褐色	紐作り。器内面に研磨を施す。内面口唇部直下に沈線を施す。	—
517-2 233	石 製 スアレク パ	表土 完存	長 6.5 幅 5.8 厚 1.3	細粒安山岩	—	—	断面を一部に残す。全体を粗く剥離する。	重65g

遺物一覧表

517-3 233	石器 ドリル	V層 完存	長 幅 厚	5.8 1.9 0.6	黒色頁岩	—	—	先端を欠損する。周縁に剥離が及んでいる。	重 6g
517-4 233	石器 鉞石	1井戸 完存	長 幅 厚	7.8 6.4 3.1	黒色頁岩	—	—	自然面は認められない。表面側は全体に剥離が及んでいる。	重200g
517-5 233	石器 不定形石器	XⅢ (遺構外)	長 幅	16.4 7.8	黒色頁岩	—	—	全体に粗い剥離が施されている。部分的に小単位の剥離が認められる。	重 250.5g
517-6 233	石器 削片石器	A区V層 完存	長 幅 厚	12.6 6.5 1.7	黒色頁岩	—	—	一面面に小単位の剥離が認められる。	重110g
517-7 233	石器 打製石斧	1溝 完存	長 幅 厚	6.2 3.0 1.0	粗粒安山岩	—	—	基部中位で欠損後、欠損部を刃部に再加工する。	重40g
517-8 233	石器 打製石斧	埋土内 完形	長 幅 厚	10.2 6.2 0.9	輝緑岩	—	—	全体に小身の薄め作りである。剥離も工程数とすれば少ない。	重50g 短冊形
517-9 233	石器 打製石斧	表土 完形	長 幅 厚	14.1 5.7 1.7	黒色頁岩	—	—	先端側に使用痕が認められるが、裏面側は認められない。又、この使用痕より新しい剥離が多い。	重180g
517-10 233	石器 打製石斧	表土 完形	長さ 幅	9.7 4.9	黒色頁岩	—	—	被熱により欠損。	重70.0g
517-11 233	石器 打製石斧	表土 完形	長 幅 厚	14.4 4.6 2.0	黒色頁岩	—	—	基部の縁は比較的しっかりしている。先端は磨減が顕著である。	重150g
518-1 233	石器 打製石斧	V層 後端欠損	長 幅 厚	(10.9) 4.4 1.2	灰色安山岩	—	—	後端を欠損する短冊形の打製石斧。刃部側は非常に低磨減している。	重150g
518-2 233	石器 打製石斧	④側乱 破片	幅	7.1	閃緑岩	—	—	端部側を欠損する。片面は自然面を多く残す。	重 400.0g
518-3 233	石器 打製石斧	1井戸 完形	長 幅 厚	12.2 4.4 1.5	粗粒安山岩	—	—	片面側に磨面を残す。先端側に少し磨減する。	重120g
518-4 233	石器 鉞石	埋土内 完存	長 幅 厚	(14.5) 6.5 5.4	粗粒安山岩	—	—	小口側に敲打痕が認められ、敲打に伴う欠落が多い。	重945g
518-5 233	石器 鉞石	VI層 完存	長 幅 厚	12.9 6.9 3.6	粗粒安山岩	—	—	小口・側部には敲打痕が顕著に認められ、平坦面は磨減する。表裏面には凹みがある。	重600g
518-6 233	石器 鉞石	V層 片	長 幅 厚	8.0 7.6 4.7	粗粒安山岩	—	—	518回-5に同じ。	重435g
518-7 233	石器 磨石	1溝 完形	長 幅 厚	8.0 3.0 2.7	粗粒安山岩	—	—	全体が丸く、全面が磨減する。	重40g
518-8 233	石器 定角形 磨製石斧	A区内 片	長 幅 厚	5.7 3.3 1.4	重玄武岩	—	—	粗作り時の剥離痕が残す。	重50g
518-9 233	石器 磨石	A区内 完存	長 幅 厚	6.0 5.6 4.3	粗粒安山岩	—	—	上面が使用に伴わない磨減する。	重90g
518-10 233	石器 磨石	表土 完存	長 幅 厚	5.2 5.0 4.0	石英閃緑岩	—	—	上面が使用に伴わない磨減する。	重150g
518-11 233	石器 磨石	V層 片	幅 厚	5.0 2.2	二ツ岳軽石	—	—	三角形状を呈し、片側のみに磨減が認められる。	重100g
518-12 233	石器 磨石	表土 完存	長 幅 厚	6.2 5.8 5.5	粗粒安山岩	—	—	全体が使用に伴わない磨減する。	重280g

A 区 外

519-1 233	土 師 器 環	表土 破片	□ (12.4)	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	型作り。口縁部内湾する。体部・底部は覆削り整形。器内面は撫で整形。体部に肌膚を残り器内面に暗文を施す。	藤岡系
519-2 233	土 師 器 環	表土 破片	□ (12.6)	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	519図-1に同じ	藤岡系
519-3 233	土 師 器 環	山層 破片	□ (13.2)	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	型作り。口縁部内湾する。体部・底部は覆削り整形。器内面は撫で整形。体部に肌膚を残り、器内面に暗文を施す。	西毛系
519-4 233	土 師 器 環	覆土内 破片	□ (12.6)	白色微粒子 シルト質	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反し、沈線を描く。外面口縁直下に強い稜を有する。底部は覆削り。	藤岡系か
519-5 233	土 師 器 環	山層 破片	□ 13.0	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部覆削り工具の横撫により直立気味。底部は覆削り。口縁直下に肌膚を残す。	西毛系
519-6 233	須 恵 器 内黒土器 環 蓋	1号溝 破片	□ (14.0)	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	端部は下方に折り返す。縦輪成形(右回転)。上半部は回転覆削り。器内面に暗文を施し吸込させている。	笠懸系
519-7 233	須 恵 器 環	表土 破片	□ (19.0)	黒色粒子	還元焰	褐灰	縦輪成形(右回転)。	不詳
519-8 233	須 恵 器 環	表土 与	□ (8.0)	白色微粒子	還元焰	灰白	縦輪成形(右回転)。天上部は手持り覆削り。蓋を欠損する。	秋間系
519-9 233	須 恵 器 環	表土 破片	□ (16.0)	白色微粒子	還元焰	灰	縦輪成形(右回転)。	東海系か
519-10 233	須 恵 器 環	表土 破片	—	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	縦輪成形(右回転)。肩は貼付後輪軸整形。器外面に自然輪付き。	秋間系
519-11	須 恵 器 環	A区内 破片	□ (11.0)	白色微粒子	中性焰	灰白	縦輪成形(右回転)。底部は手持り覆削り。	秋間系
519-12	須 恵 器 環	表土 破片	□ (12.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	口縁部は外傾する。口縁直下に稜を有し底部は手持り覆削り。	秋間系か
519-13	須 恵 器 環	山層 破片	□ (13.2)	白色微粒子	還元焰	灰	口縁部は外傾する。口縁直下に稜を有する。底部は手持り覆削り。	秋間系
519-14 233	須 恵 器 環	表土 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	縦輪成形(右回転)。	東海系か
519-15 233	須 恵 器 環	7-A-23 山層 破片	□ (16.0)	密	還元焰 燃焼め	灰	口縁部は長く内傾する。	東海系か
519-16 233	須 恵 器 環	表土 破片	□ (14.0)	白色微粒子	還元焰 燃焼め	灰	縦輪成形(右回転)。	東海系か
519-17 233	須 恵 器 環	覆土 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	縦輪成形(右回転)。	藤岡系
519-18 233	須 恵 器 環	覆土 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	縦輪成形(右回転)。	藤岡系
519-19 233	須 恵 器 環	表土 破片	□ 10.0 底 6.0 高 1.6	微粒雲母 白色微粒子 アイサイト	還元焰	黄灰	縦輪成形(右回転)、底部は回転糸切り後両側を削み耳皿成形する。	藤岡系
519-20	土 師 器 環	表土 破片	底 (8.8)	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。環部外面は覆削り。脚部は撫で後外面に暗文を施す。	西毛系
519-21 234	土 師 器 環	表土 破片	—	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	底作り。外面は肌膚でより粘土紐を割で付けける。内面は粘土紐の輪積みの単位を残す。	藤岡系
519-22 222	土 師 器 環	覆土内 破片	—	微粒雲母 白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	鈍橙	底作りか。型作り成形。器外面は筒位乃至覆削りの覆削りを施す。	藤岡系
519-23 234	須 恵 器 環	A区内 破片	—	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	白灰	縦輪成形(右回転)。付高台。底部に肌膚が認められるが判読不能。	不詳 黒書-22
519-24 222	須 恵 器 環	高台付 破片	□ (18.0) 底 5.3 高 (12.2)	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	縦輪成形(右回転)。付高台。	信州系か
519-25 234	須 恵 器 環	表土 破片	—	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	縦輪成形(右回転)。高台は削り出し。	秋間系
519-26 234	須 恵 器 環	1号溝 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	縦輪成形(右回転)。見込部は平坦である。	東海系か 藤岡系

遺物一覧表

519-27 234	土師器か 甕	表土 破片	厚 0.4	白色微粒子 微粒雪母	酸化焰	橙	器面縦線が見られ、轆轤回転を用い横位の 条痕を施す。胎土は藤岡系土師器のものであ るが、轆轤を使用することから須恵工人による 作陶の可能性はある。	藤岡系
519-28 222	須恵器 高 坪	C区噴 灰	—	白色粒子	還元焰	灰	脚部は角柱状の工具を芯にしている。	不詳
519-29 234	須恵器 短壺 查	田層 破片	口 (8.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形か (右回転)。	秋間系
519-30 234	須恵器 壺	表土 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	秋間系
519-31 234	須恵器 壺	覆丸 破片	厚 0.9	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	栗附系
519-32 234	須恵器 壺	覆丸 破片	厚 0.7	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	秋間系
519-33 234	須恵器 短壺 查	35住(縄 文)破片	胴 (8.8)	白色微粒子	還元焰	褐灰	轆轤成形 (右回転)。	秋間系
519-34 234	須恵器か 壺	表土 破片	直径 11.0	黒色粒子	還元焰	黄灰	轆轤成形? (右回転)。灰軸の可能性はある。	東海系
520-1 234	須恵器 壺	表土 破片	肩 (18.3)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	秋間系
520-2 234	須恵器 壺	表土 破片	取径 16.0	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。肩部に耳を有す る (貼り付)。	秋間系
520-3 234	須恵器 壺	表土 破片	底 17.0	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	栗附系
520-4 222	須恵器 壺	4土坑No.1 破片	底 (8.6)	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	秋間系
520-5 234	須恵器 壺	表土 破片	高 (3.5)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。	不詳
520-6 222	須恵器 提 壺	1溝 厚土内 破片	取径 20.2	白色微粒子	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。底部周辺は叩き 整形。	栗附系
520-7 234	須恵器 壺	表土 破片	厚 0.7	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	秋間系
520-8 234	須恵器 壺	1号溝 破片	厚 1.2	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。器内外面に自然 軸付着。	栗附系
520-9 234	須恵器 壺	表土 破片	厚 0.7	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具 は背面破文)。	秋間系
520-10 234	須恵器 大 壺	田層 破片	厚 1.3	暗赤茶褐色粒 子	還元焰	黄灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。口縁部は外傾し、 6本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤 整形 (右回転)。	東海系か
520-11 234	須恵器 壺	表土 破片	厚 0.9	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具 は背面破文) 後印毛目による轆轤回転無で。	搬入品 東海系か
520-12 234	須恵器 壺	表土 破片	厚 0.4	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛 具は素文)。	不詳
520-13 234	須恵器 壺	表土 破片	厚 0.8	白色微粒子	中性焰	灰黄	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具 は木目)。	秋間系
520-14 234	須恵器 壺	表土 破片	厚 1.0	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具 は背面破文)。	栗附系
521-1 234	須恵器 壺	1溝 破片	厚 0.9	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具 は背面破文)。	秋間系
521-2 234	須恵器 壺	表土 破片	厚 0.6	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具 は不詳)。後内面施で整形。	栗附系
521-3 234	須恵器 壺	表土 破片	厚 1.1	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具 は背面破文)。	秋間系
521-4 234	須恵器 壺	田層 破片	厚 1.2	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具 は素文)。	秋間系
521-5 234	須恵器 大 壺	表土 破片	厚 1.0	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具 は背面破文)。	秋間系
522-1 235	須恵器 大 壺	表土 破片	厚 1.3	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具 は背面破文)。	栗附系
522-2 235	須恵器 大 壺	表土 破片	厚 1.3	黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具 は背面破文)。下半部の胎土は砂質が多い。	栗附系か 東海系

A 区 外

523-3 235	瓶用 硯	1溝 部分欠損	長 11.7 幅 12.2 厚 1.2	白色微粒子 微粒雲母	還元焰 灰	須恵系大塚の割断片を転用。周辺を打ち欠き磨き整形する。使用痕は顕著な状態である。	藤岡系
523-1 235	羽 口	1溝 破片	厚 2.1 孔径 1.0	粗・細粒砂	— —	使用に伴う黄色調変化が認められるが、破片の為、スラグ等は認められない。	—
523-2 235	土製 品 羽 口	A区裏土 破片	厚 2.1 孔径 1.3	細粒砂	— —	使用に伴う黄色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	—
523-3 222	石造 品	堀土内 破片	厚 (9.5)	ニツ岳転石	— —	国分寺の堂宇の基礎化粧の東石か。3面に加工痕を残す。	—
523-4 222	石造 品	1溝	長 (16.3) 幅 (8.8) 厚 (7.5)	ニツ岳転石	— —	国分寺の堂宇等の基礎化粧に用いたか。外面はやや粗い研ぎ整形している。	—
523-5 235	鉄 器 釘	表土 頭部 先端欠損	幅 0.4 重 2.2	— —	— —	全体に錆化が及んでいる。頭部折り曲げている。断面正方形形状を呈する。	—
523-6 235	鉄 器 釘	表土 先端欠損	重 16.1	— —	— —	全体に錆化が及んでいる。頭部には折り曲げの痕跡は認められない。断面正方形形状を呈する。	—
523-7 235	鉄 器 釘	表土 先端欠損	幅 0.9 重 29.7	— —	— —	全体に錆化が及んでいる。遺存は比較的良好である。頭部は折り曲げの痕跡がない。断面長方形形状を呈する。	—
523-8 235	鉄 器 釘 か	表土 先端欠損	幅 0.7 重 13.1	— —	— —	全体に錆化が及んでいる。調査後の欠損により全体が損傷している。又、頭部の状態が通常の釘とは異なっている。	—
523-9 235	鉄 器 釘	V層 破片	幅 0.6 重 2.7	— —	— —	全体に錆化が及んでいる。調査後の欠損も著しい為詳細不詳。	—
523-10 235	鉄 器 釘 か	表土 破片	幅 0.7 重 5.4	— —	— —	全体に錆化が及んでいる。断面正方形形状を呈する。	—
523-11 235	鉄 器 釘	田圃土 両端欠損	幅 0.5 重 11.5	— —	— —	全体に錆が顕著である。調査後の欠損も多い。	—
523-12 235	鉄 器 釘 か	表土 両端欠損	幅 0.8 重 23.6	— —	— —	全体に錆化が及んでいるが比較的状态は良好である。断面正方形形状を呈する。	—
523-13 235	鉄 器 鎌 先	表土 破片	厚 0.2 重 47.9	— —	— —	全体に錆化が著しい。鎌先の一部で破損後に廃棄されている。破損時は先端部も磨滅している。	—
523-14 235	鉄 器 刀子 か	表土 葉尻?	重 2.5	— —	— —	全体に錆化が及んでいる。先端部は、旧状を遺存している。断面長方形形状を呈する。	—
523-15 235	鉄 大刀子	不明 ほぼ完存	全長 17.3 身長 11.4 重 37.6	— —	— —	全体に錆化が著しい。刀身中央部に製造時の折があり、この部分から錆化破損している。	重0.3 葉長5.8 +α
523-16 235	鉄 器 蓋	A区内 破片	32.4	— —	— —	全体に錆化が及んでいる。錆鉄と考えられブロック状に錆化が認められる。	—
523-17 235	鉄 器 不詳	表土 破片	幅 1.1 重 9.3	— —	— —	全体に錆化が著しく、調査後の錆化欠損も多く遺存は非常に悪い。断面は長方形形状を呈し、全体は棒状を呈する。	—
523-18 235	鉄 器 不詳	表土 破片	重 3.4	— —	— —	全体に錆化が及んでいる。破片のため詳細不詳。	—
523-19 235	鉄 器 不詳	表土 先端欠損	幅 1.1 重 4.2	— —	— —	全体に錆化が著しい。調査後の欠損も著しい。形状は棒状の製品を熱により折り曲げている。	—
524-1 222	石造 品	田圃 破片	長 (15.0) 幅 (13.2) 厚 (10.4)	角閃石安山岩	— —	国分寺の堂宇の基礎化粧に用いられたと考えられる。3面に加工面が残存する。	—
524-2 235	土製 品 土 罎	表土層 片	長 (4.6) 幅 2.1	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰 橙	紡錘形状を呈し中央を穿孔する。	重15.1g
524-3 235	土製 品 土 罎	4溝 筒形	長 3.2 狭 1.8 広 2.4	細粒砂	酸化焰 橙	小形の帯車形耳検と考えられる。両端に渦巻文を施す。	—
524-4 235	土 製 覆土内 完存	48住 覆土内 完存	厚 0.9	細粒砂	酸化焰 橙 黄橙	瓶断片の縁辺を丁寧に磨き加工している。	—

遺物一覧表

524-5 235	土製 円盤	83住 覆土内 完存	厚 0.6	細粒砂	酸化焰	橙	懸垂文と地文(縄文LR)部の破片を転用し、 縁辺を加工する。	—
524-6 235	土製 円盤	1溝 完存	厚 0.8	細粒砂	酸化焰	橙	懸垂文と縄文(LR)部片を転用し、縁辺を 加工している。	—
524-7 235	須恵器 転用円盤	表土 完存	厚 0.8	白色微粒子	還元焰	灰	器種不明、縁辺を磨き加工している。	不詳
524-8 235	須恵器 転用円盤	表土 完存	厚 1.2	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	須恵器大甕の割破片を転用する。	栗原系
524-9 235	土製 円盤	85住 覆土内 完存	厚 1.1	細粒砂	酸化焰	黄橙	無文部片を転用し縁辺を加工している。	—
524-10 235	土師器 不詳	皿層 破片	□ (4.2)	赤褐色粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	紐作成形。内外面は撫で整形。	不詳
524-11 222	石製品 不詳	皿層 完存	長 幅 厚 3.3 4.3 0.6	頁岩	—	—	割片状の石片を用いる。縁辺を磨き、平面磨 いているが、全体に粗雑である。	縄文時代の 所産か
524-12 235	施軸磁器 白磁 環	1溝 破片	—	密	良好	白	口縁部は平縁で口唇部はやや尖っている。軸 調はやや陰沈に傾く。気泡は内腹では認めら れない。近世の可能性はある。	—
524-13 235	施軸陶器 灰 軸 環	覆土内 破片	底 (6.4) 高 (0.9)	やや粗い	良好	灰白	輪軸成形(右回転)。施軸は浸掛りか。	—
524-14 235	施軸陶器 灰 軸 環	1溝 破片	—	やや密	良好	灰	輪軸成形(右回転)。施軸は浸掛り。	—
524-15 235	施軸陶器 灰 軸 壺	皿層 破片	—	やや密	良好	灰褐	紐作り後輪軸整形(右回転)。	—
524-16 235	施軸陶器 緑 軸 環	1溝 破片	底 (7.2)	密	硬	灰	輪軸成形(右回転)。付高台。軸調は狭く薄い。	—
524-17 235	施軸陶器 灰 軸 環	1溝 破片	—	密	良好	灰	輪軸成形(右回転)。付高台。施軸は浸掛り。	—
524-18 235	土師器土 器 皿 (カワラ テ)	表土 片	□ (7.0) 底 高 4.0 1.8	白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	輪軸成形(左回転)、底部は回転糸切り。	15世紀 在地系
524-19 235	石製品 石 白 (下 白)	A区内 破片	□ (31.3) 高 (4.9)	粗粒安山岩	—	—	下白のはんざり部分。敲打整形後研ぎ整形を している。	—
524-20 235	軟質陶器 内耳 鍋	表土 破片	□ (31.8)	白色微粒子 透明鉱物粒子	還元焰	オリ ブ黒	紐作り後輪軸整形(左回転)。	在地系
525-1 235	軟質陶器 鉢	表土 破片	□ (29.4)	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	灰オリ ブ	紐作り後輪軸整形(左回転)。	在地系
525-2 235	軟質陶器 鉢	107住 覆土内 破片	□ (29.8)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後輪軸整形(左回転)。	在地系
525-3 235	軟質陶器 撰 鉢	表土 破片	□ (32.6)	黒色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰オリ ブ	紐作り後輪軸整形(左回転)。	在地系
525-4 235	軟質陶器 撰 鉢	72住 破片	□ (36.8)	白色微粒子 赤褐色粒子	還元焰	鈍褐	紐作り後輪軸整形(左回転)。	在地系
525-5 222	—	—	—	—	—	—	—	重8200g
525-6 222	土製品 不詳	不明 ほぼ完形	上開径2.2 最大径4.9 高 5.4	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙 黄橙	下膨れ状の球体を呈し、上面が平坦になって いる。この上面から、球体の中心まで孔を有 する。分割(おもり)の可能性はある。	孔径8.0 重116g

B区外

押印番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	産目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼色	色調	輪形・技法等の特徴	備考
506-1 236 瓦-743	瓦 殿瓦	皿層 破片	—	白色微粒子 透明鉱物粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は御遠藤南文復弁8葉蓮華文瓦であり、 太田市寺井南寺の瓦と考えられる。	太田系

B 区 外

526-2 236 瓦-744	瓦 破片	5トレンナ	—	白色微粒子	中性焰	黄灰	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。一本作り。	笠懸系
526-3 236 瓦-745	瓦 破片	田圃	厚 1.3	白色微粒子	還元焰 熱線	暗灰	1本作り、瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。国分寺創建統一意匠。	笠懸系
526-4 236 瓦-746	瓦 破片	表土	1.7	白色微粒子	還元焰	黄橙	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文と考えられる。	笠懸系
526-5 236 瓦-747	瓦 破片	B区内	—	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は山王秋間系復弁7葉蓮華文の抽象化した意匠。	秋間系
526-6 236 瓦-748	瓦 破片	表土	—	白色微粒子	還元焰	白灰	瓦当意匠は不詳。	秋間系
526-7 236 瓦-749	瓦 破片	表土	—	白色鉱物粒子	中性焰	黄灰	一本作り。単弁4葉蓮華文。中房の子葉は舟の中央に焦点を配する。	吉井系
526-8 236 瓦-750	瓦 破片	B区内	—	白色鉱物粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁8葉蓮華文。中房の子葉は1+4。	吉井系
526-9 236 瓦-751	瓦 破片	B区内	—	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一本作り。瓦当意匠は不詳。	吉井系
526-10 236 瓦-752	瓦 破片	表土	—	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一本作り。単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+4。	吉井系
526-11 236 瓦-753	瓦 破片	田圃	厚 1.6 (女瓦部)	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	一本作り。瓦当意匠は単弁5葉蓮華文か。	吉井系
526-12 236 瓦-754	瓦 破片	田圃	—	白色鉱物粒子	還元焰	褐灰	一本作り。瓦当意匠は単弁4葉蓮華文。	吉井系
526-13 236 瓦-755	瓦 破片	田圃 男瓦部欠損	直径 15.3	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一本作り。瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。	吉井系
526-14 236 瓦-756	瓦 破片	表土	厚 1.8	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一本作り。瓦当意匠は単弁4葉。	吉井系
526-15 236 瓦-757	瓦 破片	田圃	厚 2.5	白色鉱物粒子	還元焰	灰	単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+4。一本作り。	吉井系
526-16 236 瓦-758	瓦 破片	表土	—	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一本作り。瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。	吉井系
526-17 236 瓦-759	瓦 破片	表土	厚 1.7	黒色粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	一本作り。瓦当意匠は単弁5葉蓮華文と考えられる。男瓦部は半軸作り。	吉井系
526-18 236 瓦-760	瓦 破片	2号溝	厚 1.6	白色鉱物粒子	還元焰 熱線	灰	単弁8葉蓮華文。内区全体の内置きがやや高い。	吉井系
526-19 236 瓦-761	瓦 破片	田圃	—	白色鉱物粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁8葉蓮華文。背面は鏡面で整形。	吉井系
526-20 237 瓦-762	瓦 破片	表土	—	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁8葉蓮華文。中房の子葉は1+4。	吉井系
526-21 237 瓦-763	瓦 破片	1号土坑	—	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	一本作り。瓦当意匠は単弁8葉蓮華文。	吉井系

遺物一覧表

526-22 237 瓦一764	瓦 破片	38-B-30	—	白色鉱物粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁 8 葉蓮華文。瓦当部は印籠付。	吉井系
527-1 237 瓦一765	瓦 破片	表土	—	白色粒子	還元焰	灰	一本作り。瓦当意匠は単弁 5 葉蓮華文。弁間に珠点を配す。	吉井系
527-2 237 瓦一766	瓦 破片	田層	—	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一本作り。瓦当意匠は単弁 4 葉蓮華文。中房は珠点中房。	吉井系 瓦一98と 同値か。
527-3 237 瓦一767	瓦 破片	表土	—	白色鉱物粒子	中性焰	黄灰	一本作り。単弁 6 葉蓮華文。中房は珠点中房。	吉井系
527-4 237 瓦一768	瓦 破片	表土	—	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一本作り。単弁 4 葉蓮華文。中房の子葉は 4。	吉井系
527-5 237 瓦一769	瓦 破片	表土	—	白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	一本作り。単弁 4 葉蓮華文。中房は珠点中房。弁間に珠文を配する。	吉井系
527-6 237 瓦一770	瓦 破片	表土	—	黒色粒子 シルト粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁 6 葉蓮華文と考えられる。	吉井系
527-7 237 瓦一771	瓦 破片	IV-B-34	—	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一本作り。瓦当意匠は不詳。	不詳
527-8 237 瓦一772	瓦 破片	35-B-86	厚 1.2	白色微粒子	還元焰	灰	一本作り。瓦当意匠は不詳。	笠懸系
527-9 237 瓦一773	瓦 破片	B区表土	—	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一本作り。瓦当意匠は不詳。	不詳
527-10 237 瓦一774	瓦 破片	表土	—	白色鉱物粒子	中性焰	黄灰	瓦当意匠は不詳。	吉井系
527-11 237 瓦一775	瓦 破片	47-B-42	—	白色鉱物粒子	還元焰	灰	意匠は不詳。	吉井系
527-12 237 瓦一776	瓦 破片	覆土内	—	白色鉱物粒子	還元焰	灰	龍瓦の瓦当部と男部のおさめの粘土。	吉井系
527-13 237 瓦一780	瓦 破片	5号井戸	—	白色微粒子 透明鉱物粒子	還元焰	白灰	瓦当意匠は飛雲文。外区に珠文を配する。	笠懸系
527-14 237 瓦一781	瓦 破片	表土	高 4.0	白色微粒子 透明鉱物粒子	酸化焰 か	鈍褐	右兩行唐草文。国分寺創建統一意匠。女瓦部は一枚作りか。凹面布目磨り消し。	笠懸系
527-15 瓦一782	瓦 破片	35-B-36	厚 2.6	白色粒子 細粒砂	還元焰	灰白	国分寺創建統一意匠。右兩行唐草文を意匠とし、外区に珠文を配す。	笠懸系
527-16 237 瓦一783	瓦 破片	表土	厚 2.2	白色微粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は右兩行唐草文。瓦当部は印籠付。女瓦部は一枚作り。	笠懸系
527-17 238 瓦一784	瓦 破片	表土	厚 2.8 幅 4.8	白色粒子	還元焰 焼締	灰	右兩行唐草文。凹面布目磨り消し。凸面龍位の底縁で整形。	笠懸系
527-18 237 瓦一785	瓦 破片	表土	—	白色微粒子	中性焰	鈍黄橙	瓦当意匠は右兩行唐草文。	笠懸系
527-19 237 瓦一786	瓦 破片	田層	厚 2.5	白色鉱物粒子	酸化焰 か	黄橙	右兩行唐草文。国分寺創建統一意匠。頸は段頸。凹面布目磨り消し。	笠懸系

B 区 外

527-20 238 瓦一787	瓦 宇	表土 破片	高 (5.4)	白色微粒子	還元焰	灰	右縦行唐草文。内置きが浅い。	笠懸系
527-21 238 瓦一788	瓦 宇	表土 破片	厚 2.3	白色微粒子	酸化焰 か	鈍橙	還元不評。女瓦部は1枚作り。凹面布目摺り消し。	笠懸系
528-1 238 瓦一789	瓦 宇 瓦	表土 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠は不評。	笠懸系
528-2 238 瓦一790	瓦 宇 瓦	B 5 井戸 破片	—	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は右縦行唐草文か。額は段額。	吉井系
528-3 237 瓦一791	瓦 宇 瓦	B区内 破片	—	黒色粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠は不評。范型の木目が顕著。	笠懸系か
528-4 238 瓦一792	瓦 宇 瓦 か	表土 破片	—	シルト粒子	還元焰	灰白	宇瓦の頸部の剝脱部分と考えられる。女瓦部は凸面平行印き。	秋間系
528-5 238 瓦一793	瓦 宇 瓦	40-B-32 田層土 破片	—	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠は不明。女瓦部を欠損する。	吉井系か
528-6 238 瓦一794	瓦 宇 瓦	44-B-35 田層 破片	厚 1.4	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は重瓣文。女瓦部は一枚作りか。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
528-7 238 瓦一795	瓦 宇 瓦	1号溝 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	瓦当意匠は唐草文の抽象文。女瓦部は横巻き造りか。	吉井系
528-8 238 瓦一796	瓦 宇 瓦	B区内 破片	厚 3.0	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰 焼締	灰	瓦当意匠は重瓣文。瓦当接合部は字付。女瓦部は横巻き造り。凸面縦位の撫で整形。側部取取り2回。	吉井系
528-9 238 瓦一797	瓦 宇 瓦	B区内 破片	厚 2.7	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は重瓣文。女瓦部は一枚作りか。側部取取り2回。	吉井系
528-10 238 瓦一798	瓦 宇 瓦	表土 破片	厚 2.6	白色微粒子	還元焰 焼締	灰	瓦当意匠は重瓣文。頸部に赤色顔料が付着。女瓦部は一枚作りか。粘土板刺ぎ取り痕。	吉井系
528-11 238 瓦一799	瓦 宇 瓦	表土 破片	厚 2.1	白色微粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は重瓣文。女瓦部は一枚作り。側部取取り2回。	吉井系
528-12 238 瓦一800	瓦 宇 瓦	表土 細片	—	白色粒子 白色微粒子	還元焰	褐灰	宇瓦の頸部の細片。瓦当意匠不評。	吉井系
528-13 238 瓦一801	瓦 宇 瓦	表土 細片	—	白色微粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠不評。	吉井系
528-14 238 瓦一778	瓦 體 瓦	B区内 細片	—	白色微粒子 白色粒子	中性焰	灰褐	単弁系の瓦当意匠と考えられる。	吉井系
528-15 238 瓦一683	瓦 體 瓦	A区1号 井戸 破片	厚 2.2	白色微粒子	還元焰	灰	因分寺創建統一意匠。単弁5葉唐草文。背面撫で整形。	笠懸系
528-16 238 女	瓦 女 瓦	B区試掘 トレンチ 破片	厚 1.3	白色微粒子 白色粒子	酸化焰	黄橙	作り不評。凸面米格子印き。凹面縦位の荒撫で。	吉井系
528-17 238 瓦一742	瓦 女 瓦	僧寺南門 附近破片	厚 2.1	白色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。刻印文字瓦「子・二」(凸面)。	笠懸系
529-1 239 瓦一779	瓦 體 瓦	表土層 細片	—	白色粒子	酸化焰	赤褐	瓦当意匠は不評。背面は布目、布目の状態から一本作りと考えられる。	吉井系

遺物一覧表

529-2 瓦-803	瓦 宇瓦	43-B-37 III層 破片	厚 2.8	白色微粒子	還元焰	灰	右肩行唐草文。函分寺創建統一意匠。女瓦部は一枚作り。凹面布目磨り消し。凸面縦位の寛撫で整形。	笠懸系
529-3 239 瓦-804	瓦 宇瓦	調査区内 破片	厚 2.6	白色微粒子	還元焰	灰	右肩行唐草文。外区に珠文を配する。女瓦部は一枚作り。凹面粘土板斜取り3回。側部面取り3回。	笠懸系
529-4 239 瓦-802	瓦 宇瓦	B区内 瓦当面破 片	—	白色微粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は飛雲文である。残存部の断面は粘土粗の単位で割裂している。	笠懸系
529-5 239	瓦 玉縁付	B区内 破片	厚 1.2	白色鉱物粒子 デイスایت	還元焰	灰	半載作り。凹面粘土板斜ざ取り。凸面縦位整形。側部面取り2回・端部面取り3回。玉縁接合はA類。	吉井・藤 岡系
529-6 239	瓦 男瓦	40-B-29 III層 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰 焼締	灰	半載作り。凸面脚印き(密)縦位の寛撫で整形。側部面取り3回・端部面取り2回。玉縁接合はA類。	吉井系
529-7 239	瓦 玉縁付	II層 破片	厚 2.4	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰 焼締	灰	半載作り。凸面脚印き(密)縦位整形。側部面取り2回。玉縁接合はA類。	吉井系
529-8 239	瓦 男瓦	46-B-32 破片	厚 1.8	白色微粒子	還元焰 焼締	灰	半載作り。凸面正格子印き。側部面取り3回・端部面取り3回。	兼附系
529-9 239	瓦 男瓦	A区表土 細片	厚 1.3	細粒砂	還元焰	灰黄	半載作り。凸面斜格子印き。	不詳
530-1 239	瓦 女瓦	表土 破片	厚 1.7	白色微粒子	還元焰	灰褐	一枚作り。凸面粘土板斜ざ取り・斜格子印き。側部面取り1回・端部面取り1回。側部噴出し段有り。	秋間系
530-2 239	瓦 女瓦	表土 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凸面平行印き。	兼附系
530-3 239	瓦 女瓦	46-B-32 破片	厚 1.3	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面正格子印き。側部面取り2回。	兼附系
530-4 239	瓦 女瓦	III層 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面本目印き。端部面取り1回。	吉井系
530-5 239	瓦 女瓦	B区内土 坑破片	厚 1.5	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り。印き整形(外面平行印き・内面瓦具は背面波文)側部面取り1回。	吉井系
530-6 239	瓦 女瓦	表土 破片	厚 1.7	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凸面脚印き。	笠懸系
530-7 239	瓦 女瓦	表土 破片	厚 1.8	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凸面平行印き。側部面取り2回。	笠懸系
530-8 239	瓦 女瓦	III層 破片	厚 1.9	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凹面粘土板斜ざ取り。凸面縦位の撫で整形後斜格子印き。側部面取り3回・端部面取り2回。	笠懸系
530-9 239	瓦 女瓦	II層 破片	厚 1.8	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰 か二次 焼成	鈍橙	一枚作り。凹面布目磨り消し。凸面撫で整形後斜格子印き整形。側部面取り2回・端部面取り2回。	笠懸系
531-1 240	瓦 女瓦	III層 破片	厚 2.5	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	桶巻き造りか。凹面粘土板斜ざ取り。凸面縦位整形後斜格子印き。側部面取り3回・端部面取り1回。	不詳
531-2 240	瓦 女瓦	46-B-42 II層 破片	厚 1.1	白色微粒子 透明鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目磨り消し。凸面粘土板斜ざ取り。斜格子印き整形後脚印き(密)。側部面取り2回・端部面取り2回。	笠懸系
531-3 240	瓦 女瓦	B区内 破片	厚 2.3	白色粒子 白色微粒子	還元焰 焼締	灰	桶巻き造り。凹面横背旗。凸面脚印き。側部面取り3回・端部面取り1回。	北毛系
531-4 240 瓦-677	瓦 男瓦	45-B-40 II層 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 白色粒子 透明鉱物粒子	還元焰 焼締	灰	半載作り。凸面自然釉付着。側部面取り4回。寛撫き文字瓦不詳(凸面)。	兼附系
531-5 240 瓦-678	瓦 女瓦	表土 破片	厚 1.6	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面脚印き(密)。寛撫き文字瓦「大か木カク」(凹面)。	秋間系
531-6 240 瓦-679	瓦 女瓦	II層 破片	—	白色微粒子 黒色粒子	還元焰 焼締	灰	一枚作り。凸面脚印き(密)。寛撫き文字瓦「大か木」(凹面)。	秋間系
531-7 240 瓦-680	瓦 女瓦	B区内 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰 焼締	灰	一枚作りか。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回・端部面取り3回。寛撫き文字瓦「入」(凸面)。	兼附系

531-8	瓦	表土 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子 白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	明黄橙	一枚作り。凹面縦位の撫で整形(布目押り消し)。凸面縦位の撫で整形。側面取付4回・端部面取付3回。凸面篆書文字(不詳)。	吉井系
531-9 240 瓦-681	瓦	表土 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側面取付1回。篆書文字瓦「長一」(凸面)。	吉井系
532-1 240 瓦-682	瓦	田層 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	一枚作りか。凸面縦位の撫で整形。篆書き文字瓦「子」(凸面)。	吉井・藤 岡系
532-2 240 瓦-683	瓦	表土 破片	厚 2.0	白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。両面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。篆書き文字瓦「織」か(凸面)。	吉井系
532-3 240 瓦-684	瓦	38-B-30 田層 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。篆書き文字瓦「織」(凸面)。	吉井系
532-4 240 瓦-685	瓦	40-B-42 田層 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子 透明鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰褐	一枚作りか。凸面縦位の撫で整形。篆書き文字瓦「織」(凸面)。側面取付2回。	吉井系
532-5 240 瓦-686	瓦	B区5井 戸 破片	厚 2.8	白色鉱物粒子 白色粒子 アイサイト	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側面取付3回。篆書き文字瓦「尾か尾」(凸面)。	吉井・藤 岡系
532-6 240 瓦-687	瓦	41-B-42 田層 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰 焼結	暗灰	一枚作り。凸面不定方向の撫で整形。篆書き文字瓦「暮」(凸面)。	吉井・藤 岡系
532-7 241 瓦-688	瓦	B3井戸 瓦	厚 2.2	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	平載作り。凸面篆書き文字「武」。側面取付3回・端部面取付2回。	吉井系
532-8 240 瓦-689	瓦	田層 破片	厚 1.2	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側面取付3回。篆書き文字瓦「力」(凸面)。	吉井系
533-1 241 瓦-690	瓦	表土 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子	酸化焰 か二次 焼成	鈍橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。篆書き文字瓦「大」(凸面)。	吉井系か
533-2 241 瓦-691	瓦	田層 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	平載作り。凸面縦位の撫で整形。篆書き文字瓦「下」(凸面)。	吉井系
533-3 241 瓦-692	瓦	田層 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。両面粘土板剥ぎ取り痕。端部面取付2回。篆書き文字瓦「十」(凸面)。	吉井系
533-4 241 瓦-693	瓦	田層 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子 黒色粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。端部面取付1回。両面自然釉付着。篆書き文字瓦「十」(凸面)。	吉井系
533-5 241 瓦-694	瓦	表土 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰 焼結	灰	細作り。凸面縦位の撫で整形。側面取付2回。篆書き文字瓦「見か」(凸面)。	吉井系
533-6 241 瓦-695	瓦	田層 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子 白色粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。篆書き文字瓦「真」(凸面)。	吉井系
533-7 241 瓦-696	瓦	表土 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子 アイサイト	酸化焰	黒褐	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。端部面取付1回。篆書き文字「山」。	吉井・藤 岡系
533-8 241 瓦-697	瓦	表土 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側面取付3回・端部面取付3回。篆書き文字瓦「山」(凸面)。	吉井・藤 岡系
533-9 241 瓦-698	瓦	表土 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	褐灰	一枚作り。凸面木目叩き。側面取付4回。篆書き文字「山」。	吉井系
533-10 241 瓦-699	瓦	田層 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。篆書き文字瓦「入」(凹面)。	吉井系

遺物一覧表

S34-1 241 瓦-700	瓦 女 瓦	表土 破片	厚 1.2	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	補修き造りか。凹面横脊痕・粘土板剥ぎ取り 痕。凸面縦位の撫で整形。寛播き文字瓦「見 か兎」(凸面)。	吉井系
S34-2 241 瓦-701	瓦 女 瓦	近世島状 破片	厚 2.7	白色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位 の撫で整形。側部面取り4回・端部面取り2 回。	吉井系
S34-3 241 瓦-702	瓦 男 瓦	41-B-42 II層 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凸面縦位。側部面取り1回。 寛播き文字瓦「風」(凸面)。	吉井系
S34-4 242 瓦-703	瓦 女 瓦	II層 破片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。寛播き文字 瓦不詳(凹面)。	笠懸系
S34-5 242 瓦-704	瓦 女 瓦	II層 破片	—	白色微粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	黒褐	一枚作りか。寛播き文字瓦か窪傷(凹面)。	笠懸系
S34-6 241 瓦-705	瓦 女 瓦	II層 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子 白色微粒子 透明鉱物粒子	還元焰	黄灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り 3回。窪播き文字瓦「力」(凸面)。	笠懸系
S34-7 241 瓦-706	瓦 女 瓦	B区内 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面縦位の窪播で整形。窪播き文 字瓦不詳(凸面)。	吉井系
S34-8 241 瓦-707	瓦 女 瓦	表土 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子 透明鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凸面斜位の撫で整形。寛播き文 字瓦「日か」(凸面)。	吉井系
S34-9 241 瓦-708	瓦 男 瓦	表土 破片	厚 1.5	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	半截作りか。寛播き文字瓦不詳(凸面)。	吉井系
S34-10 242 瓦-709	瓦 女 瓦	II層 破片	厚 1.8	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	一枚作りか。寛播き文字瓦不詳(凸面)。	吉井・藤 岡系
S34-11 242 瓦-710	瓦 女 瓦	II層 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	一枚作りか。凸面撫で整形。寛播き文字瓦不 詳(凸面)。	吉井系
S34-12 242 瓦-711	瓦 女 瓦	35-B-32 II層 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 白色粒子 アイサイト	中性焰 か二次 焼成	灰	一枚作りか。凸面縦位の撫で整形。窪播き文 字瓦不詳(凹面)。	吉井・藤 岡系
S34-13 242 瓦-712	瓦 女 瓦	表土 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作りか。凸面縦位の撫で整形。窪播き文 字瓦「日か」(凸面)。	吉井系
S34-14 242 瓦-713	瓦 女 瓦	II層 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 微粒雲母 白色粒子	還元焰	淡黄橙	一枚作りか。凸面斜位の撫で整形。側部面取 り2回。窪播き文字瓦か(凸面)。	吉井系
S35-1 242 瓦-714	瓦 女 瓦	42-B-33 II層 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位 の撫で整形。窪播き文字瓦不詳(凸面)。	吉井系
S35-2 242 瓦-715	瓦 女 瓦	40-B-29 II層 破片	厚 2.8	白色鉱物粒子 アイサイト	酸化焰	黄橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り 3回・端部面取り2回。凸面窪記号。	吉井・藤 岡系
S35-3 242 瓦-716	瓦 男 瓦	B区内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	褐	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り 3回。窪播き文字瓦か窪傷(凸面)。	吉井系
S35-4 242 瓦-717	瓦 女 瓦	表土 破片	厚 1.8	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面不定方向の撫で整形。側部面 取り2回。窪播き文字瓦不詳(凸面)。	吉井系
S35-5 242 瓦-718	瓦 女 瓦	II層 破片	厚 1.4	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	鈍黄橙	一枚作りか。凸面縦位の撫で整形。端部面取 り2回。窪播き文字「不詳」。	吉井・藤 岡系
S35-6 242 瓦-719	瓦 女 瓦	II層 破片	厚 2.1	白色微粒子	還元焰 焼締	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し・粘土板剥ぎ取 り痕。凸面圓印。端部面取り2回。	笠懸系

B 区 外

535-7 242 瓦一720	瓦 男 瓦	30-B-35 表土 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰 焼締	暗灰	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側面取り 3回。寛播き文字か彫記号(凸面)。	吉井系
535-8 242 瓦一721	瓦 男 瓦	表土 破片	厚 2.0	白色鉱粒子	還元焰 焼締	暗灰黄	半截作り。凸面縦位の撫で整形。凹面縦位の 寛撫で整形。端部面取り2回。	東附系
535-9 242 瓦一722	瓦 男 瓦	B区内 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縦線・寛播き文字「不詳」。	吉井系
535-10 242 瓦一723	瓦 女 瓦	田層 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰 焼締	暗灰	一枚作りか。凸面撫で整形。寛播き文字瓦不 詳(凸面)。	吉井系
535-11 242 瓦一724	瓦 女 瓦	B区内 破片	厚 2.0	白色鉱粒子	還元焰	灰	横巻き造りか。凸面縦位の撫で整形。凸面縦 線整形。寛播き文字か寛傷(凸面)。	東附系
535-12 242 瓦一725	瓦 女 瓦	田層 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。寛播き文字 瓦不詳(凸面)(二文字以上)。	吉井系
535-13 242 瓦一726	瓦 女 瓦	B区内 破片	厚 1.7	白色粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	新・燈 外・黒灰	一枚作り。凸面縦叩き後撫で整形。寛播き文 字の寛傷(凸面)。	笠懸系
535-14 242 瓦一727	瓦 女 瓦	40-B-42 田層 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。端部面取り 3回。寛播き文字瓦不詳(凸面)。	吉井系
535-15 242 瓦一728	瓦 女 瓦	表土 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	作り不詳。寛播き文字か寛傷(凸面)。	吉井系
535-16 242 瓦一729	瓦 女 瓦	表土 破片	厚 3.0	白色鉱物粒子 ダイヤモンド	酸化焰	橙	一枚作りか。凹面布目撫で消し。凸面縦位の 撫で整形。寛播き文字瓦か(凸面)。	吉井系
536-1 243 瓦一730	瓦 女 瓦	43-B-37 破片	厚 2.6	白色鉱粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凸面叩き整形。刻印文字瓦「勢」 (凸面)。凸面粘土板割ぎ取り痕。	笠懸系
536-2 242 瓦一731	瓦	田層 破片	厚 1.4	白色鉱粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し・粘土板割ぎ取 り痕・彫記号。凸面斜格子叩き。	笠懸系
536-3 242 瓦一732	瓦 女 瓦	43-B-37 破片	厚 2.3	白色鉱粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面正格子叩き。刻印文字瓦「藤 田」(凸面)。	笠懸系
536-4 242 瓦一733	瓦 女 瓦	表土 破片	厚 2.1	白色鉱粒子	還元焰	灰黄	一枚作り。凸面正格子叩き。刻印文字瓦「藤 田」(凸面)。	笠懸系
536-5 242 瓦一734	瓦 女 瓦	表土 破片	厚 1.6	白色鉱粒子	中性焰 か	外・灰 新・黄 黄橙	一枚作り。凹面布目擦り消し。刻印文字瓦「佐 位」(凸面)。	笠懸系
536-6 243 瓦一735 瓦一736	瓦 女 瓦	表土 破片	厚 2.2	白色鉱粒子	酸化焰 か	黄橙	一枚作り。寛播き文字瓦「井」(凹面)。刻印 文字瓦「山田」(凸面)。	笠懸系
536-7 243 瓦一737	瓦 女 瓦	表土 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子	酸化焰 か	橙	一枚作り。凹面の布目は非常に細かい。刻印 文字瓦「多・大」(凸面)。	吉井系
536-8 243 瓦一738	瓦 女 瓦	B区内 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。刻印文字瓦「方」(凸面)。凸面縦 位の撫で整形。側面取り1回。	吉井系
536-9 243 瓦一739	瓦 女 瓦	B区内 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凸面縦播き文字「大」と刻印文 字「露」。	吉井・藤 岡系
536-10 243 瓦一740	瓦 女 瓦	表土 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子 白色粒子 微粒霞母	酸化焰	鈍黄橙	一枚作りか。寛播き文字瓦「山」(凸面)。端 部面取り3回。	吉井系

遺物一覧表

536-11 243 瓦一741	瓦 男 瓦	表土 瓦	厚 1.9	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焙 気味	鈍褐	半鏡作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り 2回・端部面取り2回。凹面粘土板剥ぎ取り 痕。	吉井系
536-12 243 瓦一777	瓦 雌 瓦	田層 破片	—	白色微粒子	還元焙 焼締	暗灰	単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+5。一本 作り。	笠懸系
537-1 243 瓦一805	瓦 雌 瓦	埋土内 破片	厚 1.3	白色微粒子	還元焙	暗灰	複弁七葉蓮華文の抽象意匠の細片である。	秋間系
537-2 瓦一806	瓦 雌 瓦	覆土内 瓦	厚 1.5	白色微粒子	還元焙	黒灰	単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+5。同范 の発存例は希少。	笠懸系
537-3 瓦一807	瓦 雌 瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焙	暗灰	単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+5。	笠懸系
537-4 瓦一808	瓦 雌 瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色微粒子	還元焙	暗灰	瓦当意匠は単弁五葉蓮華文。	笠懸系
537-5 瓦一809	瓦 雌	フク土 30-B-38 田層 破片	—	白色微粒子	還元焙	灰	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。中房の子葉は 1+5。瓦当面自然輪付着。	笠懸系 B一弁 22094と 接合
537-6 243	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 デイスait	酸化焙 か二次 焼成	鈍橙	101図-4・5の接合したもの。	吉井系
537-7	瓦 玉縁付男 瓦	床直 瓦	厚 2.1	黒色粒子 白色粒子	還元焙	灰白	5-22-10・11の接合。	雷電山
538-1	瓦 男 瓦	覆土内 瓦	厚 2.0	黒色粒子	還元焙	灰	23図-1・22図-12の接合。	笠懸系 (雷電山 か)
538-2 244	瓦 男 瓦	床直 一部欠損	長 42.5 幅 15.8 広 17.2	白色鉱物粒子	還元焙	暗灰	24図-1と接合。	吉井系
539-1 瓦一573	瓦 男 瓦	カマド内 一部欠損	長 34.0 幅 16.6 広 18.8	白色鉱物粒子	還元焙	暗灰	22図-9の接合図。	吉井系
539-2	瓦 女 瓦	床直 瓦	厚 1.4	黒色粒子 白色粒子	還元焙	灰	25-3と図上復元。	笠懸系
540-1 244	瓦 女 瓦	床直 瓦	長 41.8 厚 2.1	白色微粒子	酸化焙 か二次 焼成	鈍橙	27図-5・26図-4・5の接合図。	笠懸系
540-2	瓦 女 瓦	床直 瓦	厚 2.7	白色微粒子	酸化焙 か	暗橙	26図-1の接合図。	笠懸系
541-1 243	瓦 女 瓦	カマド内 瓦	厚 1.7					
541-2	瓦 女 瓦	床直層 瓦	厚 2.0	白色鉱物粒子 デイスait	還元焙	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。凹面粘土板 剥ぎ取り痕。側部面取り3回・端部面取り2 回。	吉井系
542-1	軟質陶器 襷 鉢	A区1号 溝 破片	長 30.0 厚 (5.2)	白色微粒子 赤褐色粒子	中性焙	褐灰	紐作り後縦線整形(左回転)。	栗附系か 藤岡系
542-2	軟質陶器 有孔盤形 鉢	A区1号 溝 破片	口 (30.6)	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焙	灰橙	紐作り後縦線整形(左回転)。口縁部に孔を有 し花菱の印刻文を挿除す。	栗附系か 藤岡系
542-3	軟質陶器 襷 鉢	A区1号 溝 破片	—	白色微粒子 白色鉱物粒子	酸化焙	橙	紐作り後縦線整形(左回転)。	藤岡系
542-4	軟質陶器 襷 鉢	A区1号 溝 破片	底 (10.0)	白色微粒子	中性焙	灰褐	紐作り後縦線整形(左回転)。	吉井・藤 岡系
542-5	軟質陶器 襷 鉢	A区1号 溝 破片	底 (5.0)	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焙	灰褐	紐作り後縦線整形(左回転)後露削りを施す。	栗附系か 藤岡系

B 区 外

542-6	施釉陶器 灰釉磁器	A区1号 溝 破片		やや粗い。	良好や や焼跡	灰	轆轤成形（右回転）。	瀬戸系
542-7	施釉陶器 鉄絵皿	A区1号 口 破片	□ (12.0) 底 (7.0) 高 (2.5)	やや軟質	良好	白	器面全体に長い轆を施す。見込みには鉄絵を 施す。	美野大塚
542-8	円 盤	A区1号 溝 完存	長 幅 厚 4.2 3.9 1.0	白色微物粒子 白色粒子	還元焰 焼跡	灰	常滑焼大塚の割部片を転用する。周辺を打ち 欠き成形。整形はなし。	常滑系
542-9	円 盤	A区1号 溝 完存	長 幅 厚 4.3 4.0 1.1	白色微粒子	還元焰	灰緑	軟質陶器内耳鍋の割部片を転用する。周辺を打ち 欠き成形。緑辺を磨き整形している。	栗射系か 藤岡系
542-10	円 盤	A区1号 溝 完存	長 幅 厚 3.8 4.0 1.1	白色微粒子 赤褐色粒子	中性焰	灰	軟質陶器摺鉢。底部片を転用。周辺を打ち欠 き成形。整形はなし。	栗射系か 藤岡系
542-11	須恵器 円 盤	A区1号 溝 完存	長 幅 厚 4.6 5.0 1.0	白色微粒子 微粒雲母	還元焰 焼跡	灰	須恵器割部片を転用する。周辺を打ち欠き成 形。整形はなし。	栗射系
542-12	瓦 製 円 盤	A区1号 溝 完存	長 幅 厚 5.5 5.0 1.3	白色微物粒子	細粒砂	黄緑	女瓦片を転用する。	吉井系
542-13	石 製 砥 石	A区1号 溝 完形	長 幅 厚 14.7 4.5 2.3	—	—	—	中央が高く、両端側が研減している。刀剣用 の手持砥か。	重280g
542-14	石 製 砥 石	A区1号 溝 破片	長 幅 厚 3.2 2.0	—	—	—	両側部に成形時の削り痕が残る。手持砥 か。	重60g
543-1	軟質陶器 鉢	A区1号 井戸 破片	□ 30.0	白色微粒子 赤褐色粒子	中性焰	外黒褐 新浅黄 橙	紐作り後轆轤整形（左回転）。	在地系
543-2	軟質陶器 鉢	A区1号 井戸 破片	□ 30.0	白色微粒子	中性焰	灰黄	紐作り後轆轤整形（左回転）。	在地系
543-3	軟質陶器 鉢	A区1号 井戸 破片	□ 31.0	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形（左回転）。	在地系
543-4	軟質陶器 鉢	A区1号 井戸 破片	□ 26.0	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形（左回転）。	在地系
543-5	軟質陶器 鉢	A区1号 井戸 破片	□ 28.0	白色微粒子 赤褐色粒子	中性焰	外黒褐 新浅黄 橙	紐作り後轆轤整形（左回転）。	在地系
543-6	軟質陶器 内 耳 鍋	A区1号 井戸 破片	底 22.0	白色微粒子	還元焰	黄緑	壺作り成形乃至紐作り。後轆轤整形（右回転）。	在地系
543-7	土 師 器 鉢	A区1号 井戸 破片	底 (14.0)	白色微粒子 細粒砂	中性焰	外黒褐 新浅黄 橙	轆轤成形（左回転）、底部は回転糸切り。	在地系
543-8	土師質土 器カワラ ケ 罌	A区1号 井戸 破片	底 5.2	白色微粒子	還元焰	浅黄橙	轆轤成形（右回転）、底部は回転糸切り。	在地系
543-9	石 製 摺 鉢	A区1号 井戸 破片	□ 37.0	粗粒安山岩	—	—	内面はよく磨減する。外面ははつきり成形後研 き整形を指している。	—
544-1 245	軟質陶器 内 耳 鍋	B区3号 井戸 破片	□ (28.0) 底 高 16.6 15.5	白色微粒子	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤整形（左回転）。底部は磨砂。	在地系
544-2 245	軟質陶器 摺 鉢	堀土内 B区3号 井戸 破片	□ (33.2) 底 高 (13.6) 13.8	白色微粒子 赤褐色粒子	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤整形（左回転）。	在地系

遺物一覧表

544-3	軟質陶磁鉢	B区1号溝破片	底 (12.0)	白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	紐作り後轆轤整形。	在地系
544-4	無軸陶磁燵	B区1号溝破片	厚 0.9	密	良女子	—	紐作り後轆轤整形。	—
544-5	石造品石凹	B区1号溝覆土内片	長 8.2 幅 11.0 厚 5.3	粗粒安山岩	—	—	地山粗粒質の礫の中央を凹ませる。	重 500.0g
544-6	石製品茶白	B区1号溝破片	—	粗粒安山岩	—	—	ハンギリ部分の破片。	—
544-7	金属製品鉄器	B区1号溝	—	—	—	—	断面三角形を呈する。腐蝕は不分明。	—
544-8	焼締陶磁大壺	B区1号溝破片	厚 0.9	白色微粒子	良好	茶褐	大壺の肩部分で、正格子の叩き板がある。	常滑系
545-1 245	土師質土器(カワラク)	B区3号土塚墓完形	口 15.4 底 8.6 高 3.1	白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(左回転)。目込み部に溝を施す。	—
545-2 245	磁器碗	B区20号土坑	口 9.8 底 3.2 高 3.9	密	良好	乳白	型作り。捺付けは梅花文で赤絵である。つばみのガタは刷毛を用いる。	瀬戸系
545-3 245	磁器そば盛口	B区酸乳片	口 7.8 底 5.4 高 6.0	密	良好	乳白	横間山水文を施し、口紅も施す。	瀬戸系
545-4	石製品鉢	B区20号土坑	口 (25.0)	粗粒安山岩	—	—	外面は突打ち整形後研いている。内面は使用に伴ない磨滅している。	—
545-5	石造品宝篋印塔基礎部	B区20号土坑	—	粗粒安山岩	—	—	高座部の部分は周縁を平ノミ状工具で区画して内側を彫り、研ぎ整形している。	—
545-6	鉄製品にぎり鉄	B区20号土坑	長 14.8	—	—	—	平分を欠損する。刃部の鈍は明瞭に認められる。	—
545-7	鉄製品火打金	B区20号土坑完存	長 (5.4)	—	—	—	木質は残存しない。	—
545-8	須恵器大壺	B区20号土坑破片	厚 1.0	黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は格子文)内面に磨滅する。	秋間系
545-9 245	軟質陶磁内耳鉢形土器	B区21号土坑破片	底 (15.0)	白色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。	近世
545-10	軟質陶磁香炉	B区61号土坑破片	厚 0.7	黒色微粒子 白色粒子	中性焰	灰黄	帯状に雷文を押捺陰文する。	—
545-11	焼締陶磁大壺	B区33号土坑	厚 0.9	白色微粒子	酸化焰	赤橙	紐作り成形。	常滑系
545-12	銅製品磨り金具か	B区土坑破片	厚 0.5~7 重 1.0	—	—	—	断面形状が台形状をなし、突出部が外面である。又、内外面に鉄錆が付着する。	—
545-13 245	軟質陶磁横木鉢	B区21号土坑破片	底 (6.0)	黒色微粒子 白色粒子 赤褐色粒子	中性焰	橙・灰	器内外面は轆轤整形。	小泉焼か
545-14	軟質陶磁燵	B区21号土坑破片	口 (28.0)	白色粒子	酸化焰	黄橙	底部は型作り成形。口縁部は紐作り後轆轤整形。	在地系
545-15	軟質陶磁燵	B区21号土坑破片	口 (30.0)	黒色微粒子 白色粒子	酸化焰	橙	545-14に同じ。	在地系

B 区 外

546-1 246	石製品 石 白 (赤白上 白)	C区表土 瓦	径 (19.8) 厚 13.3 ふくみ0.13	粗粒安山岩	—	—	目は6分割と考えられる。上面・側面は水研ぎ仕上げ。芯樁受部も全体に磨かれている。外面を著しく欠損する。	重 2,650g
546-2 246	石製品 石 白 (上 白)	C区4号 井戸 一部欠損	径 (26.6) 高 9.3 ふくみ0.4	粗粒安山岩	—	—	使用面は6分割に目が割れている。目は左回りである。	重 7,300g
546-3 247	石製品 上 白	C区礫石 破片	径 30.0 高 11.4 ふくみ0.35	粗粒安山岩	—	—	目は6分割と考えられる。ふくみは浅いが使用に伴なう「クセ」により底面が歪んでいる。	重 2,670g
546-4 247	石製品 石 白 (上 白)	C区表土 破片	径 35.4 高 9.2 ふくみ 0	粗粒安山岩	—	—	目は6分割と思われる。芯樁受の孔は遺存しない。下面中央は誘導孔の一部である。	重 2,100g
546-5 247	石製品 石 白 (上 白)	3-0-B 表土 破片	—	粗粒安山岩	—	—	上白の把手の装着部と考えられる。正面形は正方形状を呈する。加工面は遺存しない。人工的に破壊された可能性がある。	重400g
547-1 245	土製品 耳 性	B区155 号址 完形	長 3.4 幅 1.4 厚 1.2	黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍黄色	筒状を呈する。外面は線位の距離でを施す。	孔径0.5 cm
547-2 246	土器器 埴	A区148 号住 瓦	高 (3.0)	白色微粒子	酸化焰	明黄色	型作り乃至組作り成形。器内外面は撫で整形後風磨きを施す。	古墳時代 前期
547-3	鉄 器 紡 輪 車	D号1号 住	重 54.1	—	—	—	全体に錆化が顕著で器中央部は調査後の欠損により失なっている。棒軸は断面正方形に近い。	—
547-4	縄文土器 深 鉢	B区155 号土坑 破片	厚 1.4	白色粒子 赤褐色粒子 細粒砂	酸化焰	橙	胎帯区面に縄文R.Lを施す部分と研磨を施す部分がある。	—
547-5	須恵器 環	D区土坑 ほぼ完形	口 9.2 底 5.2 高 2.8	黒色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	縄轆成形（右回転）、底部は回転糸切り。	吉井・藤 岡系
547-6	須恵器 大 壺	覆土内 破片	厚 0.4 底 0.8	白色微粒子	還元焰	白灰	組作り。叩き整形（外面平行叩き・内面丸具は青海波文）。	秋岡系
548-1 246	土器器 環	B区3号 溝 完形	口 10.3 高 3.4	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍黄色	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は型削り。体部に型痕を残す。	藤岡系
548-2 246	須恵器 埴	B区3号 溝 瓦	口 13.6 底 6.4 高 4.5	白色微粒子	還元焰	鈍黄 色 瓦	縄轆成形（右回転）。付高台。	吉井系
548-3 246	須恵器 環	覆土内 B区3号 溝 瓦	底 (6.6)	白色微粒子 黒色粒子	中性焰	新・硝 外・硝 灰	縄轆成形（右回転）。	吉井系
548-4 246	土器器 壺	B区3号 溝 瓦	高 9.6	微粒雲母 白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	組作り成形後段削り整形。	藤岡系
548-5	須恵器 壺	B区3号 溝 破片	口 15.0	白色微粒子	還元焰	白灰	組作り。叩き整形（外面平行叩き・内面丸具は青海波文）後縄轆再整形。	秋岡系
548-6	須恵器 大 壺	B区3号 溝 破片	厚 0.8	白色微粒子	還元焰	新・硝 外・硝 灰	組作り。叩き整形（外面平行叩き・内面丸具は青海波文）。	藤岡系
548-7	須恵器 壺	B区3号 溝 破片	厚 0.7	白色微粒子	還元焰	新・硝 外・硝 灰	組作り。叩き整形（外面平行叩き・内面丸具は青海波文）後縄轆再整形。	藤岡系 548図-8 と同一制 体
548-8	須恵器 壺	B区3号 溝 破片	厚 0.7	白色微粒子	還元焰	新・硝 外・硝 灰	組作り。叩き整形（外面平行叩き・内面丸具は青海波文）後縄轆再整形。	藤岡系

遺物一覧表

548-9	須恵器 大 壺	B区3号 溝 破片	厚 0.8	白色微粒子	還元焰	新・常 外・常 灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面碗具は青海波文）。	乗附系
549-1	須恵器 大 壺	B区3号 溝 破片	厚 1.0	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面碗具は青海波文）。	乗附系
549-2	須恵器 大 壺	B区3号 溝 破片	厚 0.8	白色微粒子	還元焰	新・常 外・灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面碗具は青海波文）。	乗附系
549-3	石製品 砥 石	B区3号 溝 破片	厚 2.5	砂岩	—	—	大型の砥石と思われる。使用面は平砥ではない。裏砥と考えられる。	重120g
549-4	鉄 器 釘	覆土内 先端欠損	長 17.5 幅1.3~0.6 重 101.0	—	—	—	先端側が曲がり尖端部を欠損する。頭部のつよさは少なく、1回程度の使用が考えられる。	鍛造はやや雑
549-5 247	須恵器 火 舎	覆土内 破片	口 (18.2) 底 (16.4) 高 5.1	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	楕圓形（右回転）。体部に格子文等を寛幅さする。	秋田系か

B区住居追補

探検番号 図版番号	種 別	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 色	色 調	器 形 ・ 技法 等 の 特 徴	備 考
550-1	須恵器 高台付碗	B区51号 住 破片	底 (8.7)	黒色粒子	還元焰	灰	楕圓成形（右回転）。付高台。	乗附系
550-2 247	埴輪 緑 釉 埴 輪	B区51号 住 破片	厚 0.35	軟質	良好	浅黄	楕圓成形（右回転）。	—
550-3 249	滑石片	B区57号 住 破片	長 2.4 幅 1.6 厚 0.6	滑石	—	—	製品とは思われない。剥片状で断面を残している。	重1.2g
550-4 249	内黒土 環	B区61号 住 片	口 (11.6) 底 (7.0) 高 (4.3)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	外・橙 内・黒灰	成形不詳。器内面磨きを施し吸灰させている。	藤岡系
550-5 249	紡錘車 須恵器 転用	B区61号 住 完形	長 7.7 幅 7.4 厚 0.6	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	須恵器の底部を転用する。中央に孔を施し縁辺は磨き整形している。	孔径0.8cm 乗附系か
550-6	土 師 器 壺	B区73号 住 破片	底 (8.7)	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	紐作り成形。胴部は斜位の篋形。内面は縦位・斜位の寛幅で。	藤岡系
550-7 249	須恵器 埴 輪	B区78号 住 完形	口 13.2 底 8.4 高 6.4	白色微粒子 微粒雲母 黒色粒子	還元焰	灰	楕圓成形（右回転）。付高台。	吉井系
550-8	石製品 砥 石	B区77号 住 破片	重 690g	牛灰砂岩	—	浅黄	紙面は緩やかな曲面である。	—
550-9 249	須恵器 埴 輪	B区78号 住 破片	底 (7.8)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	楕圓成形（右回転）。付高台。	秋田系
550-10 249	土 師 器 小 型 壺	B区78号 住 破片	口 (12.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面側部は篋形、口縁部は横撫で、内面側部は寛幅で。	藤岡系
550-11 249	土 師 器 小 型 壺	B区78号 住 破片	口 (12.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁部内外面は横撫でを施す。	藤岡系
550-12 249	土 師 器 壺	B区78号 住 破片	口 (18.4)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面側部は篋形、口縁部は横撫で、内面側部は寛幅で。	藤岡系
550-13 249	土 師 器 壺	B区78号 住 破片	底 (6.0)	白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。外面は縦位の篋形。器面は寛撫後手等による横撫でを施す。	藤岡系

B区住居追補

551-1	磁 転用 磁	か 住 宛存	B区78号	厚	1.4	白色微粒子	還元焰	灰	須恵御大窯の転用。紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)。	秋間系
551-2	転用磁	か 住 破片	B区78号	厚	1.5	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	須恵御大窯の転用か?。紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)。	秋間系
551-3	磁 転用 磁	か 住 破片	B区78号	厚	1.5	白色微粒子	還元焰	灰	須恵御横袋の転用か。紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)。	秋間系
552-1	須恵 大 窯	器 住 破片	B区78号	厚	1.7	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	褐灰 灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。自然釉付着。	東海系か
552-2	鉄 器 小壺 状 鉄滓	器 住 破片	B区78号	厚	1.3	—	—	—	鉄滓の中では最小単位のものである。植物繊維は認められない。	重43.7g
552-3	鉄 器 不 詳	器 住 破片	B区78号	厚	0.5	—	—	—	同属及び個部の縁を欠損する。平たい棒状製品の断片と考えられる。鍛えは通有。	重9.8g
552-4	鉄 器 不 詳	器 住 破片か	B区78号	厚	1.0	—	—	—	断面正方形状を呈する。棒状製品とは考えられるが器種の特定は不能である。鍛えは通有。	重5.9g
552-5	鉄 器 不 詳	器 住 宛存	B区78号	厚	1.0	—	—	—	完存品であるが器種の特定は不能である。鍛えは通有であるが、比重はやや軽い。	重22.7g
552-6	鉄 器 不 詳	器 住 部分欠損	B区78号	厚	1.6	—	—	—	比重は軽い。先端部を欠損する。棒状製品と考えられるが不明。鍛えは軽い。	重12.5g
552-7	鉄 器 不 詳	器 住 破片か	B区78号	厚	1.1	—	—	—	棒状製品の端部断片である。鍛えは通有。	重18.5g
552-8	鉄 器 不 詳	器 住 宛存	B区78号	厚	1.4	—	—	—	断面長方形高調。釘の頭部側とも思われるが、胴部形態が異なる。	重14.9g
552-9	鉄 器 不 詳	器 住 一部欠損	B区78号	厚	1.1	—	—	—	比重は軽い。棒状製品であるが詳細不明。	重12.7g
552-10	鉄 器 不 詳	器 住 破片か	B区78号	厚	1.7	—	—	—	上端側は丸い棒状製品の断片か。鍛えは粗く、鍛目で割離する状である。	重34.5g
552-11 249	石製 紡 車	品 住 宛存	B区78号	長 幅 厚	5.1 5.1 1.5	蛇紋岩	—	—	器面全体に磨き整形の整形痕が多量に認められる。	重60g
552-12 249	灰 軸 須 虫 (首)	軸 住 破片	B区79号	口	(10.0)	白色微粒子	還元焰 焼締	灰	轆轤整形(右回転)。器内外面自然釉付着。	東海系か
552-13	須恵 器 窯	器 住 破片	B区85号	厚	0.7	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
552-14	須恵 大 窯	器 住 破片	B区86号	厚	1.0	白色微粒子	酸化焰 か	橙	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は背高側で整形)。	不詳
553-1	須恵 大 窯	器 住 破片	B区86号	厚	1.0	白色微粒子	酸化焰 か	橙	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)。	不詳
553-2	土師 器 窯	器 住 破片	B区87号	最径(29.9)		白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	紐作り成形乃至削作り成形。器外面は斜位の寛削り整形。器内面は無で整形。	藤岡系
553-3	須恵 大 窯	器 住 破片	B区87号	厚	1.6	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は背高素文)。	東海系か

遺物一覧表

554-1	須恵器 広口壺	B区89号 住 破片	底 (17.2)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後繼續整形 (右回転)。	吉井系
554-2	土師器 壺	B区90号 住 破片	底 (8.2)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	紐作り成形。外面は取位の直線で、内面は無整形を施す。	吉井系
554-3 249	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.2)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部・器内面は横線で、底部は寛削り。体部に型傷を施す。	藤岡系
554-4 249	須恵器 埴	覆土内 破片	底 (7.2)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	繼續成形 (右回転)。付高台。	秋間系
554-5	須恵器 内黒土器 壺	覆土内 破片	—	透明鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	外・黄褐色 内・黒	繼續成形 (右回転)。器内面は吸灰させ器内面に硝文を施す。	太田系か 笠懸系
554-6	須恵器 壺	B区92号 住 破片	厚 1.2	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	黒灰	10本1単位の枚状を廻らした後、2条の沈線を施す。紐作り後繼續整形 (右回転)。	兼附系
555-1	須恵器 壺	B区92号 住 破片	厚 1.4	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	兼附系
555-2	須恵器 大壺	覆土内 破片	厚 1.2	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	秋間系
555-3	須恵器 大壺	B区93号 住 破片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	東海系か
555-4	鉄器 ? 不詳	覆土内 充存	長 2.2 幅 0.6 厚 0.7	—	—	—	比重は軽い。法師鉄状である。	重1.4g
555-5	石製品 紡錘車	B区95号 住 ほぼ整形	上径 4.2 下径 2.7 厚 1.6	蛇紋岩	—	—	側面整形は多面体整形でやや広く単位が明後に視認される。上面・下面は丁寧な磨き整形が施されている。	孔径 0.8cm
555-6	須恵器 壺	B区96号 住 破片	口 (22.6)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後繼續整形 (右回転)。	秋間系
556-1	雑器 石 瓦	B区96号 住 厚	幅 10.3 厚 5.3	二ツ岳軽石	—	—	瓦面に使用面が認められる。置磁と思われる。	重730g
556-2	雑器 石 瓦	B区98号 住 充存	長 12.9 幅 6.3 厚 4.9	粗粒安山岩	—	—	雑の上面が使用に伴ない磨滅する。	重 670.0g
556-3	雑器 石 瓦	B区98号 住 充存	長 8.2 幅 7.9 厚 3.8	粗粒安山岩	—	—	雑の上面が使用に伴ない磨滅する。	重 370.0g
556-4	雑器 石 瓦	B区96号 住 充存	長 10.0 幅 4.3 厚 3.8	安賢安山岩	—	—	小口の両端に敲打痕が認められる。	重280g
556-5	雑器 石 瓦	B区98号 住 充存	長 8.3 幅 9.5 厚 4.2	石英閃緑岩	—	—	雑の上面が使用に伴ない磨滅する。	重 480.0g
556-6	須恵器 大壺	B区99号 住 破片	厚 0.8	密	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	東海系
557-1	須恵器 大壺	B区100 号住 破片	厚 1.4	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	東海系
557-2	須恵器 壺	B区104 号住 破片	厚 1.0	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形 (外面板叩き・内面宛具は素文)。	兼附系
557-3	土師器 坏	B区106 号住 一部欠損	口 12.3 底 8.6 高 3.3	微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下に型傷を残し、底部は寛削り。	藤岡系

B区住居追補

557-4	土器 器環	B区107 号住 片	口 12.6 高 3.1	微粒雲母 黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は内湾する。器厚は薄く、 体部に型膚を残し底部は置削り。	藤岡系
557-5	土器 器環	B区107 号住 片	口 12.8 高 3.3	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は直立気味。器厚は薄く、 体部に型膚を残し底部は置削り。	藤岡系
557-6	土器 器塊	B区107 号住 破片	口 (14.1)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	内湾気味の口縁は緩やかに立ち上がり、内・ 外面共に横微でを施す。体部は置削りを施す。	藤岡系
557-7	土器 器環	B区107 号住 破片	口 (14.2)	微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直 下に強い稜を有する。底部は置削り。	藤岡系
557-8	土器 器環	B区107 号住 破片	口 (15.1)	微粒雲母 黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直 下に強い稜を有する。底部は置削り。	藤岡系
557-9	土器 器壺	B区107 号住 破片	口 (25.2)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面側部は置削 り、口縁部は横微で、内面側部は置削り。	藤岡系
558-1	土器 器壺	B区107 号住 片	口 (24.5)	微粒雲母	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面側部は置削 り、口縁部は横微で、内面側部は置削り。	藤岡系
558-2	須恵器 短頸甕	B区107 号住 片	口 (18.4)	黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り後横轆成形 (右回転)。	秋間系
558-3	須恵器 大甕	B区107 号住 破片	厚 0.8	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後横轆成形 (右回転)。	栗附系
558-4	土器 器環	B区110 号住 破片	口 (12.3) 底 (6.8)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	暗黄橙	型作り成形か。口縁部・器内面は横微で。体 部は置削り。	藤岡系
558-5	土器 器壺	B区110 号住 破片	口 (18.9)	微粒雲母 細粒砂	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾する。	藤岡系
558-6	甕	B区110 号住 破片	口 (18.6)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。端部は折り曲げ。	秋間系
558-7	須恵器 甕	B区110 号住 破片	胴 2.9	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。天井部は回転置削り。胴 部は貼り付け。	秋間系
558-8	土器 台付壺	B区111 号住 破片		微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	紐作り成形。脚部を貼付後縦位の置削り成形。	藤岡系
558-9	須恵器 壺	B区111 号住 破片	厚 0.6	黒色粒子 白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰		紐作り。叩き整形 (外面木目叩き・内面甕具 は素文)。	栗附系 吉井系
559-1	須恵器 壺	B区111 号住 破片	厚 1.0	黒色粒子 白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面木目叩き・内面甕具 は素文)。	栗附系か 吉井系
559-2	陶器 磨石	B区114 号住 完存	長 5.2 幅 4.9 厚 1.8	流紋岩	—	—	磨の上面が磨減する。	重60.0g
559-3	石製品 紡錘車 250	B区115 号住 完形	長 4.0 幅 3.9 厚 1.6	滑石	—	—	全体にざんざりしている。外面側は磨き整形 痕が顕著に認められる。	重40g
559-4	陶器 緑釉塊 250	B区115 号住 破片	厚 0.28	やや粗い。	良好	灰	轆轤成形 (右回転)。	—
559-5	鉄器 不詳	B区115 号住 破片	厚 0.6	—	—	—	「L」字に屈曲する。断面長方形状を呈する。 詳細不明。	重1.9g

遺物一覧表

599-6	鉄不詳	器	B区115号住壁片	厚	0.2	—	—	—	細い棒状製品であるが器種の特定は不能。断面正方形状を呈する。	重0.7g
599-7	鉄不詳	器	B区115号住壁片	厚	0.2	—	—	—	細い棒状製品であるが器種の特定は不能。断面は片刃箭状になる。	重1.0g
599-8	須恵器	壺	B区116号住壁片	厚	1.2	白色微粒子	還元焰	黒灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面陶具は素文）。	素附系
599-9	須恵器	埴	B区164号住壁片	底	(12.0)	黒色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰	輪轆成形（右回転）。底部は回転突起し。	杖岡系

A区住居遺構

棟号 図面番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 層目 (E)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
592-1	土師器 壺	覆土内 破片	口 (21.0)	黒色微粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	口縁部は外反する。型作り。外面側部は鋭削り、口縁部は横無で、内面側部は素無で。	藤岡系
592-2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.4)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	型作り。口縁部直立気味。体部・底部は鋭削り整形。器内面は素で整形。口縁直下に彫溝を残す。	藤岡系
592-3	雑器	覆土内 完存	長 幅 厚 18.4 11.5 4.2	粗粒安山岩	—	—	器面全体が荒れている。	重 1,440.0g
592-4	雑器 石	床直 完存	長 幅 厚 13.4 6.5 4.5	粗粒安山岩	—	—	小口部に鋭打痕が認められる。	重 600.0g
593-1	雑器	床直 完存	長 幅 厚 17.9 19.4 6.5	粗粒安山岩	—	—	形状は扁平であるが、特別な使用痕は認められない。	重 3,500.0g
593-2	雑器	床直 完存	長 幅 厚 18.1 6.7 4.9	滑粒炭灰岩	—	—	特別な使用痕は認められない。	重 1,220.0g
593-3	雑器	床直 完存	長 幅 厚 13.5 5.1 5.1	石英閃緑岩	—	—	特別な使用痕は認められない。	重 710.0g
593-4	雑器 石	床直 完存	長 幅 厚 15.6 7.0 4.2	粗粒安山岩	—	—	小口部に鋭打痕が認められる。	重 800.0g
593-5	雑器	床直 完存	長 幅 厚 15.2 5.7 4.5	粗粒安山岩	—	—	特別な使用痕は認められない。	重 580.0g
593-6	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0)	赤褐色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に強い稜を有する。底部は素削り。	東毛系
593-7	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0)	白色微粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に強い稜を有する。底部は素削り。	不詳
593-8	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0)	微粒雲母 白色微粒子 赤褐色微粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に強い稜を有する。底部は鋭削り。口縁直下に彫溝を残す。	東毛系か
593-9	土師器 坏	床直層 片	口 高 12.6 4.6	白色微粒子 黒色微粒子 赤褐色微粒子	酸化焰	橙褐	型作り成形。口縁部は段を有する。器厚は薄く、体部に彫溝を残し底部は鋭削り。口縁直下に彫溝を残す。	不詳
593-10	土師器 坏	覆土内 一部欠損	口 高 12.3 4.0	白色微粒子 赤褐色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に強い稜を有する。底部は素削り。	藤岡系か
594-1	土師器 坏	床直層 片	口 (14.6) 高 (4.9)	黒色微粒子 微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙褐	型作り成形。口縁部は内傾し底部は丸い。口縁直下に彫溝を残し底部は鋭削り。器内面は素後素文を施す。	藤岡系
594-2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0)	黒色微粒子 微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	黄橙	型作り。口縁部直立気味。体部・底部は鋭削り整形。器内面は素で整形。体部に彫溝を残す。	藤岡系

A区住居追補

594-3	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0)	赤褐色粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	型作り。口縁部直立気味。体部・底部は寛削り整形。器内面は撫で整形。体部に肌膚を残す。	藤岡系
594-4	土師器 小型甕	床直 片	口 13.3 底 5.0 高 13.2	白色微粒子 細粒砂	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は直立する。下半は型作り。外面割部は寛削り、口縁部は横撫で、内面割部は寛撫で。	藤岡系
594-5	土師器 台付甕	覆土内 片	口 12.7 底 10.0 高 15.4	白色鉱物粒子 デイスait 微粒雲母	酸化焰	赤褐	口縁部は短かく直立する。紐作りか。外面割部は寛削り、口縁部は横撫で、内面割部は寛撫で。脚は貼り付け。	藤岡系
594-6	土師器 甕	覆土内 片	口 (20.5)	白色微粒子 白色鉱物粒子 デイスait	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面割部は寛削り、口縁部は横撫で、内面割部は寛撫で。	藤岡系
594-7	土師器 甕	カマド内 片	底 4.0	白色微粒子 粗粒砂 微粒雲母	酸化焰	橙	紐作り。外面割部は寛削り、口縁部は横撫で、内面割部は寛撫で。	藤岡系
594-8	土師器 坏	覆土内 破片	口 (19.2)	赤褐色粒子 シレット粒子	酸化焰	浅黄橙	成形不詳。器面は風化が著しく整形不詳。	不詳
594-9	土師器 甕	覆土内 片	口 22.2 孔 3.1 高 13.7	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り乃至型作り。外面割部は寛削り、口縁部は横撫で、内面割部は寛撫で。	藤岡系
594-10	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 0.6	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面砲丸は背海紋)。	秋間系
594-11	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 0.6	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面砲丸は背海紋)。	秋間系

群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告第117集
上野国分僧寺・
尼寺中間地域(5)

〈図表編〉

一関越自動車道(新河線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告第36集一

平成3年3月15日印刷

平成3年3月20日発行

編集／群馬県埋蔵文化財調査事業団
勢多郡北橋村下箱田784番地の2
電話(0279)52-2511(代表)

群馬県教育委員会
前橋市大手町1丁目1番1号
電話(0272)23-1111

発行／群馬県考古資料普及会
勢多郡北橋村下箱田784番地の2
電話(0279)52-2511(代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社